



MFX-C2860N/C2260N/C2260NK

ユーザーズガイド

Web設定ツール編

もくじ

1 Web Connection について

Web Connection とは	1-2
動作環境.....	1-2

2 お使いになるために必要な作業

2.1 ネットワーク環境の設定をする.....	2-2
概要.....	2-2
IP アドレスを割当てる	2-3
IP アドレスを確認する	2-3
2.2 Web ブラウザーの設定を確認する.....	2-4

3 基本的な使い方

3.1 アクセスのしかた	3-2
3.2 Web Connection の画面構成.....	3-3
3.3 ログインのしかた	3-5
ログイン画面について	3-5
ログインモードについて	3-6
ログインモードを切替える	3-7
管理者モードにログインする.....	3-8
管理者モードにログインする (管理者権限が付与された登録ユーザーの場合).....	3-10
ユーザーモードにログインする.....	3-11
3.4 ユーザーモードの概要	3-12
3.4.1 ユーザーモードの各メニューについて.....	3-12
[情報表示]	3-12
[ジョブ確認]	3-13
[ボックス]	3-13
[ダイレクトプリント]	3-14
[宛先登録]	3-15
[お気に入り]	3-16
[カスタマイズ設定]	3-16
3.5 ショートカット機能を活用する.....	3-17
Web ブラウザーのお気に入りに登録する.....	3-17
ページのショートカットを作成する.....	3-17
3.6 ヘルプ機能を活用する	3-18
オンラインマニュアルを活用する.....	3-18
設定の意味をポップアップで表示する.....	3-18
機能の設定をウィザード形式で行う.....	3-19
3.7 Web Connection の使用を禁止する.....	3-21

4 本機の基本情報を設定する

4.1 本機の情報を登録する	4-2
4.2 サポート情報を登録する	4-3
4.3 本機の日時を設定する	4-4
手動で設定する	4-4
NTP で自動設定する	4-4

5 本機のネットワーク設定をする

5.1 IPv4 環境で使う.....	5-2
概要.....	5-2
IP アドレスを割当てる	5-2
本機が利用する DNS サーバーを登録する.....	5-3

	ホスト名を登録する	5-3
	ドメイン名を登録する	5-3
5.2	IPv6 環境で使う	5-4
5.3	無線ネットワーク環境で使う	5-5
	概要	5-5
	ネットワークインターフェース構成を設定する	5-5
	TCP/IP の基本設定をする	5-6
	本機を無線子機として動作させるための設定をする	5-7
	本機を無線親機として動作させるための設定をする (UK-212 装着時)	5-8
	本機を無線親機として動作させるための設定をする (UK-215 装着時)	5-9
	無線ネットワーク環境の通信状態を確認する	5-9
	無線ネットワークアダプターの MAC アドレスを確認する	5-9
5.4	ネットワークマップに表示する	5-10
5.5	ネットワークエラーコードを表示する	5-11

6 Web Connection の使用環境を設定する

6.1	Web Connection の通信を暗号化する	6-2
6.2	管理者パスワードを変更する	6-3
6.3	初期画面をカスタマイズする	6-4
6.4	自動的にログアウトするまでの時間を変更する	6-5

7 スキャン送信の使用環境を設定する

7.1	E-mail 送信の使用環境を設定する	7-2
	概要	7-2
	E-mail 送信の基本設定をする	7-3
	SSL/TLS で通信する	7-4
	SMTP 認証を使う	7-5
	POP before SMTP 認証を使う	7-6
	S/MIME を使う	7-8
7.2	SMB 送信の使用環境を設定する	7-9
	概要	7-9
	SMB 送信の基本設定をする	7-10
	WINS サーバーを使う	7-10
	LLMNR で名前解決する	7-11
	DFS 環境で使う	7-11
7.3	FTP 送信の使用環境を設定する	7-12
	概要	7-12
	FTP 送信の基本設定をする	7-12
	プロキシサーバーを使う	7-12
7.4	WebDAV 送信の使用環境を設定する	7-13
	概要	7-13
	WebDAV 送信の基本設定をする	7-13
	プロキシサーバーを使う	7-13
	SSL で通信する	7-14
7.5	WS スキャン送信の使用環境を設定する	7-15
	概要	7-15
	WS スキャン送信の基本設定をする	7-15
	プロキシサーバーを使う	7-16
	SSL で通信する	7-17
7.6	TWAIN スキャンの使用環境を設定する	7-18
	概要	7-18
	TWAIN スキャンの基本設定をする	7-18
	操作パネルのロック時間を変更する	7-18
7.7	LDAP サーバーを使って宛先を検索する	7-19
	概要	7-19
	LDAP 検索の基本設定をする	7-19
	SSL で通信する	7-21



8 プリント機能の使用環境を設定する

8.1	LPR 印刷の使用環境を設定する.....	8-2
	概要.....	8-2
	LPD を有効にする.....	8-2
8.2	Port9100 印刷の使用環境を設定する.....	8-3
	概要.....	8-3
	RAW ポート番号を変更する.....	8-3
8.3	SMB 印刷の使用環境を設定する.....	8-4
	概要.....	8-4
	SMB 印刷の基本設定をする.....	8-4
	WINS サーバーを使う.....	8-5
	LLMNR で名前解決する.....	8-5
8.4	IPP 印刷の使用環境を設定する.....	8-6
	概要.....	8-6
	IPP 印刷の基本設定をする.....	8-6
	IPP 認証を行う.....	8-7
	SSL で通信する (IPPS).....	8-7
8.5	WS 印刷の使用環境を設定する.....	8-8
	概要.....	8-8
	WS 印刷の基本設定をする.....	8-8
	プロキシサーバーを使う.....	8-9
	SSL で通信する.....	8-10
8.6	Bonjour 印刷の使用環境を設定する.....	8-11
8.7	E-mail 受信プリントの使用環境を設定する.....	8-12
	概要.....	8-12
	本機で E-mail を受信するための設定をする.....	8-12
	受信した E-mail の添付ファイルを印刷するための設定をする.....	8-13
8.8	本機の印刷設定の初期値を設定する.....	8-14
8.8.1	印刷設定の初期値を設定する.....	8-14
8.8.2	PCL 印刷設定の初期値を設定する.....	8-16
8.8.3	PS 印刷設定の初期値を設定する.....	8-17
8.8.4	TIFF 印刷設定の初期値を設定する.....	8-18
8.8.5	XPS/OOXML 印刷のセキュリティに関する設定をする.....	8-18
8.8.6	OOXML 印刷設定の初期値を設定する.....	8-19
8.8.7	ページ割付設定の初期値を設定する.....	8-19
8.9	インターフェースごとにタイムアウト時間を設定する.....	8-20
8.10	装置情報の取得をパスワードで制限する.....	8-21

9 ファクスの使用環境を設定する

9.1	ファクスの基本設定をする.....	9-2
9.1.1	使用回線の設定をする.....	9-2
9.1.2	PBX 環境への接続設定をする.....	9-3
9.1.3	発信元情報を登録する.....	9-3
9.2	送受信時の動作を設定する.....	9-4
9.2.1	発信元/受信情報の印字のしかたを設定する.....	9-4
9.2.2	ファクス受信時の印刷設定を変更する.....	9-5
9.2.3	ファクス送信時にスタンプ設定を解除する.....	9-6
9.2.4	受信したファクスの解像度に応じて画質を調整する.....	9-6
9.3	便利な送受信機能を設定する.....	9-7
9.3.1	ファクス機能の有効/無効を設定する.....	9-7
9.3.2	ダイアルイン機能を使う.....	9-8
9.3.3	閉域受信機能を使う.....	9-8
9.3.4	リモート受信機能を使う.....	9-8
9.3.5	再送信機能を使う.....	9-8
9.3.6	強制メモリー受信機能を使う.....	9-9
9.3.7	転送ファクス機能を使う.....	9-9
9.3.8	PC-FAX 受信機能を使う.....	9-11

9.3.9	TSI 受信振分け機能を使う	9-11
9.3.10	PC-FAX 送信を禁止する	9-12
9.4	ファクスレポートの印刷条件を設定する	9-13
9.5	受信したファクスの削除を制限する	9-15
9.6	着信を拒否する番号を登録する	9-16

10 ネットワークファクス機能の使用環境を設定する

10.1	インターネットファクスの使用環境を設定する	10-2
	概要	10-2
	インターネットファクス送受信の基本設定をする	10-3
	ファクスの到着確認をする	10-5
	本機の受信能力を設定する	10-5
	モノクロ送信するときの圧縮形式の初期値を設定する	10-5
	カラー送信するときの圧縮形式の初期値を設定する	10-6
	SSL/TLS で通信する	10-6
	SMTP 認証を使う	10-7
	POP before SMTP 認証を使う	10-8
10.2	IP アドレスファクスの使用環境を設定する	10-9
	概要	10-9
	IP アドレスファクス送受信の基本設定をする	10-9
	モノクロ送信するときの圧縮形式の初期値を設定する	10-10
	カラー送信するときの圧縮形式の初期値を設定する	10-11

11 ボックス機能の使用環境を設定する

11.1	ボックスを登録／編集する	11-2
11.1.1	ボックスを登録する	11-2
11.1.2	ボックスの設定を変更する	11-3
11.2	システムボックスを登録／編集する	11-4
11.2.1	掲示板ボックスを登録する	11-4
11.2.2	中継ボックスを登録する	11-4
11.2.3	ファイリングナンバーボックスを登録する	11-5
11.2.4	掲示板ボックスの設定を変更する	11-6
11.2.5	中継ボックスの設定を変更する	11-6
11.2.6	ファイリングナンバーボックスの設定を変更する	11-7
11.3	ユーザーボックスの使用環境を設定する	11-8
11.3.1	ボックスの上限数を設定する	11-8
11.3.2	空のボックスをすべて削除する	11-8
11.3.3	ボックス内のファイルを自動的に削除する	11-8
11.3.4	SMB フォルダー内のファイルを自動的に削除する	11-8
11.3.5	印刷／送信後のファイルの処理方法を設定する	11-9
11.4	システムボックスの使用環境を設定する	11-10
11.4.1	セキュリティ文書をすべて削除する	11-10
11.4.2	システムボックス内のファイルを自動的に削除する	11-10
11.4.3	認証&プリント文書の印刷後の動作を設定する	11-10
11.4.4	セキュリティ印刷の設定をする	11-10
11.5	SMB ファイル共有の設定をする	11-11
	概要	11-11
	SMB サーバーの設定をする	11-11
	ファイル共有に使用する共有ボックスを作成する	11-12
11.6	USB メモリーの使用設定をする	11-13
11.7	ユーザーによるボックスの登録や変更の操作を禁止する	11-14
11.8	Scan to URL 機能でボックスに保存したファイルを管理する	11-15
	Scan to URL 機能でボックスに保存したファイルを自動的に削除する	11-15
	Scan to URL 機能でボックスに保存したファイルをすべて削除する	11-15

12 本機を使えるユーザーを制限する

12.1	ユーザー認証と部門管理の概要.....	12-2
	ユーザー認証について.....	12-2
	部門管理について.....	12-3
	ユーザー認証と部門管理を組み合わせる.....	12-4
12.2	本体装置認証を導入する.....	12-5
	概要.....	12-5
	ユーザー認証の基本設定をする.....	12-5
12.3	部門管理を導入する.....	12-7
	概要.....	12-7
	部門管理の基本設定をする.....	12-8
12.4	Active Directory 認証を導入する.....	12-9
	概要.....	12-9
	Active Directory 認証の基本設定をする.....	12-10
	自分のコンピュータに送信する (Scan to Home).....	12-12
	シングルサインオンを使う.....	12-12
	Active Directory 使用時の認証処理を強化する.....	12-13
12.5	NTLM 認証を導入する.....	12-14
	概要.....	12-14
	NTLM 認証の基本設定をする.....	12-15
	WINS サーバーを使う.....	12-16
12.6	LDAP 認証を導入する.....	12-17
	概要.....	12-17
	LDAP 認証の基本設定をする.....	12-18
	SSL で通信する.....	12-20
12.7	自分宛てに送信する (Scan to Me).....	12-21
12.8	自分宛てにダウンロード URL を送信する (Scan to URL).....	12-22
12.9	SMB 送信のシングルサインオン環境を構築する.....	12-23
12.10	登録ユーザーが管理者権限でログインできるようにする.....	12-24
12.11	ユーザー／部門ごとに本機の機能の使用権限を設定する.....	12-25
12.11.1	ユーザー／部門ごとに使える機能を制限する.....	12-25
12.11.2	外部サーバー認証時の機能制限の初期値を設定する.....	12-26
12.11.3	パブリックユーザーが使える機能を制限する.....	12-26
12.12	ユーザー／部門ごとに印刷枚数の上限を管理する.....	12-27
12.13	ユーザーごとに参照できる宛先を制限する.....	12-28
12.13.1	参照できる宛先の制限方法.....	12-28
12.13.2	参照可能レベルで管理する.....	12-28
	参照可能レベルとは.....	12-28
	参照可能レベルを設定する.....	12-28
12.13.3	参照許可グループで管理する.....	12-29
	参照許可グループとは.....	12-29
	参照許可グループを割当てする.....	12-29
12.13.4	参照可能レベルと参照許可グループを合わせて管理する.....	12-30
	参照可能レベルと参照許可グループを組み合わせる.....	12-30
	参照可能レベルと参照許可グループを同時に設定する.....	12-30
12.14	ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンを変更する.....	12-31
	概要.....	12-31
	ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンの変更を許可する.....	12-31
	ユーザーごとに機能キーの表示パターンを選ぶ.....	12-31
	部門ごとに機能キーの表示パターンを選ぶ.....	12-32
12.15	認証&プリント機能の動作を設定する.....	12-33
12.16	認証機能使用時の共通の設定をする.....	12-34
12.17	認証情報のない印刷を制限する.....	12-35
12.18	パスワードなしで印刷する (簡易認証).....	12-36
	概要.....	12-36
	簡易認証を許可する.....	12-36
	簡易認証サーバーを登録する.....	12-36
	SSL で通信する.....	12-39
12.19	認証装置を使う.....	12-40

12.19.1	認証装置の動作を設定する	12-40
	IC カード認証装置	12-40
	指静脈生体認証装置	12-40
12.19.2	認証カードを使って LDAP サーバーで認証する (LDAP-IC カード認証)	12-40
	概要	12-40
	LDAP-IC カード認証の基本設定をする	12-41
	SSL で通信する	12-44
12.19.3	認証カードの ID を本機のカウンター情報に記録する	12-44
12.20	拡張サーバーのダウンに備えて本体装置認証を併用する	12-45
12.21	モバイル端末を使って認証する	12-46
12.21.1	NFC 認証を導入する	12-46
	概要	12-46
	Android 端末で NFC を使って認証するための設定をする	12-46
	本機で NFC 認証機能を有効にする	12-46
	Android 端末で NFC を使って本機にログインする	12-46
12.21.2	Bluetooth LE 認証を導入する	12-47
	概要	12-47
	iOS 端末で Bluetooth LE を使って認証するための設定をする	12-47
	本機で Bluetooth LE 認証機能を有効にする	12-47
	iOS 端末で Bluetooth LE を使って本機にログインする	12-48
12.22	認証対象とするユーザー件数を拡張する	12-49

13 セキュリティを強化する

13.1	本機の証明書を作成して SSL で通信する	13-2
	概要	13-2
	出荷時に登録されている証明書を使う	13-2
	証明書を自己作成する	13-3
	認証局に証明書の発行要求をする	13-4
13.2	本機の証明書を管理する	13-5
13.2.1	複数の証明書を用途に応じて使い分ける	13-5
13.2.2	証明書をエクスポートする	13-6
	お使いのコンピューターにエクスポートする	13-6
	SMB 共有フォルダーにエクスポートする	13-6
13.2.3	証明書をインポートする	13-7
	お使いのコンピューターからインポートする	13-7
	SMB 共有フォルダーからインポートする	13-7
13.2.4	証明書を削除する	13-7
13.3	証明書検証に関する設定をする	13-8
13.3.1	通信相手の証明書を検証する	13-8
13.3.2	チェーンの検証に使う外部証明書をインポートする	13-9
	インポートできる外部証明書の種類	13-9
	インポートのしかた	13-9
13.4	本機にユーザー証明書を自動登録する	13-10
13.5	本機へのアクセスを IP アドレスで制限する	13-11
	IPv4 アドレスで制限する	13-11
	IPv6 アドレスで制限する	13-11
13.6	本機へのアクセスを制限する IP アドレスを自動で設定する	13-12
13.7	パケットの送受信を制限する	13-13
13.7.1	パケットフィルタリングの設定をする	13-13
	フィルターを登録する	13-13
	フィルターをエクスポートする	13-14
	フィルターをインポートする	13-14
13.7.2	パケットフィルタリングのログを取得する	13-14
	ログを記録する	13-14
	ログをダウンロードする	13-14
13.8	送信先のドメインを制限する	13-15
13.9	IPsec で通信する	13-16
13.10	IEEE802.1X 認証を行う	13-20

13.11	認証済みの共有フォルダーへ送信する (Scan to Authorized Folder).....	13-22
	Scan to Authorized Folder について.....	13-22
	直接入力による宛先指定を制限する.....	13-22
13.12	ユーザーによる登録/変更の操作を禁止する.....	13-23
13.13	ユーザーによる Web ブラウザーの設定操作を禁止する.....	13-24
13.14	操作パネルの操作履歴を保存する.....	13-25
13.15	簡単操作で本機のセキュリティを強化する.....	13-26
13.16	USB ポートを使う機能を制限する.....	13-27
13.17	USB メモリーを使ったファームウェアの更新をパスワードで制限する.....	13-28

14 本機の状態を管理する

14.1	本機の電源を管理して節電する.....	14-2
14.1.1	電源キー/パワーセーブ機能を設定する.....	14-2
14.1.2	決まった時間に節電モードに切り換える (ウィークリタイマー).....	14-3
14.1.3	無線ネットワーク経由で本機を節電状態から復帰させる.....	14-4
14.2	サマータイムを設定する.....	14-5
14.3	操作パネルの環境をカスタマイズする.....	14-6
14.3.1	登録キーに割り当てる機能を変更する.....	14-6
14.3.2	トップメニューに配置する機能を選ぶ.....	14-6
14.3.3	トップメニューのテーマを変更する.....	14-7
14.3.4	トップ画面に表示する機能キーを選ぶ (表示パターンによる指定).....	14-8
14.3.5	トップ画面に表示する機能キーを選ぶ (個別指定).....	14-8
	概要.....	14-8
	各モードの機能キーの変更を許可する.....	14-8
	コピーモードの機能キーを変更する.....	14-9
	ファクス/スキャンモードの機能キーを変更する.....	14-9
	ファクスモードの機能キーを変更する.....	14-9
14.3.6	タッチパネルの表示言語を変更できるようにする.....	14-9
14.3.7	部数入力時のテンキー表示を変更する.....	14-9
14.3.8	[管理者設定] の設定項目のショートカットキーを登録する.....	14-10
14.3.9	スライドメニューの表示に関する設定をする.....	14-10
14.3.10	タッチパネルにウィジェットを配置する.....	14-10
14.4	本機の状態を E-mail で通知する.....	14-11
	概要.....	14-11
	本機の状態の通知設定をする.....	14-11
14.5	本機のカウンターを E-mail で通知する.....	14-12
	概要.....	14-12
	カウンターの通知設定をする.....	14-12
14.6	SNMP で管理する.....	14-13
	概要.....	14-13
	SNMP の使用設定をする.....	14-13
14.7	本体情報を確認する.....	14-16
14.7.1	本機のカウンターを確認する.....	14-16
14.7.2	ROM バージョンを確認する.....	14-16
14.8	設定情報を管理する.....	14-17
14.8.1	本機に設定情報を書込む (インポート).....	14-17
	インポートできる情報の種類.....	14-17
	お使いのコンピューターからインポートする.....	14-17
	SMB 共有フォルダーからインポートする.....	14-18
	USB メモリーからインポートする.....	14-19
14.8.2	本機の設定情報を保存する (エクスポート).....	14-20
	エクスポートできる情報の種類.....	14-20
	お使いのコンピューターにエクスポートする.....	14-20
	SMB 共有フォルダーにエクスポートする.....	14-21
	USB メモリーにエクスポートする.....	14-21
14.8.3	他の装置の設定情報をインポートする.....	14-22
14.8.4	ネットワーク設定を初期化する.....	14-22
14.8.5	ネットワークインターフェースを再起動する.....	14-22

14.8.6	宛先情報をすべて消去する	14-22
14.9	ジョブログを取得する	14-23
	お使いになるために必要な作業	14-23
	ジョブログをダウンロードする	14-23
14.10	本機の設定情報をバックアップする	14-24
	サーバーへバックアップする	14-24
	ハードディスクへバックアップする	14-25
14.11	本機の動作環境を設定する	14-26
14.11.1	通常表示と拡大表示の初期設定をまとめて行う	14-26
14.11.2	拡大表示に切換えるときの動作を設定する	14-26
14.11.3	宛先の初期表示方法を設定する	14-26
14.11.4	スキャンデータのファイル名の初期値を変更する	14-27
14.11.5	プレビュー機能の表示に関する設定をする	14-27
14.11.6	白紙ページにスタンプを印字する	14-27
14.11.7	プリンタードライバーで設定した用紙サイズと種類で手差しトレイから印刷する	14-27
14.11.8	ジョブ飛越しの条件を設定する	14-28
14.11.9	コンパクト PDF に変換するときの動作を設定する	14-28
14.11.10	アウトライン PDF の処理精度を設定する	14-28
14.11.11	本機の利用頻度や機能設定情報の送信を許可する	14-28
14.11.12	本機の利用状況の取得を許可する	14-29
14.11.13	SMB 共有フォルダー探索時にサブフォルダーの有無を確認する	14-29
14.12	ライセンス登録をして拡張機能を使う	14-30
14.12.1	リクエストコードを発行する	14-30
14.12.2	拡張機能を有効化する	14-30
	機能コードとライセンスコードで有効化する	14-30
	トークン番号で有効化する	14-30
14.13	本機のファームウェアを更新する	14-31
	概要	14-31
	FTP 経由でファームウェアをダウンロードするための準備をする	14-31
	HTTP 経由でファームウェアをダウンロードするための準備をする	14-32
	指定した時刻に自動でファームウェアを更新する	14-32
	ファームウェアを手動で更新する	14-32
14.14	本機や他の装置のファームウェアを自動的に更新する	14-33
14.14.1	本機のファームウェアを更新するための設定をする	14-33
14.14.2	他の装置のファームウェアを更新するための設定をする	14-35
14.15	更新したファームウェアを以前のバージョンに戻す	14-38
14.16	未反映の設定の有無を確認する	14-38
14.17	外部機関による認証が必要な機能を有効化する	14-38

15 各種情報を登録する

15.1	短縮宛先を登録する	15-2
15.1.1	E-mail 宛先を登録する	15-2
15.1.2	FTP 宛先を登録する	15-3
15.1.3	SMB 宛先を登録する	15-4
15.1.4	WebDAV 宛先を登録する	15-5
15.1.5	ボックス宛先を登録する	15-6
15.1.6	ファクス宛先を登録する	15-6
15.1.7	インターネットファクス宛先を登録する	15-7
15.1.8	IP アドレスファクス宛先を登録する	15-8
15.2	グループ宛先を登録する	15-9
15.3	プログラム宛先を登録する	15-10
15.3.1	E-mail 宛先のプログラムを登録する	15-10
15.3.2	FTP 宛先のプログラムを登録する	15-10
15.3.3	SMB 宛先のプログラムを登録する	15-11
15.3.4	WebDAV 宛先のプログラムを登録する	15-12
15.3.5	ボックス宛先のプログラムを登録する	15-12

15.3.6	ファクス宛先のプログラムを登録する.....	15-13
15.3.7	インターネットファクス宛先のプログラムを登録する.....	15-13
15.3.8	IP アドレスファクス宛先のプログラムを登録する.....	15-14
15.3.9	グループ宛先のプログラムを登録する.....	15-15
15.3.10	宛先なしのプログラムを登録する.....	15-15
15.3.11	ファクス/スキャン送信のオプション設定をする.....	15-16
15.4	一時プログラムを登録する.....	15-19
15.5	E-mail の件名と本文を登録する.....	15-20
	件名を登録する.....	15-20
	本文を登録する.....	15-20
15.6	宛先の Prefix と Suffix を登録する.....	15-21
15.7	ヘッダー/フッターに追加する情報を登録する.....	15-22
15.8	フォント/マクロデータを追加する.....	15-23
15.9	任意の用紙名と用紙種類を登録する.....	15-24
15.10	データ管理ユーティリティを使う.....	15-25
15.10.1	データ管理ユーティリティについて.....	15-25
15.10.2	コピープロテクトデータを管理する.....	15-26
15.10.3	スタンプデータを管理する.....	15-27
15.10.4	フォント/マクロデータを管理する.....	15-29

16 外部のアプリケーションと連携する

16.1	Web ブラウザー機能を使用する.....	16-2
16.1.1	Web ブラウザーの基本設定をする.....	16-2
	Web ブラウザー機能を有効にする.....	16-2
	Web ブラウザーでのファイル操作を制限する.....	16-2
16.1.2	Web ブラウザーの使用環境を設定する.....	16-3
	コンテンツ表示の設定をする.....	16-3
	ブックマークを管理する.....	16-3
	履歴を管理する.....	16-3
	Web ブラウザーの動作を設定する.....	16-4
16.2	TCP Socket を介して連携する.....	16-5
	概要.....	16-5
	TCP Socket の基本設定をする.....	16-5
	SSL で通信する.....	16-5
16.3	OpenAPI を介して連携する.....	16-6
	概要.....	16-6
	OpenAPI の基本設定をする.....	16-6
	プロキシサーバーを使う.....	16-7
	SSL で通信する.....	16-8
16.4	本機の FTP サーバー機能を使って連携する.....	16-9
	概要.....	16-9
	FTP サーバー設定をする.....	16-9
16.5	本機の WebDAV サーバー機能を使って連携する.....	16-10
	概要.....	16-10
	WebDAV サーバー設定をする.....	16-10
	SSL で通信する.....	16-10
16.6	分散スキャンサーバーと連携する.....	16-11
	概要.....	16-11
	分散スキャン管理の使用環境を設定する.....	16-11
	分散スキャン管理を有効にする.....	16-11
16.7	本機にコンテンツをアップロードできるように設定する.....	16-12
16.8	遠隔診断システムと連携する.....	16-13
16.8.1	遠隔診断に使うプロキシサーバーを登録する.....	16-13
16.8.2	本機のカウンターの取得を許可する.....	16-13
16.8.3	本機の使用状況を送信する.....	16-13
16.8.4	本機の設定情報の読み書きを許可する.....	16-14
16.9	ファクスサーバーと連携する.....	16-15
	概要.....	16-15

	アプリケーションを登録する.....	16-15
	アプリケーション設定テンプレート.....	16-16
	E-mail 形式で通信するファクスサーバーと連携する.....	16-18
16.10	本機の操作パネルを遠隔操作する.....	16-19
	概要.....	16-19
	専用ソフトウェアを使って操作する.....	16-19
	本機に直接アクセスして操作する.....	16-21
	Android/iOS 端末を使って操作する.....	16-21
16.11	QR コードを使って Android/iOS 端末と本機を連携させる.....	16-23
	本機のネットワーク情報を QR コードで表示する.....	16-23
	QR コードを読み取って Android/iOS 端末とペアリングする.....	16-23
16.12	NFC を使って Android 端末と本機を連携させる.....	16-24
	本機のネットワーク情報を NFC 経由で設定する.....	16-24
	NFC を使って PageScope Mobile for Android で本機に接続する.....	16-25
	NFC を使って Remote Access で本機に接続する.....	16-25
16.13	Bluetooth LE を使って iOS 端末と本機を連携させる.....	16-26
	本機で Bluetooth LE 機能を有効にする.....	16-26
	Bluetooth LE を使って PageScope Mobile for iPhone/iPad で本機に接続する.....	16-27
	Bluetooth LE を使って Remote Access で本機に接続する.....	16-27



Web Connection について

1 Web Connection について

Web Connection とは

Web Connection は、本機に内蔵されている、管理用のユーティリティソフトウェアです。

コンピューターから Web ブラウザーを使って、本機のステータス確認、本機の各種設定などが簡単にできます。

宛先の入力やネットワークの設定など、パネルでは面倒な文字入力も、コンピューターから簡単に行えます。

動作環境

項目	仕様
ネットワーク	イーサネット (TCP/IP)
Web ブラウザー	Microsoft Internet Explorer 9/10/11 Microsoft Edge Mozilla Firefox 最新版 Google Chrome 最新版 Safari 最新版 (Mac OS/iOS) ・ お使いの Web ブラウザーで、JavaScript と Cookie を有効にする必要があります。 ・ MSXML3.0(Free Threaded XML DOM Document および XSL Template) のアドオンを有効にする必要があります。

参考

- Safari(iOS版)を使ってプロキシサーバー経由で Web Connection へ接続する場合、正常に接続できないことがあります。その場合、プロキシサーバーの HTTP 設定を HTTP1.1 に変更して再接続してください。

2

お使いになるために必要な作業

2 お使いになるために必要な作業

2.1 ネットワーク環境の設定をする

概要

本機をネットワーク (TCP/IP) に接続して使うために、次の手順で設定してください。

- 1 本機に IP アドレスを割り当てる
 - 本機に固定の IP アドレスを用意している場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。詳しくは、2-3 ページをごらんください。
 - DHCP を使って、本機の IP アドレスを自動的に取得する場合は、DHCP からの自動取得を有効にします (初期設定の状態でも有効)。詳しくは、2-3 ページをごらんください。
 - IPv6 環境でお使いになる場合の設定について詳しくは、5-4 ページをごらんください。
- 2 本機に割り当てられた IP アドレスを確認する
 - Web Connection にアクセスするとき、本機の IP アドレスが必要になります。IP アドレスの確認のしかたは、2-3 ページをごらんください。

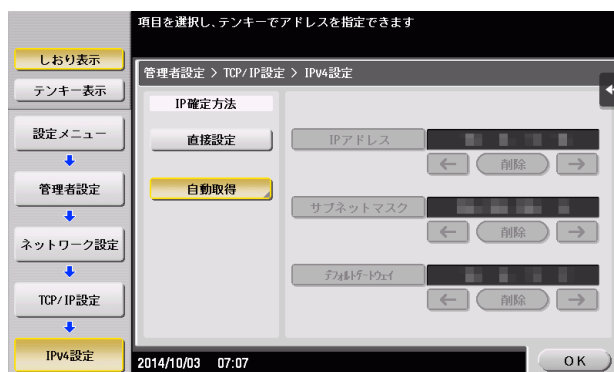
重要

本機の IP アドレスを変更すると、ネットワーク設定データの処理中であることを示す画面が表示されま
す。処理中は、主電源は絶対に OFF にしないでください。処理が完了すると、IP アドレスの変更が反映
されます。

IPアドレスを割当てる

本機に固定の IP アドレスを用意している場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイのアドレスを、手動で入力します。

操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [ネットワーク設定] - [TCP/IP 設定] - [IPv4 設定] で、次の設定をします。



設定	説明
[IP 確定方法]	IP アドレスを手動で入力するときは、[直接設定] を選びます。DHCP などによって IP アドレスを自動的に取得する場合は、[自動取得] を選んでから、自動取得の方法を指定します。初期値は [自動取得] です。
[IP アドレス]	本機に用意した固定 IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	サブネットマスクを入力します。
[デフォルトゲートウェイ]	デフォルトゲートウェイを入力します。

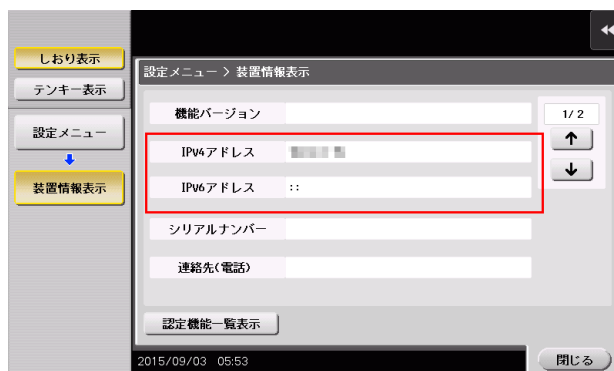
参考

- 簡易 IP フィルタリングが有効の場合、Web Connection にアクセスできない場合があります。Web Connection にアクセスできない場合は、簡易 IP フィルタリングを [フィルタリングなし] に設定してください。簡易 IP フィルタリングについて詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

IPアドレスを確認する

本機に割当てられた IP アドレスを確認します。Web Connection にアクセスするときに本機の IP アドレスが必要になります。

操作パネルの [設定メニュー] - [装置情報表示] で、本機の IP アドレスを確認します。



2.2 Web ブラウザーの設定を確認する

お使いの Web ブラウザーの設定によっては、Web Connection のページが正しく表示されなかったり、設定の変更が反映されなかったりすることがあります。

Web Connection をお使いになる前に、Web ブラウザーで次の設定を確認してください。

- JavaScript : 有効になっていること
- Cookie : 有効になっていること
- MSXML3.0(Free Threaded XML DOM Document および XSL Template) のアドオンが有効になっていること

また、お使いの環境でプロキシサーバーを経由してインターネットに接続している場合は、Web ブラウザーのプロキシの設定で、本機を例外として登録してください。

- Internet Explorer をお使いの場合、[ツール] メニューから [インターネット オプション] を選びます。[接続] タブで [LAN の設定] をクリックし、[プロキシサーバー] の [詳細設定] をクリックします。[例外] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。
- Microsoft Edge をお使いの場合、スタートメニューから [設定] - [ネットワークとインターネット] - [イーサネット] で [インターネット オプション] を選びます。[接続] タブで [LAN の設定] をクリックし、[プロキシサーバー] の [詳細設定] をクリックします。[例外] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。
- Firefox (Windows) をお使いの場合、[ツール] メニューから [オプション] を選びます。[詳細] メニューの [ネットワーク] タブで [接続設定] をクリックし、[手動でプロキシを設定する] を選びます。[プロキシなしで接続] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。
- Firefox (Mac OS) をお使いの場合、[Firefox] メニューから [環境設定 ...] を選びます。[詳細] メニューの [ネットワーク] タブで [接続設定 ...] をクリックし、[手動でプロキシを設定する] を選びます。[プロキシなしで接続] のテキストボックスに本機の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をクリックします。

参考

上記の設定を行っているにも関わらず、Web Connection のページが正しく表示されない場合、Web ブラウザーのキャッシュが原因の可能性があります。その場合は、Web ブラウザーのキャッシュを削除してください。

- Internet Explorer をお使いの場合、[ツール] メニューから [インターネット オプション] を選びます。[全般] タブの [閲覧の履歴] で [削除] をクリックします。[インターネット一時ファイル] にチェックをつけ、[削除] をクリックします。
- Microsoft Edge をお使いの場合、[...] - [設定] を選びます。[閲覧データのクリア] で [クリアするデータの選択] をクリックします。[キャッシュされたデータとファイル] にチェックをつけ、[クリア] をクリックします。
- Firefox (Windows) をお使いの場合、[ツール] メニューから [オプション] を選びます。[詳細] メニューの [ネットワーク] タブで、キャッシュの [今すぐ消去] をクリックします。
- Firefox (Mac OS) をお使いの場合、[Firefox] メニューから [環境設定 ...] を選びます。[詳細] メニューの [ネットワーク] タブで、キャッシュの [今すぐ消去] をクリックします。

参照

設定の確認および変更のしかたについては、お使いの Web ブラウザーのヘルプをごらんください。

3

基本的な使い方

3 基本的な使い方

3.1 アクセスのしかた

Web Connection へアクセスする方法を説明します。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 URL のフィールドに、本機の IP アドレスを入力して [Enter] を押します。
 - (例) 本機の IP アドレスが 192.168.1.20 の場合は、「http://192.168.1.20/」と入力します。
 - 本機の IP アドレスの確認方法については、2-3 ページをごらんください。Web Connection の画面が表示されます。

参考

- 名前解決のために WINS サーバーを導入している場合は、本機のホスト名を指定してアクセスできません。本機のホスト名はコンピューター内の hosts ファイル (C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts) に設定されており、通常は管理者によって割当てられています。詳しくは、本機の管理者に確認してください。
- IPv6 環境でお使いの場合は、IPv6 アドレスを [] で囲んで入力してください。
(例) 本機の IPv6 アドレスが fe80::220:6bff:fe10:2f16 の場合は、「http://[fe80::220:6bff:fe10:2f16]/」と入力します。

3.2 Web Connection の画面構成





Web Connection の画面は、大きく分けて以下の 3 つの部分で構成されます。

- 画面上部：ログインユーザー名や、本機の状態などの情報を表示します。
- 画面左：Web Connection の機能メニューを表示します。
- 画面右：選択したメニューの内容を表示します。

ここでは、[宛先登録] - [短縮宛先] の画面を例に、画面の各部を説明します。



No.	項目	説明
1	ステータス表示	本機の状態を表示します。 本機のプリンター部分と、スキャナー部分の状態を、それぞれアイコンとメッセージで表示します。 エラーが発生しているときにアイコンをクリックすると、エラーの状況を確認できます（消耗品情報、給紙トレイ、ユーザー登録情報など）。
2	メッセージ表示	本機が動作している状態をメッセージで確認できます。
3	ログインユーザー名	ログインしているモードと、ユーザー名を表示します。 登録ユーザーとしてログインしている場合に、ユーザー名をクリックすると、ユーザーの情報を確認できます。
4	[ログイン画面へ] / [ログアウト]	クリックして、Web Connection からログアウトします。
5	[パスワード変更]	登録ユーザーのパスワードを変更します。 クリックすると、ユーザーパスワードを変更する画面へジャンプします。登録ユーザーでログインした場合だけ表示します。

No.	項目	説明
6	装置検索アイコン 	ネットワーク上にある他の装置の Web Connection にアクセスするためのメニューを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [周辺 MFP 検索]：他の装置を検索します。検索結果の一覧から装置を選び、Web Connection にアクセスできます。 ・ [MFP 情報登録]：他の装置を手動で登録します。 ・ [MFP 情報表示]：登録されている装置の一覧を表示します。一覧から装置を選び、Web Connection にアクセスできます。
	警告表示アイコン 	ネットワークエラーが発生しているどうかを通知します。エラーが発生しているときにアイコンをクリックすると、エラーの詳細情報を確認できます。
	更新アイコン 	クリックすると、画面を最新の状態に更新します。
	ヘルプアイコン 	Web Connection のオンラインマニュアルを表示します。現在設定している機能の、詳しい説明を見ることができます。
7	情報、設定の表示	画面左のメニューをクリックすると、そのメニューの内容を表示します。
8	サブメニュー	選択したトップメニューのカテゴリにおける情報および設定を表示します。 ブラウザのウィンドウサイズが 800 ピクセル未満の場合は、[Sub Menu] をクリックして、メニューを開閉します。
9	トップメニュー	トップメニューの項目は、それぞれの内容から、いくつかのカテゴリに分けられています。 本機のオプションの装着状態によっては、表示されないメニューカテゴリもあります。 ブラウザのウィンドウサイズが 800 ピクセル未満の場合は、[Top Menu] をクリックして、メニューを開閉します。

3.3 ログインのしかた

ログイン画面について

Web Connection にアクセスすると、最初に表示される画面です。ユーザー名などの必要な情報を入力して、Web Connection にログインします。

参考

- 本機で認証設定を行っていないときは、ログイン画面が表示されず、すぐにパブリックユーザーモードの画面が表示されます。
- 本機の認証設定によって、表示される画面が異なります。また、このログイン画面で入力した情報によって、ログインした後にできる操作も異なります。

The screenshot shows a login interface titled "ログイン". It features a blue icon of a person with an arrow pointing right. Below the icon are three radio button options: "パブリックユーザー" (unselected), "登録ユーザー" (selected), and "管理者" (unselected). Under "登録ユーザー", there are input fields for "ユーザー名" and "パスワード". Below these are expandable sections for "表示速度", "ユーザー補助", and "言語". The "言語" dropdown is set to "日本語 (Japanese)". At the bottom, there is a "データ管理ユーティリティの起動" section and a blue "ログイン" button.

項目	説明
[ログイン]	ログインするモードを選びます。ユーザーの種類によって、ログインするモードが異なります。 ログインするモードには、ユーザーモードと管理者モードがあります。詳しくは、3-6 ページをごらんください。
[表示速度]	Web Connection の表示速度を選びます。 [高速モード] を選ぶと、Web Connection に高速モードでログインできます。高速モードでは、画像などのデータをブラウザのキャッシュに保存するため、表示速度が速くなります。
[ユーザー補助]	ログインしたあと、操作中に警告が発生した場合に、ダイアログボックスで警告内容を表示できます。
[言語]	Web Connection を表示する言語を選びます。

参考

- 本機のファームウェアを更新した後に、高速モードでログインする場合は、一度 Web ブラウザーのキャッシュを削除してから、ログインしてください。
- 高速モードにログインした後に、通常モードでログインする場合は、Web ブラウザーのキャッシュを削除してから、ログインしてください。

ログインモードについて

Web Connection には、複数のログインモードがあり、それぞれのモードで操作できる内容が違います。

Web Connection のログインモードには、本機の設定を行う「管理者モード」と、本機の機能を利用する「ユーザーモード」の二種類があります。

ログインモード	説明
管理者モード	<p>本機の管理者がログインして、本機の設定を行うモードです。ログインするには、管理者パスワードの入力が必要です。管理者としてログインしているときは、以下のカテゴリのメニューを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [メンテナンス] ・ [環境設定] ・ [セキュリティ] ・ [ユーザー認証 / 部門管理] ・ [ネットワーク] ・ [ボックス] ・ [プリンター設定] ・ [宛先登録] ・ [ファクス設定] ・ [目的別設定] ・ [カスタマイズ設定]
ユーザーモード	<p>ユーザー（登録ユーザー、パブリックユーザー、ボックス管理者）がログインするモードです。本機の状態の確認、ボックス内のファイルの活用、ダイレクトプリント、宛先の登録など、本機の機能を利用できます。ログインするユーザーの種類によって、ログインのしかた、ログイン後にできることが異なります。</p>
[登録ユーザー]	<p>本機に登録されているユーザーや部門でログインするモードです。ログインするには、本機で認証設定を有効にして、ユーザーまたは部門を登録する必要があります。登録ユーザーとしてログインしているときは、以下のカテゴリのメニューを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [情報表示] ・ [ジョブ確認] ・ [ボックス] ・ [ダイレクトプリント] ・ [宛先登録] ・ [お気に入り] ・ [カスタマイズ設定]
[管理者 (ユーザーモード)]	<p>本機の管理者が、管理者権限を持つユーザーとしてログインするモードです。このモードでログインしたときは、本機の設定は変更できません。ログインするには、管理者パスワードの入力が必要です。このモードでは、ジョブを削除できます。</p>
[ボックス管理者]	<p>ボックス専用の管理者としてログインするモードです。ログインするには、ボックス管理者用のパスワードの入力が必要です。このモードでは、本機に登録されているボックスを、ボックスのパスワードの設定に関係なく利用できます。ボックス管理者のモードを利用するには、本機でボックス管理者を有効にする必要があります。</p>
[パブリックユーザー]	<p>本機に登録されていない、一般のユーザーとしてログインするモードです。本機でパブリックユーザーの使用が許可されていない場合には、このモードは使えません。</p>



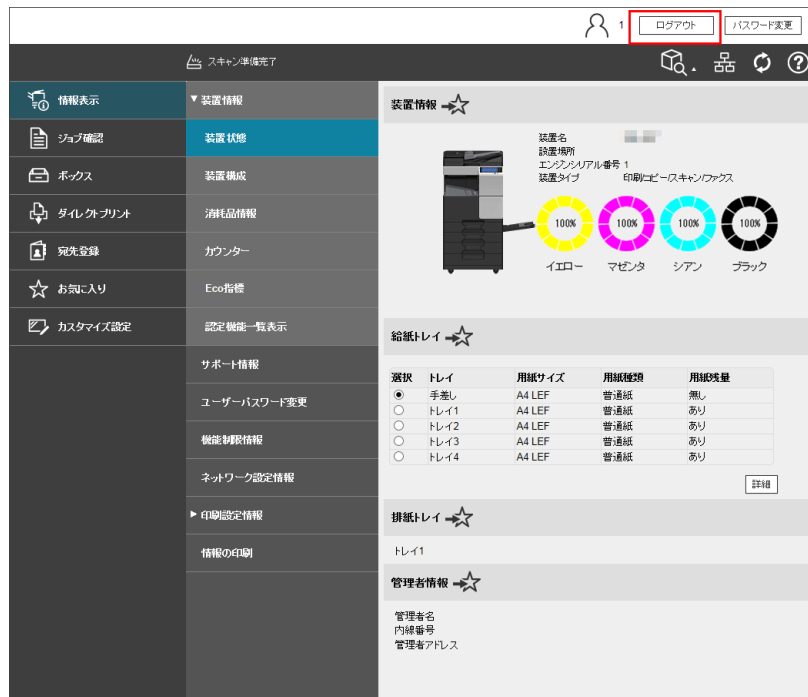
参考

- 管理者権限を付与されているユーザーは、管理者モードでログインすることができます。詳しくは、3-10 ページをごらんください。

ログインモードを切替える

Web Connection にログインしたあとに、他のログインモードを利用したいときは、いったんログアウトする必要があります。

- 1 Web Connection からログアウトします。



- パブリックユーザーモードの場合は、[ログイン画面へ] をクリックします。
- パブリックユーザーモード以外の場合は、[ログアウト] をクリックします。ログイン画面が表示されます。

- 2 ログインするモードを選び、必要な情報を入力します。

- 管理者モードにログインする場合は、3-8 ページをごらんください。
- ユーザーモードにログインする場合は、3-11 ページをごらんください。

- 3 [ログイン] をクリックします。

選択したログインモードの画面が表示されます。

参考

- Web Connection にログインした状態で、一定時間操作が行われなかった場合は、自動的にログアウトします。
- Web Connection のユーザーモードにログインしている間に、本機の操作パネルから認証設定が変更された場合は、自動的にログアウトします。

管理者モードにログインする

管理者モードにログインすると、本機の設定ができます。

- 1 ログイン画面で「管理者」を選び、「ログイン」をクリックします。

ログイン

パブリックユーザー

登録ユーザー

ユーザー名

パスワード

管理者

表示速度 ▶

ユーザー補助 ▶

言語 ▼

日本語 (Japanese) ▼

データ管理ユーティリティの起動 ▶

ログイン

- 2 「管理者 (管理者モード)」を選びます。

ログイン選択

管理者

管理者 (管理者モード)

管理者 (ユーザーモード)

ボックス管理者

パスワード

登録ユーザー

管理者 (管理者モード)

管理者 (ユーザーモード)

ボックス管理者

ユーザー名

パスワード

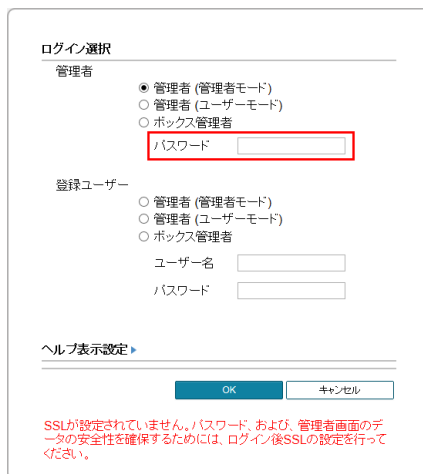
ヘルプ表示設定 ▶

OK キャンセル

SSLが設定されていません。パスワード、および、管理者画面のデータの安全性を確保するためには、ログイン後SSLの設定を行ってください。

- 本機の管理者がユーザーモードにログインする場合は、「管理者 (ユーザーモード)」を選びます。
- 本機の管理者がボックス管理者としてログインする場合は、「ボックス管理者」を選びます。ボックス管理者について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- パスワードを入力する画面の表示は、本機の設定によって異なります。

3 管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。



ログイン選択

管理者

- 管理者 (管理者モード)
- 管理者 (ユーザーモード)
- ボックス管理者

パスワード

登録ユーザー

- 管理者 (管理者モード)
- 管理者 (ユーザーモード)
- ボックス管理者

ユーザー名

パスワード

ヘルプ表示設定 ▶

OK キャンセル

SSLが設定されていません。パスワード、および、管理者画面のデータの安全性を確保するためには、ログイン後SSLの設定を行ってください。

管理者モードの画面が表示されます。

参考

- 本機でジョブの実行中や、エラー、紙づまり発生中でも管理者モードにログインし、本機の設定を変更できます。ただし、実行中のジョブに影響を与える設定の変更は即時に反映されません。未反映の設定の有無は、管理者モードの [メンテナンス] - [保留中設定変更有無確認] で確認できます。
- 本機の状態によっては、管理者モードにログインできない場合があります。
- [ヘルプ表示設定] では、管理者モードでログインしたときに表示されるネットワークメニューで、ポップアップヘルプを表示するかどうかを選択できます。ポップアップヘルプについて詳しくは、3-18 ページをごらんください。

管理者モードにログインする（管理者権限が付与された登録ユーザーの場合）

登録ユーザーに管理者権限が付与されている場合は、管理者モードにログインして、本機の設定ができます。

- ✓ 登録ユーザーが管理者権限でログインできるようにするには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは、12-24 ページをごらんください。

1 ログイン画面で「管理者」を選び、「ログイン」をクリックします。

2 「管理者（管理者モード）」を選びます。

- 本機の登録ユーザーが管理者権限でユーザーモードにログインする場合は、「管理者（ユーザーモード）」を選びます。
- 本機の登録ユーザーがボックス管理者としてログインする場合は、「ボックス管理者」を選びます。ボックス管理者について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- パスワードを入力する画面の表示は、本機の設定によって異なります。

3 ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

管理者モードの画面が表示されます。

参考

- 本機でジョブの実行中や、エラー、紙つまり発生中でも管理者モードにログインし、本機の設定を変更できます。ただし、実行中のジョブに影響を与える設定の変更は即時に反映されません。未反映の設定の有無は、管理者モードの「メンテナンス」 - 「保留中設定変更有無確認」で確認できます。
- 本機の状態によっては、管理者モードにログインできない場合があります。
- 「ヘルプ表示設定」では、管理者モードでログインしたときに表示されるネットワークメニューで、ポップアップヘルプを表示するかどうかを選択できます。ポップアップヘルプについて詳しくは、3-18 ページをごらんください。

ユーザーモードにログインする

ユーザーモードでは、本機のボックス操作や、ダイレクトプリントなどの機能を使えます。登録ユーザーとしてログインする方法と、パブリックユーザーとしてログインする方法があります。

登録ユーザーとしてログインする場合は、ログイン画面で [登録ユーザー] を選びます。

ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログイン

パブリックユーザー

登録ユーザー

ユーザー名

パスワード

管理者

表示速度 ▶

ユーザー補助 ▶

言語 ▼

日本語 (Japanese) ▼

データ管理ユーティリティの起動 ▶

ログイン



参考

- ユーザー名の一覧を表示して、ログインするユーザー名を一覧から選ぶこともできます。ユーザー名の一覧を表示したい場合は、操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [管理設定] の [ユーザー名一覧] を [表示する] に設定します。
- 外部の認証サーバーで認証を行っている場合は、サーバーを選びます。
- パブリックユーザーとしてログインする場合は、ログイン画面で [パブリックユーザー] を選んでから、[ログイン] をクリックします。

3.4 ユーザーモードの概要

3.4.1 ユーザーモードの各メニューについて

[情報表示]

本機のシステム構成に関する情報や設定を確認できます。



メニュー	説明
[装置情報]	装置状態、装置構成、消耗品情報、カウンター、Eco 指標、認定機能一覧表示を確認できます。
[サポート情報]	製品に関するサポート情報を確認できます。
[ユーザーパスワード変更]	ログインしているユーザーのパスワードを変更できます。
[ユーザー認証 / 部門認証の連動]	ログインしているユーザーが、自分のユーザー認証と部門認証の連動設定を変更できます。
[機能制限情報]	ユーザーや部門の操作制限情報を確認できます。
[ネットワーク設定情報]	本機のネットワーク設定を確認できます。
[印刷設定情報]	本機のプリンター機能に関する設定情報を確認できます。
[情報の印刷]	フォント情報や設定情報などを印刷できます。
[Web ブラウザー設定]	ログインしているユーザーの Web ブラウザー機能に関する設定を変更できます。 この機能を使うには、次の条件を満たす必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> Web ブラウザー機能が有効である 登録ユーザーとしてログインしている ユーザーによる Web ブラウザーの設定変更が許可されている。詳しくは、13-24 ページをごらんください。

[ジョブ確認]

本機で実行中のジョブや、ジョブの履歴を確認できます。



メニュー	説明
[実行中リスト]	本機で実行中および実行待ちのジョブを確認できます。 また、印刷待ちのジョブを優先的に印刷するように指示したり、プリンタードライバーから確認印刷機能を設定して送信したジョブを削除したりできます。 登録ユーザーとしてログインしている場合、ログインしているユーザーのジョブを操作することもできます。
[履歴リスト]	本機で処理したジョブの履歴を確認できます。
[通信リスト]	スキャン送信、ファクス送信、ファクス受信の結果の一覧を確認できます。

[ボックス]

本機にボックスを作成したり、ボックス内のファイルを印刷、送信したりできます。



メニュー	説明
[ボックスを開く]	ボックス（共有／個人／グループ）を開き、保存されているファイルを印刷、送信、ダウンロードしたりできます。 ボックス内のファイルの利用について詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。
[ボックス一覧]	本機に登録されているボックスの一覧を表示します。新しくボックスを作成したり、作成済みのボックスの設定を変更したりできます。

メニュー	説明
[システムボックスを開く]	システムボックス（掲示板ボックス／ポーリング送信ボックス／強制メモリー受信ボックス）を開き、保存されているファイルを利用できます。この機能を使うには、オプションの FAX キットを装着するか、インターネットファクス機能を有効にする必要があります。
[システムボックス一覧]	本機に登録されているシステムボックス（掲示板ボックス／中継ボックス／ファイリングナンバーボックス）の一覧を表示します。新しくシステムボックスを作成したり、作成済みのシステムボックスの設定を変更したりできます。この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。

[ダイレクトプリント]

ダイレクトプリントは、プリンタードライバーを使わずに、コンピューターまたは SMB 共有フォルダーにある PDF(Ver.1.6)、JPEG、TIFF、XPS、PS、PCL、Text、OOXML(.docx/.xlsx/.pptx)、PPML(.ppml/.vdx/.zip) ファイルを直接本機に送信して印刷する機能です。

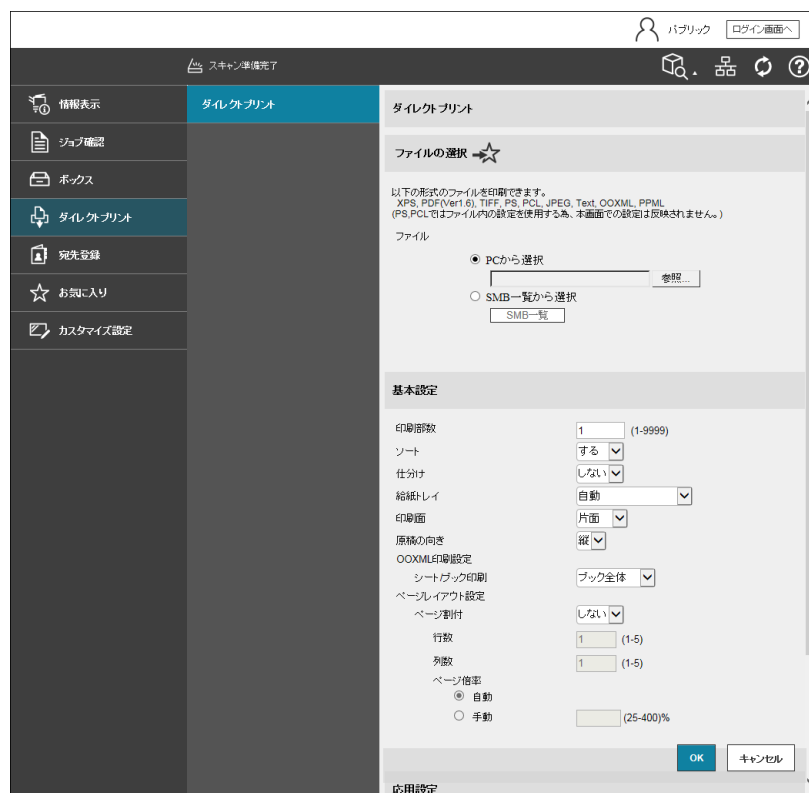
Text ファイルの場合、1 バイト文字のみ対応しています。

参照

ダイレクトプリント機能について詳しくは、「ユーザーズガイド [プリント機能] / [プリンタードライバーを使わずに印刷する]」をごらんください。

関連設定

- Text ファイルを印刷する場合、[PDL 設定] を [自動] に設定する必要があります（初期値：[自動]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



[宛先登録]

よく送信する宛先の登録や、登録内容の編集をします。



メニュー	説明
[短縮宛先]	よく送信する宛先を本機に登録できます。また、本機に登録されている宛先の登録内容を確認したり、編集したりできます。
[グループ宛先]	複数の宛先をまとめて、グループ宛先として登録できます。また、本機に登録されているグループ宛先の登録内容を確認したり、編集したりできます。
[プログラム宛先]	よく使うオプション設定の組合わせを、1つの呼出しキー（プログラム）として登録できます。また、本機に登録されているプログラムの登録内容を確認したり、編集したりできます。
[一時プログラム]	一時的に使うプログラムを登録できます。一時プログラムに登録した宛先に送信したり、本機の電源をOFFにしたりすると、一時プログラムは削除されます。
[E-mail 件名]	E-mail 送信時に利用する件名を登録できます。
[E-mail 本文]	E-mail 送信時に利用する本文を登録できます。

参考

- Web Connection にログインまたはログアウトするときに、本機に変更が反映されていない短縮宛先が検出された場合は、短縮宛先を本機に登録するかどうかを選択する画面が表示されます。

【お気に入り】

よく使う機能を、1つの画面にまとめて表示できます。



機能を「お気に入り」に登録するには、登録したい機能のメニューを、「お気に入り」にドラッグ&ドロップします。



【カスタマイズ設定】

ユーザーモードにログインしたあとに表示する画面を選べます。



3.5 ショートカット機能を活用する

Web ブラウザーのお気に入りに登録する

Web Connection の各機能のページは、Web ブラウザーのお気に入りに登録できます。

お気に入りに登録したい機能のページを表示し、Web ブラウザーのお気に入りに登録します。

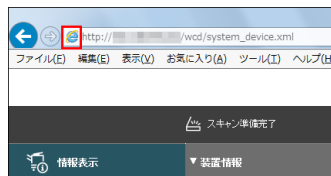
参考

- お気に入りに登録する方法については、お使いの Web ブラウザーのヘルプをごらんください。
- ユーザー認証を導入している環境で登録ユーザーのページをお気に入りに登録した場合は、登録したページを表示するときにユーザーモードへのログイン画面が表示されます。
- 管理者モードのページをお気に入りに登録した場合は、登録したページを表示するときに管理者モードへのログイン画面が表示されます。
- 高速モードでログインした後に、本機のファームウェアを更新した場合は、登録したページを表示する前に、Web ブラウザーのキャッシュを削除してください。

ページのショートカットを作成する


コンピューターのデスクトップなどの任意の場所に、Web Connection の各機能のページへのショートカットを作成できます。

ショートカットを作成するには、Web ブラウザーのアドレスバーに表示されているアイコンを、コンピューターの任意の場所へドラッグ&ドロップします。



3.6 ヘルプ機能を活用する

オンラインマニュアルを活用する

Web Connection にログインしたあと、をクリックすると、オンラインマニュアルを表示できます。オンラインマニュアルでは、設定中の機能の詳しい説明を見ることができます。

オンラインマニュアルを表示するには、お使いのコンピューターがインターネットに接続されている必要があります。

設定の意味をポップアップで表示する

Web Connection に管理者モードでログインしたときに表示される [ネットワーク] メニューでは、ポップアップヘルプを利用できます。

画面の項目にマウスカーソルをかざす (オンマウス) か、項目をクリックする (オンフォーカス) すると、その項目の説明をポップアップで表示します。項目の意味を確認しながら、ネットワークの設定ができます。

管理者モードにログインする画面で、ポップアップヘルプを表示する方法を設定できます。

設定	説明
[オンマウスで表示]	[する] を選ぶと、画面の項目にマウスカーソルをかざしたときに、ポップアップヘルプを表示します。
[オンフォーカスで表示]	[する] を選ぶと、設定項目の入力エリアや選択肢をクリックしたときに、ポップアップヘルプを表示します。

ポップアップヘルプは次のように表示します。



機能の設定をウィザード形式で行う

いくつかの設定は、画面の指示に従って設定値を入力していく方法（ウィザード）によって、簡単に設定できます。

ウィザードによる設定は、次の機能で利用できます。

[スキャン文書の送信設定を行う]

- [スキャンしたデータを E-mail で送信する]
- [スキャンしたデータを E-mail で送信する (デジタル署名の添付)]
- [スキャンしたデータを E-mail で送信する (公開鍵による暗号化)]

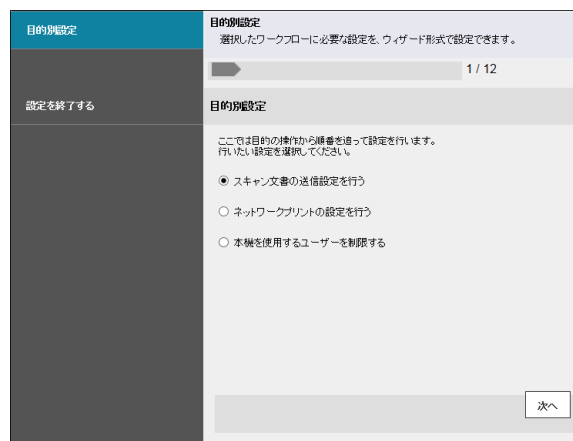
[ネットワークプリントの設定を行う]

- [LPR 印刷をする]
- [RAW ポートで印刷する]
- [SMB で印刷する]

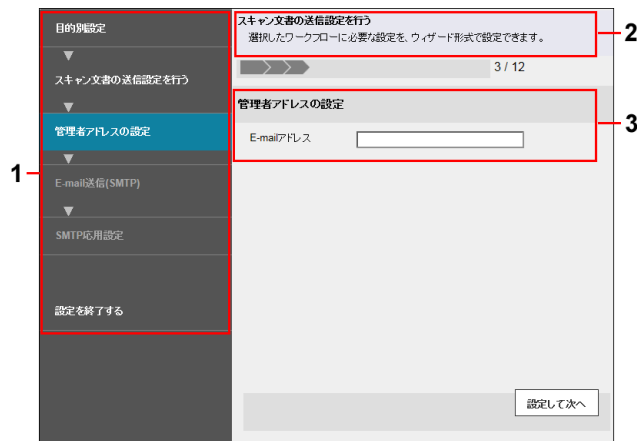
[本機を使用するユーザーを制限する]

- [認証は行わない]
- [ユーザー認証のみで管理]
- [部門のみで管理]
- [ユーザー認証+部門で管理]
- [外部認証サーバー (Active Directory) で管理]

ウィザードを利用して設定するには、管理者モードにログインして、[目的別設定] を選びます。



ウィザードの画面は、次のように構成されています。



No.	項目	説明
1	フロー	設定の流れを表示します。 現在の設定項目が、濃い灰色でハイライト表示されるため、一連の流れの中でどの位置にいるのか、確認できます。 前の設定項目をクリックすると、その設定項目に戻って設定をやり直せます。
2	ウィザードの目的	設定中のウィザードのタイトルを表示します。
3	設定内容	フローに沿った設定項目を表示します。

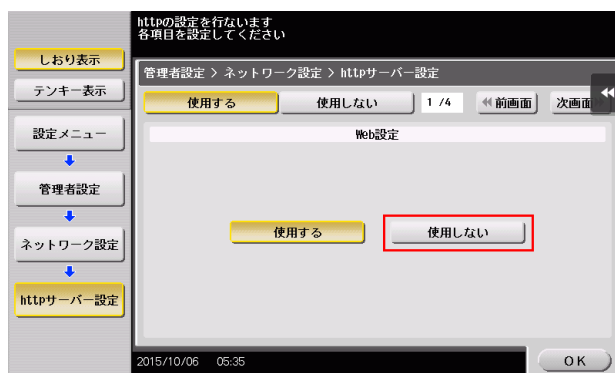
参考

- フローで前の設定項目に戻った場合は、戻った設定項目から、再度設定をやり直す必要があります。途中の設定項目は、保存されません。
- ウィザードの途中で設定を終了したいときは、フローの「設定を終了する」をクリックします。

3.7 Web Connection の使用を禁止する

Web Connection を使わせたくない場合は、操作パネルから Web Connection の使用を禁止できます。

操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [ネットワーク設定] - [http サーバー設定] で、[Web 設定] を [使用しない] に設定します (初期値: [使用する])。



4

本機の基本情報を設定する

4 本機の基本情報を設定する

4.1 本機の情報登録する

本機の名前、設置場所、本機の管理者の情報など、本機の装置情報を登録します。

装置情報を登録すると、Web Connection のユーザーモードの [情報表示] - [装置情報] - [装置状態] で、ユーザーが確認できるようになります。

管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で、次の設定をします。


設定	説明
[設置場所]	本機の設置場所を入力します (半角 255 文字以内)。
[管理者登録]	本機の管理者の情報を登録します。
[管理者名]	本機の管理者の名前を入力します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。
[E-mail アドレス]	本機の管理者のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 128 文字以内)。 このメールアドレスが、E-mail 送信の発信元アドレスとして使われます。そのため、E-mail 送信機能をお使いになる場合は、設定が必要です。
[内線番号]	本機の管理者の内線番号を入力します (半角 8 文字以内)。
[本体アドレス登録]	本機の名前とメールアドレスを登録します。
[装置名称]	本機の名前を入力します (半角 80 文字以内)。 ここで設定した名前は、スキャン送信する場合などに、自動で命名されるファイル名の一部となります。
[E-mail アドレス]	本機のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。 このメールアドレスが、インターネットファクスの発信元アドレスとして使われます。そのため、インターネットファクス機能をお使いになる場合は、設定が必要です。

4.2 サポート情報を登録する

製品に関する問い合わせ先や、オンラインマニュアルの URL など、本機のサポート情報を登録します。

サポート情報を登録すると、**Web Connection** のユーザーモードの [情報表示] - [サポート情報] でユーザーが確認できるようになります。

管理者モードの [環境設定] - [サポート情報登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[問い合わせ先]	本機の問い合わせ先の名前を入力します (半角 63 文字以内)。
[問い合わせ情報]	本機の問い合わせ先の電話番号、URL などを入力します (半角 127 文字以内)。
[製品情報ホームページ]	本機の製品情報ページの URL を入力します (半角 127 文字以内)。
[製品元ホームページ]	本機の製造元のホームページの URL を入力します (半角 127 文字以内)。
[消耗品連絡先]	消耗品の発注先の情報を入力します (半角 127 文字以内)。
[オンラインマニュアル URL]	必要に応じて、 Web Connection のオンラインマニュアルの URL を変更します (半角 127 文字以内)。 オンラインマニュアルは、 Web Connection の画面右上の  をクリックしたときに表示します。
[ドライバーの URL]	必要に応じて、本機のドライバーを格納してある場所の URL を入力します (半角 127 文字以内)。 お使いの環境に合わせて、適切な URL を入力してください。
[エンジンシリアル番号]	本機のシリアル番号を確認できます。

4.3 本機の日時を設定する

手動で設定する

本機の日時を、手動で設定します。

管理者モードの [メンテナンス] - [日時設定] - [手動設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[日付]	本機の日付を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [年]：年を入力します。 ・ [月]：月を入力します。 ・ [日]：日を入力します。
[時刻]	本機の時刻を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [時]：時を入力します。 ・ [分]：分を入力します。 ・ [タイムゾーン]：お使いの環境に合わせて、タイムゾーン（世界標準時からの時差）を選びます。

NTP で自動設定する

NTP(Network Time Protocol) サーバーを利用すると、本機の日時を自動的に調整できます。

利用する NTP サーバーを登録します。また、定期的に NTP サーバーに接続して日時調整を行う場合は、日時調整を行う間隔を指定します。

- ✓ NTP サーバーを使って日時調整するためには、本機がネットワークに接続されている必要があります。

1 管理者モードの [メンテナンス] - [日時設定] - [手動設定] で、[タイムゾーン] を設定します。
 → [タイムゾーン] の設定のしかたは、4-4 ページをごらんください。

2 管理者モードの [メンテナンス] - [日時設定] - [時刻補正設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[時刻補正設定]	NTP サーバーを利用して、本機の日時を自動調整するときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[IPv6 自動取得]	NTP サーバーのアドレスを自動的に設定するときは、[する] を選びます。 IPv6 環境でお使いの場合は、NTP サーバーのアドレスを、DHCPv6 によって自動的に設定できます。 初期値は [する] です。
[NTP サーバーアドレス]	NTP サーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、NTP サーバーのポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [123] です。
[自動時刻補正]	定期的に NTP サーバーに接続して日時調整を行う場合は、[する] を選びます。 あわせて、[ポーリング間隔] で、日時調整を行う間隔を指定します。 初期値は [しない] です。
[ポーリング間隔]	[自動時刻補正] で [する] を選んだ場合は、本機の日時調整を、自動的に行う間隔を指定します（単位：時間）。

3 [調整] をクリックします。

NTP サーバーに接続して、本機の日時を調整します。

5

本機のネットワーク設定をする

5 本機のネットワーク設定をする

5.1 IPv4 環境で使う

概要

本機を IPv4 のネットワーク環境に接続して使うために、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの割当て方法を設定する
 - IP アドレスの割当て方法の設定のしかたは、5-2 ページをごらんください。
- 2 本機からネットワーク上のコンピューターやサーバーにアクセスするとき、ホスト名によって名前解決を行う場合は、お使いの DNS サーバーのアドレスを本機に登録する
 - DNS サーバーの登録のしかたは、5-3 ページをごらんください。
 - DHCP サーバーをお使いの場合は、名前解決に使う DNS サーバーの情報を自動的に取得できる場合があります。
- 3 お使いの DNS サーバーが Dynamic DNS 機能をサポートしている場合は、必要に応じて、本機のホスト名とドメイン名を登録し、Dynamic DNS を有効にする
 - 本機のホスト名の登録のしかたは、5-3 ページをごらんください。
 - ドメイン名の登録のしかたは、5-3 ページをごらんください。

IP アドレスを割当てる

IPv4 のネットワーク環境で本機を使うには、本機に IP アドレスを割当てます。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[TCP/IP]	TCP/IP を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[ネットワーク速度]	お使いの環境に合わせて、ネットワークの速度を選びます。 初期値は [自動 (10M/100Mbps)] です。
[IP 確定方法]	IP アドレスを手動で入力するときは、[直接設定] を選びます。 IP アドレスを自動的に取得する場合は、[自動設定] を選んでから、自動取得の方法を指定します。通常は、[DHCP] にチェックをつけます。 初期値は [自動設定] です。
[IP アドレス]	[IP 確定方法] で [直接設定] を選んだ場合は、本機に用意した固定 IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	[IP 確定方法] で [直接設定] を選んだ場合は、サブネットマスクを入力します。
[デフォルトゲートウェイ]	[IP 確定方法] で [直接設定] を選んだ場合は、デフォルトゲートウェイを入力します。

本機が利用する DNS サーバーを登録する

本機からネットワーク上のコンピューターやサーバーにアクセスするときに、ホスト名によって名前解決を行う場合は、お使いの DNS サーバーのアドレスを本機に登録します。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[DNS サーバー自動取得]	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するときは、[無効] を選びます。DHCP などをお使いの場合は、[有効] を選びます。DHCP サーバーなどから、DNS サーバーのアドレスを自動的に取得します。初期値は [有効] です。
[優先 DNS サーバー]	お使いの DNS サーバー (プライマリ) のアドレスを入力します。
[代替 DNS サーバー 1] ~ [代替 DNS サーバー 2]	複数の DNS サーバーをお使いの場合は、お使いの DNS サーバー (セカンダリ) のアドレスを入力します。

ホスト名を登録する

お使いの DNS サーバーが Dynamic DNS をサポートしている場合は、本機にホスト名を登録すると、DNS サーバーがホスト名と IP アドレスの名前解決を動的に行います。これにより、ネットワーク上のコンピューターから、ホスト名を使って本機に接続できるようになります。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[DNS ホスト名]	本機のホスト名を入力します (半角 63 文字以内、記号は - のみ使用可能)。ホスト名の先頭と末尾に記号は使えません。
[Dynamic DNS 設定]	Dynamic DNS 機能を使うときは、[有効] を選びます。お使いの DNS サーバーが Dynamic DNS 機能をサポートしている場合は、設定したホスト名を DNS サーバーに自動で登録したり、変更内容を自動で更新したりできます。初期値は [無効] です。

ドメイン名を登録する

本機が参加しているドメイン名を登録します。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[DNS ドメイン名自動取得]	DHCP などをお使いの場合は、ドメイン名を自動で設定できます。自動で設定するときは、[有効] を選びます。初期値は [有効] です。
[DNS 検索ドメイン名自動取得]	DHCP などをお使いの場合は、検索ドメイン名を自動で設定できます。自動設定するときは、[有効] を選びます。初期値は [有効] です。
[DNS デフォルトドメイン名]	DHCP などで自動設定しないときは、本機のデフォルトドメイン名を入力します (ホスト名と合わせて 253 バイト以内、記号は -, . を使用可能)。
[DNS 検索ドメイン名 1] ~ [DNS 検索ドメイン名 3]	DHCP などで自動設定しないときは、検索ドメイン名を入力します (半角 63 文字以内、記号は -, . を使用可能)。

5.2 IPv6 環境で使う

本機は、IPv6 のネットワーク環境に対応しています。

IPv6 のネットワーク環境で本機を使うには、本機に IPv6 アドレスを割当てます。IPv4 環境と IPv6 環境で、同時に使えます。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[TCP/IP]	TCP/IP を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[IPv6]	IPv6 を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[IPv6 自動設定]	IPv6 グローバルアドレスを自動的に設定するには、[使用する] を選びます。 IPv6 グローバルアドレスは、ルーターから通知されるプレフィックス長と本機の MAC アドレスから、自動的に設定されます。 初期値は [使用する] です。
[DHCPv6 設定]	DHCPv6 によって IPv6 グローバルアドレスを自動設定するときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[IPv6 リンクローカルアドレス]	リンクローカルアドレスを表示します。 リンクローカルアドレスは、本機の MAC アドレスから自動的に設定されます。
[IPv6 グローバルアドレス]	IPv6 グローバルアドレスを入力します。 アドレスを手動で設定する場合に入力します。
[IPv6 グローバルアドレスプレフィックスレンジ]	IPv6 グローバルアドレスのプレフィックス長を、1 ~ 128 の範囲で入力します。 アドレスを手動で設定する場合に入力します。
[IPv6 ゲートウェイアドレス]	ゲートウェイアドレスを入力します。 アドレスを手動で設定する場合に入力します。
[DNS サーバー設定 (IPv6)]	必要に応じて、IPv6 対応の DNS サーバーのアドレスを登録します。
[DNS サーバー自動取得]	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するときは、[無効] を選びます。 DHCPv6 をお使いの場合は、[有効] を選びます。DHCP サーバーから、DNS サーバーのアドレスを自動的に取得します。 初期値は [有効] です。
[優先 DNS サーバー]	お使いの DNS サーバー (プライマリ) のアドレスを入力します。 アドレスを手動で設定する場合に入力します。
[代替 DNS サーバー 1] ~ [代替 DNS サーバー 2]	複数の DNS サーバーをお使いの場合は、お使いの DNS サーバー (セカンダリ) のアドレスを入力します。

5.3 無線ネットワーク環境で使う

概要

本機を無線ネットワーク環境に接続して使うために、次の手順で設定してください。

- ✓ この機能を使うには、オプションの無線 LAN 接続キット (アップグレードキット UK-212 またはアップグレードキット UK-215) が必要です。

- 1 ネットワークインターフェースの構成を選択する
→ 設定のしかたは、5-5 ページをごらんください。
- 2 TCP/IP を使用して本機を拡張ネットワークに接続するための設定をする
→ 設定のしかたは、5-6 ページをごらんください。
- 3 本機を無線子機または無線親機として動作させるための設定をする
→ 本機を無線子機として動作させるための設定のしかたは、5-7 ページをごらんください。
→ 本機を無線親機として動作させるための設定のしかたは、次の場所をごらんください。
アップグレードキット UK-212 を装着している場合：5-8 ページ
アップグレードキット UK-215 を装着している場合：5-9 ページ

ネットワークインターフェース構成を設定する

本機のネットワークインターフェースの構成を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] で、有効にするネットワークインターフェースを選びます。

- [有線のみ]：本機を有線 LAN 環境のみで使用する場合に選びます。
- [無線のみ]：本機を無線 LAN 環境のみで使用する場合に選びます。無線 LAN 環境では、本機を無線子機として動作させます。
- [有線+無線 (子機モード)]：本機を有線 LAN 環境と無線 LAN 環境の両方で使用する場合に選びます。無線 LAN 環境では、本機を無線子機として動作させます。
- [有線+無線 (親機モード)]：本機を有線 LAN 環境と無線 LAN 環境の両方で使用する場合に選びます。無線 LAN 環境では、本機を無線親機として動作させます。アップグレードキット UK-212 を装着している場合に設定できます。
- [有線+無線 (シンプル AP モード)]：本機を有線 LAN 環境と無線 LAN 環境の両方で使用する場合に選びます。無線 LAN 環境では、本機を無線親機として動作させます。アップグレードキット UK-215 を装着している場合に設定できます。

TCP/IP の基本設定をする

TCP/IP を使用して本機を無線ネットワーク環境に接続するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] で、[有線 + 無線 (子機モード)]、[有線 + 無線 (親機モード)]、[有線 + 無線 (シンプル AP モード)] のいずれかを選んだ場合に設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] で [無線設定] を選び、[OK] をクリックします。
[TCP/IP 設定 (無線設定)] で、次の設定をします。

設定	説明
[IPv4]	本機で IPv4 を使用して無線ネットワーク環境に接続する場合に、IPv4 の設定をします。
[IP 確定方法]	IP アドレスを手動で入力するときは [直接設定] を選び、無線ネットワーク環境で使用する本機の IP アドレスとサブネットマスクを入力します。DHCP サーバーから IP アドレスを自動的に取得する場合は、[自動設定] を選びます。 [ネットワーク I/F 構成] が [有線 + 無線 (親機モード)]、[有線 + 無線 (シンプル AP モード)] のいずれかの場合は、直接設定でのみ設定できます。初期値は [自動設定] です。
[IP アドレス]	[IP 確定方法] で [直接設定] を選んだ場合は、本機に用意した固定 IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク]	[IP 確定方法] で [直接設定] を選んだ場合は、サブネットマスクを入力します。
[IPv6]	本機で IPv6 を使用して無線ネットワーク環境に接続する場合に、IPv6 の設定を表示します。
[IPv6 リンクローカルアドレス]	リンクローカルアドレスを表示します。 リンクローカルアドレスは、本機の MAC アドレスから自動的に設定されず。



参考

- 無線ネットワークのネットワークアドレスは、有線ネットワークのネットワークアドレスとは異なるプライベート IP アドレス等を設定してください。同じネットワークアドレス群を設定すると、本機から有線ネットワークへの送信ができなくなります。

本機を無線子機として動作させるための設定をする

本機を無線子機として動作させ、お使いのアクセスポイントに接続するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] で、[無線のみ] または [有線 + 無線 (子機モード)] を選んだ場合に設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [無線ネットワーク設定] - [無線子機設定] で、設定方法を選びます。

設定	説明
[直接入力]	SSID や暗号化方式など、接続に必要な設定項目をすべて直接入力する場合に選びます。
[WPS]	接続に必要な情報をアクセスポイントから自動的に取得する場合に選びます。アクセスポイントが WPS 機能に対応している必要があります。無線ネットワークに接続している本機の IP アドレスを指定して Web Connection を利用している場合、WPS を実行すると、 Web Connection への接続が切断されます。

- 2 手順 1 で選んだ設定方法に応じて、次の設定をします。

→ [直接入力] を選んだ場合

設定	説明
[AP 検索]	クリックすると、本機の周囲にあるアクセスポイントを自動的に検索します。表示された一覧から、本機を接続するアクセスポイントを選びます。
[SSID]	本機が接続するアクセスポイントの SSID を入力します (32 バイト以内)。
[認証・暗号化アルゴリズム]	認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。初期値は [認証・暗号化なし] です。
[WEP キー]	[認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP] を選んだ場合に、[キー入力方式] と [WEP キー] を設定します。複数の WEP キーを設定する場合は、[使用キー選択] で使用する WEP キーを選びます。
[パスフレーズ入力方式]	[認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP]、[認証・暗号化なし] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズ入力方式を選びます。
[パスフレーズ]	[認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP]、[認証・暗号化なし] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズを入力します。パスフレーズを変更する場合は、[パスフレーズを変更する] にチェックをつけます。
[20/40 MHz 自動切換え]	40MHz を使用して高速通信を試みる場合は [使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。アップグレードキット UK-215 を装着している場合は表示されません。

→ [WPS] を選んだ場合

設定	説明
[プッシュボタン方式]	[プッシュボタン方式] を選んでから [OK] をクリックすると、アクセスポイントへの接続を試みます。アクセスポイントで WPS 設定用のボタンを押すと、SSID やセキュリティなど、接続に必要な設定を自動的に行います。一部アクセスポイントに対して、WPS のプッシュボタン方式を使用した場合、接続に失敗することがあります。このような場合は、アクセスポイントのボタンを押した後、30 秒程度待ってから、本機との接続を実施してください。
[PIN 方式]	[PIN 方式] を選んでから [OK] をクリックすると、PIN コードが表示されます。表示された PIN コードをアクセスポイントで入力すると、SSID やセキュリティなど、接続に必要な設定を自動的に行います。Windows 7 以降の OS が稼動するコンピューターが必要です。

本機を無線親機として動作させるための設定をする (UK-212 装着時)

本機を無線 LAN アクセスポイントとして使用するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] で、[有線 + 無線 (親機モード)] を選んだ場合に設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [無線ネットワーク設定] - [無線親機設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSID]	本機を無線 LAN アクセスポイントとして使用する際の SSID を入力します (32 バイト以内)。
[認証・暗号化アルゴリズム]	認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。 初期値は [認証・暗号化なし] です。
[WEP キー]	[認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP] を選んだ場合に、[キー入力方式] と [WEP キー] を設定します。複数の WEP キーを設定する場合は、[使用キー選択] で使用する WEP キーを選びます。
[パスフレーズ]	[認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP]、[認証・暗号化なし] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に、パスフレーズを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> [パスフレーズ入力方式]：パスフレーズ入力方式を選びます。 [パスフレーズ]：パスフレーズを入力します。パスフレーズを変更する場合は、[パスフレーズを変更する] にチェックをつけます。 [パスフレーズ自動更新]：暗号化キーを自動更新する場合は、[する] を選びます。また、暗号化キーの更新間隔を入力します。
[20/40 MHz 自動切換え]	40MHz を使用して高速通信を試みる場合は [使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[無線チャンネル]	アクセスポイントが使用する無線チャンネルを選びます。 [自動] を選ぶと、他のアクセスポイントが使用していないチャンネルを検索して自動的に割当てます。 初期値は [自動] です。
[ANY 接続]	ANY 接続を許可するかどうかを選びます。 [禁止] を選ぶと、無線子機側でアクセスポイントの SSID を自動検出できなくなります。 初期値は [許可] です。
[MAC アドレスフィルタリング]	アクセスポイントに接続できる無線子機を MAC アドレスで制限します。 アクセスポイントに接続できる無線子機の MAC アドレスを入力します。最大 16 台の機器の MAC アドレスを登録できます。
[DHCP サーバー設定]	DHCP サーバー機能を使用するための設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> [有効設定]：DHCP サーバー機能を有効にするかしないかを選びます。 初期値は [無効] です。 [IPv4 リースアドレス]：DHCP サーバー機能を有効にする場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスの範囲を設定します。 [サブネットマスク]：DHCP サーバー機能を有効にする場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスのサブネットマスクを入力します。 [リース期間]：DHCP サーバー機能を有効にする場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスのリース期間を入力します。
[同時接続台数設定]	アクセスポイントへの同時接続台数を入力します。 初期値は [5] 台です。
[電波強度設定]	アクセスポイントの電波強度を 3 段階から選びます。 初期値は [強い] です。
[接続子機表示]	アクセスポイントに接続している無線子機の名前と MAC アドレスの一覧を表示します。

本機を無線親機として動作させるための設定をする (UK-215 装着時)

本機を無線 LAN アクセスポイントとして使用するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] で、[有線 + 無線 (シンプル AP モード)] を選んだ場合に設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [無線ネットワーク設定] - [無線親機設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSID]	本機を無線 LAN アクセスポイントとして使用するときの SSID を入力します (32 バイト以内)。
[パスフレーズ]	パスフレーズを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [パスフレーズ入力方式] : パスフレーズ入力方式を選びます。 ・ [パスフレーズ] : パスフレーズを入力します。パスフレーズを変更する場合は、[パスフレーズを変更する] にチェックをつけます。 ・ [パスフレーズ自動更新] : 暗号化キーは、24 時間間隔で自動更新されます。
[無線チャンネル設定]	無線 LAN で使用する周波数帯とチャンネルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [利用周波数帯] : 無線 LAN で使用する周波数帯を選びます。 ・ [無線チャンネル (2.4GHz)] : 2.4GHz 帯の無線 LAN で使用するチャンネルを選びます。[自動] を選ぶと、他のアクセスポイントが使用していないチャンネルを検索して自動的に割当てます。初期値は [自動] です。 ・ [無線チャンネル (5GHz)] : 5GHz 帯の無線 LAN で使用するチャンネルを選びます。[自動] を選ぶと、他のアクセスポイントが使用していないチャンネルを検索して自動的に割当てます。初期値は [自動] です。
[DHCP サーバー設定]	DHCP サーバー機能を使用するための設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効設定] : DHCP サーバー機能を有効にするかしないかを選びます。初期値は [無効] です。 ・ [IPv4 リースアドレス] : DHCP サーバー機能を有効にする場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスの範囲を設定します。 ・ [サブネットマスク] : DHCP サーバー機能を有効にする場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスのサブネットマスクを入力します。 ・ [リース期間] : DHCP サーバー機能を有効にする場合に、DHCP サーバーがリースする IPv4 アドレスのリース期間を入力します。
[同時接続台数設定]	アクセスポイントへの同時接続台数を入力します。 初期値は [4] 台です。
[接続子機表示]	アクセスポイントに接続している無線子機の名前と MAC アドレスの一覧を表示します。

無線ネットワーク環境の通信状態を確認する

管理者モードの [ネットワーク] - [無線ネットワーク設定] - [無線子機設定] - [接続状態] で、本機が接続しているアクセスポイントの確認や、アクセスポイントの電波強度、現在の通信速度などを確認できます。

無線ネットワークアダプターの MAC アドレスを確認する

管理者モードの [ネットワーク] - [無線ネットワーク設定] - [デバイス設定] で、無線ネットワークアダプターの MAC アドレスを確認できます。

5.4 ネットワークマップに表示する

Windows コンピューターのネットワークマップに本機を表示できます。

ネットワークマップは、ネットワーク上での本機の位置や情報を確認したり、ネットワーク上の障害を調査したりする場合に便利です。また、ネットワークマップ上の本機のアイコンから、**Web Connection** にアクセスできます。

本機をネットワークマップに表示するには、LLTD(Link Layer Topology Discovery) を有効にします。

管理者モードの [ネットワーク] - [LLTD 設定] で、[LLTD 設定] を [有効] に設定します (初期値: [有効])。

5.5 ネットワークエラーコードを表示する

本機でネットワークに関するエラーが発生すると、本機のタッチパネルに、エラーの内容を簡単に説明したメッセージを表示します。トラブル処理のために、より詳細な情報を参照したい場合は、エラーコードを同時に表示するように設定できます。

管理者モードの [メンテナンス] - [ネットワークエラーコード表示設定] で、[エラーコード表示] を [する] に設定します (初期値: [しない])。

参照

エラーコードの内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [トラブルシューティング] / [ネットワークエラーコード]」をごらんください。



6

Web Connection の使用環境
を設定する

6 Web Connection の使用環境を設定する

6.1 Web Connection の通信を暗号化する

コンピューターと Web Connection との通信を SSL で暗号化して、セキュリティを強化できます。

本機には、出荷時に SSL 証明書が登録されています。そのため、本機で SSL/TLS を有効にするだけで、設置後すぐに SSL による暗号化通信ができます。

管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [SSL 使用設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS 使用モード]	SSL 通信を行うログインモードを選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [管理者モードのみ]：管理者モードだけ SSL で通信します。・ [管理者モードとユーザーモード]：管理者モードとユーザーモードの両方を SSL で通信します。・ [なし]：SSL で通信しません。 初期値は [なし] です。
[暗号強度]	SSL の暗号強度を選びます。お使いの環境に合わせて選んでください。初期値は [AES-256, 3DES-168, RC4-128] です。
[SSL/TLS バージョン設定]	使用する SSL のバージョンを選びます。お使いの環境に合わせて選んでください。

参照

出荷時に登録されている証明書を使わずに、新しく証明書を作成することもできます。詳しくは、13-2 ページをごらんください。

6.2 管理者パスワードを変更する

Web Connection から、本機の管理者パスワードを変更できます。

- ✓ この画面を表示するには、管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [SSL 使用設定] で、コンピューターと Web Connection との通信を SSL で暗号化する必要があります。詳しくは、6-2 ページをごらんください。
- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [管理者パスワード設定] で、新しい管理者パスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
 - 管理者パスワードについては、冊子のマニュアルをごらんください。
 - パスワードを入力 (変更) するときは、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
- 2 [OK] をクリックします。
管理者パスワードが変更されます。

参考

- この画面で管理者パスワードを変更すると、本機の操作パネルの管理者パスワードも変更されます。

6.3 初期画面をカスタマイズする

Web Connection のユーザーモードにログインしたときに、最初に表示する画面を指定できます。

お使いのオフィスの作業環境に合わせて、適切な画面を初期画面として設定すると、ユーザーの作業効率が向上します。たとえば、本機でダイレクトプリント機能を使うことが多い場合は、[ダイレクトプリント] を初期画面として設定します。

管理者モードの [環境設定] - [カスタマイズ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[指定なし]	[指定なし] を選ぶと、ユーザーが自分で初期表示画面を設定できます。初期値は [指定なし] です。
[情報表示]	ログイン後に、[情報表示] を表示します。あわせて、[情報表示] のどの画面を表示するかを選びます。
[ジョブ確認]	ログイン後に、[ジョブ確認] を表示します。あわせて、[ジョブ確認] のどの画面を表示するかを選びます。
[ボックス]	ログイン後に、[ボックス] を表示します。あわせて、[ボックス] のどの画面を表示するかを選びます。指定したボックスを開くこともできます。
[ダイレクトプリント]	ログイン後に、[ダイレクトプリント] を表示します。
[宛先登録]	ログイン後に、[宛先登録] を表示します。あわせて、[宛先登録] のどの画面を表示するかを選びます。
[お気に入り]	ログイン後に、[お気に入り] を表示します。



参考

ここで指定した設定は、お使いの Web ブラウザーの Cookie 機能を利用して保存されます。そのため、次の場合は、設定が保存されない場合があります。

- Web ブラウザーの Cookie を削除する
- 別の Web ブラウザーから、Web Connection にログインする
- 別のコンピューターから、Web Connection にログインする
- 別のユーザー名で、コンピューターにログインする

6.4 自動的にログアウトするまでの時間を変更する

Web Connection にログインして、一定時間操作が行われなかったときは自動的にログアウトしますが、必要に応じて、自動的にログアウトするまでの時間を変更できます。

自動的にログアウトするまでの時間は、管理者モードとユーザーモードで、それぞれ指定できます。たとえば、設定値を変更できる管理者モードは、自動的にログアウトする時間を短めに設定して、第三者が操作できる可能性を低くします。対して、ユーザーモードは、自動的にログアウトする時間を長めに設定して、タッチパネルでは作業しにくい宛先登録など、Web ブラウザーを使うことの利便性を保ちます。

管理者モードの [セキュリティ] - [自動ログアウト] で、次の設定をします。

設定	説明
[管理者モードログアウト時間]	管理者モードから自動的にログアウトするまでの時間を選びます。初期値は [10] 分です。
[ユーザーモードログアウト時間]	ユーザーモードから自動的にログアウトするまでの時間を選びます。初期値は [60] 分です。

7

スキャン送信の使用環境を設定する

7 スキャン送信の使用環境を設定する

7.1 E-mail 送信の使用環境を設定する

概要

E-mail 送信は、本機で読込んだ原稿データを、E-mail の添付ファイルとして送信する機能です。

本機では、S/MIME や SSL/TLS などの暗号化や、POP before SMTP 認証などにも対応しており、セキュリティへの対策もできます。

また、LDAP サーバーや Active Directory などのディレクトリサーバーでユーザーを管理している場合は、サーバーからメールアドレスを検索することもできます。

E-mail 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 E-mail 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-3 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
メールサーバーと SSL/TLS で通信したい	7-4 ページ
E-mail 送信時に SMTP 認証を使いたい	7-5 ページ
E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使いたい	7-6 ページ
S/MIME でメールを暗号化し、デジタル署名を追加したい	7-8 ページ
LDAP サーバーや Active Directory を使ってメールアドレスを検索したい	7-19 ページ

参照

ユーザー認証を導入している場合は、ログインしたユーザー自身へ簡単に E-mail 送信できる、Scan to Me 機能を使えます。詳しくは、12-21 ページをごらんください。

E-mail 送信の基本設定をする

メールサーバー (SMTP) のアドレスと、管理者のメールアドレスを登録します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 送信設定]	E-mail を送信するときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[スキャン送信]	スキャン送信を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[E-mail 通知機能]	用紙の補給やトナー交換時期、紙づまりなど、本機で警告が発生したときに、登録したメールアドレスに通知できます。詳しくは、14-11 ページをごらんください。 初期値は [使用する] です。
[トータルカウンター通知機能]	トータルカウンター通知機能を使うかどうかを選びます。本機で管理しているカウンター情報を、登録したメールアドレスに送信できます。詳しくは、14-12 ページをごらんください。 初期値は [使用する] です。
[SMTP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (SMTP) のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [25] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[サーバー負荷軽減送信方法]	メールサーバー (SMTP) の負荷を軽減するための送信方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [バイナリ分割]: 大きなサイズの E-mail を送信するとき、[バイナリ分割サイズ] の設定に従って E-mail を分割します。 ・ [上限超過で送信中止]: E-mail のサイズが [サーバー容量上限] で指定した容量を超えた場合に、送信を中止します。 ・ [上限超過で URL 送信]: E-mail のサイズが [サーバー容量上限] で指定した容量を超えた場合に、送信先として指定したメールアドレスにファイルを添付せずにダウンロード URL を通知します。 ・ [常に URL 送信]: 送信先として指定したメールアドレスにファイルを添付せずにダウンロード URL を通知します。 初期値は [使用しない] です。
[バイナリ分割サイズ]	[サーバー負荷軽減送信方法] で [バイナリ分割] を選んだ場合に、E-mail を分割するサイズを入力します。
[最大メールサイズ]	[サーバー負荷軽減送信方法] で [上限超過で送信中止] または [上限超過で URL 送信] を選んだ場合に、メールサーバー (SMTP) が許容する E-mail の最大サイズを入力します。[最大メールサイズ] で [制限] を選んでから、[サーバー容量上限] にメールサーバー (SMTP) が許容する E-mail の最大サイズを入力します。 初期値は [無制限] です。

- 2 管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で、[E-mail アドレス] に本機の管理者のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 128 文字以内)。

→ ここで入力したメールアドレスが、本機から送信する E-mail の発信元アドレス (From アドレス) となります。

参考

- 発信元アドレスは、必要に応じて、E-mail の送信前にタッチパネルから変更できます。
- ユーザー認証を導入している場合は、ログインしたユーザーのメールアドレスが、発信元アドレスとなります。

SSL/TLS で通信する

本機とメールサーバー (SMTP) との通信を、SSL/TLS で暗号化します。本機は、SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。

お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL/TLS で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS 使用]	メールサーバー (SMTP) との通信の暗号化方法を選びます。 お使いの環境に合わせて、[SMTP over SSL] または [Start TLS] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[ポート番号]	[SSL/TLS 使用] で [Start TLS] を選んだ場合に、必要に応じて、通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [25] です。
[ポート番号 (SSL)]	[SSL/TLS 使用] で [SMTP over SSL] を選んだ場合に、必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [465] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。



参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

SMTP 認証を使う

お使いの環境で E-mail 送信時に SMTP 認証を使っている場合に設定します。

SMTP 認証を使うと、E-mail 送信するときに、本機からユーザー ID とパスワードを送信して認証を行います。

SMTP 認証を使うには、本機で SMTP 認証を有効にします。あわせて、認証に必要な情報を入力します。管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMTP 認証]	SMTP 認証を使うときは、チェックをつけます。 [SMTP 認証方式設定] で、以下の認証方式ごとに、使用するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • Kerberos • NTLMv1 • Digest-MD5 • CRAM-MD5 • LOGIN • PLAIN 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ユーザー ID]	SMTP 認証のユーザー ID を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー ID] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	SMTP 認証のドメイン名 (realm) を入力します (半角 253 文字以内)。 SMTP 認証の認証方式が、Digest-MD5 の場合に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ドメイン (realm) が 2 つ以上存在する場合に、ドメイン名を入力します。 • ドメイン (realm) が 1 つの場合は、入力は不要です。初期通信時にメールサーバー (SMTP) からドメイン名が通知され、そのドメイン名を使って自動的に通信します。
[認証設定]	SMTP 認証と、本機のユーザー認証を連動させるかどうか選びます。本機でユーザー認証を導入している場合に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ユーザー認証を使用] : 本機の登録ユーザーのユーザー名とパスワードを、SMTP 認証の [ユーザー ID] と [パスワード] として使います。 • [設定値を使用] : [ユーザー ID] と [パスワード] で入力した値を使います。E-mail 送信を行うユーザーと、[ユーザー ID] で設定したユーザーとの不一致によって SMTP 認証が失敗する場合は、[Envelope-From 設定] で [指定する] を選び、[From アドレス] に、Envelope-From に適用するメールアドレスを入力します。[Envelope-From 設定] で [指定しない] を選ぶと、Envelope-From には本機の管理者のメールアドレスが適用されます。本機の管理者のメールアドレスについては詳しくは、4-2 ページをごらんください。 初期値は [設定値を使用] です。

POP before SMTP 認証を使う

お使いの環境で E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使っている場合に設定します。

POP before SMTP 認証は、E-mail を送信する前に、メールサーバー (POP) で POP 認証を行い、認証に成功した場合のみ E-mail 送信の許可を与える、送信者認証機能です。

POP before SMTP 認証を使うには、本機で POP before SMTP を有効にします。あわせて、認証を使うメールサーバー (POP) への接続設定を行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[POP before SMTP]	POP before SMTP を使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[POP before SMTP 時間]	必要に応じて、POP 認証してから E-mail 送信を開始するまでの待ち時間を変更します。 お使いの環境によっては、POP 認証後、E-mail 送信が許可されるまでに時間がかかることがあります。その場合、設定時間が短すぎると、E-mail を送信できないことがあります。 初期値は [5] 秒です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信設定]	POP before SMTP を使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用する] です。
[POP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (POP) のアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例: [host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: [192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: [fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[ログイン名]	メールサーバー (POP) で E-mail 受信するときのログイン名を入力します (半角 63 文字以内)。
[パスワード]	[ログイン名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 15 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (POP) との通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [30] 秒です。
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (POP) のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [110] です。

- 3 お使いの環境に応じて、POP over SSL、APOP の設定をします。管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[APOP 認証]	お使いのメールサーバー (POP) で APOP をお使いの場合は、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[SSL/TLS 使用]	メールサーバー (POP) との通信を SSL で暗号化する場合は、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [995] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。



参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

S/MIME を使う

S/MIME は、E-mail の暗号化方式の一つです。E-mail の暗号化、デジタル署名の付加ができ、E-mail の盗聴や送信者のなりすましなどのリスクを回避できます。

S/MIME を使うには、本機に証明書を登録します。また、本機で S/MIME を有効にします。

- 1 E-mail の暗号化に使う証明書を、E-mail 送信の宛先に登録します。
→ 詳しくは、15-2 ページをごらんください。
- 2 デジタル署名として E-mail に付加する本機の証明書を登録します。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。
- 3 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [S/MIME] で、次の設定をします。

設定	説明
[S/MIME 通信設定]	S/MIME を使うときは、[使用する] を選びます。 [使用する] を選ぶには、本機の証明書のメールアドレスと管理者のメールアドレスが一致している必要があります。 初期値は [使用しない] です。
[デジタル署名]	E-mail 送信時にデジタル署名を付加する場合は、デジタル署名を付加する方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [常に署名する]：常にデジタル署名を付加します。E-mail を送信する前に特別な設定をしなくても、自動的にデジタル署名が付加されます。 ・ [送信時に選択する]：デジタル署名を付加するかどうかを、E-mail を送信する前にユーザーに選ばせます。 ・ [常に署名しない]：デジタル署名を付加しません。 初期値は [常に署名しない] です。
[デジタル署名形式]	E-mail 送信時にデジタル署名を付加する場合は、デジタル署名の形式を選びます。 初期値は [SHA-1] です。
[メール本文の暗号化種類]	E-mail を暗号化する場合の暗号化方式を選びます。 初期値は [3DES] です。

参考

- S/MIME 機能を使う場合は、管理者のメールアドレス（本機の証明書のメールアドレス）が発信元アドレスとなります。

7.2 SMB 送信の使用環境を設定する

概要

SMB 送信は、本機で読込んだ原稿データを、指定したコンピューターの共有フォルダーに送信する機能です。共有フォルダーは、SMB(Server Message Block) プロトコルを使用して共有されます。

名前解決のために、WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーを登録します。

LLMNR(Link-local Multicast Name Resolution) を使うと、DNS サーバーがない環境でも名前解決ができます。Windows コンピューターのみ対応しています。IPv6 環境で、名前解決を行いたい場合などに便利です。

SMB 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 SMB 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-10 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
WINS サーバーを使って名前解決したい	7-10 ページ
DNS サーバーが稼動していない環境で、通信先をホスト名で指定したい (Windows コンピューターのみ対応)	7-11 ページ
DFS 環境で SMB 送信機能を使いたい	7-11 ページ

参照

Active Directory によるユーザー認証を導入している場合は、サーバー上の共有フォルダーや、ログインしたユーザーのコンピューターの共有フォルダーへ簡単に送信できる、Scan to Home 機能を使えます。詳しくは、12-12 ページをごらんください。

ユーザー認証を導入している場合は、ユーザー認証の認証情報 (ログイン名とパスワード) を SMB 宛先の認証情報 (ホスト名とパスワード) として引用することで、SMB 宛先の認証情報を指定する手間を省き、SMB 送信のシングルサインオン環境を構築できます。詳しくは、12-23 ページをごらんください。

参考

- 送信先のコンピューターをホスト名で指定する場合は、DNS や LLMNR により名前解決できるよう本機の設定や環境を準備する必要があります。
DNS で名前解決する場合は、「ホスト名 (例 : host1)」または「FQDN (例 : host1.test.local)」で指定できます。
LLMNR で名前解決する場合は、「ホスト名 (例 : host1)」でのみ指定できます。

SMB 送信の基本設定をする

SMB 送信を有効にします。あわせて、SMB 送信時の認証方式と、SMB 署名を有効にするかどうかを選びます。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMB 送信設定]	SMB 送信機能を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[SMB 認証設定]	お使いの環境に合わせて、SMB 送信時の認証方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [NTLM v1] / [NTLM v2] / [NTLM v1/v2] : NT ドメイン環境でお使いの場合に選びます。[NTLM v1/v2] を選ぶと、NTLMv2 認証に失敗した場合に NTLMv1 認証を行います。 [Kerberos] : Active Directory ドメイン環境でお使いの場合に選びます。 [Kerberos/NTLM v1/v2] : Active Directory ドメインと NT ドメインの混在環境でお使いの場合に選びます。Kerberos 認証に失敗した場合に NTLMv2 認証を行い、NTLMv2 認証に失敗した場合に NTLMv1 認証を行います。 初期値は [NTLM v1] です。
[SMB 署名設定]	お使いの環境に合わせて、本機の SMB 署名を有効にするかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [無効] : 本機の SMB 署名は無効になります。 [要求時] : サーバー側から SMB 署名の要求があった場合のみ本機 (クライアント) の SMB 署名が有効になります。サーバー側から SMB 署名の要求がない場合は、本機 (クライアント) の SMB 署名は無効で動作するため、サーバー側の SMB 署名が無効でも接続できます。 [必須] : 本機の SMB 署名が有効になります。接続にはサーバー側も SMB 署名が必要となるため、サーバー側の SMB 署名が無効になっている場合は接続できません。 初期値は [要求時] です。



参考

- Mac OS の場合は、[SMB 認証設定] を [NTLM v1/v2] に設定してください。

WINS サーバーを使う

名前解決のために WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーのアドレスや、名前解決の方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WINS/NetBIOS]	WINS サーバーを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[WINS 自動取得設定]	WINS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、[有効] を選びます。 DHCP などが有効の場合に設定します。 初期値は [有効] です。
[WINS サーバーアドレス 1] ~ [WINS サーバーアドレス 2]	WINS サーバーのアドレスを入力します。 WINS サーバーのアドレスを、DHCP などで自動的に取得しない場合に設定します。 次のフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例 : 「192.168.1.1」
[ノードタイプ設定]	名前解決の方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [B ノード] : ブロードキャストで問い合わせ [P ノード] : WINS サーバーに問い合わせ [M ノード] : ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせ [H ノード] : WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせ 初期値は [H ノード] です。

LLMNR で名前解決する

LLMNR(Link-local Multicast Name Resolution) を使うと、DNS サーバーがない環境でも名前解決ができます。Windows コンピューターのみ対応しています。IPv6 環境で、名前解決を行いたい場合などに便利です。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、[LLMNR 設定] を [有効] に設定します。通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。

DFS 環境で使う

お使いの環境で DFS (Distributed File System) を導入している場合に、設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [クライアント設定] で、[DFS 設定] を [有効] に設定します。通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。

7.3 FTP 送信の使用環境を設定する

概要

FTP 送信は、本機で読込んだ原稿データを、FTP サーバーの指定したフォルダーに送信する機能です。

プロキシサーバーを使っている場合は、プロキシサーバー経由で FTP サーバーにアクセスするように設定できます。

FTP 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 FTP 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-12 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
プロキシサーバーを経由して FTP サーバーへ送信したい	7-12 ページ

FTP 送信の基本設定をする

FTP 送信を有効にします。あわせて、FTP サーバーに接続するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [FTP 設定] - [FTP 送信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[FTP 送信]	FTP 送信機能を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、FTP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[ポート番号]	必要に応じて、FTP サーバーのポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [21] です。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを使っている場合に、プロキシサーバー経由で FTP サーバーにアクセスするように設定できます。

プロキシサーバーを使うには、本機にプロキシサーバーの情報を登録します。

管理者モードの [ネットワーク] - [FTP 設定] - [FTP 送信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：[host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：[192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：[fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [21] です。

7.4 WebDAV 送信の使用環境を設定する

概要

WebDAV 送信は、本機で読込んだ原稿データを、WebDAV サーバー内の指定したフォルダーに送信する機能です。

WebDAV は HTTP の拡張仕様であるため、HTTP のセキュリティ技術をそのまま使えます。WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全にファイルを送信できます。

WebDAV 送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 WebDAV 送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-13 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
プロキシサーバーを経由して WebDAV サーバーへ送信したい	7-13 ページ
WebDAV サーバーと SSL で通信したい	7-14 ページ

WebDAV 送信の基本設定をする

WebDAV 送信を有効にします。あわせて、WebDAV サーバーへの接続に関する設定を行います。

管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WebDAV 送信設定]	WebDAV 送信機能を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[チャンク送信]	送信データをいくつかの塊 (チャンク) に分けて送信するかどうかを選びます。 お使いの WebDAV サーバーがチャンク送信に対応している場合に設定します。 初期値は [しない] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、WebDAV サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[サーバー認証文字コード]	WebDAV サーバーで認証するときに使う、文字コードを選びます。 タッチパネルの表示言語を [日本語] に設定している場合に設定できます。 初期値は [UTF-8] です。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを使っている場合に、プロキシサーバー経由で WebDAV サーバーにアクセスするように設定できます。

プロキシサーバーを使うには、本機にプロキシサーバーの情報を登録します。あわせて、プロキシサーバーへの接続に関する設定を行います。

管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：[host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：[192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：[fe80::220:6bff:fe10:2f16]

設定	説明
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。初期値は [8080] です。
[ユーザー名]	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します (半角 63 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 63 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

SSL で通信する

本機と WebDAV サーバーとの通信を、SSL で暗号化します。

お使いの環境で WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

本機に登録した WebDAV 宛先で、SSL を有効にします。あわせて、証明書の検証方法を設定します。

- 1 管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] で [WebDAV 宛先] を選び、[SSL 設定] を [ON] に設定します (初期値: [OFF])。
 - 送信先の WebDAV サーバーを直接入力で指定する場合は、宛先を入力するときに SSL の設定をします。
- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV クライアント設定] で、証明書の検証方法を設定します。

設定	説明
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。



参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

7.5 WS スキャン送信の使用環境を設定する

概要

WS スキャン送信は、本機で読込んだ原稿データを、ネットワーク上の Windows コンピューターへ送信する機能です。

コンピューターでは、Windows の Web サービス機能を利用して、ネットワークに接続された本機を自動的に検出して、Web サービススキャナーとして簡単にインストールできます。

本機とコンピューターとの通信には、HTTP を使います。本機とコンピューターとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全にファイルを送信できます。

WS スキャン送信を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 WS スキャン送信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-15 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
ディスカバリプロキシを使って WS スキャンする	7-16 ページ
コンピューターと SSL で通信したい	7-17 ページ

参照

コンピューター側の設定について詳しくは、「ユーザーズガイド [スキャン機能] / [Web サービスで送信する (WS スキャン)]」をごらんください。

WS スキャン送信の基本設定をする

Web サービスによるスキャンを有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、スキャナーとしての本機の情報、本機との接続方法などを設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 共通設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Friendly Name]	コンピューターから Web サービスを使って探索したときに表示する本機の名前を入力します (半角 62 文字以内)。本機を探すときにわかりやすい名前をつけます。
[Publication Service]	以下のどちらかの環境で本機を使う場合は、[有効] を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows コンピューターで、NetBIOS が無効になっている環境 ・ IPv6 のみの通信を行うように構築された環境 Publication Service による接続先の検出は、最大 512 個まで可能です (NetBIOS による検出数を含む)。初期値は [有効] です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [スキャナー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[スキャン機能]	WS スキャン送信機能を使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[スキャナー名]	WS スキャナーとして使うときの、本機の名前を入力します (半角 63 文字以内)。
[スキャナー設置場所]	必要に応じて、スキャナー設置場所を入力します (半角 63 文字以内)。
[スキャナー情報]	必要に応じて、スキャナー情報を入力します (半角 63 文字以内)。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、コンピューターとの通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [120] 秒です。

プロキシサーバーを使う

WS-Discovery で定義されるディスカバリプロキシを利用して、マルチキャスト通信が制限されている環境で、本機からスキャンするための設定をします。お使いの環境でディスカバリプロキシサーバーを導入している場合に設定します。

通常、Web サービスを使って本機からスキャンするには、本機からマルチキャストで通信できる場所に、コンピューターが接続されている必要がありますが、本機からユニキャスト通信できる場所に、ディスカバリプロキシサーバーを設置することで、本機からスキャンできるようになります。

管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 拡張設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシ使用設定]	ディスカバリプロキシを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[プロキシ 1] ~ [プロキシ 3]	本機で使うディスカバリプロキシサーバーを登録します。
[プロキシサーバーアドレス]	ディスカバリプロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	ディスカバリプロキシサーバーで、WS-Discovery のサービスを公開している URL のパス部分の、サービス名を入力します (半角 255 文字以内)。
[SSL 使用設定]	ディスカバリプロキシサーバーとの通信を SSL で暗号化する場合は、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、ディスカバリプロキシサーバーのポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 [SSL 使用設定] が [使用しない] の場合、初期値は [80] です。 [SSL 使用設定] が [使用する] の場合、初期値は [443] です。

SSL で通信する

本機とコンピューターとの通信を、SSL で暗号化します。

本機とコンピューターとの通信を暗号化するには、双方向で SSL 通信の設定を行う必要があります。あらかじめ、以下の確認をしてください。

- DNS サーバーで名前解決を行っている必要があります。
- 本機の証明書が CA(認証局)により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、コンピューターの [信頼されたルート証明機関] に登録してください。
- あらかじめコンピューター側で証明書を作成して、TCP/IP の通信ポートと関連付けてください (初期値: ポート番号 5358)。



参考

- Windows 8.1/10 の場合は、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

SSL で通信するには、SSL を有効にします。あわせて、証明書の検証方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 共通設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL 設定]	SSL で通信するときは、[使用する] を選びます。 この項目は、本機にデバイス証明書をインストールし、かつ、管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [SSL 使用設定] - [SSL/TLS 使用モード] で、SSL で通信するように設定している場合に表示されます。 初期値は [使用しない] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> • OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス • CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。



参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

7.6 TWAIN スキャンの使用環境を設定する

概要

TWAIN ドライバーを使って、ネットワーク接続されたコンピューターから本機を制御し、スキャナーとして使えます。

TWAIN スキャンを使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 TWAIN スキャンの基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-18 ページをごらんください。
- 3 必要に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
TWAIN スキャン実行中に操作パネルをロックする時間を変更したい	7-18 ページ

TWAIN スキャンの基本設定をする

ネットワーク上のコンピューターから、本機を制御するために必要な設定を行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [SNMP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SNMP 設定]	TWAIN スキャン機能を使うときは、[使用する] を選び、お使いの SNMP のバージョンにチェックをつけます。 初期値は [使用する] です。
[UDP ポート設定]	必要に応じて、UDP ポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [161] です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP Socket 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[TCP Socket]	TWAIN スキャン機能を使うときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[ポート番号]	必要に応じて、TCP Socket のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [59158] です。

操作パネルのロック時間を変更する

TWAIN スキャンの実行中は、本機の操作パネルが、自動的にロックされます。必要に応じて、ロックが解除されるまでの時間を変更できます。

管理者モードの [環境設定] - [ネットワーク TWAIN] で、[TWAIN 操作ロック時間] を変更します (初期値: [120] 秒)。

7.7 LDAP サーバーを使って宛先を検索する

概要

LDAP サーバーや Active Directory などのディレクトリサーバーでユーザーを管理している場合は、サーバーから宛先（メールアドレス、ファクス番号）を検索できます。

サーバーとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全に通信できます。

LDAP サーバーを使って宛先を検索する場合は、次の手順で設定してください。

- ✓ Active Directory サーバーの LDAP 機能を利用する場合は、あらかじめ本機に、Active Directory と連携している DNS サーバーの登録が必要です。DNS サーバーの登録のしかたは、5-3 ページをごらんください。
- ✓ Active Directory サーバーの LDAP 機能を利用する場合は、本機と Active Directory とで、日時を合わせる必要があります。本機の日時設定については、4-4 ページをごらんください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 LDAP 検索の基本設定をする
→ 設定のしかたは、7-19 ページをごらんください。

- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
LDAP サーバーと SSL で通信したい	7-21 ページ

LDAP 検索の基本設定をする

LDAP サーバーから宛先を検索できるように設定します。あわせて、お使いの LDAP サーバーの登録や、LDAP サーバーへの接続設定、検索方法の設定などを行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[LDAP 使用設定]	LDAP 検索を使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[検索結果表示初期設定]	宛先を LDAP サーバーから検索したときの検索表示結果に、E-mail アドレス、ファクス、I-Fax のどれを優先的に表示させるかを選びます。この機能を使うには、オプションの FAX キットを装着するか、インターネットファクス機能を有効にする必要があります。初期値は [E-mail] です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[LDAP サーバー名称]	LDAP サーバーの登録名を入力します（半角 32 文字以内）。サーバーを選ぶときにわかりやすい名前をつけます。
[サーバーアドレス]	お使いの LDAP サーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：[host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：[192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：[fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [389] です。
[検索ベース]	宛先を検索するときの、検索の起点を指定します（半角 255 文字以内）。入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。入力例：[cn=users,dc=example,dc=com]

設定	説明
[タイムアウト時間]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。
[検索最大表示件数]	必要に応じて、検索結果として表示する宛先の最大数を変更します。初期値は [100] です。
[認証方式]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [anonymous] : [ログイン名]、[パスワード]、[ドメイン名] の設定は不要です。 • [GSS-SPNEGO] : Kerberos 認証方式でサーバーにログインします。Active Directory を利用する場合に選びます。 初期値は [anonymous] です。
[ログイン名]	LDAP サーバーへログインして、ユーザーの検索が行えるユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ログイン名] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を入力します (半角 64 文字以内)。[認証方式] で [GSS-SPNEGO] を選んだ場合は、Active Directory のドメイン名を入力します。
[サーバー認証方式選択]	LDAP サーバーの認証方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [設定値を使用] : [ログイン名]、[パスワード]、[ドメイン名] の設定値を使います。 • [ユーザー認証を使用] : 本機のユーザー認証と連動させます。本機の登録ユーザーのユーザー名とパスワードを、[ログイン名]、[パスワード] として使います。 • [Dynamic 認証を使用] : LDAP 検索をするときに、ユーザー名とパスワードが要求されます。 初期値は [設定値を使用] です。
[referral 設定]	必要に応じて、referral 機能を使うかどうかを選びます。LDAP サーバーの環境に応じて設定してください。初期値は [使用する] です。
[検索条件の属性]	LDAP 検索をするときに指定する属性を選びます。[名前] (cn) と [ニックネーム] (displayName) で切替えることができます。初期値は [名前] です。
[候補表示]	LDAP サーバーから宛先を検索するときに、名前の一部を入力すると、候補の宛先を表示する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[詳細検索初期設定]	LDAP 検索を実行する条件を指定します。
[検索属性による認証]	[認証方式] で [Simple] を選び、かつ [サーバー認証方式選択] で [Dynamic 認証を使用] を選んだ場合に、検索属性による認証を有効にするときはチェックをつけます。チェックをつけると、LDAP サーバーで認証するときに、ユーザーが DN(Distinguished Name) をすべて入力する必要がなくなります。[検索属性] には、ユーザー名の前に自動的に追加する検索属性を入力します。通常、ユーザー名の前には「uid」を指定しますが、お使いの環境によっては、「cn」など他の属性を指定する必要があります。初期値は [uid] です。

参考

- [LDAP サーバー一覧] の [接続確認] をクリックすると、登録した内容で LDAP サーバーに接続できるかどうかを確認できます。

SSL で通信する

本機とLDAPサーバーとの通信を、SSLで暗号化します。

お使いの環境でLDAPサーバーとの通信をSSLで暗号化している場合に設定します。

SSLで通信するには、SSLを有効にします。あわせて、証明書の検証方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [LDAP 設定] - [LDAP サーバー登録] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL 使用設定]	SSLで通信するときは、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [636] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。



プリント機能の使用環境を設定する

8 プリント機能の使用環境を設定する

8.1 LPR 印刷の使用環境を設定する

概要

LPR 印刷は、LPR プロトコルを使って、ネットワーク経由で印刷します。主に UNIX 系の OS で利用されています。

LPR 印刷を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 LPD を有効にする
→ 設定のしかたは、8-2 ページをごらんください。

LPD を有効にする

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、[LPD] を [有効] に設定します (初期値: [有効])。

8.2 Port9100 印刷の使用環境を設定する

概要

Port9100 印刷は、印刷先のプリンターとして、本機の RAW ポート (Port9100) を直接指定して、ネットワーク経由で印刷します。

Port9100 印刷を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 必要に応じて、RAW ポート番号を変更する
→ 変更のしかたは、8-3 ページをごらんください。

RAW ポート番号を変更する

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、必要に応じて、RAW ポート番号を変更します (初期値: [ON] (チェックあり))。

8.3 SMB 印刷の使用環境を設定する

概要

SMB 印刷は、コンピューターから、本機を直接指定して印刷する機能です。本機の共有には、SMB(Server Message Block) プロトコルを使います。

名前解決のために、WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーを登録します。

LLMNR(Link-local Multicast Name Resolution) を使うと、DNS サーバーがない環境でも名前解決ができます。Windows コンピューターのみ対応しています。IPv6 環境で、名前解決を行いたい場合などに便利です。

SMB 印刷を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 SMB 印刷の基本設定をする
→ 設定のしかたは、8-4 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
WINS サーバーを使って名前解決したい	8-5 ページ
DNS サーバーが稼動していない環境で、通信先をホスト名で指定したい (Windows コンピューターのみ対応)	8-5 ページ

SMB 印刷の基本設定をする

SMB 印刷を有効にします。あわせて、本機を SMB で共有するときの情報を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB サーバー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMB サーバー設定]	SMB 印刷を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[SMB ホスト名]	共有名として表示する本機の SMB ホスト名を大文字で入力します (半角 15 文字以内、記号は - のみ先頭および末尾以外で使用可能)。
[ワークグループ]	ワークグループ名またはドメイン名を大文字で入力します (" ¥ ; : , * < > + = ? を除く半角 15 文字以内)。 初期値は [WORKGROUP] です。
[SMB 認証プロトコル]	本機で使用する SMB 認証プロトコルを選びます。 SMB 1.0 を使用するネットワーク環境の場合は、[SMB1.0/SMB2.0/SMB3.0] を選びます。 初期値は [SMB1.0/SMB2.0/SMB3.0] です。
[SMB 署名設定]	お使いの環境に合わせて、本機の SMB 署名を有効にするかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [無効]：本機の SMB 署名は無効になります。 ・ [要求時]：クライアント側から SMB 署名の要求があった場合のみ本機 (サーバー) の SMB 署名が有効になります。クライアント側から SMB 署名の要求がない場合は、本機 (サーバー) の SMB 署名は無効で動作するため、クライアント側の SMB 署名が無効でも接続できます。 ・ [必須]：本機の SMB 署名が有効になります。接続にはクライアント側も SMB 署名が必要となるため、クライアント側の SMB 署名が無効になっている場合は接続できません。 初期値は [要求時] です。
[SMB プリント]	SMB 印刷を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[プリントサービス名]	プリントサービス名を大文字で入力します (/ ¥ を除く半角 12 文字以内)。

WINS サーバーを使う

名前解決のために WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーのアドレスや、名前解決の方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WINS/NetBIOS]	WINS サーバーを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[WINS 自動取得設定]	WINS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、[有効] を選びます。 DHCP などが有効の場合に設定します。 初期値は [有効] です。
[WINS サーバーアドレス 1] ~ [WINS サーバーアドレス 2]	WINS サーバーのアドレスを入力します。 WINS サーバーのアドレスを、DHCP などで自動的に取得しない場合に設定します。 次のフォーマットで入力します。 ・ 入力例：「192.168.1.1」
[ノードタイプ設定]	名前解決の方法を選びます。 ・ [B ノード]：ブロードキャストで問い合わせ ・ [P ノード]：WINS サーバーに問い合わせ ・ [M ノード]：ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせ ・ [H ノード]：WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせ 初期値は [H ノード] です。

LLMNR で名前解決する

LLMNR(Link-local Multicast Name Resolution) を使うと、DNS サーバーがない環境でも名前解決ができます。Windows コンピューターのみ対応しています。IPv6 環境で、名前解決を行いたい場合などに便利です。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] で、[LLMNR 設定] を [有効] に設定します。通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。

8.4 IPP 印刷の使用環境を設定する

概要

IPP 印刷は、IPP プロトコルを使って、ネットワーク経由で印刷する機能です。

HTTP を拡張した IPP を印刷データの転送に使っており、インターネットを経由して、遠隔地のプリンターに印刷することもできます。

IPP で印刷するときに認証を行うことで、第三者による不正利用を防止できます。また、本機とコンピュータとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全に印刷ができます。

IPP 印刷を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 IPP 印刷の基本設定をする
→ 設定のしかたは、8-6 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
IPP 印刷時に認証を行いたい	8-7 ページ
本機と SSL で通信したい (IPPS 印刷)	8-7 ページ

IPP 印刷の基本設定をする

IPP 印刷を有効にします。あわせて、IPP 印刷で使う本機の情報に登録します。

管理者モードの [ネットワーク] - [IPP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[IPP 設定]	IPP 印刷を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[IPP 設定ジョブ許可]	IPP 印刷を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[プリンター名]	必要に応じて、本機のプリンター名を入力します (半角 127 文字以内)。
[プリンター設置場所]	必要に応じて、本機の設置場所を入力します (半角 127 文字以内)。
[プリンター情報]	必要に応じて、本機のプリンター情報を入力します (半角 127 文字以内)。
[プリンター URI]	IPP を利用してプリントできるプリンターの URI を表示します。
[オペレーションサ ポート情報]	必要に応じて、IPP で許可する操作にチェックをつけます。
[印刷ジョブ]	IPP 印刷を使うときは、チェックをつけます。 印刷ジョブを許可するかどうかを設定します。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[有効ジョブ]	有効ジョブの確認を許可するときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[キャンセルジョ ブ]	ジョブのキャンセルを許可するときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[ジョブ属性取 得]	ジョブ属性の取得を許可するときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[ジョブ取得]	ジョブの一覧の取得を許可するときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[プリンター属性 取得]	プリンター属性の取得を許可するときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。

IPP 認証を行う

IPP 印刷時に認証を行うには、IPP 認証を有効にします。あわせて、認証に必要な情報を設定します。管理者モードの [ネットワーク] - [IPP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[IPP 認証設定]	IPP 認証を使うときは、チェックをつけます。初期値は [ON] (チェックあり) です。
[認証方式]	IPP 認証の認証方式を選びます。初期値は [requesting-user-name] です。
[ユーザー認証連動]	ユーザー認証や部門管理を導入している場合に、IPP 認証を連動させるかどうかを選びます。 [連動する] を選ぶと、本機のユーザー認証機能を使って IPP 認証を行います。 [認証方式] で [requesting-user-name] を選んだ場合は、[連動する] に設定できません。 初期値は [連動しない] です。
[IPP 印刷時ユーザー認証情報]	[ユーザー認証連動] で [連動する] を選んだ場合、IPP 印刷のジョブを本機で管理するときに、どのログイン情報を使ってユーザー認証するかを選びます。 ・ [IPP 認証情報優先] : IPP 認証用のユーザー名とパスワードを使います。 ・ [PJM 情報優先] : PJL のユーザー名とパスワードを優先し、PJM の記述がないときのみ IPP 認証用のユーザー名とパスワードを使います。 初期値は [IPP 認証情報優先] です。
[ユーザー名]	ユーザー名を入力します (: を除く半角 20 文字以内)。 [認証方式] で、[basic]、[digest-MD5]、[digest-SHA2] のいずれかを選んだ場合に入力します。 [ユーザー認証連動] で [連動する] を選んだ場合は設定できません。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 20 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。 [認証方式] で、[basic]、[digest-MD5]、[digest-SHA2] のいずれかを選んだ場合に入力します。 [ユーザー認証連動] で [連動する] を選んだ場合は設定できません。
[realm]	[認証方式] で [digest-MD5] または [digest-SHA2] を選んだ場合は、ドメイン (realm) を入力します (半角 127 文字以内)。
[有効期限]	IPP 認証の認証情報の有効期限を入力します。[0] 分に設定すると、認証後に認証情報を破棄します。 初期値は [5] 分です。

SSL で通信する (IPPS)

本機で IPP 印刷を行うときに、コンピューターと本機の通信を SSL で暗号化してセキュリティを強化できます。

- 1 本機の証明書を登録し、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。
- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [IPP 設定] - [IPP 設定] で、[IPP-SSL 設定] を [SSL 通信のみ可] または [SSL/ 非 SSL 通信可] に設定します (初期値 : [非 SSL 通信のみ可]) 。

Windows コンピューターで IPPS 印刷を行う場合は、次のことを確認してください。

- IPPS を使って本機で印刷する場合は、次のように本機を指定します。
- [https:// ホスト名 . ドメイン名 /ipp]
ホスト名とドメイン名には、本機の [TCP/IP 設定] で設定した、[DNS ホスト名] と [DNS デフォルトドメイン名] を入力します。
- コンピューター側から、DNS サーバーを使って、本機を名前解決できることを確認してください。あらかじめ、本機を DNS サーバーに登録しておきます。また、コンピューター側で DNS の設定を行ってください。
- 本機の証明書が CA (認証局) により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、コンピューターの [信頼されたルート証明機関] に登録してください。

8.5 WS 印刷の使用環境を設定する

概要

Windows コンピューターで利用可能な Web サービス機能を使うと、ネットワークに接続された本機を自動的に検出して、Web サービスプリンターとして簡単にインストールできます。

本機とコンピューターとの通信には、HTTP を使います。本機とコンピューターとの通信を SSL で暗号化すれば、より安全に印刷できます。

WS 印刷を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 WS 印刷の基本設定をする
→ 設定のしかたは、8-8 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
ディスクバリプロキシを使って WS 印刷する	8-9 ページ
コンピューターと SSL で通信したい	8-10 ページ



参照

コンピューター側の設定について詳しくは、「ユーザズガイド [プリント機能] / [Windows 環境で印刷する]」をごらんください。



参考

- 本機を Active Directory のドメインに参加させてお使いの場合は、Windows 8.1/10 で Web サービスによる印刷を安全に行える「WSD Secure Print 機能」を利用できます。

WS 印刷の基本設定をする

Web サービスによる印刷を有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、プリンターとしての本機の情報などを設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 共通設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Friendly Name]	コンピューターから Web サービスを使って探索したときに表示する本機の名前を入力します (半角 62 文字以内)。本機を探すときにわかりやすい名前をつけます。
[Publication Service]	以下のどちらかの環境で本機を使う場合は、[有効] を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows コンピューターで、NetBIOS が無効になっている環境 • IPv6 のみの通信を行うように構築された環境 Publication Service による接続先の検出は、最大 512 個まで可能です (NetBIOS による検出数を含む)。初期値は [有効] です。

2 管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [プリンター設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プリント機能]	WS 印刷機能を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[WSD Print V2.0 設定]	WS 印刷バージョン 2.0 の機能を使う場合は、[有効] を選びます。 バージョン 2.0 に対応したコンピューターから本機に接続したときに、本機に対する印刷の事前通知や、アカウント情報の送付、機器拡張機能のパラメーター設定、機器の能力やローカライズ情報の取得などができるようになります。 初期値は [有効] です。
[プリンター名]	WS プリンターとして使うときの、本機の名前を入力します (半角 63 文字以内)。
[プリンター設置場所]	必要に応じて、プリンター設置場所を入力します (半角 63 文字以内)。
[プリンター情報]	必要に応じて、プリンター情報を入力します (半角 63 文字以内)。

プロキシサーバーを使う

WS-Discovery で定義されるディスカバリプロキシを利用して、マルチキャスト通信が制限されている環境で、本機から印刷するための設定をします。お使いの環境でディスカバリプロキシサーバーを導入している場合に設定します。

通常、Web サービスを使って本機から印刷するには、本機からマルチキャストで通信できる場所に、コンピューターが接続されている必要がありますが、本機からユニキャスト通信できる場所に、ディスカバリプロキシサーバーを設置することで、本機から印刷できるようになります。

管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 拡張設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシ使用設定]	ディスカバリプロキシを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[プロキシ 1] ~ [プロキシ 3]	本機で使うディスカバリプロキシサーバーを登録します。
[プロキシサーバーアドレス]	ディスカバリプロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例: 「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	ディスカバリプロキシサーバーで、WS-Discovery のサービスを公開している URL のパス部分の、サービス名を入力します (半角 255 文字以内)。
[SSL 使用設定]	ディスカバリプロキシサーバーとの通信を SSL で暗号化する場合は、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、ディスカバリプロキシサーバーのポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 [SSL 使用設定] が [使用しない] の場合、初期値は [80] です。 [SSL 使用設定] が [使用する] の場合、初期値は [443] です。

SSL で通信する

本機とコンピューターとの通信を、SSL で暗号化します。

本機とコンピューターとの通信を暗号化するには、双方向で SSL 通信の設定を行う必要があります。あらかじめ、以下の確認をしてください。

- DNS サーバーで名前解決を行っている必要があります。
- 本機の証明書が CA(認証局)により発行されたものでない場合は、本機の証明書を、コンピューターの [信頼されたルート証明機関] に登録してください。
- あらかじめコンピューター側で証明書を作成して、TCP/IP の通信ポートと関連付けてください (初期値: ポート番号 5358)。



参考

- Windows 8.1/10 の場合は、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

SSL 通信を有効にします。あわせて、証明書の検証方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 共通設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL 設定]	SSL で通信するときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> • OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス • CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。



参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

8.6 Bonjour 印刷の使用環境を設定する

本機は Mac OS で使う Bonjour に対応しています。

Bonjour は、TCP/IP 上で動作して、ネットワークに接続した機器のネットワーク設定や、利用可能なサービスの探索を、自動で行うことを可能にする技術です。

本機で Bonjour を有効にすると、コンピューターが、ネットワークに接続された本機を自動的に検出し、追加可能なプリンターとして一覧表示します。

管理者モードの [ネットワーク] - [Bonjour 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Bonjour]	Bonjour を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[Bonjour 名]	接続機器名として表示する Bonjour 名を入力します (半角 63 文字以内)。

8.7 E-mail 受信プリントの使用環境を設定する

概要

E-mail 受信プリントは、本機が受信した E-mail に添付されているファイルを印刷する機能です。

本機のメールアドレス宛に E-mail を送信すれば、プリンタードライバーを使わなくても、コンピュータ上の PDF、コンパクト PDF、JPEG、TIFF、XPS、コンパクト XPS、OOXML(.docx/.xlsx/.pptx)、PPML(.ppml/.vdx/.zip) ファイルを本機から印刷することができます。

E-mail 受信プリント機能を使う場合は、次の手順で設定してください。

- ✓ この機能を使うには、オプションの**拡張メモリー**と**LK-110 v2 (ファイル形式拡張パッケージ)**が必要です。
- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
 - 2 本機のメールアドレスを設定する
→ 管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で [本体アドレス登録] - [Email アドレス] を設定します。設定のしかたは、4-2 ページをごらんください。
 - 3 本機で E-mail を受信するための設定をする
→ 設定のしかたは、8-12 ページをごらんください。
 - 4 受信した E-mail の添付ファイルを印刷するための設定をする
→ 設定のしかたは、8-13 ページをごらんください。

本機で E-mail を受信するための設定をする

メールサーバー (POP) への接続設定を行います。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信設定]	E-mail 受信プリントを使う場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用する] です。
[POP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (POP) のアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：[host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：[192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：[fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[ログイン名]	メールサーバー (POP) で E-mail 受信するときのログイン名を入力します (半角 63 文字以内)。
[パスワード]	[ログイン名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 15 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (POP) との通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [30] 秒です。
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (POP) のポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [110] です。
[自動到着チェック]	本機からメールサーバー (POP) に定期的に接続して、メールの到着の有無の問い合わせをする場合はチェックをつけます。あわせて、[ポーリング間隔] に、メールサーバー (POP) に接続する間隔を入力します。初期値は [ON] (チェックあり) です。

受信した E-mail の添付ファイルを印刷するための設定をする

E-mail 受信プリント機能を有効にします。また、必要に応じて、印刷を許可するメールアドレスを制限したり、添付ファイルをボックスに保存するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信プリント] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信プリント]	E-mail 受信プリントを使うときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[E-mail 受信制限]	E-mail 受信プリント機能を使用できるメールアドレスを制限する場合は、[する] を選びます。 [する] を選んだ場合、[許可アドレス 1] ~ [許可アドレス 10] に、E-mail 受信プリント機能を許可するメールアドレス、またはメールのドメインを入力します。
[ボックス保存]	本機で受信した全ての E-mail の添付ファイルを、ボックスに保存する場合は、[する] を選びます。 [する] を選んだ場合、[ボックス番号] に、保存先のボックス番号を入力します。添付ファイルを保存するボックス番号が E-mail で指定されていない場合は、入力したボックス番号のボックスに保存されます。E-mail の添付ファイルが暗号化 PDF ファイルの場合は、パスワード暗号化 PDF ボックスに保存されます。 初期値は [しない] です。

参照

E-mail でボックス番号を指定する方法について詳しくは、「ユーザーズガイド [プリント機能] / [プリンタードライバーを使わずに印刷する]」をごらんください。

8.8 本機の印刷設定の初期値を設定する

8.8.1 印刷設定の初期値を設定する

プリンタードライバーから指定がない場合は、この設定に従って動作します。トレイの設定や、フィニッシュャー処理の設定、印刷部数などの初期値を指定できます。

管理者モードの [プリンター設定] - [基本設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[PDL 設定]	ページ記述言語 (Page Description Language) を選びます。[自動] を選ぶと、PCL と PS を自動で切替えます。 初期値は [自動] です。
[カラー設定]	原稿に合わせて原稿画質のモードを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [文書]：文字、グラフ、図形、写真などが混在した原稿に適した画質設定にします。 ・ [写真]：イメージ品質を優先した画質設定にします。 ・ [DTP]：文字や図形などが混在した原稿に適した画質設定にします。ディスプレイの表示を忠実に再現します。 ・ [Web]：Web ページの印刷に適した画質設定にします。低解像度のイメージを滑らかに再現します。 ・ [CAD]：細線で構成される原稿に適した画質設定にします。イメージを高解像度で再現します。 初期値は [文書] です。
[給紙トレイ]	印刷する用紙の給紙トレイを選びます。 初期値は [自動] です。
[排紙トレイ]	優先的に排紙するトレイを選びます。 初期値は [トレイ 2] です。
[両面印刷]	複数ページのデータを印刷するときに、用紙の両面に印刷するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。
[とじ方向]	両面印刷するときの、とじ方向を選びます。 初期値は [左開き] です。
[ステーブル]	ステーブルでとじるかどうかを選びます。ステーブルでとじる場合は、ステーブル数を選びます。 初期値は [しない] です。
[パンチ]	パンチ穴をあけるかどうかを選びます。パンチ穴をあける場合は、パンチ穴の数を選びます。 初期値は [しない] です。
[折り]	折り加工するかどうかを選びます。折り加工する場合は、折り方を選びます。 初期値は [しない] です。
[中折り / 三つ折り 折り単位設定]	折り加工するときの単位を、[部単位]、[1 枚ごと]、[ページ単位] から選びます。 [ページ単位] を選んだ場合は、[ページ指定] で 1 度に折り加工するページ数を入力します。 初期値は [部単位] です。
[印刷部数]	印刷部数を入力します。 初期値は [1] 部です。
[用紙サイズ]	印刷する用紙のサイズを選びます。 初期値は [A4] です。
[用紙種類]	印刷する用紙の種類を選びます。 初期値は [指定なし] です。
[画像の向き]	印刷する画像の向きを選びます。 初期値は [ポートレート] です。
[スプール設定]	印刷ジョブを実行中に次の印刷ジョブを受信した場合、ハードディスクに次のジョブを保存するかどうかを選びます。 初期値は [する] です。
[バナーシート設定]	印刷データの送信者や表題などを記載したバナーページ (表紙) を印刷するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。

設定	説明
[バナーシート給紙トレイ]	バナーページ(表紙)を印刷するときを使う給紙トレイを選びます。 初期値は[自動]です。
[指定給紙トレイ不一致]	指定した給紙トレイに該当する用紙がない場合の動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [指定給紙トレイ優先]: 同じサイズ用紙がセットされた給紙トレイに切替えて印刷します。 ・ [指定給紙トレイ固定]: 印刷を停止します。指定した給紙トレイに用紙をセットするか、他の給紙トレイに手動で切替えることで印刷します。 初期値は[指定給紙トレイ固定]です。
[用紙サイズ変換]	[用紙サイズ]で指定した用紙が給紙トレイにセットされていない場合に、近いサイズの用紙に印刷するかどうかを選びます。 通常は[しない]を選んでください。[する]を選ぶと、A4とLetter、A3とLedgerを自動で変換するため、画像が欠損することがあります。 初期値は[しない]です。
[とじ方向補正]	両面印刷するときの、とじ位置の補正のしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [仕上げ優先]: すべてのページを受信してからとじ位置を補正し、印刷を開始します。 ・ [生産性優先]: 1ページを受信すると同時にとじ位置を補正し、印刷を開始します。 ・ [補正を抑制]: とじ位置の補正を行わずに、プリンタードライバーからの指定に従って印刷します。 初期値は[仕上げ優先]です。
[線幅補正]	文字や線の幅の補正のしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [細め]: 文字や線を細めに描画します。文字や図形の細部を精巧に再現できます。 ・ [やや細め]: 文字や線を[細め]と[普通]の中間の太さで描画します。 ・ [普通]: 文字や線を中間の太さで描画します。 ・ [やや太め]: 文字や線を[普通]と[太め]の中間の太さで描画します。 ・ [太め]: 文字や線を太めに描画します。文字や図形をくっきりと再現します。 初期値は[普通]です。
[グレー背景線幅補正]	文字の線の背景がグレーのときに、線幅が太く見えるのを抑止するかどうかを選びます。 [する]を選ぶと、グレー部分の文字や線を、グレー以外の部分と同じ太さに見えるように補正します。 初期値は[する]です。
[小さめ印刷]	PDF、PPML、OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルをダイレクト印刷するとき、ページ全体を少し縮小して印刷するかどうかを選びます。 初期値は[しない]です。
[OOXML印刷モード]	OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルをダイレクト印刷するとき、画質を優先するか、速度を優先するかを選びます。 初期値は[速度優先]です。
[光沢モード]	画像に光沢をつけて印刷します。印刷速度は低下します。 初期値は[しない]です。
[トナー節約]	印刷濃度を抑え、トナー消費量を節約します。 初期値は[しない]です。
[エッジ強調]	小さい文字や薄い文字をくっきりさせたいとき、表文字、グラフィックなど、画像のエッジ部分を強調して、読みやすくします。 初期値は[しない]です。
[1200dpi 文書受信時動作]	1200 dpi の印刷データを受信したときの動作を選びます。 初期値は[600dpi 変換]です。

8.8.2 PCL 印刷設定の初期値を設定する

PCL 印刷に関する設定をします。PCL のシンボルセットなどの初期値を設定します。

管理者モードの [プリンター設定] - [PCL 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[カラー選択]	印刷する色を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [オートカラー]：原稿の色に合わせてカラーを自動選択して印刷します。 ・ [グレースケール]：原稿の色に関わらず、モノクロで印刷します。 ・ [2色カラー]：指定した2色で印刷します。色つき原稿のグレー部分とカラー部分を、それぞれ [2色の配合] で指定した色の組合わせで印刷します。 初期値は [オートカラー] です。
[シンボルセット]	使用するフォントシンボルセットを選びます。 初期値は [PC-8, Code Page 437] です。
[タイプフェイス]	使用するフォントを、レジデントフォントまたはダウンロードフォントから選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [レジデントフォント]：本機に内蔵されているフォントから選びます。 ・ [ダウンロードフォント]：本機にダウンロードしたフォントから選びます。ダウンロードフォントがある場合に表示されます。 初期値は [Courier] です。
[フォントサイズ]	フォントサイズの初期値を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [プロポーショナルフォント]：プロポーショナルフォント (文字ごとに幅が異なるフォント) のフォントサイズを入力します (単位：ポイント)。初期値は [12.00 ポイント] です。 ・ [固定幅フォント]：固定幅フォント (文字ごとの幅が等しいフォント) の幅を入力します (単位：ピッチ)。初期値は [10.00 ピッチ] です。
[ライン / ページ]	テキストデータを印刷するときの、1 ページに印刷するライン数を入力します。 初期値は [64] ラインです。
[CR/LF マッピング]	テキストデータを印刷するとき、改行コードを置換えるかどうかを選びます。改行コードを置換える場合は、置換え方法を選びます。 初期値は [しない] です。
[バーコードフォント設定]	バーコードフォントに関する設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [バーコード線幅]：バーコードフォントの線幅を設定します。初期値は [0] です。 ・ [バーコードスペース幅]：バーコードフォントのスペース幅を設定します。初期値は [0] です。 この機能を使うには、オプションの拡張メモリーと LK-106 (バーコードフォント) が必要です。
[極細線を描画する]	縮小印刷するとき、細い線が消えてしまうことを抑止します。 Excel で作成した表罫線のような細線に対して効果がありますが、イラストなどの細線には効果がありません。 初期値は [する] です。
[自動トラッピング]	絵柄の周囲に白い隙間が出ないように隣合う色を重ねて印刷するかどうかを選びます。 [する] を選ぶと、グラフや図形などで、色の境界に白い線が出るのを抑止できます。 初期値は [しない] です。
[明度]	コンピューターから印刷するときの明度を調整します。 PCL ドライバーで設定されている明度の調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。
[コントラスト]	コンピューターから印刷するときのコントラストを調整します。 PCL ドライバーで設定されているコントラストの調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。
[彩度]	コンピューターから印刷するときの彩度を調整します。 PCL ドライバーで設定されている彩度の調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。

設定	説明
[カラーバランス]	コンピューターから印刷するときのカラーバランスを調整します。 PCL ドライバーで設定されているカラーバランスの調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。

8.8.3 PS 印刷設定の初期値を設定する

PS 印刷に関する設定をします。エラー情報の印刷や、各種プロファイルの初期値を設定します。

管理者モードの [プリンター設定] - [PS 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[カラー選択]	印刷する色を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [オートカラー]：原稿の色に合わせてカラーを自動選択して印刷します。 ・ [フルカラー]：原稿の色に関わらず、フルカラーで印刷します。 ・ [グレースケール]：原稿の色に関わらず、モノクロで印刷します。 初期値は [オートカラー] です。
[PS エラー印刷]	PS のラスタライズ中にエラーが発生した場合、エラー情報を印刷するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。
[ICC プロファイル設定]	プリンタードライバーに表示するプロファイルの初期値を指定します。 [ICC プロファイル設定] が本体とプリンタードライバーで異なる場合、プリンタードライバーの設定が優先されます。
[写真]	写真における、RGB カラーと出力プロファイルの初期値を選びます。 初期値は [RGB カラー]：[sRGB] / [出力プロファイル]：[自動] です。
[文字]	文字における、RGB カラーと出力プロファイルの初期値を選びます。 初期値は [RGB カラー]：[sRGB] / [出力プロファイル]：[自動] です。
[図 / 表 / グラフ]	図、表、グラフにおける、RGB カラーと出力プロファイルの初期値を選びます。 初期値は [RGB カラー]：[sRGB] / [出力プロファイル]：[自動] です。
[シミュレーションプロファイル]	シミュレーションプロファイルの初期値を選びます。 [シミュレーションプロファイル] が [自動] に設定され、[PS デザイナーズ設定] が [しない] に設定されている場合、仕向けに応じたシミュレーションプロファイルを使用します。[PS デザイナーズ設定] について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。 初期値は [自動] です。
[自動トラッピング]	絵柄の周囲に白い隙間が出ないように隣合う色を重ねて印刷するかどうかを選びます。 [する] を選ぶと、グラフや図形などで、色の境界に白い線が出るのを抑止できます。 初期値は [しない] です。
[ブラックオーバープリント]	黒い文字や図形の周囲に白い隙間が出ないように印刷するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [文字 / 図]：文字と図の部分で、隣合う色に黒を重ねて印刷します。グラフや図形などで黒の周りに白い線が出るようなときに設定してください。 ・ [文字]：文字の部分で、隣合う色に黒を重ねて印刷します。文字の周りに白い線が出るようなときに設定してください。 ・ [しない]：ブラックオーバープリント処理をせず、データのまま印刷します。 初期値は [しない] です。
[明度]	コンピューターから印刷するときの明度を調整します。 PS ドライバーで設定されている明度の調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。
[コントラスト]	コンピューターから印刷するときのコントラストを調整します。 PS ドライバーで設定されているコントラストの調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。

設定	説明
[彩度]	コンピューターから印刷するときの彩度を調整します。 PS ドライバーで設定されている彩度の調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。
[カラーバランス]	コンピューターから印刷するときのカラーバランスを調整します。 PS ドライバーで設定されているカラーバランスの調整値に対して、ここで設定した調整値を追加して調整を行います。 初期値は [0] です。

8.8.4 TIFF 印刷設定の初期値を設定する

TIFF、JPEG、PDF の画像データを、ダイレクト印刷するときの、印刷する用紙のサイズの決めかたを設定します。

この設定は、USB メモリーからデータを印刷する場合や、Web Connection のダイレクトプリント機能で印刷する場合に有効です。

管理者モードの [プリンター設定] - [TIFF 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[自動用紙選択]	印刷する用紙サイズの決定方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [自動]：TIFF/JPEG(JFIF)/PDF を印刷する場合に、画像と同じサイズの用紙に印刷します。 ただし、JPEG(EXIF) の場合は、管理者モードの [プリンター設定] - [基本設定] - [用紙サイズ] で設定した用紙サイズに合わせて、画像を拡大または縮小して印刷します。 ・ [優先用紙サイズ]：指定した用紙サイズに合わせて、画像を拡大または縮小して印刷します。 Web Connection 、USB メモリーから印刷する場合は、管理者モードの [プリンター設定] - [基本設定] - [用紙サイズ] で設定した用紙サイズに印刷します。 初期値は [自動] です。

8.8.5 XPS/OOXML 印刷のセキュリティに関する設定をする

XPS/OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルをダイレクト印刷するとき、デジタル署名の検証や、エラー情報の印刷を行うかどうかを設定します。

管理者モードの [プリンター設定] - [セキュリティ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[XPS/OOXML デジタル署名検証]	デジタル署名が付加された XPS/OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルを印刷するとき、デジタル署名を検証するかどうかを選びます。 [する] を選ぶと、署名が無効なときは印刷しません。 初期値は [しない] です。
[XPS/OOXML エラー印刷]	XPS/OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルの印刷中にエラーが発生した場合、エラー情報を印刷するかどうかを選びます。 初期値は [する] です。

8.8.6 OOXML 印刷設定の初期値を設定する

ダイレクト印刷するときの、OOXML 印刷設定の初期値を設定します。OOXML ファイルは、Microsoft Office 2007 以降のファイル形式 (*.docx/*.xlsx/*.pptx) に対応しています。

管理者モードの [プリンター設定] - [OOXML 印刷設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[シート / ブック印刷]	Excel ファイルを印刷するときに、現在選んでいるシートを印刷するか、ブック全体を印刷するかを選びます。 初期値は [現在のシート] です。
[用紙サイズ]	OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルを印刷する用紙のサイズを選びます。 初期値は [自動] です。
[用紙種類]	OOXML(docx、xlsx、pptx) ファイルを印刷する用紙の種類を選びます。 初期値は [自動] です。

8.8.7 ページ割付設定の初期値を設定する

ダイレクト印刷するときの、ページ割付設定の初期値を設定します。

管理者モードの [プリンター設定] - [ページレイアウト設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ページ割付]	複数のページを 1 枚の用紙に縮小して印刷するときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[ページ割付数]	1 枚の用紙に割付けるページ数を、[行数] と [列数] それぞれ入力します。 初期値は [行数]、[列数] とともに [1] です。
[集約方向]	ページの配置のしかたを選びます。 初期値は [左上から横方向] です。
[ページ間隔]	行方向と列方向のページの間隔を入力します。 初期値はすべて [0] mm です。
[ページ余白]	上下左右のページの余白を入力します。 初期値はすべて [0] mm です。
[ページ倍率]	倍率を自動で調整するか、任意の倍率を指定してページを拡大または縮小するかを選びます。 初期値は [自動] です。
[ページ枠]	ページ間に境界線を印字するかどうかを選びます。 初期値は [印刷しない] です。

8.9 インターフェースごとにタイムアウト時間を設定する

必要に応じて、本機とコンピューターの通信のタイムアウト時間を変更します。ネットワーク通信と USB 通信とで、タイムアウトの時間を別々に変更できます。

管理者モードの [プリンター設定] - [インターフェース設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ネットワークタイムアウト]	本機とコンピューターをネットワーク接続している場合に、通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。
[USB タイムアウト]	本機とコンピューターを USB 接続している場合に、通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。

8.10 装置情報の取得をパスワードで制限する

プリンタードライバーからの装置情報の取得をパスワードで制限できます。

ユーザーがプリンタードライバーから装置情報を取得しようとする時、パスワードの入力を要求します。これにより、装置情報を取得できるユーザーを限定できます。

管理者モードの [プリンター設定] - [装置情報取得用アカウント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[装置情報取得用アカウント設定]	プリンタードライバーからの装置情報の取得をパスワードで制限するときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[パスワード]	装置情報の取得を制限するパスワードを入力します (スペースと " を除く半角 8 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。 プリンタードライバーで装置情報を取得するユーザーに、ここで入力したパスワードを連絡してください。

9

ファクスの使用環境を設定する

9 ファクスの使用環境を設定する

9.1 ファクスの基本設定をする

9.1.1 使用回線の設定をする

電話回線の種類（ダイヤル方式）や、ファクスの受信方式などを設定します。

管理者モードの「[ファクス設定] - [回線パラメーター設定]」で、次の設定をします。

設定	説明
[ダイヤル方式]	お使いの環境に合わせて、回線の種類を選びます。
[受信方式]	ファクスの受信方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [自動受信]：送信元がファクスのときは自動的に受信を開始します。 ・ [手動受信]：手動でファクスの受信を指示します。本機に電話機を接続し、電話として使う機会が多い場合などに選びます。 初期値は [自動受信] です。
[着信回数設定]	ファクスを自動受信する場合に、必要に応じて、受信を開始するまでの呼出音の回数を変更します。 初期値は [2 回] です。
[オートリダイヤル回数]	ファクスを正常に送信できなかった場合、本機は一定時間経過後に自動的にリダイヤルします。必要に応じて、リダイヤルの回数を変更します。 初期値は [3 回] です。
[オートリダイヤル間隔]	[オートリダイヤル回数] を設定したときに、必要に応じて、リダイヤルの間隔を変更します。 初期値は [3 分] です。
[手動受信時 V34 設定]	ファクスを手動受信するとき、V.34 機能を解除するかどうかを選びます。V.34 機能を解除する場合は [ON] を選びます。 初期値は [OFF] です。
[TEL/FAX 自動切換え]	本機に電話機を接続してお使いの場合に、TEL/FAX 自動切換え機能を使うかどうかを選びます。 チェックをつけると、着信がファクスなのか電話なのかを自動的に検知し、着信がファクスのときは、自動的にファクスの受信を開始します。 初期値は [OFF]（チェックなし）です。
[外部 TEL 呼出モニター音]	[TEL/FAX 自動切換え] にチェックをつけた場合に、電話機の回線上的音をスピーカーから鳴らすかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。
[外部 TEL 呼出時間]	[TEL/FAX 自動切換え] にチェックをつけた場合に、必要に応じて、電話機の呼出音を鳴らす時間の長さを変更します。 初期値は [20] 秒です。
[TEL/FAX 切換え時の音声応答]	[TEL/FAX 自動切換え] にチェックをつけた場合に、TEL/FAX 切換え時に、音声メッセージを流すかどうかを選びます。 初期値は [音声応答あり] です。
[外部電話切離し]	本機に電話機を接続してお使いの場合に、ファクスの着信時に電話機を鳴らすかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ON]：ファクスの着信時には電話機は鳴りません。 ・ [OFF]：ファクスの着信時にも電話機が鳴ります。 初期値は [OFF] です。
[留守番電話接続設定]	本機に電話機を接続してお使いの場合に、留守番電話機能を使うかどうかを選びます。 [ON] を選ぶと、着信がファクスなのか電話なのかを自動的に検知し、着信がファクスのときは自動的にファクスの受信を開始します。電話のときは留守番電話メッセージを再生します。 初期値は [OFF] です。
[回線モニター音]	ファクス通信時に回線上的の通信音をモニターするかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。

設定	説明
[回線モニター音レベル (送信)]	本機が出す音をモニターします。モニター音は 0～8 の範囲で設定します。この機能は [回線モニター音] を [ON] にしたときだけ有効となります。初期値は [3] です。
[回線モニター音レベル (受信)]	相手機 (交換機や TA も含む) が出す音をモニターします。モニター音は 0～8 の範囲で設定します。この機能は [回線モニター音] を [ON] にしたときだけ有効となります。初期値は [4] です。

9.1.2 PBX 環境への接続設定をする

本機を構内回線 (PBX) 環境へ接続できます。PBX を使うと、組織の複数の電話機やファクスを、公衆電話回線網に接続して使えます。

管理者モードの [ファクス設定] - [PBX 接続設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[PBX 接続設定]	PBX 環境で使うときは、チェックをつけます。初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[外線番号]	外線番号を入力します (半角数字 4 文字以内)。短縮宛先や、プログラム宛先に登録されているファクス番号に、ここで入力した外線番号を付加します。

9.1.3 発信元情報を登録する

ファクスを送信するときに、発信元情報として印字する本機の名前や会社名 (発信元名) と、ファクス番号を登録します。

本機から送信するファクスには、自動的に発信元情報が付加されます。発信元名は、20 件まで登録でき、送信先に応じて使い分けることができます。

管理者モードの [ファクス設定] - [発信元 / ファクス ID 登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[ファクス ID]	本機のファクス番号を入力します (半角数字 20 桁以内、記号は #、*、+、スペースを使用可能)。入力したファクス番号は発信元情報として印字されます。
[デフォルト]	発信元名の初期値を選びます。初期値に設定した発信元名は、ファクスを送信するときに、自動的に付加されます。
[発信元名]	登録した発信元名を表示します。
[編集]	発信元名を 20 件まで登録できます。送信先に応じて、発信元名を使い分けたいときに登録します。
[登録 No.]	登録番号を表示します。
[発信元名]	発信元名を入力します (半角 30 文字 / 全角 15 文字以内)。
[削除]	登録されている発信元名を削除します。

9.2 送受信時の動作を設定する

9.2.1 発信元／受信情報の印字のしかたを設定する

送受信するファクスの発信元情報や受信情報の印字のしかたを設定します。

管理者モードの [ファクス設定] - [発信元 / 受信情報] で、次の設定をします。

設定	説明
[発信元情報]	送信するファクスに印字する発信元情報の位置を選びます。 [OFF] を選ぶと、発信元情報は印字しません。[原稿内] を選ぶと、原稿画像の一部が欠けることがあります。 初期値は [原稿外] です。
[発信元情報印字領域]	発信元情報を印字するときの文字のサイズを選びます。[小さめ] は [通常] に対して、文字の高さが 1/2 になります。 受信側で印刷されたファクスの画像が欠けたり、ページが分割されたりすることを防ぐため、[小さめ] に設定することをおすすめします。 ただし、送信時の読み解像度が [普通] のときは、文字がつぶれて判読できなくなることを防ぐため、[通常] に変換されます。 初期値は [小さめ] です。
[相手先印字]	発信元情報として送信先のファクス番号を印字するかどうかを選びます。 [OFF] を選ぶと、送信先のファクス番号に代えて、本機のファクス番号を印字します。 初期値は [ON] です。
[受信情報]	本機で受信したファクスに対して、受信情報 (受信日時、受信番号) を印字するかどうかを選びます。印字する場合は、受信情報を印字する位置を選びます。 [OFF] を選ぶと、受信情報は印字しません。 初期値は [OFF] です。

9.2.2 ファクス受信時の印刷設定を変更する

本機で受信したファクスの印刷設定を変更します。また、ポーリング送信時のファイルの扱いを設定します。

管理者モードの [ファクス設定] - [送信 / 受信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[受信原稿両面印刷]	複数ページのファクスを受信したときに、用紙の両面に印刷するかどうかを選びます。 [ページ分割記録] で [ON] を選んだ場合は、設定できません。 初期値は [OFF] です。
[インチ系用紙優先選択]	ファクスを受信したときに、インチ系の用紙に優先的に印刷するかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。
[記録用紙優先選択]	ファクスを印刷する用紙の選択基準を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [サイズ優先]：[記録用紙サイズ] で指定した用紙に印刷します。用紙がない場合は、最も近いサイズの用紙に印刷します。 ・ [サイズ固定]：常に [記録用紙サイズ] で指定した用紙にだけ印刷します。 ・ [自動選択]：受信したファクスに合わせて自動的に選んだ用紙に印刷します。 初期値は [自動選択] です。
[記録用紙サイズ]	受信したファクスを印刷する用紙のサイズを選びます。 初期値は [インチ系用紙優先選択] の設定によって異なります。
[ボックス番号エラー動作]	本機のボックスを使ってファクスを受信する場合に、本機に登録されていないボックスが指定されたときの動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [印刷]：ボックスに保存せずに印刷します。 ・ [通信エラー]：通信エラーとして処理し、保存も印刷もしません。 ・ [ボックス自動生成]：指定された登録番号のボックスを自動作成し、作成したボックスに保存します。 初期値は [印刷] です。
[着信拒否時の動作]	ナンバーディスプレイ機能をお使いの場合に、受信を拒否するファクス番号 (着信拒否宛先) から着信したときの動作を選びます。 初期値は [回線切断] です。
[給紙トレイ設定]	ファクスを印刷するときに使う給紙トレイを指定します。 初期値は [自動] です。
[給紙トレイ許可設定]	[給紙トレイ設定] が [自動] に設定されている場合に、ファクスの印刷を許可するかどうかを、給紙トレイごとに指定します。 初期値はすべての給紙トレイで [許可] です。
[縮小率]	必要に応じて、ファクスを印刷するときの縮小率を変更します。 初期値は [96%] です。
[ページ分割記録]	定形サイズよりも長いファクスを受信したときに、ページを分割して印刷するかどうかを選びます。 [受信原稿両面印刷] で [ON] を選んだ場合は、設定できません。 初期値は [OFF] です。
[ポーリング送信後文書]	ポーリング送信機能でポーリング用のファイルを登録してお使いの場合に、ポーリング指示によってファイルが送信されたあと、ファイルを削除するかどうかを選びます。 初期値は [削除する] です。
[受信印刷部数]	必要に応じて、ファクスを印刷する部数を変更します。 初期値は [1] 部です。
[ファクス受信文書印刷設定]	受信したネットワークファクスを、カラーで印刷するかモノクロで印刷するかどうかを選びます。モノクロ印刷だけに制限したい場合は、[ブラックのみ許可] を選びます。 初期値は [カラー・ブラック許可] です。

9.2.3 ファクス送信時にスタンプ設定を解除する

ファクスを送信するときは、スタンプを印字しないよう、自動的にスタンプ設定を解除できます。

管理者モードの [環境設定] - [スタンプ設定] - [ファクス送信設定] で、[解除設定] を [解除する] に設定します。



参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効/無効に関わらず利用できます。

9.2.4 受信したファクスの解像度に応じて画質を調整する

受信したファクスを印刷するときに、受信したファクスの解像度に応じて、画質を優先するか速度を優先するかを選びます。

管理者モードの [ファクス設定] - [G3 ファクス印字画質設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[低解像度]	受信したファクスの解像度が低いときに、画質を優先して印刷するか、速度を優先して印刷するかを選びます。 [画質優先] を選ぶと、画質の補正を行います。 初期値は [画質優先] です。
[高解像度]	受信したファクスの解像度が高いときに、画質を優先して印刷するか、速度を優先して印刷するかを選びます。 [画質優先] を選ぶと、画質の補正を行います。ただし、高解像度のファクスの場合は、低解像度のファクスに比べて、画質補正の効果が低くなります。 初期値は [速度優先] です。

9.3 便利な送受信機能を設定する

9.3.1 ファクス機能の有効／無効を設定する

ファクスの誤送信を防ぐための宛先 2 度入力機能や、F コード送信、中継受信などの送受信機能の有効／無効を設定します。

管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [機能 ON/OFF 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[F コード送信機能]	F コード送信機能を使うかどうかを選びます。 F コード送信は、SUB アドレスや送信 ID(通信パスワード)で送信先の特定のボックスを指定して送信する機能です。送信先の機器も F コード通信に対応している必要があります。送信 ID(通信パスワード)は指定しなくても通信できます。親展通信、中継配信、PC-FAX 受信をするときに使います。 初期値は [ON] です。
[中継受信機能]	本機をファクスの中継機として使うかどうかを選びます。 本機を中継機として使うと、送信元からファクスを受信し、あらかじめ登録した複数の配信先へ自動配信できます。 初期値は [ON] です。
[中継印刷]	本機をファクスの中継機として使う場合に、受信したファクスを配信すると同時に、本機でも印刷するかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。
[宛先確認表示機能]	ファクスを送信する前に、指定した宛先の一覧を表示するかどうかを選びます。 送信する前に宛先を確認したい場合に [ON] を選びます。誤送信や送信忘れを防ぐために便利な機能です。また、指定した宛先の一覧を表示したあと、送信を承認するためのパスワードの入力を要求するように設定できます。[送信承認パスワード] から [ON] を選び、送信承認パスワードを入力します (半角 64 文字以内)。 パスワードを変更する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。 初期値は [ON] です。
[ナンバーディスプレイ機能]	ナンバーディスプレイ機能を使うかどうかを選びます。 ナンバーディスプレイ機能は、電話をかけてきた相手の番号をパネルに表示する機能です。ナンバーディスプレイ機能を使うには、NTT とナンバーディスプレイサービスの契約が必要です。 初期値は [OFF] です。
[宛先 2 度入力機能 (送信)]	ファクス番号を直接入力して送信するときに、ファクス番号を 2 度入力させるかどうかを選びます。 ファクスの誤送信を防ぐために便利な機能です。 初期値は [OFF] です。
[宛先 2 度入力機能 (登録)]	宛先や転送先の登録時など、ファクス番号を登録するときに、ファクス番号を 2 度入力させるかどうかを選びます。 ファクス番号の誤登録を防ぐために便利な機能です。 初期値は [OFF] です。
[PIN コード表示マスク機能]	ファクス番号に個人 ID (PIN コード) を付加してファクス送信を行う場合に、PIN コード部分をファクスレポートやジョブ履歴に表示しないようにするための設定をします。 [ON] を選んだ場合は、PIN コード部分を識別するためのセパレーターを選びます。送信先を指定するときは、PIN コード部分をここで指定したセパレーターで挟んで入力します。 初期値は [OFF] です。 [PIN コード表示マスク機能] を [ON] に設定した場合、以下の機能が利用できません。 ・ [ファクス設定] - [機能設定] - [再送信設定] ・ [ファクス設定] - [発信元 / 受信情報] - [相手先印字]

9.3.2 ダイアルイン機能を使う

ダイアルイン機能は、ファクス用の番号と電話用の番号のように 1 本の電話回線で複数の番号を利用できる機能です。

ダイアルイン機能を使うには、NTT とダイアルインサービス (モデムダイアルイン) の契約が必要です。管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [ダイアルイン設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ダイアルイン設定]	ダイアルイン機能を使うときは、チェックをつけます。初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ファクス番号]	ファクス用の番号を入力します (半角数字 11 桁以内)。
[電話番号]	電話用の番号を入力します (半角数字 11 桁以内)。
[PC-FAX 番号]	PC-FAX 受信用の電話番号を入力します (半角数字 11 桁以内)。PC-FAX 受信機能を使う場合に指定できます。

9.3.3 閉域受信機能を使う

閉域受信は、パスワードでファクスの通信相手を制限する機能です。通信相手がパスワード送信機能をもつ、弊社の機種のとくにだけお使いいただけます。

管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [閉域受信設定] で、[パスワードを変更する] にチェックをつけます (初期値: [OFF] (チェックなし))。あわせて、通信相手を制限するためのパスワードを入力します (半角数字 4 桁)。

通信相手に、ここで入力したパスワードを連絡してください。

9.3.4 リモート受信機能を使う

リモート受信は、本機に電話機を接続してお使いの場合に、電話機のダイアルでファクスの手動受信を操作する機能です。

管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [リモート受信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[リモート受信機能設定]	リモート受信機能を使うときは、チェックをつけます。初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[リモート受信番号]	受信指示用の番号 (リモート受信番号) を入力します (半角数字 2 桁、記号は #、* を使用可能)。

9.3.5 再送信機能を使う

再送信機能は、オートリダイアル機能でも送信できなかったファクスを本機のボックスに一定期間保存する機能です。

保存されたファクスは、ボックスから呼出してあとから再送信できます。

管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [再送信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[再送信設定]	再送信機能を使うときは、チェックをつけます。初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ファイル保持時間]	送信できなかったファクスを本機のボックスに保存する時間を選びます。初期値は [12] 時間です。

9.3.6 強制メモリー受信機能を使う

強制メモリー受信は、受信したファクスを印刷せずに、本機の強制メモリー受信ボックスに保存する機能です。受信したファクスの内容を確認して、必要なものだけを印刷することで、印刷コストを削減できます。

参考

- 強制メモリー受信機能を有効にすると、以下の機能は併用できません。
TSI 受信振分け、PC-FAX 受信、転送ファクス

- 1 管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [受信データ処理設定] で、[強制メモリー受信設定] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 [強制メモリー受信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[強制メモリー受信ボックスパスワード]	強制メモリー受信ボックスへのアクセスを制限するためのパスワードを入力します (半角数字 8 桁以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

9.3.7 転送ファクス機能を使う

転送ファクスは、受信したファクス、インターネットファクス、IP アドレスファクスを、あらかじめ設定しておいた宛先へ転送する機能です。

個人のメールアドレスに送ったり、コンピューターの共有フォルダーに保存したりできます。受信したファクスをコンピューターで扱えるファイルに変換できるため、印刷コストの削減にもなります。

参考

- 転送先がファクス以外の場合、受信したファクスは指定したファイル形式に変換して転送できます。指定できるファイル形式は、PDF、XPS、TIFF です。その他のファイル形式を指定するには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- 転送ファクス機能を有効にすると、以下の機能は併用できません。
PC-FAX 受信、TSI 受信振分け、強制メモリー受信
- インターネットファクスを使うには、管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワークファクス設定] - [ネットワークファクス機能設定] で、[I-Fax 機能設定] を [ON] に設定する必要があります。
- IP アドレスファクスを使うには、管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワークファクス設定] - [ネットワークファクス機能設定] で、[IP アドレスファクス機能設定] を [ON] に設定する必要があります。

- 1 管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [受信データ処理設定] で、[転送ファクス設定] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 転送ファクス機能を設定するファクス機能を選びます。
 - 本機で受信したファクスを転送する場合は、[ファクス設定選択] で、G3 ファクスの [編集] をクリックします。
 - 本機で受信したインターネットファクスを転送する場合は、[ファクス設定選択] で、インターネットファクスの [編集] をクリックします。
 - 本機で受信した IP アドレスファクスを転送する場合は、[ファクス設定選択] で、IP アドレスファクスの [編集] をクリックします。

3 [転送ファクス設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[転送ファクス設定]	転送ファクス機能を使うときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[出力機能]	受信したファクスを転送するときに、本機で印刷するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [常時印刷]：転送すると同時に、本機でも印刷します。 ・ [不達時のみ印刷]：正常に転送できなかった場合だけ、本機で印刷します。 初期値は [常時印刷] です。
[転送先]	受信したファクスの転送先を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [短縮宛先から選択]：本機に登録されている短縮宛先に転送します。 ・ [グループ宛先から選択]：本機に登録されているグループ宛先に転送します。 ・ [ボックス番号から選択]：本機に登録されているボックスに転送します。 ・ [宛先を直接指定する]：入力したファクス番号に転送します。
[ファイル形式]	ファクスを転送するときの、ファイル形式を選びます。 転送先がファクスの場合を除き、ファクスをファイルに変換できます。 初期値は [PDF] です。
[ページ設定]	受信したファクスが複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ページ一括]：すべてのページを 1 つのファイルに変換します。 ・ [ページ分割]：ページごとにファイルに変換します。 初期値は [ページ一括] です。
[E-Mail への添付方法]	転送先がメールアドレスで、[ページ設定] を [ページ分割] に設定したときの、添付のしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [全ファイル一括添付]：すべてのファイルを 1 通の E-mail に添付します。 ・ [1 メール 1 ファイル]：ファイルごとに 1 通の E-mail を送信します。 初期値は [全ファイル一括添付] です。

9.3.8 PC-FAX 受信機能を使う

PC-FAX 受信は、受信したファクスを強制メモリー受信ボックスまたは F コード (SUB アドレス) で指定したボックスに、自動的に保存する機能です。

保存したファクスは、ボックスからコンピューターに取込めます。

ダイアルインサービスをご利用の場合は、ダイアルインの PC-FAX 番号で受信したファクスだけ PC-FAX 受信するように設定できます。

参考

- PC-FAX 受信機能を有効にすると、以下の機能は併用できません。
強制メモリー受信、転送ファクス、TSI 受信振分け

1 管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [受信データ処理設定] で、[PC-FAX 受信設定] を選び、[OK] をクリックします。

2 [PC-FAX 受信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[PC-FAX 受信設定]	PC-FAX 受信機能を使うときは、[許可する] を選びます。 ダイアルインをお使いの場合は、[ダイアルインのみ] が選べます。[ダイアルインのみ] を選ぶと、ダイアルインの PC-FAX 番号で受信したときだけ PC-FAX 受信するように設定できます。 初期値は [許可しない] です。
[受信出力先]	受信したファクスの保存先を、[強制メモリ受信ボックス] または [指定ボックス] (F コード (SUB アドレス) で指定したボックス) から選びます。 初期値は [強制メモリ受信ボックス] です。
[受信後印刷]	受信したあとに、本機でも印刷するかどうかを選びます。 初期値は [する] です。
[通信パスワード]	[受信出力先] で [指定ボックス] を選んだ場合は、PC-FAX 受信をするときに、通信パスワード (送信 ID) を確認するかどうかを選びます。 通信パスワードを確認する場合は、[パスワードチェック] にチェックをつけてから、通信パスワードを入力します (半角数字 8 桁以内、記号は #、* を使用可能)。

9.3.9 TSI 受信振分け機能を使う

TSI (Transmitting Subscriber Identification) とは、送信元のファクス番号のことです。TSI 受信振分けは、送信元のファクス番号 (TSI) をもとに、受信したファクスを設定したボックスに自動的に振分けたり、ユーザーのコンピューターやメールアドレスに自動転送したりする機能です。

参考

- TSI 受信振分け機能を有効にすると、以下の機能は併用できません。
転送ファクス、強制メモリー受信、PC-FAX 受信

1 管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [受信データ処理設定] で、[TSI 受信振分け設定] を選び、[OK] をクリックします。

2 [TSI 受信振分け設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[TSI 受信振分け設定]	TSI 受信振分け機能を使うときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[該当ボックスなし設定]	ファクス番号 (TSI) が未登録で、振分け先がないファクスを受信したときの動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [受信印刷]：ボックスに保存せずに印刷します。 ・ [強制メモリ受信ボックス]：強制メモリ受信ボックスに保存します。 ・ [指定ボックス]：指定したボックスに保存します。[ボックス一覧より選択] をクリックすると、保存先のボックスを一覧から選べます。 ・ [指定宛先]：指定した短縮宛先に転送します。[宛先一覧より選択] をクリックすると、転送先を本機に登録されている短縮宛先から選べます。 ・ [指定グループ]：指定したグループ宛先に転送します。[宛先一覧より選択] をクリックすると、転送先を本機に登録されているグループ宛先から選べます。 初期値は [受信印刷] です。
[受信後印刷]	受信したあとに、本機でも印刷するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。

3 [設定して振分け先を登録] をクリックし、[OK] をクリックします。

- [一括設定] をクリックすると、受信したファクスを TSI 受信振分け機能を使って自動転送するときのファイル形式を設定できます。ここで設定したファイル形式は、すべての振分け先に対して適用されます。
[一括設定] は、オプションの拡張メモリーと LK-110 v2 (ファイル形式拡張パッケージ) を装着している場合に設定できます。
[TSI 受信振分け先一覧] が表示されます。

4 [TSI 受信振分け先一覧] の一覧から [登録] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[送信者 (TSI)]	振分け先を登録する送信元のファクス番号 (TSI) を入力します (半角数字 20 文字以内、記号は #、*、+、スペースを使用可能)。
[振分け先]	[送信者 (TSI)] で入力したファクス番号からファクスを受信したときの、振分け先を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [短縮宛先から選択]：本機に登録されている短縮宛先に振分けます。 ・ [グループ宛先から選択]：本機に登録されているグループ宛先に振分けます。 ・ [ボックス番号から選択]：本機に登録されているボックスに振分けます。
[ファイル形式]	ファクスを振分けるときの、ファイル形式を選びます。 転送先がファクスの場合を除き、ファクスをファイルに変換できます。 オプションの拡張メモリーと LK-110 v2 (ファイル形式拡張パッケージ) を装着している場合に設定できます。 初期値は [PDF] です。
[ページ設定]	受信したファクスが複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ページ一括]：すべてのページを 1 つのファイルに変換します。 ・ [ページ分割]：ページごとにファイルに変換します。 初期値は [ページ一括] です。
[E-Mail への添付方法]	ファクスを振分ける宛先がメールアドレスで、[ページ設定] を [ページ分割] に設定したときの、添付のしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [全ファイル一括添付]：すべてのファイルを 1 通の E-mail に添付します。 ・ [1 メール 1 ファイル]：ファイルごとに 1 通の E-mail を送信します。 初期値は [全ファイル一括添付] です。

9.3.10 PC-FAX 送信を禁止する

ファクスドライバーを使った PC-FAX 送信を許可するかどうかを選びます。

PC-FAX 送信を禁止する場合は、管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [PC-FAX 送信設定] で、[禁止] を選びます (初期値：[許可])。

9.4 ファクスレポートの印刷条件を設定する

ファクス関連のレポートの印刷条件を設定します。レポートには、自動で印刷されるものと、手動で印刷するものがあります。

管理者モードの [ファクス設定] - [レポート出力設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[送信結果レポート]	ファクスの送信結果を記載したレポートを印刷するタイミングを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [常時]：ファクスを送信したあと、常に印刷します。 ・ [エラー時のみ]：ファクスの送信に失敗した場合に印刷します。 ・ [OFF]：送信結果レポートを印刷しません。 初期値は [エラー時のみ] です。
[送信結果レポート出力確認画面]	送信結果レポートの印刷を確認する画面を、送信のたびに表示するかどうかを選びます。 初期値は [表示しない] です。
[順次通信結果レポート]	順次ポーリング受信や同報送信の結果を記載したレポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[同報結果レポート出力]	同報通信の結果を、通信したすべての宛先でまとめるか、宛先ごとに記載するかを選びます。 初期値は [全宛先一括] です。
[掲示板送信結果レポート出力]	掲示板にポーリング用のファクスを登録した記録を記載したレポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[中継結果レポート]	中継配信で送信した結果を記載したレポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[送信結果レポート出力設定]	送信結果レポート (送信結果レポート、同報通信結果レポート、ポーリング送信結果レポート、中継結果レポート、掲示板ポーリング送信結果レポート) の出力方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [印刷]：送信結果レポートを本機で印刷します。 ・ [E-mail 通知]：送信結果レポートを任意の宛先に E-mail で送信します。あらかじめ E-mail 送信の設定が必要です。E-mail 送信の設定については、7-2 ページをごらんください。 初期値は [印刷] です。 [E-mail 通知] を選んだ場合は、次の項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [通知宛先]：通知先のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。 ・ [通知先優先設定]：ユーザー認証を導入している場合に、通知先を選びます。[ユーザー宛先] を選ぶと、本機にログインしてファクスの送信を実行したユーザーのメールアドレスに通知します。ユーザーのメールアドレスが登録されていない場合は、[通知宛先] で登録した宛先に通知します。[通知宛先] を選ぶと、常に [通知宛先] で登録した宛先に通知します。初期値は [通知宛先] です。 ・ [レポートファイル添付]：送信結果レポートをファイルに変換して E-mail に添付するかどうかを選びます。初期値は [添付する] です。 ・ [レポート内画像設定]：送信結果レポートに、送信した原稿の 1 ページ目を表示するかどうかを選びます。初期値は [画像あり] です。 ・ [レポートファイル形式]：送信結果レポートを E-mail に添付するときのファイル形式を選びます。初期値は [PDF] です。
[通信管理レポート]	ファクスを送信/受信した結果を記載したレポートを印刷するかどうかを選びます。 印刷する場合は、印刷するタイミングを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [OFF]：通信管理レポートを印刷しません。 ・ [毎日]：[出力時刻設定] で指定した時刻に毎日印刷します。 ・ [100 通信ごと]：100 通信ごとに印刷します。 ・ [100/ 毎日]：[出力時刻設定] で指定した時刻に毎日印刷します。さらに 100 通信ごとにも印刷します。 初期値は [100 通信ごと] です。
[中継依頼受付レポート]	中継局として中継受信したときに、レポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[PC-FAX 送信エラーレポート]	ファクスドライバーを使った PC-FAX 送信に失敗したときに、レポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。

設定	説明
[予約レポート]	タイマー通信機能を使って通信を予約したときに、レポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[親展受信レポート]	親展受信の結果を記載したレポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[備考欄プリント設定]	本機でユーザー認証や部門管理を導入している場合に、ユーザー名/部門名を通信管理レポートの備考欄に印字するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [通常印字]：回線の状態や送信時の設定を印字します。 ・ [ユーザー名印字]：ユーザー認証のユーザー名を印字します。 ・ [部門名印字]：部門認証の部門名を印字します。 初期値は [通常印字] です。
[ネットワークファクス受信エラーレポート]	インターネットファクスやIPアドレスファクスで受信に失敗したときに、レポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[ジョブ番号表示]	印刷するレポートにジョブ番号を表示する場合は、[表示する] を選びます。対象となるのは次のレポートです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信管理レポート ・ 送信管理レポート ・ 受信管理レポート ・ 送信結果レポート ・ 同報結果レポート また、操作パネルのジョブ表示画面で、通信リストの通信時間の代わりに、ジョブ番号を表示します。 初期値は [表示しない] です。
[MDN メッセージ]	インターネットファクスが、相手の装置に届いたことをお知らせするレポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[DSN メッセージ]	インターネットファクスが、相手のメールサーバーに届いたことをお知らせするレポートを印刷するかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。
[正常受信メール本文印刷]	インターネットファクスを受信したあとに、正常に受信したことをお知らせするレポートを印刷するかどうかを選びます。レポートには、インターネットファクスの件名と本文が印刷されます。 初期値は [印刷する] です。
[凡例表示設定]	印刷するレポートに凡例を表示するには、[表示する] を選びます。凡例を表示しないと、送信した原稿の画像を、より大きな領域に表示することができます。 初期値は [表示する] です。

9.5 受信したファクスの削除を制限する

強制メモリー受信ボックス内のファクス文書の削除や、ジョブ表示画面からのファクス受信ジョブの削除を制限します。

制限方法には、次の2つの方法があります。

- 削除するときにユーザーに対してパスワードの入力を要求し、あらかじめ本機に登録したパスワードと一致した場合に削除できるようにする
- ボックス管理者または管理者権限でログインしている場合に削除できるようにする

管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [受信データ削除制限設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[受信データ削除制限設定]	受信したファクスの削除を制限する場合は、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[パスワードで削除]	受信したファクスの削除をパスワードで制限する場合に、パスワードを入力します (半角数字 8 桁以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ボックス管理者で削除]	ボックス管理者または管理者権限でログインしている場合のみ、受信したファクスの削除ができるように制限します。 [ボックス管理者で削除] は、ユーザー認証または部門管理が有効で、かつボックス管理者を設定している場合に表示されます。

9.6 着信を拒否する番号を登録する

迷惑ファクスを受信しないように、受信を拒否するファクス番号（着信拒否宛先）を登録します。

登録した着信拒否宛先と、着信したファクス番号が一致した場合は、ファクスを受信しません。着信拒否宛先を登録するには、NTT とナンバーディスプレイサービスの契約をし、本機でナンバーディスプレイ機能を設定する必要があります。ナンバーディスプレイ機能の設定について詳しくは、9-7 ページをごらんください。

管理者モードの [ファクス設定] - [着信拒否宛先] - [新規登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[登録 No.] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。
[電話番号]	受信を拒否するファクス番号を入力します（半角数字 38 文字以内、記号は - のみ使用可能）。 [着信履歴一覧から選択] をクリックすると、受信を拒否するファクス番号を過去の着信履歴から選べます。

10

ネットワークファクス機能の使
用環境を設定する

10 ネットワークファクス機能の使用環境を設定する

10.1 インターネットファクスの使用環境を設定する

概要

インターネットファクスは、企業内ネットワークやインターネットを通じて送受信するファクスです。インターネットファクスは、E-mail で送受信します。コンピューターと同じネットワークを使うので、遠隔地へ送信するときや、原稿の枚数が多いときでも、通信費を気にせず送受信できます。

本機では、SSL/TLS などの暗号化や、POP before SMTP 認証などにも対応しており、セキュリティへの対策もできます。

また、LDAP サーバーや Active Directory などのディレクトリサーバーでユーザーを管理している場合は、サーバーからメールアドレスを検索することもできます。

インターネットファクスを使う場合は、次の手順で設定してください。

- ✓ インターネットファクスを使うには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための 設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 インターネットファクス送受信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、10-3 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
ファクスの到着確認をしたい	10-5 ページ
通信相手に通知する本機の受信能力を変更したい	10-5 ページ
モノクロ送信するときの圧縮形式の初期値を変更したい	10-5 ページ
カラー送信するときの圧縮形式の初期値を変更したい	10-6 ページ
メールサーバーと SSL/TLS で通信したい	10-6 ページ
E-mail 送信時に SMTP 認証を使いたい	7-5 ページ
E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使いたい	10-8 ページ
LDAP サーバーや Active Directory を使ってメールアドレスを検索したい	7-19 ページ

インターネットファクス送受信の基本設定をする

インターネットファクス機能を有効にします。あわせて、本機の情報や、E-mail の送受信に必要な設定をします。

1 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワークファクス設定] - [ネットワークファクス機能設定] で、[I-Fax 機能設定] を [ON] に設定します (初期値: [OFF])。

2 管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[装置名称]	装置の名前を入力します (スペースを除く半角 80 文字以内)。ここで設定した名前が、インターネットファクスの件名の一部として使われます。
[E-mail アドレス]	本機のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。このメールアドレスが、インターネットファクスの発信元アドレスとして使われます。

3 管理者モードの [ファクス設定] - [発信元 / ファクス ID 登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[デフォルト]	発信元名の初期値を選びます。初期値に設定した発信元名は、ファクスを送信するときに、自動的に付加されます。
[発信元名]	登録した発信元名を表示します。
[編集]	発信元名を 20 件まで登録できます。送信先に応じて、発信元名を使い分けたいときに登録します。
[登録 No.]	登録番号を表示します。
[発信元名]	発信元名を入力します (半角 30 文字 / 全角 15 文字以内)。
[削除]	登録されている発信元名を削除します。

4 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 送信設定]	インターネットファクスを使うときは、チェックをつけます。初期値は [ON] (チェックあり) です。
[スキャン送信]	インターネットファクスを使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用する] です。
[E-mail 通知機能]	用紙の補給やトナー交換時期、紙づまりなど、本機で警告が発生したときに、登録したメールアドレスに通知できます。詳しくは、14-11 ページをごらんください。初期値は [使用する] です。
[トータルカウンター通知機能]	トータルカウンター通知機能を使うかどうかを選びます。本機で管理しているカウンター情報を、登録したメールアドレスに送信できます。詳しくは、14-12 ページをごらんください。初期値は [使用する] です。
[SMTP サーバーアドレス]	お使いのメールサーバー (SMTP) のアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 ・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) のポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [25] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) との通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。

設定	説明
[サーバー負荷軽減送信方法]	<p>メールサーバー (SMTP) の負荷を軽減するための送信方式を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [バイナリ分割]：大きなサイズの E-mail を送信するとき、[バイナリ分割サイズ] の設定に従って E-mail を分割します。 ・ [上限超過で送信中止]：E-mail のサイズが [サーバー容量上限] で指定した容量を超えた場合に、送信を中止します。 ・ [上限超過で URL 送信]：E-mail のサイズが [サーバー容量上限] で指定した容量を超えた場合に、送信先として指定したメールアドレスにファイルを添付せずにダウンロード URL を通知します。 ・ [常に URL 送信]：送信先として指定したメールアドレスにファイルを添付せずにダウンロード URL を通知します。 <p>初期値は [使用しない] です。</p>
[バイナリ分割サイズ]	[サーバー負荷軽減送信方法] で [バイナリ分割] を選んだ場合に、E-mail を分割するサイズを入力します。
[最大メールサイズ]	<p>[サーバー負荷軽減送信方法] で [上限超過で送信中止] または [上限超過で URL 送信] を選んだ場合に、メールサーバー (SMTP) が許容する E-mail の最大サイズを入力します。[最大メールサイズ] で [制限] を選んでから、[サーバー容量上限] にメールサーバー (SMTP) が許容する E-mail の最大サイズを入力します。</p> <p>初期値は [無制限] です。</p>

5 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[E-mail 受信設定]	<p>インターネットファクスを使うときは、[使用する] を選びます。</p> <p>初期値は [使用する] です。</p>
[POP サーバーアドレス]	<p>お使いのメールサーバー (POP) のアドレスを入力します。</p> <p>次のいずれかのフォーマットで入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：[host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：[192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：[fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[ログイン名]	<p>メールサーバー (POP) で E-mail 受信するときのログイン名を入力します (半角 63 文字以内)。</p>
[パスワード]	<p>[ログイン名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 15 文字以内)。</p> <p>パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。</p>
[接続タイムアウト]	<p>必要に応じて、メールサーバー (POP) との通信のタイムアウト時間を変更します。</p> <p>初期値は [30] 秒です。</p>
[ポート番号]	<p>必要に応じて、メールサーバー (POP) のポート番号を変更します。</p> <p>通常はそのままお使いいただけます。</p> <p>初期値は [110] です。</p>
[自動到着チェック]	<p>本機からメールサーバー (POP) に定期的に接続して、ファクスの到着の有無の問い合わせをする場合はチェックをつけます。あわせて、[ポーリング間隔] に、メールサーバー (POP) に接続する間隔を入力します。</p> <p>初期値は [ON] (チェックあり) です。</p>

ファクスの到着確認をする

インターネットファクスを送受信した結果を要求または応答したり、装置の能力情報の交換に関する設定をします。

管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [I-Fax 拡張設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[MDN 要求]	送信先に対して、ファクスの受信結果を要求 (MDN 要求) するかどうかを選びます。 MDN 要求をする場合、送信先がファクスを受信すると、応答メッセージが返ってきて、送信先が受信したことを確認できます。 また、送信先から応答メッセージを受信することで、送信先の受信能力情報を取得することもできます。宛先に登録されている送信先からの応答メッセージを受信した場合は、取得した受信能力情報が上書き登録されます。 初期値は [ON] です。
[DSN 要求]	送信先のメールサーバーに対して、ファクスの到着結果を要求 (DSN 要求) するかどうかを選びます。 [MDN 要求] で [ON] を選んだ場合は、MDN 要求を優先します。 初期値は [OFF] です。
[MDN 応答]	送信元から、ファクスの受信結果の要求 (MDN 要求) があった場合に、応答メッセージを返すかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[MDN/DSN 応答監視設定]	本機から MDN 要求または DSN 要求をしたときの送信先からの応答の待ち時間を設定する場合は、チェックをつけます。 必要に応じて、[監視時間] で、送信先からの応答の待ち時間を変更します。 待ち時間を過ぎて受信した応答メッセージは無視されます。 初期値は [24] 時間です。
[最高解像度]	必要に応じて、本機が対応する最高解像度を切替えます。 初期値は [超高精細] です。
[Content-Type 情報付加]	インターネットファクスを送信するときに、Content-Type 情報を付加するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。

本機の受信能力を設定する

本機が MDN 応答を返すときに、本機の受信能力を通知します。必要に応じて、MDN 応答で通知する内容を変更します。

管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [I-Fax 自機受信能力] で、次の設定をします。

設定	説明
[圧縮形式]	本機が受信できる圧縮形式にチェックをつけます。
[用紙サイズ]	本機が受信できる用紙サイズにチェックをつけます。
[ファクス解像度]	本機が受信できる解像度にチェックをつけます。

モノクロ送信するときの圧縮形式の初期値を設定する

必要に応じて、モノクロで送信するときの、圧縮形式の初期値を変更します。

管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [白黒 2 値圧縮方法] で、次の設定をします。

設定	説明
[白黒 2 値圧縮方法]	モノクロで送信するときの、圧縮形式の初期値を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [MH] : [MMR] に比べて、画像データサイズが大きくなります。 [MR] : [MH] と [MMR] の中間の画像データサイズになります。 [MMR] : 画像データサイズが最も小さくなります。 初期値は [MMR] です。

カラー送信するときの圧縮形式の初期値を設定する

必要に応じて、フルカラーまたはグレースケールで送信するときの、圧縮形式の初期値を変更します。

管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [カラー / モノクロ多値圧縮方法] で、次の設定をします。

設定	説明
[カラー / モノクロ多値圧縮方法]	フルカラーまたはグレースケールで送信するときの、圧縮形式の初期値を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [JPEG(カラー)] : 画像データをカラーの JPEG 形式で圧縮します。 ・ [JPEG(グレースケール)] : 画像データをモノクロの JPEG 形式で圧縮します。 ・ [指定しない] : [白黒 2 値圧縮方法] で指定した圧縮形式に従って圧縮します。カラーまたはグレースケールで送信できません。どのようなファイル形式を指定しても、TIFF 形式に変換します。 初期値は [JPEG(カラー)] です。

SSL/TLS で通信する

本機とメールサーバー (SMTP) との通信を、SSL/TLS で暗号化します。本機は、SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。

お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL/TLS で暗号化している場合に設定します。



参考

- 他社機へ送信する場合は、SSL/TLS を使用しないでください。SSL/TLS を使用して送信すると、エラーになります。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS 使用]	メールサーバー (SMTP) との通信の暗号化方法を選びます。お使いの環境に合わせて、[SMTP over SSL] または [Start TLS] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[ポート番号]	[SSL/TLS 使用] で [Start TLS] を選んだ場合に、必要に応じて、通信用のポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [25] です。
[ポート番号 (SSL)]	[SSL/TLS 使用] で [SMTP over SSL] を選んだ場合に、必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [465] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。



管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

SMTP 認証を使う

お使いの環境で E-mail 送信時に SMTP 認証を使っている場合に設定します。

SMTP 認証を使うと、E-mail 送信するときに、本機からユーザー ID とパスワードを送信して認証を行います。

SMTP 認証を使うには、本機で SMTP 認証を有効にします。あわせて、認証に必要な情報を入力します。

管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMTP 認証]	SMTP 認証を使うときは、チェックをつけます。 [SMTP 認証方式設定] で、以下の認証方式ごとに、使用するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Kerberos ・ NTLMv1 ・ Digest-MD5 ・ CRAM-MD5 ・ LOGIN ・ PLAIN 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ユーザー ID]	SMTP 認証のユーザー ID を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー ID] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	SMTP 認証のドメイン名 (realm) を入力します (半角 253 文字以内)。 SMTP 認証の認証方式が、Digest-MD5 の場合に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ドメイン (realm) が 2 つ以上存在する場合に、ドメイン名を入力します。 ・ ドメイン (realm) が 1 つの場合は、入力不要です。初期通信時にメールサーバー (SMTP) からドメイン名が通知され、そのドメイン名を使って自動的に通信します。
[認証設定]	SMTP 認証と、本機のユーザー認証を連動させるかどうか選びます。本機でユーザー認証を導入している場合に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ユーザー認証を使用] : 本機の登録ユーザーのユーザー名とパスワードを、SMTP 認証の [ユーザー ID] と [パスワード] として使います。 ・ [設定値を使用] : [ユーザー ID] と [パスワード] で入力した値を使います。E-mail 送信を行うユーザーと、[ユーザー ID] で設定したユーザーとの不一致によって SMTP 認証が失敗する場合は、[Envelope-From 設定] で [指定する] を選び、[From アドレス] に、Envelope-From に適用するメールアドレスを入力します。[Envelope-From 設定] で [指定しない] を選ぶと、Envelope-From には本機の管理者のメールアドレスが適用されます。本機の管理者のメールアドレスについて詳しくは、4-2 ページをごらんください。 初期値は [設定値を使用] です。

POP before SMTP 認証を使う

お使いの環境で E-mail 送信時に POP before SMTP 認証を使っている場合に設定します。

POP before SMTP 認証は、E-mail を送信する前に、メールサーバー (POP) で POP 認証を行い、認証に成功した場合のみ E-mail 送信の許可を与える、送信者認証機能です。

POP before SMTP 認証を使うには、本機で POP before SMTP を有効にします。あわせて、認証に使うメールサーバー (POP) への接続設定を行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[POP before SMTP]	POP before SMTP を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[POP before SMTP 時間]	必要に応じて、POP 認証してから E-mail 送信を開始するまでの待ち時間を変更します。 お使いの環境によっては、POP 認証後、E-mail 送信が許可されるまでに時間がかかることがあります。その場合、設定時間が短すぎると、E-mail を送信できないことがあります。 初期値は [5] 秒です。

- 2 お使いの環境に応じて、POP over SSL、APOP の設定をします。管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 受信 (POP)] で、次の設定をします。

設定	説明
[APOP 認証]	お使いのメールサーバー (POP) で APOP をお使いの場合は、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[SSL/TLS 使用]	メールサーバー (POP) との通信を SSL で暗号化する場合は、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [995] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

10.2 IP アドレスファクスの使用環境を設定する

概要

IP アドレスファクスは、企業内ネットワークなど、限られたネットワーク内でファクスを送受信します。宛先は IP アドレスのほか、ホスト名やメールアドレスでも送受信できます。

通信には、SMTP プロトコルを使います。本機のメールサーバー (SMTP) 機能で通信するため、送信先の IP アドレスを指定して通信する場合は、サーバーが必要ありません。

IP アドレスファクスを使う場合は、次の手順で設定してください。

- ✓ IP アドレスファクスを使うには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- ✓ この機能を使うには、オプションの FAX キット が必要です。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 IP アドレスファクス送受信の基本設定をする
→ 設定のしかたは、10-9 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
モノクロ送信するときの圧縮形式の初期値を変更したい	10-10 ページ
カラー送信するときの圧縮形式の初期値を変更したい	10-11 ページ

IP アドレスファクス送受信の基本設定をする

IP アドレスファクスを有効にします。あわせて、ファクスの送受信に関する設定や、本機の発信元情報、IP アドレスファクスの動作モードなどを設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワークファクス設定] - [ネットワークファクス機能設定] で、[IP アドレスファクス機能設定] を [ON] に設定します (初期値: [OFF])。
- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワークファクス設定] - [SMTP 送信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) のポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [25] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) との通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。

- 3 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワークファクス設定] - [SMTP 受信設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMTP 受信機能]	IP アドレスファクスを使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[ポート番号]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) のポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [25] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、メールサーバー (SMTP) との通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [300] 秒です。

4 管理者モードの [ファクス設定] - [発信元 / ファクス ID 登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[デフォルト]	発信元名の初期値を選びます。 初期値に設定した発信元名は、ファクスを送信するときに、自動的に付加されます。
[発信元名]	登録した発信元名を表示します。
[編集]	発信元名を 20 件まで登録できます。 送信先に応じて、発信元名を使い分けたいときに登録します。
[登録 No.]	登録番号を表示します。
[発信元名]	発信元名を入力します (半角 30 文字 / 全角 15 文字以内)。
[削除]	登録されている発信元名を削除します。

5 管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [IP アドレスファクス動作設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[動作モード]	お使いの環境に合わせて、IP アドレスファクスの動作モードを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [モード 1] : IP アドレスファクス通信が可能な弊社機種間、および CIAJ(情報通信ネットワーク産業協会)が定めるダイレクト SMTP 規格に適合した機種間で通信できます。ただし、カラー送信は、弊社専用の方式で行われるため、弊社機種でのみ受信できます。 ・ [モード 2] : IP アドレスファクス通信が可能な弊社機種間、および CIAJ(情報通信ネットワーク産業協会)が定めるダイレクト SMTP 規格に適合した機種間で通信できます。カラー送信は、ダイレクト SMTP 規格に適合した方式 (Profile-C フォーマット) で行われます。 初期値は [モード 1] です。
[カラー原稿の送信]	[動作モード] で [モード 2] を選んだ場合に、カラー送信を許可するかどうかを選びます。 ダイレクト SMTP 規格のカラー受信ができない機種に送信する場合に [許可しない] を選びます。 初期値は [許可する] です。

モノクロ送信するときの圧縮形式の初期値を設定する

必要に応じて、モノクロで送信するときの、圧縮形式の初期値を変更します。

管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [白黒 2 値圧縮方法] で、次の設定をします。

設定	説明
[白黒 2 値圧縮方法]	モノクロで送信するときの、圧縮形式の初期値を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [MH] : [MMR] に比べて、画像データサイズが大きくなります。 ・ [MR] : [MH] と [MMR] の中間の画像データサイズになります。 ・ [MMR] : 画像データサイズが最も小さくなります。 初期値は [MMR] です。

カラー送信するときの圧縮形式の初期値を設定する

必要に応じて、フルカラーまたはグレースケールで送信するときの、圧縮形式の初期値を変更します。

管理者モードの [ファクス設定] - [ネットワークファクス設定] - [カラー / モノクロ多値圧縮方法] で、次の設定をします。

設定	説明
[カラー / モノクロ多値圧縮方法]	フルカラーまたはグレースケールで送信するときの、圧縮形式の初期値を選びます。 <ul style="list-style-type: none">• [JPEG(カラー)] : 画像データをカラーの JPEG 形式で圧縮します。• [JPEG(グレースケール)] : 画像データをモノクロの JPEG 形式で圧縮します。• [指定しない] : [白黒 2 値圧縮方法] で指定した圧縮形式に従って圧縮します。カラーまたはグレースケールで送信できません。どのようなファイル形式を指定しても、TIFF 形式に変換します。 初期値は [JPEG(カラー)] です。

11

ボックス機能の使用環境を設定する

11 ボックス機能の使用環境を設定する

11.1 ボックスを登録／編集する

11.1.1 ボックスを登録する

共有／個人／グループボックスを登録します。

- 個人ボックスは、ユーザー認証を導入している場合に利用できるボックスです。
- グループボックスは、部門管理を導入している場合に利用できるボックスです。

管理者モードの [ボックス] - [ボックス一覧] - [新規登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[ボックス No.]	ボックスの登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、1 ～ 999999999 の範囲で入力します。
[ボックス名]	ボックスの名前を入力します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。登録するボックスに、わかりやすい名前をつけます。
[ボックスパスワードを使用する]	ボックスの利用をパスワードで制限する場合は、チェックをつけてから、パスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[検索文字]	ボックスを [ボックス名] でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。
[ボックスタイプ]	ユーザー認証や部門管理の状況により、[共有] / [個人] / [グループ] を選べます。 <ul style="list-style-type: none"> • [個人] を選んだときは所有ユーザーを指定します。 • [グループ] を選んだときは所有部門を指定します。
[ボックス内ドキュメント削除時間]	ボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷、送信した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [削除しない] : ボックスにファイルを残します。 • [日数設定] : 自動的に削除するまでの日数を選びます。 • [時間設定] : 自動的に削除するまでの時間を入力します。
[ボックス拡張機能]	ボックスの拡張機能を設定する場合には、[表示] をクリックします。
[親展受信]	ボックスに親展受信の機能を付加する場合には、[親展受信] にチェックをつけます。あわせて、親展受信用のパスワードを入力します (半角 8 文字以内)。ここで設定したパスワードは、本機へ親展送信するときに必要です。送信元に、設定したパスワードを連絡してください。この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。
[SMB フォルダへの文書自動登録]	本機の共有ボックスに保存されたファイルを、SMB プロトコルでネットワーク上で共有する場合には、[使用する] を選びます。[使用する] を選んだ場合は、[SMB 通信の暗号化] で、クライアントとの SMB 通信を暗号化するかどうかを選びます。暗号化を行うには、ボックスにパスワードが設定されている必要があります。暗号化した場合、SMB 3.0 以降のクライアントからのみアクセスできます。次の場合に設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [ボックスタイプ] で [共有] を選んでいる • 管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB サーバー設定] で、[SMB サーバー設定] および [SMB ファイル共有設定] を有効にしている • [親展受信] にチェックをつけていない 初期値は [使用しない] です。

11.1.2 ボックスの設定を変更する

管理者モードにログインすると、ボックスのパスワードを入力しなくても、登録されているボックスの設定を変更したり、削除したりできます。

- 1 管理者モードの [ボックス] - [ボックス一覧] をクリックします。
- 2 設定を変更したいボックスの [編集] をクリックします。
→ [削除] をクリックすると、選んだボックスを削除できます。
- 3 [ボックス属性変更] で、ボックスの設定を変更します。

設定	説明
[ボックス名]	ボックスの名前を変更します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。登録するボックスに、わかりやすい名前をつけます。
[検索文字]	ボックスを [ボックス名] でインデックス検索するための文字を変更します。
[ボックス拡張機能を変更する]	ボックスの拡張機能を変更する場合には、チェックをつけます。
[親展受信]	ボックスの親展受信の機能を変更する場合には、[ON] を選びます。あわせて、親展受信用のパスワードを入力します (半角 8 文字以内)。ここで設定したパスワードは、本機へ親展送信するときに必要です。送信元に、設定したパスワードを連絡してください。この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。
[SMB フォルダへの文書自動登録]	本機の共有ボックスに保存されたファイルを、SMB プロトコルでネットワーク上で共有する場合には、[使用する] を選びます。 [使用する] を選んだ場合は、[SMB 通信の暗号化] で、クライアントとの SMB 通信を暗号化するかどうかを選びます。暗号化を行うには、ボックスにパスワードが設定されている必要があります。暗号化した場合、SMB 3.0 以降のクライアントからのみアクセスできます。 次の場合に設定できます。 ・ [ボックスタイプ] で [共有] を選んでいる ・ 管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB サーバー設定] で、[SMB サーバー設定] および [SMB ファイル共有設定] を有効にしている ・ [親展受信] にチェックをつけていない 初期値は [使用しない] です。
[ボックスパスワードを変更する]	ボックスのパスワードを変更する場合は、チェックをつけてから、新しいパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[所有ユーザーを変更する]	ボックスのタイプや所有ユーザーを変更する場合は、チェックをつけます。ユーザー認証や部門管理の状況により、[共有] / [個人] / [グループ] を選べます。 ・ [個人] を選んだときは所有ユーザーを指定します。 ・ [グループ] を選んだときは所有部門を指定します。

11.2 システムボックスを登録／編集する

11.2.1 掲示板ボックスを登録する

掲示板ボックスは、ポーリング送信用のファクス文書を複数種類、保存しておくためのボックスです。

お知らせなどのファクス文書を目的ごとの掲示板ボックスに保存しておき、該当するボックス番号を受信側に通知しておけば、受信側のユーザーは必要なファクス文書を選んでポーリング受信できるようになります。



参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キット が必要です。

管理者モードの [ボックス] - [システムボックス一覧] - [新規登録] - [掲示板ボックス] で、次の設定をします。

設定	説明
[ボックス No.]	ボックスの登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、1 ~ 999999999 の範囲で入力します。
[ボックス名]	ボックスの名前を入力します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。登録するボックスに、わかりやすい名前をつけます。
[ボックスパスワードを使用する]	ボックスの利用をパスワードで制限する場合は、チェックをつけてから、パスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[ボックスタイプ]	ユーザー認証や部門管理の状況により、[共有] / [個人] / [グループ] を選べます。 <ul style="list-style-type: none"> [個人] を選んだときは所有ユーザーを指定します。 [グループ] を選んだときは所有部門を指定します。
[ボックス内ドキュメント削除時間]	ボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷、送信した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> [削除しない] : ボックスにファイルを残します。 [日数設定] : 自動的に削除するまでの日数を選びます。 [時間設定] : 自動的に削除するまでの時間を入力します。

11.2.2 中継ボックスを登録する

中継ボックスは、本機をファクスの中継機として使う場合に設定する、中継用のボックスです。

中継配信を使うと、1 通のファクスを中継機に送信するだけで、受信した中継機は、あらかじめ中継ボックスに登録した宛先それぞれに受信したファクスを送信します。

遠距離への同報送信がしたいときなど、中間機を経由して全体の通信コストを抑えます。



参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キット が必要です。

管理者モードの [ボックス] - [システムボックス一覧] - [新規登録] - [中継ボックス] で、次の設定をします。

設定	説明
[ボックス No.]	ボックスの登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、1 ~ 999999999 の範囲で入力します。
[ボックス名]	ボックスの名前を入力します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。登録するボックスに、わかりやすい名前をつけます。
[中継宛先]	[宛先一覧より選択] をクリックして、ファクスの配信先を登録したグループ宛先を選びます。中継宛先として登録するグループ宛先には、ファクス宛先が含まれている必要があります。
[中継パスワード] / [中継パスワードの再入力]	ボックスの利用をパスワードで制限する場合は、パスワードを入力します (半角数字 8 文字以内、記号は #、* を使用可能)。ここで設定したパスワードは、本機へ中継依頼するときに必要です。依頼元に、設定したパスワードを連絡してください。

11.2.3 ファイリングナンバーボックスを登録する

ファイリングナンバーボックスは、保存したファイルを印刷、または送信するときに、日付、時刻、ファイリング番号を自動的に付加するボックスです。

ファイリングナンバーボックスからファイルを印刷、送信するとき、あらかじめ設定しておいた管理用の日付／時刻やファイリング番号を、画像内のヘッダーまたはフッターに自動的に付加します。作成日時や連番のページ番号を特定できる文書を作成することで、不正な利用を抑止します。

管理者モードの [ボックス] - [システムボックス一覧] - [新規登録] - [ファイリングナンバーボックス] で、次の設定をします。

設定	説明
[ボックス No.]	ボックスの登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、1 ~ 999999999 の範囲で入力します。
[ボックス名]	ボックスの名前を入力します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。登録するボックスに、わかりやすい名前をつけます。
[ボックスパスワードを使用する]	ボックスの利用をパスワードで制限する場合は、チェックをつけてから、パスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[ボックス内ドキュメント削除時間]	ボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷、送信した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [削除しない] : ボックスにファイルを残します。 ・ [残さない] : コピー時など、保存や利用の必要がなく、ファイリング番号だけを付加する目的で使う場合に選びます。 ・ [日数設定] : 自動的に削除するまでの日数を選びます。 ・ [時間設定] : 自動的に削除するまでの時間を入力します。
[ナンバーカウント方式]	ファイルに付加する番号を、ジョブ単位または、ページ単位から選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブ単位] : ファイルごとに番号を付加します。1 つのファイルが複数のページであっても、1 ジョブとして同番号を付加します。 ・ [ページ単位] : ページごとに番号を付加します。
[文字列指定]	必要に応じて、ファイルに付加する固定の文字列や、日時、印字位置などを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [文字列] : 任意の文字列を追加できます (半角 40 文字以内)。 ・ [ナンバー文字列] : ファイリング番号の先頭に任意の文字列を追加できます (半角 20 文字以内)。 ・ [日付 / 時刻] : 日時の表示の種類を選びます。 ・ [印字位置] : ファイリング番号を印字する位置を選びます。 ・ [濃度] : 印刷する日時やファイリング番号の文字の濃さを選びます。 ・ [カウンター出力形式] : ファイリング番号の桁数を選びます。

参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効 / 無効に関わらず利用できます。

11.2.4 掲示板ボックスの設定を変更する

管理者モードにログインすると、掲示板ボックスのパスワードを入力しなくても、登録されている掲示板ボックスの設定を変更したり、削除したりできます。

参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キット が必要です。
- 1 管理者モードの [ボックス] - [システムボックス一覧] をクリックします。
 - 2 設定を変更したいボックスの [編集] をクリックします。
→ [削除] をクリックすると、選んだボックスを削除できます。
 - 3 [ボックス属性変更] で、ボックスの設定を変更します。

設定	説明
[ボックス名]	ボックスの名前を変更します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。
[ボックスパスワードを変更する]	ボックスのパスワードを変更する場合は、チェックをつけてから、新しいパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[所有ユーザーを変更する]	ボックスのタイプや所有ユーザーを変更する場合は、チェックをつけます。ユーザー認証や部門管理の状況により、[共有] / [個人] / [グループ] を選べます。 <ul style="list-style-type: none"> • [個人] を選んだときは所有ユーザーを指定します。 • [グループ] を選んだときは所有部門を指定します。

11.2.5 中継ボックスの設定を変更する

管理者モードにログインすると、中継ボックスのパスワードを入力しなくても、登録されている中継ボックスの設定を変更したり、削除したりできます。

参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キット が必要です。
- 1 管理者モードの [ボックス] - [システムボックス一覧] をクリックします。
 - 2 設定を変更したいボックスの [編集] をクリックします。
→ [削除] をクリックすると、選んだボックスを削除できます。
 - 3 [ボックス属性変更] で、ボックスの設定を変更します。

設定	説明
[ボックス名]	ボックスの名前を変更します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。
[中継宛先]	配信先を変更する場合は、[宛先一覧より選択] をクリックして、ファクスの配信先を登録したグループ宛先を選びます。中継宛先として登録するグループ宛先には、ファクス宛先が含まれている必要があります。
[中継パスワードを変更する]	中継パスワードを変更する場合は、チェックをつけてから、新しいパスワードを入力します (半角数字 8 文字以内、記号は #、* を使用可能)。ここで設定したパスワードは、本機へ中継依頼するときに必要です。依頼元に、設定したパスワードを連絡してください。

11.2.6 ファイリングナンバーボックスの設定を変更する

管理者モードにログインすると、ファイリングナンバーボックスのパスワードを入力しなくても、登録されているファイリングナンバーボックスの設定を変更したり、削除したりできます。

- 1 管理者モードの [ボックス] - [システムボックス一覧] をクリックします。
- 2 設定を変更したいボックスの [編集] をクリックします。
→ [削除] をクリックすると、選んだボックスを削除できます。
- 3 [ボックス属性変更] で、ボックスの設定を変更します。

設定	説明
[ボックス名]	ボックスの名前を変更します (半角 20 文字 / 全角 10 文字以内)。
[ボックス内ドキュメント削除時間]	ボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷、送信した日時から、自動的に削除するまでの時間を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [削除しない] : ボックスにファイルを残します。 ・ [残さない] : コピー時など、保存や利用の必要がなく、ファイリング番号だけを付加する目的で使う場合に選びます。 ・ [日数設定] : 自動的に削除するまでの日数を選びます。 ・ [時間設定] : 自動的に削除するまでの時間を入力します。
[ボックスパスワードを変更する]	ボックスのパスワードを変更する場合は、チェックをつけてから、新しいパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[ナンバーカウント方式を変更する]	ナンバーカウント方式を変更する場合は、チェックをつけてから、設定内容を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブ単位] : ファイルごとに番号を付加します。1 つのファイルが複数のページであっても、1 ジョブとして同番号を付加します。 ・ [ページ単位] : ページごとに番号を付加します。
[文字列指定を変更する]	文字列指定を変更する場合は、チェックをつけてから、設定内容を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [文字列] : 任意の文字列を追加できます (半角 40 文字以内)。 ・ [ナンバー文字列] : ファイリング番号の先頭に任意の文字列を追加できます (半角 20 文字以内)。 ・ [日付 / 時刻] : 日時の表示の種類を選びます。 ・ [印字位置] : ファイリング番号を印字する位置を選びます。 ・ [濃度] : 印刷する日時やファイリング番号の文字の濃さを選びます。 ・ [カウンター出力形式] : ファイリング番号の桁数を選びます。

参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効 / 無効に関わらず利用できます。

11.3 ユーザーボックスの使用環境を設定する

11.3.1 ボックスの上限数を設定する

ユーザーが本機に登録できる共有ボックスの最大数を設定できます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [共有ボックス設定] で、[ボックス上限設定を行う] にチェックをつけます (初期値: [OFF] (チェックなし))。

あわせて、ユーザーが本機に登録できる共有ボックスの最大数を入力します (単位: 個)。

11.3.2 空のボックスをすべて削除する

ファイルが保存されていないボックスを不要ボックスとして削除します。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [不要ボックス削除] で、[OK] をクリックします。

11.3.3 ボックス内のファイルを自動的に削除する

共有/個人/グループボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷、送信した日時から、自動的に削除するまでの時間を、管理者が一括設定します。

ここで設定した削除時間が、すでに登録済みのボックス内のファイル、およびこれから登録するボックス内のファイルの削除時間として適用されます。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [文書削除時間設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[削除設定]	ボックス内のファイルを自動的に削除するまでの時間を、管理者が一括設定するかどうかを選びます。 [する] を選ぶと、ユーザーモードでボックスを登録するとき、[ボックス内ドキュメント削除時間] の設定が表示されなくなるため、ユーザーはボックスごとに削除時間を指定できなくなります。 初期値は [しない] です。
[削除時間設定]	ボックス内のファイルを自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [削除しない]: ボックスにファイルを残します。 ・ [日数設定]: 自動的に削除するまでの日数を選びます。 ・ [時間設定]: 自動的に削除するまでの時間を入力します。

11.3.4 SMB フォルダー内のファイルを自動的に削除する

SMB ファイル共有機能を使って、共有ボックスのファイルをネットワーク上で共有している場合に、共有ボックスを介して SMB フォルダーにファイルを保存した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。



参考

- この画面は、管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB サーバー設定] で、[SMB サーバー設定] および [SMB ファイル共有設定] を有効にし、SMB 共有フォルダーを作成している場合に表示されます。

ここで設定した削除時間が、すでに登録済みの SMB フォルダー内のファイル、およびこれから登録する SMB フォルダー内のファイルの削除時間として適用されます。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [SMB フォルダー内文書削除時間設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMB フォルダー内文書削除時間設定]	SMB フォルダー内のファイルを自動的に削除するまでの時間を、管理者が一括設定するかどうかを選びます。 初期値は [する] です。
[SMB フォルダー内文書削除時間]	SMB フォルダー内のファイルを自動的に削除するまでの時間を設定します。 初期値は [1 日] です。

11.3.5 印刷／送信後のファイルの処理方法を設定する

共有／個人／グループ／ファイリングナンバーボックス内のファイルを印刷または送信したあと、ファイルをボックスに保持するかどうかを設定します。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [文書保持設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[保持設定]	ボックス内のファイルを印刷または送信したあと、ファイルをボックスに保持するかどうかを選びます。 初期値は [保持する] です。
[削除選択画面]	ファイルをボックスに保持する場合は、削除確認の画面を表示するかどうかを選びます。 [表示する] を選ぶと、ボックス内のファイルを印刷または送信したあと、ファイルをボックスに残すかどうかを、ユーザーに選ばせることができます。 初期値は [表示しない] です。

11.4 システムボックスの使用環境を設定する

11.4.1 セキュリティ文書をすべて削除する

セキュリティ文書ボックスに保存されているすべてのファイルを削除します。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [セキュリティ文書削除] で、[OK] をクリックします。

11.4.2 システムボックス内のファイルを自動的に削除する

セキュリティ文書ボックスと、認証&プリントボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [削除時間設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[セキュリティ文書削除時間設定]	セキュリティ文書ボックスにファイルを保存した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定するときは、チェックをつけます。あわせて、自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [日数設定]：自動的に削除するまでの日数を選びます。 ・ [時間設定]：自動的に削除するまでの時間を入力します。 初期値は [1日] です。
[認証 & プrint削除時間設定]	認証 & プrintボックスにファイルを保存した日時、または最後に印刷した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定するときは、チェックをつけます。あわせて、自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [日数設定]：自動的に削除するまでの日数を選びます。 ・ [時間設定]：自動的に削除するまでの時間を入力します。 ユーザー認証を導入している場合に設定できます。 初期値は [1日] です。

11.4.3 認証&プリント文書の印刷後の動作を設定する

認証 & プrintボックス内のファイルを印刷したあと、ユーザーに対して、ファイルの削除確認をするか、確認せずに常に削除するかを選びます。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [認証&プリント印字後削除設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[印字後削除設定]	認証 & プrintボックス内のファイルを印刷したあと、ユーザーに対して、ファイルの削除確認をせず、常に削除するかどうかを選びます。 初期値は [ユーザーに確認] です。

11.4.4 セキュリティ印刷の設定をする

セキュリティ印刷機能に関する設定をします。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [セキュリティー文書設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[セキュリティー文書設定]	セキュリティ印刷を行うときに、文書 ID を簡単に指定できるようにするかどうかを選びます。 [簡単印刷する] を選ぶと、コンピューターのログイン名が、セキュリティ印刷の文書 ID として使用されるため、文書 ID の入力を省略できます。ユーザーが本機で印刷するときは、操作パネルに文書 ID の一覧を表示し、目的の文書 ID を簡単に指定できます。 初期値は [簡単印刷しない] です。

11.5 SMB ファイル共有の設定をする

概要

SMB ファイル共有は、本機を SMB サーバーとして動作させ、本機の共有ボックス内のファイルをネットワーク上で共有する機能です。

ネットワーク上の共有フォルダーを参照するのと同じように、コンピューターから装置に接続し、共有ボックス内のファイルを簡単に取出すことができます。

SMB ファイル共有機能を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 SMB サーバーの設定をする
 - 設定のしかたは、11-11 ページをごらんください。
- 2 ファイル共有に使用する共有ボックスを作成する
 - 設定のしかたは、11-12 ページをごらんください。

SMB サーバーの設定をする

本機を SMB サーバーとして使うための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB サーバー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMB サーバー設定]	本機を SMB サーバーとして使う場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[SMB ホスト名]	本機の SMB ホスト名を、大文字で入力します (半角 15 文字以内、記号は - のみ先頭および末尾以外で使用可能)。
[ワークグループ]	本機が所属するワークグループ名またはドメイン名を大文字で入力します (" ¥ ; : , * < > + = ? を除く半角 15 文字以内)。初期値は [WORKGROUP] です。
[SMB 認証プロトコル]	本機で使う SMB 認証プロトコルを選びます。SMB 1.0 を使用するネットワーク環境の場合は、[SMB1.0/SMB2.0/SMB3.0] を選びます。初期値は [SMB1.0/SMB2.0/SMB3.0] です。
[SMB 署名設定]	お使いの環境に合わせて、本機の SMB 署名を有効にするかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [無効]：本機の SMB 署名は無効になります。 ・ [要求時]：クライアント側から SMB 署名の要求があった場合のみ本機 (サーバー) の SMB 署名が有効になります。クライアント側から SMB 署名の要求がない場合は、本機 (サーバー) の SMB 署名は無効で動作するため、クライアント側の SMB 署名が無効でも接続できます。 ・ [必須]：本機の SMB 署名が有効になります。接続にはクライアント側も SMB 署名が必要となるため、クライアント側の SMB 署名が無効になっている場合は接続できません。 初期値は [要求時] です。
[SMB ファイル共有]	SMB ファイル共有機能を使う場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。

ファイル共有に使用する共有ボックスを作成する

共有ボックスを作成します。また、共有ボックスに保存したファイルを SMB フォルダへ自動的に保存するための設定をします。

管理者モードの [ボックス] - [ボックス一覧] - [新規登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[ボックス No.]	ボックスの登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、1 ~ 999999999 の範囲で入力します。
[ボックス名]	ボックスの名前を入力します (半角 20 文字/全角 10 文字以内)。登録するボックスに、わかりやすい名前をつけます。
[ボックスパスワードを使用する]	ボックスの利用をパスワードで制限する場合は、チェックをつけてから、パスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[検索文字]	ボックスを [ボックス名] でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。
[ボックスタイプ]	ユーザー認証や部門管理の状況により、[共有] / [個人] / [グループ] を選べます。SMB ファイル共有機能を使う場合は、[共有] を選びます。
[ボックス拡張機能]	[表示] をクリックします。
[SMB フォルダへの文書自動登録]	SMB ファイル共有機能を使う場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[SMB 通信の暗号化]	共有ボックスに対する、クライアントとの SMB 通信を暗号化するかどうかを選びます。暗号化した場合、SMB 3.0 以降のクライアントからのみアクセスできます。初期値は [暗号化しない] です。

参考

- 親展受信機能とは同時に設定できません。

参照

SMB ファイル共有機能を使って、共有ボックスのファイルをネットワーク上で共有している場合に、共有ボックスを介して SMB フォルダにファイルを保存した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定できます。詳しくは、11-8 ページをごらんください。

11.6 USBメモリーの使用設定をする

USBメモリーからのファイルの印刷と読み込み、USBメモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを設定します。

管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [外部メモリ機能設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[文書保存]	USBメモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。
[文書印刷]	USBメモリーからのファイルの印刷を許可するかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[文書読み込み]	USBメモリーから読み込んだファイルのボックスへの保存を許可するかどうかを選びます。 初期値は [OFF] です。



参考

- この機能は、管理者モードの [セキュリティ] - [USB接続許可設定] - [外部メモリ (ユーザー)] で、[個別設定] を選んだ場合に設定できます。



参照

ユーザー認証を導入している場合、ユーザーに対して、USBメモリーへのファイルの保存 ([文書保存]) および USBメモリーからのファイルの読み込み ([文書読み込み]) を許可するには、ユーザーごとに使用を許可する必要があります。詳しくは、12-25 ページをごらんください。

11.7 ユーザーによるボックスの登録や変更の操作を禁止する

ユーザーに対して、ボックスの登録、編集、削除の権限を開放するかどうかを設定します。
管理者モードの [環境設定] - [ボックス設定] - [ボックス操作権限設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ボックスの操作権限]	ユーザーに対して、ボックスの登録、編集、削除の権限を開放するかどうかを設定します。 ボックスの登録、編集、削除を管理者だけが行う場合は、[開放しない] を選びます。 初期値は [開放する] です。

11.8 Scan to URL 機能でボックスに保存したファイルを管理する

Scan to URL 機能でボックスに保存したファイルを自動的に削除する

Scan to URL 機能で本機のボックスにファイルを保存した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。

ここで設定した削除時間が、すでに登録済みのボックス内のファイル、およびこれから登録するボックス内のファイルの削除時間として適用されます。

管理者モードの [環境設定] - [URL 文書管理設定] - [URL 文書削除時間設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[削除時間設定]	Scan to URL 機能で本機のボックスにファイルを保存した日時から、自動的に削除するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none">・ [日数設定]：自動的に削除するまでの日数を選びます。・ [時間設定]：自動的に削除するまでの時間を入力します。 初期値は [3日] です。

Scan to URL 機能でボックスに保存したファイルをすべて削除する

Scan to URL 機能で本機のボックスに保存したすべてのファイルを削除します。

管理者モードの [環境設定] - [URL 文書管理設定] - [URL 文書削除] で、[OK] をクリックします。

12

本機を使えるユーザーを制限する

12 本機を使えるユーザーを制限する

12.1 ユーザー認証と部門管理の概要

ユーザー認証について

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを管理できます。また、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。ユーザー認証を導入すると、本機を利用するユーザーに対して、次のことを行います。



機能	説明
識別	本機を使うユーザーを識別し、本機を使えるユーザーを制限できます。
許可	<p>ユーザーごとに、本機の機能の使用権限を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> たとえば、ある特定のユーザーは印刷ができるが、その他のユーザーは印刷できないように設定できます。また、本機で識別されていないユーザー（パブリックユーザー）は印刷を許可しない、というような運用ができます。 ユーザーごとに、参照できる登録宛先の範囲を制限することもできます。宛先の重要度と、ユーザーとの関連性から、ある特定のユーザーは、すべての宛先を参照できるが、その他のユーザーは、一部の宛先しか参照できない、というような運用ができます。 <p>ユーザーの業務内容に応じた設定をすることで、セキュリティ対策とコスト削減を同時に実現できます。</p>
アカウントिंग	<p>ユーザーごとに、本機の使用状況を記録できます。</p> <p>ユーザーごとの本機の使用状況を分析することで、本機の効率的な運用が可能になります。</p> <p>たとえば、本機の使用状況に応じて、ユーザーごとに印刷できる枚数の上限を管理します。これにより、ユーザーにコスト意識をうながすとともに、コスト削減に貢献します。</p>

ユーザー認証の方法には、本体装置認証、外部サーバー認証、本体装置認証と外部サーバー認証の併用があります。

認証方式	説明
本体装置認証	本機の認証機能を利用して、本機を使うユーザーを管理する方法です。ユーザー情報は、本機の内部で管理するため、ユーザー情報を登録するだけで、すぐに利用できます。詳しくは、12-5 ページをごらんください。
外部サーバー認証	Active Directory や LDAP サーバーなどと連携させて、本機を使うユーザーを管理する方法です。お使いの環境でユーザー管理に Active Directory や LDAP サーバーなどを導入している場合に、サーバーで管理しているユーザー情報を利用できます。本機は次のサーバータイプに対応しています。 <ul style="list-style-type: none"> Active Directory：詳しくは、12-9 ページをごらんください。 NTLM：詳しくは、12-14 ページをごらんください。 LDAP：詳しくは、12-17 ページをごらんください。
本体装置認証 + 外部サーバー認証	本体の認証機能と、外部サーバーによる認証を併用する方法です。外部の認証サーバーになんらかの問題が発生した場合でも、本体の認証機能を利用して、本機を使えます。



参考

- Authentication Manager などの拡張サーバーと連携させて、本機を使うユーザーを管理することもできます。拡張サーバーと連携する場合、上記認証方式に加え、「拡張サーバー認証」と「本体装置認証 + 拡張サーバー認証」に対応します。

部門管理について

部門管理機能を導入すると、複数のユーザーをまとめて、部門という単位で管理できます。部門の認証情報は、本機の内部で管理します。

部門ごとにパスワードを設定して本機の使用を制限できます。また、部門ごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりできます。

部門管理の設定のしかたについて詳しくは、12-7 ページをごらんください。



ユーザー認証と部門管理を組み合わせる

ユーザー認証と部門管理を合わせて、各ユーザーを部門ごとに管理することもできます。ユーザー認証と部門管理を組み合わせる場合は、お使いの環境に合わせて、部門の情報をユーザーに連動させるかどうかを設定します。

ユーザーと部門の関係	説明
ユーザーと部門が 1 対 1 の場合	部門の情報をユーザーに連動させることで、ユーザーと部門を、1 対 1 で関連付けできます。 たとえば、ある部署に所属する社員には印刷を許可する一方、別の部署の社員には、印刷を許可しないといった使い方ができます。また、部署ごとに印刷枚数を集計して、それぞれの部署にコスト意識をうながすという使い方もできます。 ユーザーを登録するときに、ユーザーの所属部門を指定することで、ユーザーとしてログインするだけで、部門としてもログインします。
ユーザーが複数の部門に参加する場合	実際の部署ごとだけでなく、プロジェクトごとでも使用状況の管理を行いたいときは、ユーザーと部門を連動させないようにします。 たとえば、複数の部署にまたがったプロジェクトがある場合に、社員ごとや部署ごとだけでなく、プロジェクトごとでも、本機の使用状況を分析できるようになります。 本機にログインするときには、ユーザー名を入力したあと、部門を指定してログインします。

参考

業務の状況に応じて、ユーザー認証と部門認証の連動を切換えたい場合は、次の設定をすることで、ユーザーごとに連動するかしないかを選ばせることもできます。

- 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、[ユーザー認証 / 部門認証の連動] を [ユーザーが設定する] に設定する
- 管理者モードの [セキュリティ] - [ユーザー操作禁止設定] で、[ユーザー毎のユーザー認証 / 部門認証の連動] を [許可] に設定する

12.2 本体装置認証を導入する

概要

本機を使えるユーザーを、本機の認証機能（本体装置認証）で制限できます。ユーザーの認証情報は、本機の内部で管理します。

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを制限できるだけでなく、ユーザーごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりなど、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。

本体装置認証を導入する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 ユーザー認証の基本設定をする
 - 設定のしかたは、12-5 ページをごらんください。
- 2 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
本機で読込んだ原稿データを、ログインしているユーザー自身へ簡単に E-mail 送信したい (Scan to Me)	12-21 ページ
本機で読込んだ原稿データの URL を、ログインしているユーザー自身へ E-mail で通知したい (Scan to URL)	12-22 ページ
SMB 送信のシングルサインオン環境を構築したい	12-23 ページ
ユーザーが本機に管理者権限でログインできるようにしたい	12-24 ページ
ユーザーごとに使える機能を制限したい	12-25 ページ
ユーザーごとに、宛先を参照できる範囲を制限したい	12-28 ページ
ユーザーごとに、タッチパネルに表示する機能キーを変更したい	12-31 ページ
認証 & プリント機能の動作を設定したい	12-33 ページ
ログアウトするときの本機の動作を設定したい	12-34 ページ
認証情報のない印刷を制限したい	12-35 ページ
プリンタードライバーからパスワードなしで印刷したい	12-36 ページ

ユーザー認証の基本設定をする

ユーザー認証を有効にします。あわせて、本機にユーザーを登録します。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	本体装置認証を導入するときは、[本体装置認証] を選びます。
[パブリックユーザー]	パブリックユーザー（登録されていないユーザー）の使用を許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [許可する（ログインあり）]：パブリックユーザーの使用を許可します。パブリックユーザーが本機を使うには、ログイン画面で [パブリックユーザー] をタップして、本機にログインします。 ・ [許可する（ログインなし）]：パブリックユーザーは、本機へログインすることなく、本機を使えます。パブリックユーザーが多数存在する環境でお使いの場合は、ログイン操作が不要となるため便利です。 ・ [許可しない]：パブリックユーザーの使用を許可しません。 初期値は [許可しない] です。 パブリックユーザーの使用を許可する場合、パブリックユーザーが使える機能を制限できます。詳しくは、12-26 ページをごらんください。
[上限値到達時の動作]	それぞれのユーザーには、印刷できる枚数に上限を設定できます。ここでは、上限を超えた場合の動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブ飛越し]：実行中のジョブを停止して、次のジョブの印刷を開始します。 ・ [ジョブ停止]：すべてのジョブを停止します。 ・ [ジョブ削除]：実行中のジョブを削除します。 初期値は [ジョブ飛越し] です。

- 2 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [新規登録] で、ユーザーを登録します。

設定	説明
[登録 No.]	ユーザーの登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[ユーザー名]	本機にログインするときのユーザーの名前を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[E-mail 宛先]	必要に応じて、ユーザーのメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。メールアドレスを登録すると、Scan to Me 機能を利用できます。詳しくは、12-21 ページをごらんください。
[ユーザーパスワード] / [ユーザーパスワードの再入力]	本機にログインするときのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[機能制限]	必要に応じて、ユーザーが使える機能を制限します。詳しくは、12-25 ページをごらんください。
[上限設定]	必要に応じて、ユーザーが印刷できる枚数の上限や、登録できるボックス数の上限を設定します。詳しくは、12-27 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、ユーザーが参照できる宛先を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。
[権限設定]	必要に応じて、ユーザーに管理者権限やボックス管理者権限を付与します。詳しくは、12-24 ページをごらんください。

参考

- ユーザーを登録したあと、[続けて登録] をクリックすると、ユーザーの一覧画面に戻らずに、続けて別のユーザーを登録できます。
- [一時利用停止] で [停止する] を選ぶと、登録ユーザーを一時的に無効にできます。
- ユーザー認証と部門管理を連動させる場合は、[所属部門] が表示されます。[所属部門] には、ユーザーの所属部門を指定できます。
- 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] で [カウンター] をクリックすると、ユーザーごとの使用枚数を確認できます。

12.3 部門管理を導入する

概要

部門管理を導入すると、複数のユーザーをまとめて、部門単位で管理できます。部門の認証情報は、本機の内部で管理します。

部門ごとにパスワードを設定して本機の使用を制限できます。また、部門ごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりできます。

ユーザー認証と部門管理を組合わせて、各ユーザーを部門ごとに管理することもできます。たとえば、ある部署に所属する社員には印刷を許可する一方、別の部署の社員には、印刷を許可しないといった使い方ができます。また、部署ごとに印刷枚数を集計して、それぞれの部署にコスト意識をうながすという使い方もできます。本機にログインするときには、ユーザー名を入力するだけでログインできます。部門を指定する必要はありません。

部門管理を導入する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 部門管理の基本設定をする
→ 設定のしかたは、12-8 ページをごらんください。
- 2 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
ユーザー認証と連携したい	12-5 ページ
部門ごとに使える機能を制限したい	12-25 ページ
ログアウトするときの本機の動作を設定したい	12-34 ページ

部門管理の基本設定をする

部門管理を有効にします。あわせて、部門を登録します。

1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[部門管理]	部門管理を導入するときは、[管理する] を選びます。 初期値は [管理しない] です。
[部門管理認証方式]	部門認証の方法を選びます。部門管理だけを行う場合に設定します。 初期値は [部門名 + パスワード] です。
[ユーザー認証 / 部門認証の連動]	ユーザー認証と部門管理を組合わせて利用する場合は、ユーザー認証と部門管理を連動するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [連動する]：ユーザーと部門が 1 対 1 の場合に選びます。ユーザーを登録するときに、ユーザーの所属部門を指定することで、ユーザーとしてログインするだけで、部門としてもログインします。 [連動しない]：ユーザーが複数の部門に参加する場合に選びます。本機にログインするときには、ユーザー名を入力したあと、部門を指定してログインします。 [ユーザーが設定する]：ユーザー認証と部門認証を連動するかどうかを、ユーザーに選ばせます。 初期値は [連動する] です。
[ユーザーカウンター]	ユーザー認証と部門管理を組合わせて利用する場合は、ユーザーに割り当てるカウンターの数を入力します。 カウンターは、ユーザーと部門合わせて 1000 まで割り当てられます。たとえば、ユーザーカウンターを 950 割当てた場合は、部門カウンターは 50 まで割り当てられます。
[上限値到達時の動作]	それぞれの部門には、印刷できる枚数に上限を設定できます。ここでは、上限を超えた場合の動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [ジョブ飛越し]：実行中のジョブを停止して、次のジョブの印刷を開始します。 [ジョブ停止]：すべてのジョブを停止します。 [ジョブ削除]：実行中のジョブを削除します。 初期値は [ジョブ飛越し] です。

2 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [部門管理設定] - [新規登録] で、部門を登録します。

設定	説明
[登録 No.]	部門の登録番号です。[空き番号を使う] を選ぶと、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[部門名]	本機にログインするときの部門の名前を入力します (スペースと " を除く半角 8 文字以内)。 手順 1 の [部門管理認証方式] で [部門名 + パスワード] を選んだ場合に設定します。
[パスワード] / [パスワードの再入力]	本機にログインするときのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[機能制限]	必要に応じて、部門が使える機能を制限します。 詳しくは、12-25 ページをごらんください。
[上限設定]	必要に応じて、部門が印刷できる枚数の上限や、登録できるボックス数の上限を設定します。 詳しくは、12-27 ページをごらんください。

参考

- 部門を登録したあと、[続けて登録] をクリックすると、部門の一覧画面に戻らずに、続けて別の部門を登録できます。
- [一時利用停止] で [停止する] を選ぶと、登録部門を一時的に無効にできます。
- 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [部門管理設定] - [部門登録] で [カウンター] をクリックすると、部門ごとの使用枚数を確認できます。

12.4 Active Directory 認証を導入する

概要

ユーザー管理に Windows Server の Active Directory をお使いの場合は、本機を使えるユーザーを、Active Directory による認証で制限できます。

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを制限できるだけでなく、ユーザーごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりなど、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。

Active Directory 認証を導入する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 本機の日時を設定する
→ 本機と Active Directory とで、日時を合わせる必要があります。本機の日時設定については、4-4 ページをごらんください。
- 3 Active Directory 認証の基本設定をする
→ 設定のしかたは、12-10 ページをごらんください。
- 4 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
本機で読込んだ原稿データを、ログインしているユーザー自身へ簡単に E-mail 送信したい (Scan to Me)	12-21 ページ
本機で読込んだ原稿データの URL を、ログインしているユーザー自身へ E-mail で通知したい (Scan to URL)	12-22 ページ
本機で読込んだ原稿データを、ログインしているユーザーの Home ディレクトリーへ簡単に送信したい (Scan to Home)	12-12 ページ
シングルサインオンを使いたい	12-12 ページ
SMB 送信のシングルサインオン環境を構築したい	12-23 ページ
Active Directory 使用時の認証処理を強化したい	12-13 ページ
Windows 8.1/10 で、Web サービスによる印刷を安全に行いたい	8-8 ページ
ユーザーごとに使える機能を制限したい	12-25 ページ
ユーザーごとに、宛先を参照できる範囲を制限したい	12-28 ページ
ユーザーごとに、タッチパネルに表示する機能キーを変更したい	12-31 ページ
認証 & プリント機能の動作を設定したい	12-33 ページ
ログアウトするときの本機の動作を設定したい	12-34 ページ
認証情報のない印刷を制限したい	12-35 ページ
プリンタードライバーからパスワードなしで印刷したい	12-36 ページ

Active Directory 認証の基本設定をする

お使いの認証サーバーを本機に登録します。あわせて、本機の認証方式を変更し、登録した認証サーバーで認証するように設定します。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [外部サーバー設定] - [外部サーバー設定] - [編集] をクリックします。
- 2 [第 1 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[外部認証サーバー名称]	お使いの Active Directory の名前を入力します (半角 32 文字以内)。登録する Active Directory に、わかりやすい名前をつけます。
[外部認証サーバータイプ]	[Active Directory] を選びます。
[デフォルトドメイン名]	お使いの Active Directory のデフォルトドメイン名を入力します (半角 64 文字以内)。
[タイムアウト時間]	必要に応じて、Active Directory との通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。

- 3 必要に応じて、[第 2 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[第 2 サーバー設定]	第 2 サーバーを使うかどうかを選びます。2 つのサーバーをグループにすることで、サーバーがダウンしたときに、もう一方のサーバーに切替えて認証を行うことができます。初期値は [使用しない] です。
[ラウンドロビン機能]	第 1 サーバーと第 2 サーバーへ交互に接続するかどうかを選びます。[有効] を選ぶと、第 1 サーバーと第 2 サーバーに交互に接続することで、サーバーの負荷を分散することができます。初期値は [無効] です。
[再接続設定]	第 1 サーバーに接続できないときに第 2 サーバーへ接続するための設定をします。ラウンドロビン機能が有効の場合は、第 2 サーバーに接続できないときに第 1 サーバーへ接続するための設定にもなります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [□グイン毎に接続]：本機での認証時に毎回、第 1 サーバーへ接続します。第 1 サーバーがダウンしている場合は、第 2 サーバーへ接続します。 ・ [指定時間毎に接続]：本機での認証時に第 1 サーバーがダウンしている場合、第 2 サーバーへ接続します。以後、[再接続時間] で設定した時間を経過するまでの間、本機での認証時に第 2 サーバーへ接続します。[再接続時間] で設定した時間を経過した後は、本機での認証時に再度、第 1 サーバーへ接続します。 初期値は [指定時間毎に接続] です。
[外部認証サーバータイプ]	認証サーバーのタイプを選び、必要な情報を設定します。設定内容について詳しくは、手順 2 をご覧ください。

4 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	外部の認証サーバーで認証するときは、[外部サーバー認証] または [本体装置 + 外部サーバー認証] を選びます。 外部の認証サーバーに問題が発生した場合を考慮して、本体装置の認証機能を利用したログインができるようにしたい場合には、[本体装置 + 外部サーバー認証] を選びます。
[ユーザー情報の上書き]	外部サーバー認証時は、認証したユーザーの情報を本機でも管理します。外部サーバー認証を実施したユーザー数が、本機で管理できるユーザー数の上限に達した場合は、新しいユーザーの認証が許可されません。その場合に、ユーザー情報の上書き登録を許可するかどうかを選びます。 [許可] を選ぶと、最も過去に認証したユーザー情報から消去して新規ユーザーを登録します。 初期値は [禁止] です。
[デフォルト認証方式]	[ユーザー認証] で [本体装置 + 外部サーバー認証] を選んだ場合は、通常使う認証方式を選びます。 初期値は [外部サーバー認証] です。
[チケット保持時間 (Active Directory)]	必要に応じて、Kerberos 認証チケットを保持する時間を変更します。 初期値は [5] 分です。
[上限値到達時の動作]	それぞれのユーザーには、印刷できる枚数に上限を設定できます。ここでは、上限を超えた場合の動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブ飛越し]：実行中のジョブを停止して、次のジョブの印刷を開始します。 ・ [ジョブ停止]：すべてのジョブを停止します。 ・ [ジョブ削除]：実行中のジョブを削除します。 初期値は [ジョブ飛越し] です。
[認証情報の一時保存]	外部の認証サーバーがダウンした場合に備えて、認証情報を本体に一時保存する場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[再接続設定]	必要に応じて、認証サーバーへの再接続を行う時間を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に認証サーバーへ接続します。本機での認証時に認証サーバーがダウンしている場合は、認証サーバーがダウンしていることを確認してから、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 ・ [指定時間毎に接続]：[再接続時間] で設定した時間に従って、認証サーバーへ接続し、認証サーバーの状況を確認します。認証サーバーがダウンしている場合は、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 初期値は [指定時間毎に接続] です。
[有効期限設定]	一時保存した認証情報に有効期限を設定する場合は、[有効] を選びます。 [有効] を選んだ場合は、有効期限を入力します。 初期値は [無効] です。

参考

- 第 1 認証サーバーと第 2 認証サーバーの接続状態は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証サーバー接続状態] - [外部サーバー認証] で確認できます。[接続可能] と表示されている場合は、第 1 認証サーバーと第 2 認証サーバーのどちらも接続できます。

自分のコンピューターに送信する (Scan to Home)

Scan to Home 機能は、本機で読込んだ原稿データを、サーバー上の共有フォルダーや自分のコンピューターの共有フォルダーに簡単に送信できる機能です。

Scan to Home 機能を使うには、次の設定が必要です。

- Active Directory に、ユーザーの登録情報として Home ディレクトリーを登録する (ホスト名で指定する場合は、大文字で入力してください)
- 本機の Scan to Home 機能を有効にする

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [Home 宛先有効設定] で、[Home 宛先有効設定] を [有効] に設定します (初期値: [無効])。



参照

Scan to Home 機能の使い方について詳しくは、「ユーザーズガイド [スキャン機能] / [コンピューターの共有フォルダーに送信する (SMB 送信)]」をごらんください。

シングルサインオンを使う

本機は、Active Directory のシングルサインオンに対応しています。

本機を Active Directory のドメインに参加させると、Active Directory により認証されたユーザーは、本機の機能を透過的に利用できます。たとえば、お使いのコンピューターに 1 度ログインすれば、プリンタードライバーに認証情報を設定することなく、本機から印刷できるようになります。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [シングルサインオン設定] - [ドメイン参加設定] で、本機が参加するドメインを登録します。

設定	説明
[使用許可設定]	シングルサインオンを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[ホスト名]	本機のホスト名を入力します (半角 253 文字以内、記号は -、. のみ使用可能)。 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] - [DNS ホスト名] で設定したホスト名を入力します。
[ドメイン名]	Active Directory のドメイン名を入力します (半角 64 文字以内)。
[アカウント名]	Active Directory ドメインに参加させる権限を持つアカウント名を入力します (半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[アカウント名] に入力したアカウントのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[通信タイムアウト]	必要に応じて、ドメイン参加処理のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [30] 秒です。

- 2 手順 1 で必要な情報を入力したら、[OK] をクリックします。

ドメイン参加処理が実行されます。

- 3 必要に応じて、管理者モードの [ネットワーク] - [シングルサインオン設定] - [認証情報保持時間設定] で、本機に認証情報を保持しておく時間を変更します。

→ 本機に認証情報が保持されている間は、ユーザーは認証情報を再利用できるため、再度認証することなく本機のサービスを利用できます。

→ 初期値は [1 時間] です。



参考

- 管理者モードの [ネットワーク] - [シングルサインオン設定] - [サービス一覧] で、Active Directory ドメインに参加している本機のサービスの一覧を確認できます。

Active Directory 使用時の認証処理を強化する

本機を Active Directory のドメインに参加させているとき、Active Directory から取得した認証情報（チケット）を本機で検証できます。これにより、Active Directory のドメインにより安全に参加できます。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [AD 認証時自己検証設定] で、次のように設定します。

設定	説明
[AD 認証時自己検証設定]	Active Directory 使用時の認証処理を強化する場合は、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[ドメイン設定]	本機が参加する Active Directory のドメインを設定します。
[ホスト名]	本機のホスト名を入力します（半角 253 文字以内、記号は -、. のみ使用可能）。 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [TCP/IP 設定] - [DNS ホスト名] で設定したホスト名を入力します。
[ドメイン名]	Active Directory のドメイン名を入力します（半角 64 文字以内）。
[アカウント名]	Active Directory ドメインに参加させる権限を持つアカウント名を入力します（半角 64 文字以内）。
[パスワード]	[アカウント名] に入力したアカウントのパスワードを入力します（" を除く半角 64 文字以内）。
[通信タイムアウト]	必要に応じて、ドメイン参加処理のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [30] 秒です。

- 2 [OK] をクリックします。
ドメイン参加処理が実行されます。



参考

- 本機で Active Directory のシングルサインオンを有効にしているとき、[ホスト名] または [ドメイン名] を変更して [OK] をクリックした場合は、管理者モードの [ネットワーク] - [シングルサインオン設定] - [ドメイン参加設定] - [使用許可設定] が [使用しない] に変更されます。

12.5 NTLM 認証を導入する

概要

ユーザー管理に Windows Server の Active Directory (NT 互換ドメイン環境) をお使いの場合は、本機を使えるユーザーを、NTLM 認証で制限できます。

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを制限できるだけでなく、ユーザーごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりなど、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。

NTLM 認証を導入する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 NTLM 認証の基本設定をする
→ 設定のしかたは、12-15 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
WINS サーバーを使って名前解決したい	12-16 ページ
本機で読込んだ原稿データを、ログインしているユーザー自身へ簡単に E-mail 送信したい (Scan to Me)	12-21 ページ
本機で読込んだ原稿データの URL を、ログインしているユーザー自身へ E-mail で通知したい (Scan to URL)	12-22 ページ
SMB 送信のシングルサインオン環境を構築したい	12-23 ページ
ユーザーごとに使える機能を制限したい	12-25 ページ
ユーザーごとに、宛先を参照できる範囲を制限したい	12-28 ページ
ユーザーごとに、タッチパネルに表示する機能キーを変更したい	12-31 ページ
認証 & プリント機能の動作を設定したい	12-33 ページ
ログアウトするときの本機の動作を設定したい	12-34 ページ
認証情報のない印刷を制限したい	12-35 ページ
プリンタードライバーからパスワードなしで印刷したい	12-36 ページ

NTLM 認証の基本設定をする

お使いの認証サーバーを本機に登録します。あわせて、本機の認証方式を変更し、登録した認証サーバーで認証するように設定します。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [外部サーバー設定] - [外部サーバー設定] - [編集] をクリックします。

- 2 [第 1 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[外部認証サーバー名称]	お使いの認証サーバーの名前を入力します (半角 32 文字以内)。登録する認証サーバーに、わかりやすい名前をつけます。
[外部認証サーバータイプ]	[NTLM v1] または [NTLM v2] を選びます。
[デフォルトドメイン名]	お使いの認証サーバーのデフォルトドメイン名を入力します (半角 64 文字以内)。デフォルトドメイン名の先頭に * は使えません。

- 3 必要に応じて、[第 2 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[第 2 サーバー設定]	第 2 サーバーを使うかどうかを選びます。2 つのサーバーをグループにすることで、サーバーがダウンしたときに、もう一方のサーバーに切替えて認証を行うことができます。初期値は [使用しない] です。
[ラウンドロビン機能]	第 1 サーバーと第 2 サーバーへ交互に接続するかどうかを選びます。[有効] を選ぶと、第 1 サーバーと第 2 サーバーに交互に接続することで、サーバーの負荷を分散することができます。初期値は [無効] です。
[再接続設定]	第 1 サーバーに接続できないときに第 2 サーバーへ接続するための設定をします。ラウンドロビン機能が有効の場合は、第 2 サーバーに接続できないときに第 1 サーバーへ接続するための設定にもなります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に毎回、第 1 サーバーへ接続します。第 1 サーバーがダウンしている場合は、第 2 サーバーへ接続します。 ・ [指定時間毎に接続]：本機での認証時に第 1 サーバーがダウンしている場合、第 2 サーバーへ接続します。以後、[再接続時間] で設定した時間を経過するまでの間、本機での認証時に第 2 サーバーへ接続します。[再接続時間] で設定した時間を経過した後は、本機での認証時に再度、第 1 サーバーへ接続します。 初期値は [指定時間毎に接続] です。
[外部認証サーバータイプ]	認証サーバーのタイプを選び、必要な情報を設定します。設定内容について詳しくは、手順 2 をご覧ください。

- 4 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	外部の認証サーバーで認証するときは、[外部サーバー認証] または [本体装置 + 外部サーバー認証] を選びます。外部の認証サーバーに問題が発生した場合を考慮して、本体装置の認証機能を利用したログインができるようにしたい場合には、[本体装置 + 外部サーバー認証] を選びます。
[ユーザー情報の上書き]	外部サーバー認証時は、認証したユーザーの情報を本機でも管理します。外部サーバー認証を実施したユーザー数が、本機で管理できるユーザー数の上限に達した場合は、新しいユーザーの認証が許可されません。その場合に、ユーザー情報の上書き登録を許可するかどうかを選びます。[許可] を選ぶと、最も過去に認証したユーザー情報から消去して新規ユーザーを登録します。初期値は [禁止] です。
[デフォルト認証方式]	[ユーザー認証] で [本体装置 + 外部サーバー認証] を選んだ場合は、通常使う認証方式を選びます。初期値は [外部サーバー認証] です。

設定	説明
[上限値到達時の動作]	それぞれのユーザーには、印刷できる枚数に上限を設定できます。ここでは、上限を超えた場合の動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブ飛越し]：実行中のジョブを停止して、次のジョブの印刷を開始します。 ・ [ジョブ停止]：すべてのジョブを停止します。 ・ [ジョブ削除]：実行中のジョブを削除します。 初期値は [ジョブ飛越し] です。
[認証情報の一時保存]	外部の認証サーバーがダウンした場合に備えて、認証情報を本体に一時保存する場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[再接続設定]	必要に応じて、認証サーバーへの再接続を行う時間を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に認証サーバーへ接続します。本機での認証時に認証サーバーがダウンしている場合は、認証サーバーがダウンしていることを確認してから、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 ・ [指定時間毎に接続]：[再接続時間] で設定した時間に従って、認証サーバーへ接続し、認証サーバーの状況を確認します。認証サーバーがダウンしている場合は、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 初期値は [指定時間毎に接続] です。
[有効期限設定]	一時保存した認証情報に有効期限を設定する場合は、[有効] を選びます。 [有効] を選んだ場合は、有効期限を入力します。 初期値は [無効] です。



参考

- 第 1 認証サーバーと第 2 認証サーバーの接続状態は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証サーバー接続状態] - [外部サーバー認証] で確認できます。[接続可能] と表示されている場合は、第 1 認証サーバーと第 2 認証サーバーのどちらも接続できます。

WINS サーバーを使う

名前解決のために WINS サーバーを導入している場合は、WINS サーバーのアドレスや、名前解決の方法を設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [WINS/NetBIOS 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WINS/NetBIOS]	WINS サーバーを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[WINS 自動取得設定]	WINS サーバーのアドレスを自動的に取得する場合は、[有効] を選びます。 DHCP などが有効の場合に設定します。 初期値は [有効] です。
[WINS サーバーアドレス 1] / [WINS サーバーアドレス 2]	WINS サーバーのアドレスを入力します。 WINS サーバーのアドレスを、DHCP などで自動的に取得しない場合に設定します。 次のフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入力例：「192.168.1.1」
[ノードタイプ設定]	名前解決の方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [B ノード]：ブロードキャストで問い合わせ ・ [P ノード]：WINS サーバーに問い合わせ ・ [M ノード]：ブロードキャスト、WINS サーバーの順に問い合わせ ・ [H ノード]：WINS サーバー、ブロードキャストの順に問い合わせ 初期値は [H ノード] です。

12.6 LDAP 認証を導入する

概要

ユーザー管理に LDAP サーバーをお使いの場合は、本機を使えるユーザーを、LDAP 認証で制限できます。

ユーザー認証を導入すると、本機を使えるユーザーを制限できるだけでなく、ユーザーごとに使える機能を制限したり、本機の使用状況を管理したりなど、セキュリティやコストを意識した、高度な使い方ができます。

LDAP 認証を導入する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 LDAP 認証の基本設定をする
→ 設定のしかたは、12-18 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
LDAP サーバーと SSL で通信したい	12-20 ページ
本機で読込んだ原稿データを、ログインしているユーザー自身へ簡単に E-mail 送信したい (Scan to Me)	12-21 ページ
本機で読込んだ原稿データの URL を、ログインしているユーザー自身へ E-mail で通知したい (Scan to URL)	12-22 ページ
SMB 送信のシングルサインオン環境を構築したい	12-23 ページ
ユーザーごとに使える機能を制限したい	12-25 ページ
ユーザーごとに、宛先を参照できる範囲を制限したい	12-28 ページ
ユーザーごとに、タッチパネルに表示する機能キーを変更したい	12-31 ページ
認証 & プリント機能の動作を設定したい	12-33 ページ
ログアウトするときの本機の動作を設定したい	12-34 ページ
認証情報のない印刷を制限したい	12-35 ページ
プリンタードライバーからパスワードなしで印刷したい	12-36 ページ

LDAP 認証の基本設定をする

お使いの認証サーバーを本機に登録します。あわせて、本機の認証方式を変更し、登録した認証サーバーで認証するように設定します。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [外部サーバー設定] - [外部サーバー設定] - [編集] をクリックします。
- 2 [第 1 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[外部認証サーバー名称]	お使いの LDAP サーバーの名前を入力します (半角 32 文字以内)。登録する LDAP サーバーに、わかりやすい名前をつけます。
[外部認証サーバータイプ]	[LDAP] を選びます。
[サーバーアドレス]	お使いの LDAP サーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [389] です。
[検索ベース 1] ~ [検索ベース 3]	認証するユーザーを検索するときの、検索の起点と範囲を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [検索ベース]: 検索の起点を指定します (半角 255 文字以内)。入力例: 「cn=users,dc=example,dc=com」 ・ [検索範囲]: ツリーの検索範囲を選びます。初期値は [ツリー全体] です。[ツリー全体] を選ぶと、入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。[直下 1 階層のみ] を選ぶと、入力した起点の直下の 1 階層のみを検索します。この場合、起点の階層自体は検索対象に含まれません。
[タイムアウト時間]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。
[認証方式]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。初期値は [Simple] です。
[検索属性]	ユーザーアカウントの検索で使う、検索属性を入力します (半角 64 文字以内、記号は - のみ使用可能)。属性値は、半角英字で始める必要があります。初期値は [uid] です。
[検索属性による認証]	[認証方式] で [Simple] を選んだ場合に、検索属性による認証を有効にするときはチェックをつけます。チェックをつけると、LDAP サーバーで認証するときに、ユーザーが DN(Distinguished Name) をすべて入力する必要がなくなります。この画面では、ユーザーの ID を検索するために LDAP サーバーにログインするときに使う認証情報 ([ログイン名] と [パスワード]) を入力します。初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[検索ディレクトリサービス]	[Active Directory] を選ぶと、認証時の検索対象をユーザーに限定できます。認証時の検索対象をユーザーに限定すると、サーバー側で検索対象を判別する処理が発生するため、認証時間が遅くなる場合があります。この機能は、認証サーバーが Active Directory (Windows Server 2008 以降) の場合に利用できます。初期値は [その他] です。

3 必要に応じて、[第 2 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[第 2 サーバー設定]	第 2 サーバーを使うかどうかを選びます。 2 つのサーバーをグループにすることで、サーバーがダウンしたときに、もう一方のサーバーに切替えて認証を行うことができます。 初期値は [使用しない] です。
[ラウンドロビン機能]	第 1 サーバーと第 2 サーバーへ交互に接続するかどうかを選びます。 [有効] を選ぶと、第 1 サーバーと第 2 サーバーに交互に接続することで、サーバーの負荷を分散することができます。 初期値は [無効] です。
[再接続設定]	第 1 サーバーに接続できないときに第 2 サーバーへ接続するための設定をします。ラウンドロビン機能が有効の場合は、第 2 サーバーに接続できないときに第 1 サーバーへ接続するための設定にもなります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に毎回、第 1 サーバーへ接続します。第 1 サーバーがダウンしている場合は、第 2 サーバーへ接続します。 ・ [指定時間毎に接続]：本機での認証時に第 1 サーバーがダウンしている場合、第 2 サーバーへ接続します。以後、[再接続時間] で設定した時間を経過するまでの間、本機での認証時に第 2 サーバーへ接続します。[再接続時間] で設定した時間を経過した後は、本機での認証時に再度、第 1 サーバーへ接続します。 初期値は [指定時間毎に接続] です。
[外部認証サーバータイプ]	認証サーバーのタイプを選び、必要な情報を設定します。 設定内容について詳しくは、手順 2 をご覧ください。

4 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	外部の認証サーバーで認証するときは、[外部サーバー認証] または [本体装置 + 外部サーバー認証] を選びます。 外部の認証サーバーに問題が発生した場合を考慮して、本体装置の認証機能を利用したログインができるようにしたい場合には、[本体装置 + 外部サーバー認証] を選びます。
[ユーザー情報の上書き]	外部サーバー認証時は、認証したユーザーの情報を本機でも管理します。外部サーバー認証を実施したユーザー数が、本機で管理できるユーザー数の上限に達した場合は、新しいユーザーの認証が許可されません。その場合に、ユーザー情報の上書き登録を許可するかどうかを選びます。 [許可] を選ぶと、最も過去に認証したユーザー情報から消去して新規ユーザーを登録します。 初期値は [禁止] です。
[デフォルト認証方式]	[ユーザー認証] で [本体装置 + 外部サーバー認証] を選んだ場合は、通常使う認証方式を選びます。 初期値は [外部サーバー認証] です。
[上限値到達時の動作]	それぞれのユーザーには、印刷できる枚数に上限を設定できます。ここでは、上限を超えた場合の動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ジョブ飛越し]：実行中のジョブを停止して、次のジョブの印刷を開始します。 ・ [ジョブ停止]：すべてのジョブを停止します。 ・ [ジョブ削除]：実行中のジョブを削除します。 初期値は [ジョブ飛越し] です。
[認証情報の一時保存]	外部の認証サーバーがダウンした場合に備えて、認証情報を本体に一時保存する場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[再接続設定]	必要に応じて、認証サーバーへの再接続を行う時間を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に認証サーバーへ接続します。本機での認証時に認証サーバーがダウンしている場合は、認証サーバーがダウンしていることを確認してから、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 ・ [指定時間毎に接続]：[再接続時間] で設定した時間に従って、認証サーバーへ接続し、認証サーバーの状況を確認します。認証サーバーがダウンしている場合は、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 初期値は [指定時間毎に接続] です。

設定	説明
[有効期限設定]	一時保存した認証情報に有効期限を設定する場合は、[有効] を選びます。 [有効] を選んだ場合は、有効期限を入力します。 初期値は [無効] です。
[外部サーバー DN キャッシュ]	LDAP サーバーでの認証が成功したときに、DN(Distinguished Name) の情報を本機に保存する場合は、[使用する] を選びます。 次回の認証時に、保存した情報を使ってユーザーの検索を行うことにより、認証を高速化することができます。 初期値は [使用しない] です。



参考

- 第 1 認証サーバーと第 2 認証サーバーの接続状態は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証サーバー接続状態] - [外部サーバー認証] で確認できます。[接続可能] と表示されている場合は、第 1 認証サーバーと第 2 認証サーバーのどちらも接続できます。

SSL で通信する

本機と LDAP サーバーとの通信を、SSL で暗号化します。

お使いの環境で LDAP サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [外部サーバー設定] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL 使用設定]	SSL で通信するときは、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [636] です。

12.7 自分宛てに送信する (Scan to Me)

Scan to Me 機能は、本機で読み込んだ原稿データを、自分のメールアドレスに、簡単に送信できる機能です。

Scan to Me 機能を使うには、あらかじめ次の準備が必要です。

- E-mail 送信の使用環境を設定する
- 本体装置認証または外部サーバー認証を導入する
- ユーザーの登録情報としてメールアドレスを登録する

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] で、[E-mail 宛先] にメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。

参考

- 認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は、Active Directory に、ユーザーのメールアドレスを登録する必要があります。

参照

E-mail 送信の使用環境の設定について詳しくは、7-2 ページをごらんください。

Scan to Me 機能の使い方について詳しくは、「ユーザーズガイド [スキャン機能] / [E-mail に添付して送信する (E-mail 送信)]」をごらんください。

12.8 自分宛てにダウンロード URL を送信する (Scan to URL)

Scan to URL 機能は、本機で読込んだ原稿データをダウンロードするための URL を、自分のメールアドレス宛てに E-mail で送信できる機能です。

読込んだ原稿データは E-mail に添付せず、あらかじめ設定した期間本機のボックスに保存されるため、メールサーバーの送信容量に制限されることなくデータを取得することができます。

Scan to URL 機能を使うには、あらかじめ次の準備が必要です。

- E-mail 送信の使用環境を設定する
- 本体装置認証または外部サーバー認証を導入する
- ユーザーの登録情報としてメールアドレスを登録する
- 本機の Scan to URL 機能を有効にする

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [URL 宛先有効設定] で、[URL 宛先有効設定] を [有効] に設定します (初期値 : [有効])。

参照

Scan to URL 機能の使い方について詳しくは、「ユーザーズガイド [スキャン機能] / [E-mail に添付して送信する (E-mail 送信)]」をごらんください。

12.9 SMB 送信のシングルサインオン環境を構築する

本機ユーザー認証の認証情報（ログイン名とパスワード）を SMB 宛先の認証情報（ホスト名とパスワード）として引用することで、SMB 宛先の認証情報を指定する手間を省き、SMB 送信のシングルサインオン環境を構築できます。

管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [クライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SMB 送信設定]	シングルサインオンを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[SMB 認証設定]	シングルサインオンを使うときは、[Kerberos/NTLM v1/v2] を選びます。 Kerberos 認証に失敗したら NTLMv2 認証を行い、NTLMv2 認証に失敗したら NTLMv1 認証を行います。 初期値は [NTLM v1] です。
[デフォルトドメイン名]	SMB 送信時に宛先のホスト名に付加するデフォルトドメイン名を入力します（半角 64 文字以内）。デフォルトドメイン名の先頭に * は使えません。 SMB 送信時に宛先のドメイン名がユーザーにより指定されていない場合は、ここで指定したドメイン名が付加されます。 認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は入力不要です。
[認証情報引用設定]	本機ユーザー認証の認証情報（ログイン名とパスワード）を SMB 宛先の認証情報（ホスト名とパスワード）として引用するときは、[引用する] を選びます。 認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は、ログイン名に Active Directory のドメイン名が付加されます。その他の認証方法の場合は、[デフォルトドメイン名] で入力したドメイン名が付加されます。 初期値は [引用しない] です。
[認証情報登録可否]	[認証情報引用設定] で [引用する] を選んだ場合に設定できます。 [登録不可] を選ぶと、SMB 宛先を登録するときに、ログイン時のユーザー ID およびパスワードを含まず登録します。ただし、Web Connection から SMB 宛先を登録すると、ユーザー ID およびパスワードを含んで登録します。 [登録可能] を選ぶと、ユーザー ID およびパスワードを含んで登録するか除いて登録するかを選べます。[除いて登録] を選ぶと、ユーザー ID とパスワードは、SMB 送信時に自動的に追加されます。 初期値は [登録不可] です。
[ユーザー認証 (NTLM)]	シングルサインオンを使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用する] です。
[SMB 署名設定]	お使いの環境に合わせて、本機の SMB 署名を有効にするかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [無効]：本機の SMB 署名は無効になります。 ・ [要求時]：サーバー側から SMB 署名の要求があった場合のみ本機（クライアント）の SMB 署名が有効になります。サーバー側から SMB 署名の要求がない場合は、本機（クライアント）の SMB 署名は無効で動作するため、サーバー側の SMB 署名が無効でも接続できます。 ・ [必須]：本機の SMB 署名が有効になります。接続にはサーバー側も SMB 署名が必要となるため、サーバー側の SMB 署名が無効になっている場合は接続できません。 初期値は [要求時] です。

12.10 登録ユーザーが管理者権限でログインできるようにする

登録ユーザーが本機に管理者権限でログインできるように設定できます。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [管理設定] - [管理者権限でのログイン許可] で、[許可する] を選びます (初期値: [許可する])。
- 2 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] - [権限設定] で、登録ユーザーに管理者権限を付与します。
 - 管理者権限を付与する場合は、[権限設定] の [管理者権限] から、[付与する] を選びます (初期値: [付与しない])。
 - ボックス管理者を設定している場合は、登録ユーザーにボックス管理者権限を付与できます。ボックス管理者権限を付与する場合は、[権限設定] の [ボックス管理者権限] から、[付与する] を選びます (初期値: [付与しない])。

12.11 ユーザー／部門ごとに本機の機能の使用権限を設定する

12.11.1 ユーザー／部門ごとに使える機能を制限する

ユーザー認証や部門管理を導入すると、ユーザー／部門ごとに、使える機能を制限できます。

たとえば、ある特定のユーザー／部門は印刷ができるが、その他のユーザー／部門は印刷できない、というような運用ができます。ユーザー／部門の業務内容に応じた設定をすることで、セキュリティ対策とコスト削減を同時に実現できます。



参考

- 本体装置認証を利用する場合は、ユーザー／部門登録するときに、ユーザー／部門が使える機能の制限を設定します。
- 外部の認証サーバーを利用する場合は、1度認証を実施すると、本機にユーザー情報が登録されます。ユーザーが使える機能を制限するときは、本機に登録されたユーザー情報を編集します。

ユーザーごとに設定する場合は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] - [機能制限] で設定します。

部門ごとに設定する場合は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [部門管理設定] - [部門登録] - [編集] - [機能制限] で設定します。

設定項目は、次のとおりです。

機能	説明
[コピー操作]	コピー機能の使用を許可するかどうかを選びます。 [ブラックのみ許可] を選ぶと、モノクロコピーだけを許可します。 初期値は [カラー・ブラック許可] です。
[スキャン操作]	スキャン機能の使用を許可するかどうかを選びます。 [ブラックのみ許可] を選ぶと、モノクロでのスキャンだけを許可します。 初期値は [カラー・ブラック許可] です。
[外部メモリ保存]	USB メモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを選びます。 本機で、USB メモリーへのファイルの保存が有効の場合に設定できます。 部門に対しては、設定できません。 初期値は [許可しない] です。
[外部メモリ文書読み込み]	USB メモリーからのファイルの読み込みを許可するかどうかを選びます。 本機で、USB メモリーからのファイルの読み込みが有効の場合に設定できません。 部門に対しては、設定できません。 初期値は [許可しない] です。
[ファクス操作]	ファクス、ネットワークファクス機能の使用を許可するかどうかを選びます。 [ブラックのみ許可] を選ぶと、モノクロ送信だけを許可します。 初期値は [カラー・ブラック許可] です。
[プリンター印字]	プリント機能による印刷を許可するかどうかを選びます。 [ブラックのみ許可] を選ぶと、モノクロ印刷だけを許可します。 初期値は [カラー・ブラック許可] です。
[蓄積文書操作]	ボックスに保存したファイルの利用を許可するかどうかを選びます。 部門に対しては、設定できません。 初期値は [許可する] です。
[送信文書印字]	スキャン送信、ファクス送信データの印刷を許可するかどうかを選びます。 [ブラックのみ許可] を選ぶと、モノクロ印刷だけを許可します。 [許可しない] を選ぶと、スキャン送信およびファクス送信と同時に、送信データを印刷することはできません。また、次のボックスに保存された送信データは、印刷できません。ただし、外部メモリーからボックスに保存したデータは、印刷できます。 ・ 共有／個人／グループボックス内のスキャン送信データ ・ 掲示板ボックス、ポーリング送信ボックスおよび再送信ボックス内のファクス送信データ 初期値は [カラー・ブラック許可] です。
[手動宛先入力]	宛先の直接入力を許可するかどうかを選びます。 [ファクスのみ許可する] を選ぶと、ファクス番号の直接入力だけを許可します。 部門に対しては、設定できません。 初期値は [許可する] です。

機能	説明
[Web ブラウザー]	Web ブラウザー機能の使用を許可するかどうかを選びます。Web ブラウザー機能が有効の場合に設定できます。Web ブラウザー機能を有効にしたときの初期値は [許可する] です。 Web ブラウザー機能の使用を許可する場合は、次の機能を許可するかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ファイルアップロード]：ファイルのアップロードを許可するかどうかを選びます。初期値は [許可する] です。 ・ [ファイルダウンロード]：ファイルのダウンロードを許可するかどうかを選びます。初期値は [許可する] です。 Web ブラウザーの機能制限は、ユーザーごとに設定します。部門ごとに設定することはできません。
[生体 /IC カード情報登録]	生体認証情報、IC カード認証情報の登録を許可するかどうかを選びます。パブリックユーザーおよび部門に対しては、設定できません。 初期値は [許可しない] です。



参考

- ・ [ファクス操作] を使うには、オプションの FAX キットが必要です。



参照

外部の認証サーバーを利用するユーザーの、機能制限の初期値を設定できます。詳しくは、12-26 ページをごらんください。

パブリックユーザーの使用を許可する場合は、パブリックユーザーが使える機能を制限できます。詳しくは、12-26 ページをごらんください。

12.11.2 外部サーバー認証時の機能制限の初期値を設定する

外部の認証サーバーを利用するときの、ユーザーの機能制限の初期値を設定します。

はじめて本機にログインしたユーザーは、ここで設定した内容に従って、使える機能が制限されます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [初期機能制限設定] で、外部の認証サーバーを利用する場合の、機能制限の初期値を設定します。



参照

外部の認証サーバーを利用する場合は、1 度認証を実施すると、本機にユーザー情報が登録されます。ユーザーが使える機能を制限するときは、本機に登録されたユーザー情報を編集します。詳しくは、12-25 ページをごらんください。

12.11.3 パブリックユーザーが使える機能を制限する

パブリックユーザー（登録されていないユーザー）の使用を許可する場合は、パブリックユーザーが使える機能を制限できます。また、パブリックユーザーが参照できる宛先を制限することもできます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [パブリックユーザー認証設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[機能制限]	必要に応じて、パブリックユーザーが使える機能を制限します。 詳しくは、12-25 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、パブリックユーザーが参照できる宛先を制限します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。



参考

- ・ パブリックユーザーが制限された機能を使おうとしたとき、ログイン画面を表示してユーザーを切替えることができます。たとえば、パブリックユーザーのカラーสキャンが制限されている場合、パブリックユーザーがカラー스キャンの操作を行うとログイン画面を表示します。カラー스キャンが許可されている別のユーザーでログインし直すことによって、カラー스キャンを行うことができます。管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [制限機能使用時のログイン] で、[制限機能使用時のログイン] を [要求する] に設定します。

12.12 ユーザー／部門ごとに印刷枚数の上限を管理する

ユーザー認証や部門管理を導入すると、ユーザー／部門ごとに、印刷できる枚数の上限を設定できます。また、登録できるボックス数に上限を設定することもできます。

本機の使用状況に応じて、ユーザー／部門ごとに印刷できる枚数の上限を管理することで、ユーザー／部門にコスト意識をうながすとともに、コスト削減に貢献します。



参考

- 本体装置認証を利用する場合は、ユーザー／部門登録するときに、上限を設定します。
- 外部の認証サーバーを利用する場合は、1度認証を実施すると、本機にユーザー情報が登録されます。上限を設定するときは、本機に登録されたユーザー情報を編集します。

ユーザーごとに設定する場合は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] - [上限設定] で設定できます。

部門ごとに設定する場合は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [部門管理設定] - [部門登録] - [編集] - [上限設定] で設定できます。

設定項目は、次のとおりです。

機能	説明
[トータル管理]	カラー印刷とモノクロ印刷の合計で、上限を管理するときは、[トータル] にチェックをつけてから、上限値を入力します。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[個別管理]	カラー印刷とモノクロ印刷で個別に上限を管理するときは、管理する項目にチェックをつけてから、上限値を入力します。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ボックス管理]	登録できるボックス数の上限を管理するときは、[ボックス個数] にチェックをつけてから、上限値を入力します。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。

12.13 ユーザーごとに参照できる宛先を制限する

12.13.1 参照できる宛先の制限方法

本機では、ユーザーごとに、参照できる宛先を制限できます。参照できる宛先の制限方法には、次の3通りがあります。

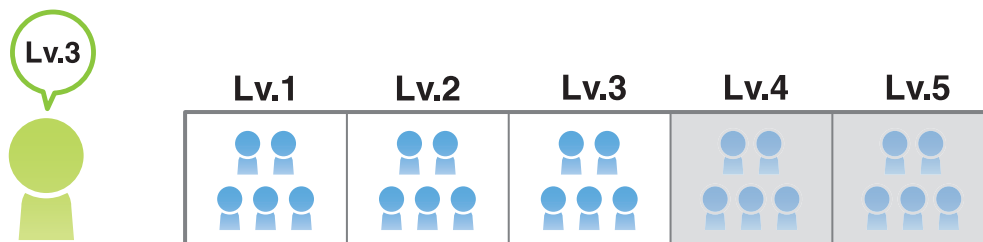
制限方法	説明
参照可能レベルで管理する	宛先を重要度でレベル分けし、ユーザーごとに参照できるレベルの上限を設定します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。
参照許可グループで管理する	宛先をグループ化します。ユーザーは許可されたグループの宛先だけを参照できます。 詳しくは、12-29 ページをごらんください。
参照可能レベルと参照許可グループを組合わせて管理する	宛先の重要度と、ユーザーとの関連性を組合わせて参照範囲を設定します。 詳しくは、12-30 ページをごらんください。

12.13.2 参照可能レベルで管理する

参照可能レベルとは

本機に登録した宛先を、重要度順に、レベル0～レベル5までに分類し、ユーザーごとに参照できるレベルの上限（参照可能レベル）を設定します。

たとえば、あるユーザーに、参照可能レベルとして3が設定されているとします。この場合、参照可能レベルが1～3の宛先は参照できますが、参照可能レベルが4と5の宛先は、参照できません。



参考

- 初期設定で、ユーザーに設定されている参照可能レベルは「レベル0」です。レベル0のユーザーは、レベル0の宛先だけを参照できます。

参照可能レベルを設定する

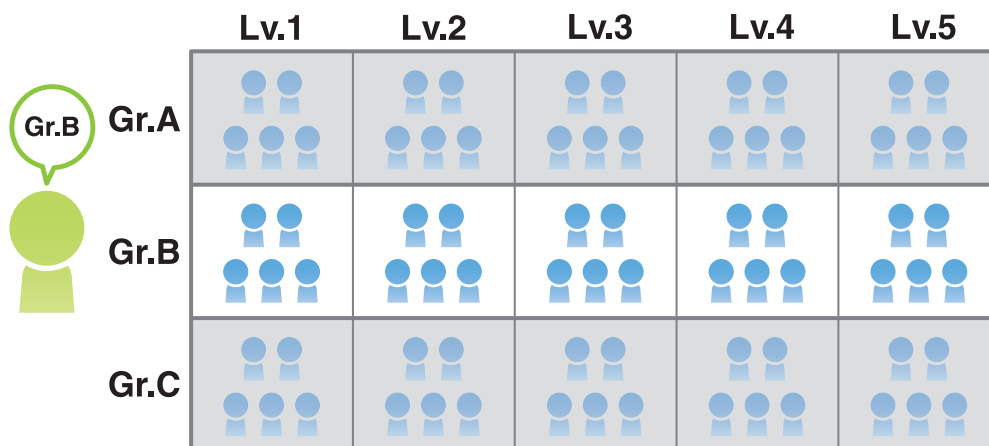
- 管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [編集] で、[参照可能レベルを直接指定する] を選び、登録宛先に対して参照可能レベルを設定します。
- 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] で、[参照可能レベル] にチェックをつけ、登録ユーザーに対して参照可能レベルを設定します。

12.13.3 参照許可グループで管理する

参照許可グループとは

本機に登録した複数の宛先を、部署ごとの取引先など、関連のあるグループ（参照許可グループ）にまとめます。

ユーザーごとに、参照できるグループを設定し、参照できる宛先を制限します。たとえば、あるユーザーに、参照許可グループとしてグループBが設定されているとします。この場合、グループBの宛先は参照できますが、他の参照許可グループの宛先は、参照できません。



参照許可グループを割当てる

本機に、参照許可グループを登録します。また、宛先とユーザーに、それぞれ参照許可グループを割当てます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [宛先参照許可設定] - [編集] で、[参照許可グループ名称] にグループの名前を入力し（半角 24 文字 / 全角 12 文字以内）、参照許可グループを登録します。
- 2 管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [編集] で、[参照許可グループから選択] を選び、登録宛先に対して参照許可グループを割当てます。
- 3 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] で、[参照許可グループ] にチェックをつけ、登録ユーザーに対して参照許可グループを割当てます。

12.13.4 参照可能レベルと参照許可グループを組合わせて管理する

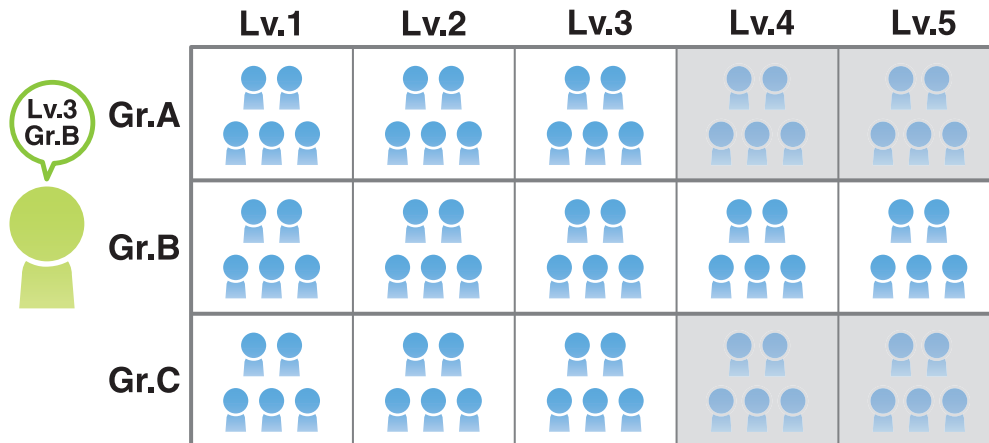
参照可能レベルと参照許可グループを組合わせる

参照可能レベルと、参照許可グループを組合わせることで、より柔軟に管理できます。

たとえば、あるユーザーに、参照可能レベルとして 3 が、また、参照許可グループとして、グループ B が設定されているとします。

この場合、ユーザーが参照できる宛先は、以下のようになります。

- 参照可能レベルが 1 ～ 3 までの宛先：A1 ～ 3、B1 ～ 3、C1 ～ 3
- 参照許可グループ B に属する宛先：B1 ～ 5



参考

- 参照許可グループには、参照可能レベルを設定できます。登録宛先に対して、参照可能レベルが設定された参照許可グループを割当てすることで、参照可能レベルと、参照許可グループを組合わせて管理できます。

参照可能レベルと参照許可グループを同時に設定する

ユーザーに対して、参照可能レベルと参照許可グループの両方を設定します。

参照可能レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、参照可能レベルを設定した参照許可グループを登録し、登録宛先に対して割当てます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [宛先参照許可設定] - [編集] で、参照許可グループを登録します。

設定	説明
[参照許可グループ名称]	参照許可グループの名前を入力します (半角 24 文字 / 全角 12 文字以内)。登録するグループに、わかりやすい名前をつけます。
[参照可能レベル]	参照可能レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、参照許可グループの参照可能レベルを選びます。

- 2 管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [編集] で、登録宛先に対して、参照許可グループまたは参照可能レベルを設定します。
 - 参照可能レベルと参照許可グループを組合わせて登録宛先を管理するときは、登録宛先に対して、参照可能レベルが設定された参照許可グループを割当てます。
- 3 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] で、登録ユーザーに対して、参照許可グループと参照可能レベルをそれぞれ設定します。
 - 登録ユーザーに対して参照許可グループを指定する場合、参照許可グループそのものを指定することになります。したがって、選んだ参照許可グループに参照可能レベルが設定されていても、ここでは関係しません。

12.14 ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンを変更する

概要

本機には、各モードの機能キーの表示／非表示が登録された3種類の表示パターンが用意されています。

ユーザー認証や部門管理を導入している場合は、ユーザーや部門ごとに、各モードの画面に表示する機能キーの表示パターンを選べます。

たとえば、通常は基本的な機能だけを画面に表示しておき、あるユーザーや部門でログインしているときには、すべての機能を画面に表示するといった使い方ができます。お使いの環境に応じて、表示パターンを選ぶことで、本機を使って作業するときの生産性を上げることができます。

ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンを選ぶには、次の手順で設定してください。

- 1 ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンの変更を許可する
 - 設定のしかたは、12-31 ページをごらんください。
- 2 ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンを選ぶ
 - ユーザーごとに機能キーの表示パターンを変更する場合は、12-31 ページをごらんください。
 - 部門ごとに機能キーの表示パターンを変更する場合は、12-32 ページをごらんください。

ユーザー／部門ごとに機能キーの表示パターンの変更を許可する

ユーザー／部門ごとに、各モードの画面に表示する機能キーの表示パターンを選べるように設定します。

管理者モードの [環境設定] - [ユーザー / 部門別機能パターン許可設定] で、[ユーザー / 部門別機能パターン許可設定] を [許可] に設定します (初期値: [禁止])。

ユーザーごとに機能キーの表示パターンを選ぶ

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[コピー・印刷画面]	<p>コピーモードと、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーの表示パターンを選ぶ場合は、[許可する] を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [Full] : すべての機能キーを表示します。 ・ [Standard] : 一般的によく使われる機能キーを表示します。 ・ [Basic] : [Standard] よりもさらに基本的な機能キーだけを表示します。 <p>初期値は [Full] です。</p>
[送信・保存画面]	<p>ファクス／スキャンモードと、ボックスモードの送信設定画面と保存設定画面に表示する機能キーの表示パターンを選ぶ場合は、[許可する] を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [Full] : すべての機能キーを表示します。 ・ [Standard] : 一般的によく使われる機能キーを表示します。 ・ [Basic] : [Standard] よりもさらに基本的な機能キーだけを表示します。 <p>初期値は [Full] です。</p>

参考

- それぞれのパターン設定で利用できる機能は、管理者モードの [環境設定] - [機能パターンカスタマイズ] で [詳細パターン一覧] をクリックすると確認できます。
- お使いの環境に合わせて、機能キーの表示パターンを追加できます。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

部門ごとに機能キーの表示パターンを選ぶ

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [部門管理設定] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[コピー・印刷画面]	<p>コピーモードと、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーの表示パターンを選ぶ場合は、[許可する] を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Full] : すべての機能キーを表示します。 • [Standard] : 一般的によく使われる機能キーを表示します。 • [Basic] : [Standard] よりもさらに基本的な機能キーだけを表示します。 <p>初期値は [Full] です。</p>
[送信・保存画面]	<p>ファクス／スキャンモードと、ボックスモードの送信設定画面と保存設定画面に表示する機能キーの表示パターンを選ぶ場合は、[許可する] を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Full] : すべての機能キーを表示します。 • [Standard] : 一般的によく使われる機能キーを表示します。 • [Basic] : [Standard] よりもさらに基本的な機能キーだけを表示します。 <p>初期値は [Full] です。</p>



参考

- それぞれのパターン設定で利用できる機能は、管理者モードの [環境設定] - [機能パターンカスタマイズ] で [詳細パターン一覧] をクリックすると確認できます。
- お使いの環境に合わせて、機能キーの表示パターンを追加できます。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

12.15 認証 & プリント機能の動作を設定する

認証 & プリントは、ユーザー認証を導入している環境で、印刷データを本機のボックス（認証 & プリントボックス）に保存する機能です。すぐに印刷されないため、印刷物の紛失や置忘れを防ぐことができます。

認証 & プリント機能の動作を設定します。また、パブリックユーザーからの印刷ジョブや、認証情報のない印刷ジョブを受信したときの動作を設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [管理設定] を選びます。

設定	説明
[認証 & プリント]	<p>プリンタードライバーから通常印刷したジョブを、認証 & プリントジョブとして扱うかどうかを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [使用する]：通常印刷したジョブを、認証 & プリントジョブとして扱います。 ・ [使用しない]：認証 & プリントが設定されたジョブだけを認証 & プリントジョブとして扱います。 <p>初期値は [使用しない] です。</p>
[認証なし / パブリックユーザージョブ]	<p>パブリックユーザーまたはユーザー認証情報のないジョブを受信したときの処理方法を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [即時印刷]：認証 & プリントボックスに保存せずに、そのまま印刷します。 ・ [蓄積]：認証 & プリントボックスに保存します。 <p>初期値は [即時印刷] です。</p>
[認証 & プリント動作設定]	<p>オプションの認証装置で認証 & プリント機能を利用する場合に、1回の認証ですべてのジョブを印刷するか、1つのジョブだけ印刷するかを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [全ジョブ印刷]：1回の認証で、認証したユーザーのすべてのジョブを印刷します。 ・ [1ジョブ印刷]：1回の認証で、認証したユーザーの1つのジョブを印刷します。 <p>初期値は [全ジョブ印刷] です。</p>
[認証 & プリント後基本画面遷移]	<p>認証 & プリントの認証と、本機へログインするための認証を、同時に行えるようにするかを選びます。</p> <p>[可能にする] を選ぶと、ログイン画面の [認証 & プリント] に [印刷後ログイン] を表示します。</p> <p>初期値は [不可] です。</p>
[プリント蓄積時の認証動作設定]	<p>認証 & プリントジョブが蓄積されている場合にログイン画面で認証したときの動作の初期値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [印刷後ログアウト]：認証 & プリントジョブを印刷します。本機へのログインはしません。 ・ [印刷せずログイン]：本機へログインします。認証 & プリントジョブは印刷しません。 ・ [印刷後ログイン]：認証 & プリントジョブを印刷し、本機へログインします。[認証 & プリント後基本画面遷移] で [可能にする] を選んだ場合に設定できます。 <p>初期値は [印刷後ログアウト] です。</p>

12.16 認証機能使用時の共通の設定をする

本機でユーザー認証や部門管理を導入している場合に、カラー印刷の管理方法や、ログアウトするときの本機の動作を設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー / 部門共通設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[単色カラー / 2 色カラー出力管理]	必要に応じて、単色カラーと 2 色カラーの印刷を、カラー印刷として扱うか、モノクロ印刷として扱うかを切換えます。 本機でユーザーや部門ごとに、カラー印刷の制限や、カラーおよびモノクロの印刷枚数の上限を管理している場合に設定します。 単色カラーと 2 色カラーをブラックとして扱えば、フルカラー印刷のみを、カラー印刷として管理することができます。 初期値は [カラー] です。
[パネルでのログアウト確認画面表示設定]	本機の操作中に、ログイン中のモード (登録ユーザーまたはパブリックユーザー) からログアウトするとき、 タッチパネル にログアウトの確認画面を表示するかどうかを選びます。 初期値は [表示する] です。

12.17 認証情報のない印刷を制限する

本機でユーザー認証/部門管理を有効に設定している場合に、認証情報のないジョブの印刷を許可するかどうかを選びます。

ERP(Enterprise Resource Planning)などの基幹系システムから本機にジョブを直接送信して印刷する場合など、プリンタードライバーで認証情報を付加せずに印刷する場合は、認証情報のないジョブの印刷を許可します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証指定なし印刷] で、次の設定をします。

設定	説明
[認証指定なし印刷]	認証情報のない印刷ジョブを許可するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [カラー・ブラック許可]：カラー印刷もモノクロ印刷も許可します。・ [ブラックのみ許可]：モノクロ印刷だけを許可します。カラーの印刷ジョブもモノクロで印刷します。・ [禁止]：認証情報のない印刷ジョブを禁止します。 初期値は [禁止] です。
[IP 許可設定]	[認証指定なし印刷] で [カラー・ブラック許可] または [ブラックのみ許可] を選んだ場合に、印刷を許可するコンピューターを IP アドレスで制限するときは [有効] を選びます。あわせて、IP アドレスの範囲を入力します。1つの IP アドレスからのアクセスを許可する場合は、片方だけの入力でも設定できます。 <ul style="list-style-type: none">・ 入力例：「192.168.1.1」 初期値は [無効] です。

参考

- 認証情報のない印刷を許可すると、パブリックユーザーのジョブとしてカウントします。

12.18 パスワードなしで印刷する (簡易認証)

概要

ユーザー認証を導入している場合に、プリンタードライバーを使って印刷するとき、ユーザー名だけの認証 (パスワードなし) で印刷できるようにします。この機能を、簡易認証と呼びます。

簡易認証を使う場合は、次の手順で設定してください。

- 1 簡易認証を許可する
 - 設定のしかたは、12-36 ページをごらんください。
- 2 外部サーバー認証を導入している場合は、ユーザー名を確認するための LDAP サーバー (簡易認証サーバー) の情報を登録する
 - 設定のしかたは、12-36 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
LDAP サーバーと SSL で通信したい	12-39 ページ

簡易認証を許可する

簡易認証を許可します。本体装置認証を導入している場合は、ユーザー名だけの認証 (パスワードなし) で、プリンタードライバーから印刷できるようになります。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [簡易認証設定] - [簡易認証設定] で、[簡易認証設定] を [許可] に設定します (初期値 : [禁止]) 。

参考

- 簡易認証を許可する場合、本体装置認証、外部サーバー認証、拡張サーバー認証での本機へのログインユーザー名は、Windows のログイン ID と一致している必要があります。

簡易認証サーバーを登録する

外部サーバー認証を導入している場合は、ユーザー名を LDAP サーバーに問合せ、本機へのアクセス許可を受ける必要があります。この LDAP サーバーを、簡易認証サーバーと呼びます。

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [簡易認証設定] - [簡易認証サーバー登録] - [編集] をクリックします。

2 [第1サーバー]の[編集]をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[簡易認証サーバー名称]	お使いの認証サーバーグループの名前を入力します (半角 32 文字以内)。登録する認証サーバーグループに、わかりやすい名前をつけます。
[外部認証サーバー]	簡易認証を連携させる外部認証サーバーグループを選びます。簡易認証が成功すると、本機でユーザーを管理するために、ユーザーの認証情報が本機に登録されます。この認証情報には、ユーザー名と外部認証サーバー名が含まれます。ここで選択した外部認証サーバー名が、ユーザー名と合わせて本機に登録されます。初期値は [選択なし] です。
[サーバーアドレス]	LDAP サーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [389] です。
[検索ベース 1] ~ [検索ベース 3]	認証するユーザーを検索するときの、検索の起点と範囲を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [検索ベース]: 検索の起点を指定します (半角 255 文字以内)。入力例: 「cn=users,dc=example,dc=com」 ・ [検索範囲]: ツリーの検索範囲を選びます。初期値は [ツリー全体] です。[ツリー全体] を選ぶと、入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。[直下 1 階層のみ] を選ぶと、入力した起点の直下の 1 階層のみを検索します。この場合、起点の階層自体は検索対象に含まれません。
[タイムアウト時間]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。
[認証方式]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [Simple] ・ [Digest-MD5] ・ [GSS-SPNEGO] ・ [NTLM v1] ・ [NTLM v2] 初期値は [Simple] です。
[ログイン名]	LDAP サーバーへログインして、ユーザーの検索が行えるユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。ここで入力するユーザー (名) は、LDAP サーバー内で特定の管理者グループに所属させる必要があります。
[パスワード]	[ログイン名] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を入力します (半角 64 文字以内)。[認証方式] で [GSS-SPNEGO] を選んだ場合は、Active Directory のドメイン名を入力します。
[referral 設定]	必要に応じて、referral 機能を使うかどうかを選びます。LDAP サーバーの環境に応じて設定してください。初期値は [使用する] です。
[検索属性]	LDAP サーバーでユーザーの検索をするときに使う、検索属性を入力します (半角 64 文字以内、記号は - のみ使用可能)。属性値は、半角英字で始める必要があります。初期値は [uid] です。
[検索ディレクトリサービス]	[Active Directory] を選ぶと、認証時の検索対象をユーザーに限定できます。認証時の検索対象をユーザーに限定すると、サーバー側で検索対象を判別する処理が発生するため、認証時間が遅くなる場合があります。この機能は、認証サーバーが Active Directory (Windows Server 2008 以降) の場合に利用できます。初期値は [その他] です。

3 必要に応じて、[第2サーバー]の[編集]をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[第2サーバー設定]	第2サーバーを使うかどうかを選びます。 2つのサーバーをグループにすることで、サーバーがダウンしたときに、もう一方のサーバーに切替えて認証を行うことができます。 初期値は[使用しない]です。
[ラウンドロビン機能]	第1サーバーと第2サーバーへ交互に接続するかどうかを選びます。 [有効]を選ぶと、第1サーバーと第2サーバーに交互に接続することで、サーバーの負荷を分散することができます。 初期値は[無効]です。
[再接続設定]	第1サーバーに接続できないときに第2サーバーへ接続するための設定をします。ラウンドロビン機能が有効の場合は、第2サーバーに接続できないときに第1サーバーへ接続するための設定にもなります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に毎回、第1サーバーへ接続します。第1サーバーがダウンしている場合は、第2サーバーへ接続します。 ・ [指定時間毎に接続]：本機での認証時に第1サーバーがダウンしている場合、第2サーバーへ接続します。以後、[再接続時間]で設定した時間を経過するまでの間、本機での認証時に第2サーバーへ接続します。[再接続時間]で設定した時間を経過した後は、本機での認証時に再度、第1サーバーへ接続します。 初期値は[指定時間毎に接続]です。
第2サーバー情報	必要な情報を設定します。 設定内容について詳しくは、手順2をごらんください。

参考

- 第1認証サーバーと第2認証サーバーの接続状態は、管理者モードの[ユーザー認証 / 部門管理] - [認証サーバー接続状態] - [簡易認証]で確認できます。[接続可能]と表示されている場合は、第1認証サーバーと第2認証サーバーのどちらも接続できます。

SSL で通信する

本機と LDAP サーバーとの通信を、SSL で暗号化します。

お使いの環境で LDAP サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [簡易認証設定] - [簡易認証サーバー登録] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL 使用設定]	SSL で通信するときは、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [636] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

12.19 認証装置を使う

12.19.1 認証装置の動作を設定する

IC カード認証装置

オプションの IC カード認証装置を使うと、IC カード / NFC 対応 Android 端末による認証で本機のログインやプリントジョブの印刷を行うことができます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証装置設定] で、本機へのログインのしかたを選びます (初期値: [IC カード認証])。

- [IC カード認証]: IC カード / NFC 対応 Android 端末をかざすだけでログインします。
- [IC カード認証 + パスワード認証]: IC カード / NFC 対応 Android 端末をかざして、パスワードを入力することでログインします。

指静脈生体認証装置

オプションの指静脈生体認証装置を使うと、指静脈による認証で本機のログインやプリントジョブの印刷を行うことができます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証装置設定] で、生体認証装置の動作と、本機へのログインのしかたを設定します。

設定	説明
[報知音]	指静脈パターンの読取りに成功したときに、「ピッ」という音を鳴らすかどうかを選びます。 初期値は [ON] です。
[動作設定]	本機へのログインのしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [1 対多認証]: 指を置くだけでログインします。 • [1 対 1 認証]: ユーザー名を入力して指を置くことでログインします。 生体情報をパスワードの代わりとして使います。 初期値は [1 対多認証] です。

12.19.2 認証カードを使って LDAP サーバーで認証する (LDAP-IC カード認証)

概要

認証カードに登録されているカード ID を使って、LDAP サーバーで認証するように設定できます (LDAP-IC カード認証)。

IC カードをかざすだけで認証が完了するので、ユーザーの利便性を損なうことなく、セキュリティを強化できます。

認証カードを使って認証するには、次の手順で設定してください。

- 1 本機で IC カード認証装置を使えるようにする
→ IC カード認証装置を使うには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- 2 LDAP-IC カード認証の基本設定をする
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
LDAP サーバーと SSL で通信したい	12-44 ページ

LDAP-IC カード認証の基本設定をする

- 1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [LDAP-IC カード認証設定] - [LDAP-IC カード認証設定] で、[LDAP-IC カード認証設定] を [使用する] に設定します (初期値: [使用しない])。
- 2 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [LDAP-IC カード認証設定] - [サーバー登録] - [編集] をクリックします。
- 3 [第 1 サーバー] の [編集] をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[LDAP-IC カード認証サーバー名称]	お使いの認証サーバーグループの名前を入力します (半角 32 文字以内)。登録する認証サーバーグループに、わかりやすい名前をつけます。
[外部認証サーバー]	LDAP-IC カード認証を連携させる外部認証サーバーグループを選びます。LDAP-IC カード認証が成功すると、本機でユーザーを管理するために、ユーザーの認証情報が本機に登録されます。この認証情報には、ユーザー名と外部認証サーバー名が含まれます。ここで選択した外部認証サーバー名が、ユーザー名と合わせて本機に登録されます。初期値は [選択なし] です。
[カード情報登録設定]	LDAP サーバーに登録されていない IC カードを使って本機で認証を行ったときに、LDAP サーバーへ IC カードの登録を行うかどうかを選びます。 [使用する] を選んだ場合、次の設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [カード情報登録先サーバー]: カード情報を登録するサーバーを指定します。[認証成功したサーバー] を選ぶと、第 1 サーバーと第 2 サーバーのうち、認証が成功したサーバーに登録します。 ・ [ユーザー名とする属性]: ユーザー名として検索する属性を指定します。初期値は [使用しない] です。
[検索時のカード情報文字種]	LDAP サーバーでカード ID を検索するときの、検索文字列の変換方法を選びます。サーバー上の検索対象となるカード属性情報が大文字または小文字に統一されている場合、検索文字列の文字種を変換することで検索速度を短縮できる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [大文字・小文字]: カード ID を大文字と小文字に、それぞれ変換して検索します。 ・ [大文字]: カード ID を大文字に変換して検索します。 ・ [小文字]: カード ID を小文字に変換して検索します。 初期値は [大文字・小文字] です。
[サーバーアドレス]	IC カードのユーザー ID を認証する LDAP サーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例: 「host.example.com」 ・ IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 ・ IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、LDAP サーバーのポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [389] です。
[検索ベース 1] ~ [検索ベース 3]	認証するユーザーを検索するときの、検索の起点と範囲を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [検索ベース]: 検索の起点を指定します (半角 255 文字以内)。入力例: 「cn=users,dc=example,dc=com」 ・ [検索範囲]: ツリーの検索範囲を選びます。初期値は [ツリー全体] です。[ツリー全体] を選ぶと、入力した起点から下のツリー構造も含めて検索します。[直下 1 階層のみ] を選ぶと、入力した起点の直下の 1 階層のみを検索します。この場合、起点の階層自体は検索対象に含まれません。
[タイムアウト時間]	必要に応じて、LDAP サーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。初期値は [60] 秒です。
[認証方式]	LDAP サーバーへログインするときの、認証方式を選びます。お使いの LDAP サーバーで採用している認証方式に合わせて選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [Simple] ・ [Digest-MD5] ・ [GSS-SPNEGO] ・ [NTLM v1] ・ [NTLM v2] 初期値は [Simple] です。

設定	説明
[ログイン名]	LDAP サーバーへログインして、ユーザーの検索が行えるユーザー名を入力します（全角/半角 64 文字以内）。 ここで入力するユーザー（名）は、LDAP サーバー内で特定の管理者グループに所属させる必要があります。
[パスワード]	[ログイン名] に入力したユーザーのパスワードを入力します（" を除く半角 64 文字以内）。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ドメイン名]	LDAP サーバーへログインするためのドメイン名を入力します（半角 64 文字以内）。 [認証方式] で [GSS-SPNEGO] を選んだ場合は、Active Directory のドメイン名を入力します。
[referral 設定]	必要に応じて、referral 機能を使うかどうかを選びます。 LDAP サーバーの環境に応じて設定してください。 初期値は [使用する] です。
[検索属性]	IC カード情報を入力した場所に対応する属性を入力します（半角 63 文字以内、記号は - のみ使用可能）。 属性値は、半角英字で始める必要があります。 初期値は [uid] です。
[ユーザー名]	本機にログインするときのユーザー名の取得方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [カード ID を使用]：サーバーに、IC カード情報のみを登録している場合を選びます。IC カードにあるカード ID をユーザー名として使います。 ・ [サーバーから取得]：サーバーに、IC カード情報以外のユーザー情報を登録している場合を選びます。サーバーから取得したユーザー名を使います。ユーザー名として検索する属性（[uid] など）を、[ユーザー名とする属性] に入力します。 [カード情報登録設定] で [使用する] を選んだ場合は [サーバーから取得] が選択され、変更できません。また、[ユーザー名とする属性] に、[カード情報登録設定] で入力した属性が表示されます。 初期値は [カード ID を使用] です。
[検索ディレクトリサービス]	[Active Directory] を選ぶと、認証時の検索対象をユーザーに限定できます。認証時の検索対象をユーザーに限定すると、サーバー側で検索対象を判別する処理が発生するため、認証時間が遅くなる場合があります。この機能は、認証サーバーが Active Directory (Windows Server 2008 以降) の場合に利用できます。 初期値は [その他] です。

4 必要に応じて、[第2サーバー]の[編集]をクリックして、次の設定をします。

設定	説明
[第2サーバー設定]	第2サーバーを使うかどうかを選びます。 2つのサーバーをグループにすることで、サーバーがダウンしたときに、もう一方のサーバーに切替えて認証を行うことができます。 初期値は[使用しない]です。
[ラウンドロビン機能]	第1サーバーと第2サーバーへ交互に接続するかどうかを選びます。 [有効]を選ぶと、第1サーバーと第2サーバーに交互に接続することで、サーバーの負荷を分散することができます。 初期値は[無効]です。
[再接続設定]	第1サーバーに接続できないときに第2サーバーへ接続するための設定をします。ラウンドロビン機能が有効の場合は、第2サーバーに接続できないときに第1サーバーへ接続するための設定にもなります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に毎回、第1サーバーへ接続します。第1サーバーがダウンしている場合は、第2サーバーへ接続します。 ・ [指定時間毎に接続]：本機での認証時に第1サーバーがダウンしている場合、第2サーバーへ接続します。以後、[再接続時間]で設定した時間を経過するまでの間、本機での認証時に第2サーバーへ接続します。[再接続時間]で設定した時間を経過した後は、本機での認証時に再度、第1サーバーへ接続します。 初期値は[指定時間毎に接続]です。
[カード情報登録設定]	LDAPサーバーに登録されていないICカードを使って本機で認証を行ったときに、LDAPサーバーへICカードの登録を行うかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [第1サーバーと共通]：第1サーバーと同じ設定にする場合は[有効]を選びます。第1サーバーと異なる設定にする場合は[無効]を選び、[ユーザー名とする属性]でユーザー名として検索する属性を指定します。
第2サーバー情報	必要な情報を設定します。 設定内容について詳しくは、手順3をごらんください。

5 操作パネルの[設定メニュー] - [管理者設定] - [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証装置設定] - [認証方式] - [ICカード認証] - [ICカードタイプ設定]で、利用するICカードを許可した後、認証サーバーとしてLDAPサーバーを割当てます。

→ [ICカードタイプ設定]について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 第1認証サーバーと第2認証サーバーの接続状態は、管理者モードの[ユーザー認証 / 部門管理] - [認証サーバー接続状態] - [LDAP-ICカード認証]で確認できます。[接続可能]と表示されている場合は、第1認証サーバーと第2認証サーバーのどちらも接続できます。

SSL で通信する

本機と LDAP サーバーとの通信を、SSL で暗号化します。

お使いの環境で LDAP サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [LDAP-IC カード認証設定] - [サーバー登録] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL 使用設定]	SSL で通信するときは、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [636] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

12.19.3 認証カードの ID を本機のカウンター情報に記録する

本機の使用状況を収集するカウンター情報に、認証カードの ID を記録するように設定できます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証カード ID の通知] で、[認証カード ID の通知] を [通知する] に設定します (初期値: [通知しない])。

12.20 拡張サーバーのダウンに備えて本体装置認証を併用する

Authentication Manager などの拡張サーバーを利用して本機を使えるユーザーを管理している場合、拡張サーバーがダウンしたときに備えて、本体装置認証を併用することができます。

拡張サーバー認証と本体装置認証を併用するように設定しておくことで、万一拡張サーバーがダウンしても、ユーザーは装置に一時保存されている認証情報を利用してログインし、装置を使うことができます。

1 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[ユーザー認証]	拡張サーバー認証と本体装置認証を併用するときは、[本体装置 + 中間認証サーバ認証] を選びます。
[ユーザー情報の上書き]	[ユーザー認証] で [本体装置 + 中間認証サーバ認証] を選んだ場合、強制的に [許可] となります。 拡張サーバー認証時は、認証したユーザーの情報を本機でも管理します。拡張サーバー認証を実施したユーザー数が、本機で管理できるユーザー数の上限に達した場合は、新しいユーザーの認証が許可されません。その場合に、ユーザー情報を上書き登録します。
[課金情報の更新]	拡張サーバーがダウンした場合、本機で管理できる課金情報が上限数に達したときに、古い課金情報への上書きを許可するかどうかを選びます。 初期値は [禁止] です。
[デフォルト認証方式]	[ユーザー認証] で [本体装置 + 中間認証サーバ認証] を選んだ場合は、通常使う認証方式を選びます。 初期値は [中間認証サーバ認証] です。
[拡張カウンター]	[ユーザー認証] で [本体装置 + 中間認証サーバ認証] を選んだ場合、拡張サーバーダウン時などの一時保存用としてカウンター領域を割当てます。 [ユーザーカウンター] と合わせて 1000 件まで設定できます。
[認証情報の一時保存]	拡張サーバーがダウンした場合に備えて、認証情報を本体に一時保存する場合は、[有効] を選びます。 初期値は [無効] です。
[再接続設定]	必要に応じて、拡張サーバーへの再接続を行う時間を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ログイン毎に接続]：本機での認証時に拡張サーバーへ接続します。本機での認証時に拡張サーバーがダウンしている場合は、拡張サーバーがダウンしていることを確認してから、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 ・ [指定時間毎に接続]：[再接続時間] で設定した時間に従って、拡張サーバーへ接続し、拡張サーバーの状況を確認します。拡張サーバーがダウンしている場合は、本体に一時保存した認証情報を使ってログインします。 初期値は [指定時間毎に接続] です。
[有効期限設定]	一時保存した認証情報に有効期限を設定する場合は、[有効] を選びます。 [有効] を選んだ場合は、有効期限を入力します。 初期値は [無効] です。

2 管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [拡張サーバーダウン時の上限設定] で、次の設定をします。

→ [拡張サーバーダウン時の上限設定] は、手順 1 で [認証情報の一時保存] を [有効] に設定した場合に表示されます。

設定	説明
[拡張サーバーダウン時の上限設定]	拡張サーバーがダウンした場合、本機で印刷枚数やボックス登録数などの上限管理を行うかどうかを設定します。 初期値は [管理する] です。
[プリント(トータル)] / [プリント(カラー)] / [プリント(ブラック)]	印刷枚数の上限管理を行う場合は、[プリント上限] にチェックをつけ、上限値を入力します。
[個人ボックス管理]	個人ボックス登録数の上限管理を行う場合は、[個人ボックス上限] にチェックをつけ、上限値を入力します。
[課金管理]	課金の上限管理を行う場合は、[課金上限] にチェックをつけ、上限値を入力します。

12.21 モバイル端末を使って認証する

12.21.1 NFC 認証を導入する

概要

NFC は、携帯情報端末などで数十センチ程度の機器間の接続に使う、近距離無線通信の規格です。

本機でユーザー認証を導入している場合に、NFC 認証を導入すれば、NFC 対応 Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすだけで、本機にログインできます。

- ✓ 本機でユーザー認証を導入している必要があります。
- ✓ 本機と Android 端末が同じ無線 LAN 環境に接続している必要があります。

- 1 Android 端末にアプリケーションをインストールし、NFC を使って認証するための設定をする
→ 設定のしかたは、12-46 ページをごらんください。
- 2 本機で NFC を使って認証するための設定をする
→ 設定のしかたは、12-46 ページをごらんください。



参照

NFC を使って本機にログインする方法について詳しくは、12-46 ページをごらんください。

Android 端末で NFC を使って認証するための設定をする

Android 端末でユーザー認証を行うためには、Android 端末で以下の準備が必要です。

- Android 端末の無線接続および NFC を有効にする
- Android 端末に PageScope Mobile for Android をインストールし、NFC 端末設定を有効にする
 - 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for Android のヘルプをごらんください。
- PageScope Mobile for Android に本機を登録する
 - 登録方法について詳しくは、16-25 ページをごらんください。
- PageScope Mobile for Android にユーザー認証情報を登録する
 - 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for Android のヘルプをごらんください。

本機で NFC 認証機能を有効にする

本機で NFC 認証機能を有効に設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[NFC 使用設定]	NFC を使用するときには、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[NFC 認証設定]	NFC 認証を使用するときには、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。

Android 端末で NFC を使って本機にログインする

Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざして、本機にログインする方法を説明します。

- 1 Android 端末を起動します。
- 2 Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざします。
認証が開始されます。認証に成功すると、本機にログインします。



参考

- NFC 認証の操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for Android のヘルプをごらんください。

12.21.2 Bluetooth LE 認証を導入する

概要

Bluetooth LE は、携帯情報端末などで数メートル程度の機器間の接続に使う、省電力な近距離無線通信の規格です。

本機でユーザー認証を導入している場合に、Bluetooth LE 対応 iOS 端末から Bluetooth LE 認証を使って、本機にログインできます。

- ✓ 本機でユーザー認証を導入している必要があります。
- ✓ 本機と iOS 端末が同じ無線 LAN 環境に接続している必要があります。
- ✓ この機能を使うには、オプションのローカル接続キット（音声ガイド / Bluetooth LE 用）が必要です。また、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

- 1 iOS 端末にアプリケーションをインストールし、Bluetooth LE を使って認証するための設定をする
→ 設定のしかたは、12-47 ページをごらんください。
- 2 本機で Bluetooth LE を使って認証するための設定をする
→ 設定のしかたは、12-47 ページをごらんください。



参照

Bluetooth LE を使って本機にログインする方法について詳しくは、12-48 ページをごらんください。

iOS 端末で Bluetooth LE を使って認証するための設定をする

iOS 端末でユーザー認証を行うためには、iOS 端末で以下の準備が必要です。

- iOS 端末の無線接続および Bluetooth LE を有効にする
- iOS 端末に PageScope Mobile for iPhone/iPad をインストールし、Bluetooth LE 端末設定を有効にする
 - 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for iPhone/iPad のヘルプをごらんください。
- PageScope Mobile for iPhone/iPad に本機を登録する
 - 登録方法について詳しくは、16-27 ページをごらんください。
- PageScope Mobile for iPhone/iPad にユーザー認証情報を登録する
 - 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for iPhone/iPad のヘルプをごらんください。

本機で Bluetooth LE 認証機能を有効にする

本機で Bluetooth LE 認証機能を有効に設定します。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、次の設定をします。

設定	説明
[Bluetooth LE 使用設定]	Bluetooth LE を使用するときには、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[Bluetooth LE 認証設定]	Bluetooth LE 認証を使用するときには、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。

iOS 端末で Bluetooth LE を使って本機にログインする

Bluetooth LE 認証を使って、iOS 端末から本機にログインする方法を説明します。

✓ 以下の操作は、本機の近くで行ってください。

- 1 iOS 端末で PageScope Mobile for iPhone/iPad を起動します。
- 2 PageScope Mobile for iPhone/iPad のホーム画面で、[プリンター パネル ログイン] をタップします。
Bluetooth LE 通信が可能な装置の一覧が表示されます。
- 3 装置の一覧から本機を選びます。
認証が開始されます。認証に成功すると、本機にログインします。

参考

- Bluetooth LE 認証の操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for iPhone/iPad のヘルプをごらんください。
- PageScope Mobile for iPhone/iPad の [プリンター パネル ログイン] は本機から離れた場所でも有効になりますが、ログインの操作は本機の近くで行ってください。本機から離れた場所で行うと、**操作パネル**がログイン状態になったときに、無断で他人に使用される恐れがあります。
- Bluetooth LE 認証を利用する場合は、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー / 部門共通設定] - [パネルでのログアウト確認画面表示設定] を [表示する] に設定することをおすすめします。この設定を行うと、ほかのユーザーが本機にログインしているときに、iOS 端末からログインを行うと、**タッチパネル**にログアウトの確認画面が表示されます。

12.22 認証対象とするユーザー件数を拡張する

拡張ユーザーデータベースを使って、本機で認証対象とするユーザー件数を拡張するかどうかを選びます。拡張ユーザーデータベースを使うと、認証対象とするユーザー件数が最大 50000 件に拡張されます。

拡張ユーザーデータベースを使うには、管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] で、[拡張ユーザー DB] を [使用する] に設定します。

[ユーザー認証] で [本体装置認証] または [本体装置 + 外部サーバー認証] を選んだ場合に設定できます。

初期値は [使用しない] です。

13

セキュリティを強化する

13 セキュリティを強化する

13.1 本機の証明書を作成して SSL で通信する

概要

本機とコンピューターとの通信を SSL で暗号化して、セキュリティを強化できます。

本機の証明書を使って、本機とコンピューターとの間で SSL 通信を行います。本機には、出荷時に証明書が登録されているため、本機で SSL/TLS を有効にするだけで、設置後すぐに SSL による暗号化通信ができます。

本機は、複数の証明書を管理し、用途（プロトコル）に応じて使い分けることもできます。証明書は、新しく自己作成したり、CA 局（認証局）から発行された証明書をインストールしたりできます。

本機で、証明書を利用する方法は次のとおりです。

利用方法	説明
出荷時に登録されている証明書を利用する	出荷時に本機に登録されている証明書をそのまま利用できます。
自己作成した証明書を利用する	本機で証明書を作成します。CA(認証局)を必要とせず、証明書の作成に必要な情報を入力するだけで、証明書を利用できます。
CA(認証局)から発行された証明書を利用する	本機で、証明書発行要求データを作成し、信頼できる CA(認証局)に、本機の証明書の発行を依頼します。認証局での審査後、返送されてきたデータを本機に登録します。

参照

他の装置からエクスポートした証明書を、本機にインポートして使うこともできます。詳しくは、13-7 ページをごらんください。

証明書を用途（プロトコル）に応じて使い分ける方法について詳しくは、13-5 ページをごらんください。

出荷時に登録されている証明書を使う

SSL 通信を有効にするログインモードを選びます。また、SSL の暗号化強度を選びます。

管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [SSL 使用設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS 使用モード]	SSL 通信を行うログインモードを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [管理者モードのみ]：管理者モードだけ SSL で通信します。 ・ [管理者モードとユーザーモード]：管理者モードとユーザーモードの両方を SSL で通信します。 ・ [なし]：SSL で通信しません。 初期値は [なし] です。
[暗号強度]	SSL の暗号強度を選びます。 お使いの環境に合わせて選んでください。 初期値は [AES-256, 3DES-168, RC4-128] です。
[SSL/TLS バージョン設定]	使用する SSL のバージョンを選びます。お使いの環境に合わせて選んでください。

証明書を自己作成する

本機で証明書を作成します。CA(認証局)を必要とせず、証明書の作成に必要な情報を入力するだけで、証明書を利用できます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [新規登録] - [証明書を自己で作成しインストールする] で、証明書の作成に必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。

証明書が作成され、本機にインストールされます。証明書を作成するのに数分かかる場合があります。

設定	説明
[コモンネーム]	本機の IP アドレスを表示します。
[組織名]	組織名、団体名を入力します (ASCII 63 文字以内)。
[部門名]	部門名を入力します (ASCII 63 文字以内)。 空白でも登録できます。
[市区町村名]	市区町村名を入力します (ASCII 127 文字以内)。
[都道府県名]	都道府県名を入力します (ASCII 127 文字以内)。
[国別記号]	国名を入力します。ISO03166 で規定されている国コードで入力します (ASCII 2 文字)。 アメリカ: US、イギリス: GB、イタリア: IT、オーストラリア: AU、オランダ: NL、カナダ: CA、スペイン: ES、チェコ: CZ、中国: CN、デンマーク: DK、ドイツ: DE、日本: JP、フランス: FR、ベルギー: BE、ロシア: RU
[管理者アドレス]	本機の管理者の、メールアドレスを入力します (スペースを除く半角 128 文字以内)。 管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で、すでに管理者のメールアドレスを登録している場合は、登録したメールアドレスを表示します。
[有効開始の日付]	証明書の有効期間の、開始日を表示します。 この画面を表示したときの本機の日時を表示します。
[有効期間]	証明書の有効期間を、開始日からの経過日数で入力します。
[暗号鍵の種類]	暗号鍵の種類を選びます。

- 2 証明書のインストールが完了したら、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。

認証局に証明書の発行要求をする

本機で、証明書発行要求データを作成し、信頼できる CA(認証局) に、本機の証明書の発行を依頼します。認証局での審査後、返送されてきたデータを本機に登録します。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [新規登録] - [証明書の発行要求をする] で、証明書の発行に必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。

認証局に送付するための、証明書発行要求データが作成されます。

設定	説明
[コモンネーム]	本機の IP アドレスを表示します。
[組織名]	組織名、団体名を入力します (ASCII 63 文字以内)。
[部門名]	部門名を入力します (ASCII 63 文字以内)。 空白でも登録できます。
[市区町村名]	市区町村名を入力します (ASCII 127 文字以内)。
[都道府県名]	都道府県名を入力します (ASCII 127 文字以内)。
[国別記号]	国名を入力します。ISO03166 で規定されている国コードで入力します (ASCII 2 文字)。 アメリカ : US、イギリス : GB、イタリア : IT、オーストラリア : AU、オランダ : NL、カナダ : CA、スペイン : ES、チェコ : CZ、中国 : CN、デンマーク : DK、ドイツ : DE、日本 : JP、フランス : FR、ベルギー : BE、ロシア : RU
[管理者アドレス]	本機の管理者の、メールアドレスを入力します (スペースを除く半角 128 文字以内)。 管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で、すでに管理者のメールアドレスを登録している場合は、登録したメールアドレスを表示します。
[暗号鍵の種類]	暗号鍵の種類を設定します。

- 2 [保存] をクリックします。
→ 証明書発行要求データをファイルとしてコンピューターに保存します。
- 3 証明書発行要求データを、認証局へ送ります。
認証局での審査後、返送されてきたデータを本機に登録します。
- 4 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [設定] - [証明書をインストールする] で、CA(認証局) から送られてきたテキスト形式のデータを貼付け、[インストール] をクリックします。
- 5 証明書のインストールが完了したら、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。

13.2 本機の証明書を管理する

13.2.1 複数の証明書を用途に応じて使い分ける

本機は、複数の証明書を管理し、用途（プロトコル）に応じて使い分けることができます。

管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [プロトコル設定] で、[登録] をクリックして、プロトコルに対して使う証明書を選びます。

プロトコル	用途
[SSL] : [http サーバー]	本機が HTTP サーバーになる場合に、クライアントから本機への通信を暗号化します。たとえば、次の用途で使います。 <ul style="list-style-type: none"> • HTTPS で Web Connection にアクセスする • IPPS で印刷する
[SSL] : [E-mail 送信 (SMTP)]	本機が SMTP クライアントになる場合に、メールサーバー (SMTP) からの要求に応じて、本機の証明書を提示します。
[SSL] : [E-mail 受信 (POP)]	本機が POP クライアントになる場合に、メールサーバー (POP) からの要求に応じて、本機の証明書を提示します。
[SSL] : [TCP Socket]	本機が TCP Socket クライアントになる場合に、TCP Socket サーバーからの要求に応じて、本機の証明書を提示します。
[SSL] : [LDAP]	本機が LDAP クライアントになる場合に、LDAP サーバーからの要求に応じて、本機の証明書を提示します。
[SSL] : [WebDAV クライアント]	本機が WebDAV クライアントになる場合に、WebDAV サーバーからの要求に応じて、本機の証明書を提示します。
[SSL] : [OpenAPI]	本機が OpenAPI サーバーになる場合に、OpenAPI クライアントから本機への通信を暗号化します。
[SSL] : [Web サービス]	本機が Web サービスサーバーになる場合に、クライアントから本機への通信を暗号化します。 Windows コンピューターが、HTTPS で本機にアクセスする場合に使います。
[IEEE802.1X]	本機が IEEE802.1X の認証クライアントになる場合に、次の用途で使います。 <ul style="list-style-type: none"> • EAP-TLS で IEEE802.1X サーバーに認証を受ける場合に、通信を暗号化する。 • EAP-TTLS または EAP-PEAP で、サーバーから証明書を要求された場合に、本機の証明書を提示する。
[S/MIME]	S/MIME メールを送信する場合に、E-mail の送信元を保証するために本機の証明書を添付します。
[SSL] : [IPsec]	本機で IPsec 通信をするときに使います。
[SSL] : [リモートパネル]	専用ソフトを使って本機の操作パネルを遠隔から操作する場合に、次の用途で使います。 <ul style="list-style-type: none"> • クライアント設定で、専用ソフトをインストールしたサーバーからの要求に応じて、本機の証明書を提示する。 • サーバー設定で、本機の操作パネルを表示するクライアントから本機への通信を暗号化する。

参考

- 使う証明書が登録されている場合は、プロトコルに「*」が表示されます。
- [編集] をクリックすると、登録済みの証明書の変更や、証明書の詳細を確認できます。
- [削除] をクリックすると、登録情報を削除します。

13.2.2 証明書をエクスポートする

お使いのコンピューターにエクスポートする

本機の証明書をお使いのコンピューターにエクスポートできます。証明書をコンピューター上で管理したい場合や、他の装置に移行したい場合に、証明書をエクスポートします。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [設定] - [証明書をエクスポートする] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 [エクスポート先] で、[PC にエクスポートする] を選びます。
- 3 パスワードを入力し (半角 32 文字以内)、[OK] をクリックします。
→ 入力したパスワードは、証明書をインポートするときに必要です。
- 4 [ダウンロード] をクリックします。
本機の証明書が、コンピューターに保存されます。

SMB 共有フォルダーにエクスポートする

本機の証明書を SMB 共有フォルダーにエクスポートできます。証明書をコンピューター上で管理したい場合や、他の装置に移行したい場合に、証明書をエクスポートします。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [設定] - [証明書をエクスポートする] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 [エクスポート先] で、[SMB にエクスポートする] を選びます。
- 3 パスワードを入力し (半角 32 文字以内)、[OK] をクリックします。
→ 入力したパスワードは、証明書をインポートするときに必要です。
- 4 SMB サーバーへ接続するための情報を入力します。

設定	説明
[SMB ホスト名]	SMB サーバーのアドレスを入力します。 入力例: 「192.168.1.1」
[ユーザー名]	SMB サーバーにログインするためのユーザー名を入力します (半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 64 文字以内)。

- 5 [接続] をクリックします。
フォルダーの選択画面が表示されます。
- 6 証明書をエクスポートするフォルダーを選択して、[OK] をクリックします。
本機の証明書が、選択した SMB 共有フォルダーに保存されます。

13.2.3 証明書をインポートする

お使いのコンピューターからインポートする

エクスポートした証明書を、本機にインポートできます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [新規登録] - [証明書をインポートする] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 [PC から選択] を選び、[参照] をクリックします。
- 3 パスワード入力し (半角 32 文字以内)、[OK] をクリックします。
→ 証明書をエクスポートするときに指定したパスワードを入力します。
インポート結果が表示されます。

SMB 共有フォルダーからインポートする

エクスポートした証明書を、本機にインポートできます。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [新規登録] - [証明書をインポートする] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 [SMB 一覧から選択] を選び、[SMB 一覧] をクリックします。
- 3 SMB サーバーへ接続するための情報を入力します。

設定	説明
[SMB ホスト名]	SMB サーバーのアドレスを入力します。 入力例: 「192.168.1.1」
[ユーザー名]	SMB サーバーにログインするためのユーザー名を入力します (半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 64 文字以内)。

- 4 [接続] をクリックします。
フォルダーの選択画面が表示されます。
- 5 インポートする証明書を指定し、[OK] をクリックします。
- 6 パスワード入力し (半角 32 文字以内)、[OK] をクリックします。
→ 証明書をエクスポートするときに指定したパスワードを入力します。
インポート結果が表示されます。

13.2.4 証明書を削除する

必要に応じて、本機の証明書を削除できます。

管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [デバイス証明書設定] - [設定] - [証明書を破棄する] で、[OK] をクリックします。

参考

- デフォルトに指定されている証明書は、削除できません。削除する前に、他の証明書をデフォルトに指定してください。

13.3 証明書検証に関する設定をする

13.3.1 通信相手の証明書を検証する

通信相手の証明書の信頼性（有効期限、CN、鍵使用法など）を検証するための設定ができます。

証明書の失効確認をする場合は、OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービスの URL を登録します。

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[証明書検証設定]	通信相手の証明書の信頼性を検証するときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用する] です。
[タイムアウト時間]	必要に応じて、証明書失効確認のタイムアウト時間を変更します。初期値は [30] 秒です。
[OCSP サービス]	OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービスを利用すると、証明書が失効していないかどうかをオンラインで確認できます。OCSP サービスを使う場合は、チェックをつけます。あわせて、OCSP サービスの URL を入力します（半角 511 文字以内）。[URL] が空欄の場合は、証明書に埋込まれた OCSP サービスの URL を使います。
[プロキシ設定]	失効確認を行うときに、プロキシサーバーを経由させる場合は、お使いのプロキシサーバーを登録します。
[プロキシサーバーアドレス]	お使いのプロキシサーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。初期値は [8080] です。
[ユーザー名]	プロキシサーバーへログインするための、ユーザー名を入力します（半角 63 文字以内）。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します（半角 63 文字以内）。パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[プロキシサーバーを使用しないアドレス]	必要に応じて、プロキシサーバーを使わないアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」

13.3.2 チェーンの検証に使う外部証明書をインポートする

インポートできる外部証明書の種類

証明書のチェーン（証明書のパス）を検証するときに使う外部証明書を、本機にインポートします。本機には、次の証明書をインポートできます。

種類	説明
[信頼する CA のルート証明書]	提示される証明書のチェーンを検証する場合は、証明書を発行した CA の証明書を、本機にインポートしておく必要があります。
[信頼する CA の中間証明書]	提示される証明書が中間認証局から発行されている場合は、中間認証局の証明書を、本機にインポートしておく必要があります。また、中間認証局を認証している CA のルート証明書も、本機にインポートしておく必要があります。
[信頼する EE(End Entity) の証明書]	「信頼する EE」とは、提示される証明書そのものを意味しています。提示される証明書そのものを本機にインポートしておくことで、提示される証明書を、信頼する証明書として判断できます。提示される証明書が、信頼される EE の証明書として本機に事前に登録されている場合には、本機は証明書のチェーンを検証せずに、提示された証明書を、信頼できる証明書として判断します。
[信頼しない証明書]	信頼しない証明書を登録できます。

インポートのしかた

証明書のチェーン（証明書のパス）の検証に使う外部証明書を、本機にインポートします。

- 1 管理者モードの [セキュリティ] - [PKI 設定] - [外部証明書設定] で、[新規登録] をクリックします。
 - 一覧に表示する証明書を切換えるときは、切換えたい証明書を選び、[表示切替] をクリックします。
 - 登録済みの証明書を削除するときは、[削除] をクリックします。
- 2 お使いのコンピューターまたは SMB 共有フォルダーからインポートする証明書を選びます。
 - [PC から選択] : [参照] をクリックし、お使いのコンピューターからインポートする証明書を選びます。
 - [SMB 一覧から選択] : [SMB 一覧] をクリックし、SMB 共有フォルダーからインポートする証明書を選びます。
- 3 [OK] をクリックします。
インポート結果が表示されます。

13.4 本機にユーザー証明書を自動登録する

S/MIME で E-mail を暗号化するために使うユーザーの証明書を、本機に登録します。

ユーザーの証明書の登録方法には、次の2つの方法があります。

- 本機に E-mail 宛先を登録するとき、宛先の登録情報としてユーザーの証明書を登録する
- デジタル署名(ユーザーの証明書)を添付した E-mail を本機宛に送信し、S/MIME 機能を利用して本機に自動登録させる

ここでは、デジタル署名(ユーザーの証明書)を添付した E-mail を本機宛に送信し、自動登録する方法を説明します。

- ✓ 証明書を登録したいユーザーの E-mail 宛先が、本機に登録されている必要があります。
- ✓ 本機が E-mail を受信できる必要があります。

1 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [S/MIME] で、次の設定をします。

設定	説明
[S/MIME 通信設定]	S/MIME を使うときは、[使用する] を選びます。 [使用する] を選ぶには、本機の証明書のメールアドレスと管理者のメールアドレスが一致している必要があります。 初期値は [使用しない] です。
[証明書の自動取得]	デジタル署名(ユーザーの証明書)を自動的に登録する場合は、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[S/MIME 情報の印刷]	必要に応じて、S/MIME 情報を印刷するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン(証明書のパス)に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

2 コンピューターから本機宛に、デジタル署名を付加した E-mail を送信します。

E-mail 宛先に登録されているユーザーのメールアドレスと、本機が受信した証明書に登録されているメールアドレスが一致した場合、自動的に証明書が登録されます。

13.5 本機へのアクセスをIPアドレスで制限する

IPv4 アドレスで制限する

本機へアクセスするコンピューターを、IPアドレスによって制限できます。これを、IPアドレスフィルタリングと呼びます。

本機へのアクセスを許可するIPv4アドレスと、拒否するIPv4アドレスを指定できます。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IP アドレスフィルタリング] で、次の設定をします。

設定	説明
[IPv4 許可設定]	アクセスを許可するIPv4アドレスを指定する場合は、[有効] を選びます。あわせて、アクセスを許可するIPv4アドレスの範囲を入力します。1つのIPv4アドレスからのアクセスを許可する場合は、片方だけの入力でも設定できます。 ・ 入力例：「192.168.1.1」 初期値は [無効] です。
[IPv4 拒否設定]	アクセスを拒否するIPv4アドレスを指定する場合は、[有効] を選びます。あわせて、IPv4アドレスの範囲を入力します。1つのIPv4アドレスからのアクセスを拒否する場合は、片方だけの入力でも設定できます。 ・ 入力例：「192.168.1.1」 初期値は [無効] です。

- 2 [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [フィルタリング種別] で [IP アドレスフィルタリング] を選び、[OK] をクリックします。

IPv6 アドレスで制限する

本機へアクセスするコンピューターを、IPアドレスによって制限できます。これを、IPアドレスフィルタリングと呼びます。

本機へのアクセスを許可するIPv6アドレスと、拒否するIPv6アドレスを指定できます。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IP アドレスフィルタリング] で、次の設定をします。

設定	説明
[IPv6 許可設定]	アクセスを許可するIPv6アドレスを指定する場合は、[有効] を選びます。あわせて、アクセスを許可するIPv6アドレスの範囲を入力します。プレフィックス指定の書式： ****.****.****.****.****.****.****.****/@ * の入力範囲：16 進数 @ の入力範囲：3-128 初期値は [無効] です。
[IPv6 拒否設定]	アクセスを拒否するIPv6アドレスを指定する場合は、[有効] を選びます。あわせて、IPv6アドレスの範囲を入力します。プレフィックス指定の書式： ****.****.****.****.****.****.****.****/@ * の入力範囲：16 進数 @ の入力範囲：3-128 初期値は [無効] です。

- 2 [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [フィルタリング種別] で [IP アドレスフィルタリング] を選び、[OK] をクリックします。

13.6 本機へのアクセスを制限する IP アドレスを自動で設定する

簡易 IP フィルタリング機能を導入すると、本機へアクセスできる IP アドレスの範囲が自動設定されるため、簡単にアクセス制限が設定できます。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [簡易 IP フィルタリング] で、次の設定をします。

設定	説明
[簡易 IP フィルタリング]	<p>アクセスを制限するアドレス範囲の決定方法を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IP アドレス連動]：IPv4 アドレスの場合、本機に設定されている IPv4 アドレスと上位 3 バイトが同一の IPv4 アドレスのみアクセスを許可します。 (例) 本機の IPv4 アドレスが「192.168.0.134」の場合、アクセスを許可する IPv4 アドレスの範囲は以下のとおりです。 192.168.0.0 ~ 192.168.0.255 IPv6 アドレスの場合、グローバルユニキャストアドレス (2000::/3) のみアクセスを許可します。また、本機に設定されている IPv6 アドレスと上位 64 ビットが同一の IPv6 アドレスのみアクセスを許可します。 (例) 本機の IPv6 アドレスが「2345:1:2:3:4:5:6:7」の場合、アクセスを許可する IPv6 アドレスの範囲は以下のとおりです。 2345:1:2:3::0 ~ 2345:1:2:3:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF • [サブネットマスク連動]：IPv4 アドレスの場合、本機に設定されている IPv4 アドレスとサブネットマスクを使用し、同じネットワークに属する IPv4 アドレスの範囲のみアクセスを許可します。 サブネットマスクが設定されていない場合、または「0.0.0.0」が設定されている場合は、本機に設定されている IPv4 アドレスと末尾のみが異なる IPv4 アドレスのアクセスを許可します。結果として、[IP アドレス連動] と同じ動作になります。 (例) 本機の IPv4 アドレスが「192.168.17.134」、サブネットマスクが「255.255.252.0」の場合、アクセスを許可する IPv4 アドレスの範囲は以下のとおりです。 192.168.16.* ~ 192.168.19.* IPv6 アドレスの場合、グローバルユニキャストアドレス (2000::/3) のみアクセスを許可します。また、本機に設定されているグローバル IPv6 アドレスと Prefix を使用し、フィルタリングを行います。 Prefix が設定されていない場合、Prefix に 64 ビットが設定されている場合と同じ動作になります。 (例) 本機の IPv6 アドレスが「2345:1:2:3:4:5:6:7」、Prefix が「/64」の場合、アクセスを許可する IPv6 アドレスの範囲は以下のとおりです。 2345:1:2:3::0 ~ 2345:1:2:3:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF • [フィルタリングなし]：フィルタリング機能を使いません。 初期値は [フィルタリングなし] です。

- 2 [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [フィルタリング種別] で [簡易 IP フィルタリング] を選び、[OK] をクリックします。

参考

- 簡易 IP フィルタリング機能を使うと、アクセスを制限する IP アドレスの範囲は自動で設定されます。アクセスを制限する IP アドレスの範囲を手動で設定したい場合は、[簡易 IP フィルタリング] を使わずに、[ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IP アドレスフィルタリング] または [パケットフィルタリング] を設定します。

13.7 パケットの送受信を制限する

13.7.1 パケットフィルタリングの設定をする

フィルターを登録する

本機に送られてくるパケットに対して、送信元のアドレスによって受信を制限します。また、送信先のアドレスによって送信を制限します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [パケットフィルタリング] - [登録] で、次の設定をします。

設定	説明
[アドレス種別]	対象パケットの、アドレスの種類を選びます。
[開始アドレス]	<p>フィルタリングするアドレス範囲を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アドレス種別] で [IPv4] を選んだ場合は、IPv4 アドレス範囲の開始アドレスを指定します。ブロードキャストアドレスまたはマルチキャストアドレスを指定することもできます。 書式：[*.*.*]* [*] の範囲は 0-255。 IPv4 アドレスとプレフィックスレングスにより、アドレス範囲を指定することもできます。この場合、プレフィックス部のビットと一致するアドレス範囲が、フィルタリングの対象になります。 書式：[*.*.**/@] [*] の範囲は 0-255。[@] の範囲は 1-31。 • [アドレス種別] で [IPv6] を選んだ場合は、IPv6 アドレスとプレフィックスレングスにより、アドレス範囲を指定します。マルチキャストアドレスを指定することもできます。 書式：[*::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*/@] [*] は 16 進数。[@] の範囲は 1-127。 • [アドレス種別] で [MAC アドレス] を選んだ場合は、MAC アドレスを指定します。この場合、単一のアドレスのみフィルタリングの対象になります。アドレス範囲を指定することはできません。 書式：[*:*:*:*:*:*:*] [*] は 16 進数。
[終了アドレス]	<p>[アドレス種別] で IPv4 を選んだ場合に、フィルタリングする IPv4 アドレス範囲の終了アドレスを指定します。[終了アドレス] を指定しない場合は、[開始アドレス] で指定したアドレスだけがフィルタリングの対象になります。</p> <p>書式：[*.*.*]* [*] の範囲は 0-255。</p> <p>[開始アドレス] で IPv4 アドレスのプレフィックスレングスを指定した場合は、終了アドレスを指定できません。</p>
[受信 / 送信]	<p>対象パケットの通信方向を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [受信]：本機が受信するパケットを、送信元のアドレスによって制限します。 • [送信]：本機が送信するパケットを、送信先のアドレスによって制限します。 <p>[アドレス種別] で [MAC アドレス] を選んだ場合、[送信] に設定することはできません。</p>
[許可 / 拒否]	対象パケットの通信を許可するか、または拒否するかを選びます。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [パケットフィルタリング] で、次の設定をします。

設定	説明
[設定範囲外アドレスの送受信]	登録されているフィルターが適用されないパケットに対して、送受信を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。

- 3 [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [フィルタリング種別] で [パケットフィルタリング] を選び、[OK] をクリックします。

重要

ご使用のコンピュータのアドレスが受信または送信を許可しない対象に設定されると、ご使用のコンピュータから Web Connection で本機へ接続できなくなりますので、ご注意ください。

フィルターをエクスポートする

パケットフィルタリングの設定内容を、ファイルにエクスポートします。

フィルターの設定を、コンピュータで編集する場合などに利用します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [パケットフィルタリング] - [エクスポート] で、[OK] をクリックします。
- 2 [ダウンロード] をクリックします。
設定ファイルのダウンロードが開始されます。

フィルターをインポートする

パケットフィルタリングの設定内容を、ファイルからインポートします。

本機からエクスポートしたフィルターの設定を、コンピュータで編集してからインポートする場合などに利用します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [パケットフィルタリング] - [インポート] で、[参照] をクリックし、フィルターの設定ファイルを選択します。
- 2 インポート画面で [OK] をクリックします。
インポート結果が表示されます。

13.7.2 パケットフィルタリングのログを取得する**ログを記録する**

フィルタリングにより受信または送信を拒否したパケットの、ログを取得できます。

ログを記録するには、管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [パケットフィルタリング] - [ログ設定] で、[ログ設定] を [有効] に設定します (初期値: [無効])。

ログをダウンロードする

パケットフィルタリングのログファイルを、コンピュータにダウンロードします。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [パケットフィルタリング] - [ログ設定] で、[保存件数] にダウンロードするログの件数を入力します。
- 2 [ログ保存] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 [ダウンロード] をクリックします。
ログファイルのダウンロードが開始されます。

13.8 送信先のドメインを制限する

E-mail 送信、インターネットファクス、IP アドレスファクスの送信先のドメインを制限します。

本機から外部への送信を制限することで、セキュリティを強化できます。

管理者モードの [ネットワーク] - [送信ドメイン制限設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[送信ドメイン制限設定]	送信先のドメインを制限する場合は、[制限する] を選びます。 初期値は [制限しない] です。
[制限種別]	送信先ドメインを制限する方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> 拒否するドメインを指定する場合は、[送信拒否] を選びます。 許可するドメインを指定する場合は、[送信許可] を選びます。
[送信許可リスト]	[制限種別] で [送信許可] を選んだ場合に、送信先として許可するドメインを指定します。 ドメインの IP アドレスまたはドメイン名を入力します (255 バイト以内)。 <ul style="list-style-type: none"> [?] は 1 個の任意の文字として解釈されます。 [*] は 0 個以上の任意の文字として解釈されます。 一度に 5 件のドメインが表示されます。リストから表示したいページを選んで [Go] をクリックすると、他のドメインを表示できます。
[送信拒否リスト]	[制限種別] で [送信拒否] を選んだ場合に、送信先として拒否するドメインを指定します。 ドメインの IP アドレスまたはドメイン名を入力します (255 バイト以内)。 <ul style="list-style-type: none"> [?] は 1 個の任意の文字として解釈されます。 [*] は 0 個以上の任意の文字として解釈されます。 一度に 5 件のドメインが表示されます。リストから表示したいページを選んで [Go] をクリックすると、他のドメインを表示できます。
[共有宛先の制限確認]	本機に登録されている宛先に、送信不可の宛先が含まれているかどうかを確認します。

参考

- [制限種別] で [送信許可] を設定すると、[送信拒否リスト] で設定した内容は削除されます。
- [制限種別] で [送信拒否] を設定すると、[送信許可リスト] で設定した内容は削除されます。

13.9 IPsec で通信する

お使いの環境で IPsec を導入している場合に設定します。

IPsec は、暗号化技術を利用して、IP パケット単位でデータの改ざんやデータの漏洩を防止する技術です。ネットワーク層で暗号化を行うため、暗号化をサポートしていない上位層のプロトコルや、暗号化に対応していないアプリケーションを使っても、安全に通信できます。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IPsec] で [IPsec 設定] を選び、[OK] をクリックします。
- 2 [IPsec 設定] の [IKEv1] または [IKEv2] で [編集] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[暗号化アルゴリズム]	通信に使う共通鍵の生成に使う、暗号化アルゴリズムを選びます。
[認証アルゴリズム]	通信に使う共通鍵の生成に使う、認証アルゴリズムを選びます。
[暗号鍵有効時間]	通信の暗号化に使う共通鍵を、安全に生成するために、共通鍵の有効時間を設定します。 有効時間が経過すると、新しい鍵が生成されるため、セキュリティを確保できます。
[Diffie-Hellman グループ]	Diffie-Hellman グループを選びます。
[ネゴシエーションモード]	通信の暗号化に使う共通鍵を、安全に生成する方法を選びます。

- 3 [IPsec 設定] の [SA] で [登録] をクリックし、SA(Security Association) を登録します。
→ SA は 10 グループまで登録できます。

設定	説明
[名称]	SA 設定の名前を入力します (" を除く半角 1 文字以上、10 文字以内)。
[カプセル化モード]	IPsec の動作モードを選びます。
[セキュリティプロトコル]	セキュリティプロトコルを選びます。
[鍵交換方式]	通信の暗号化に使う共通鍵を安全に生成するときの、鍵交換方式を選びます。
[トンネルエンドポイント]	通信相手先 IPsec ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 [カプセル化モード] で [トンネル] を選んだ場合に、入力します。
[確立後の破棄時間]	通信の暗号化に使う共通鍵の有効時間を入力します。

設定	説明
[IKE 設定]	この SA で使う、IKE の設定をします。 [鍵交換方式] で [IKEv1] または [IKEv2] を選んだ場合に設定します。
[認証方式]	認証方式を選びます。
[Local の認証方式]	[鍵交換方式] で [IKEv2] を選んだ場合に、本機の認証方式を選びます。
[Peer の認証方式]	[鍵交換方式] で [IKEv2] を選んだ場合に、通信の相手先を認証する方式を選びます。
[ESP 暗号化アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [ESP] を選んだ場合は、ESP 暗号化アルゴリズムを設定します。
[ESP 認証アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [ESP] を選んだ場合は、ESP 認証アルゴリズムを設定します。
[AH 認証アルゴリズム]	[セキュリティプロトコル] で [AH] を選んだ場合は、AH 認証アルゴリズムを設定します。
[Perfect Forward Secrecy]	IKE の強度を上げたい場合にチェックをつけます。 チェックをつけると、通信にかかる時間が長くなります。
[Diffie-Hellman グループ (IKEv1)] / [Diffie-Hellman グループ (IKEv2)]	Diffie-Hellman グループを選びます。
[マニュアルキー設定]	IKE による自動鍵交換に対応していない機器を使う場合に、それぞれのパラメーターを、手動で設定します。 [鍵交換方式] で [マニュアルキー] を選んだ場合に設定します。
[暗号化アルゴリズム]	暗号化に使うアルゴリズムを選びます。
[認証アルゴリズム]	認証に使うアルゴリズムを選びます。
[SA インデックス]	IPsec ヘッダーに追加する、SA の識別情報 (Security Parameter Index) を指定します。
[暗号化用共通鍵]	暗号化に使う共通鍵を指定します。 送信用、受信用に別の共通鍵を指定できます。
[認証用共通鍵]	認証に使う共通鍵を指定します。 送信用、受信用に別の共通鍵を指定できます。

4 [IPsec 設定] の [通信相手先] で [登録] をクリックし、本機の通信相手を登録します。

→ 通信相手先は 10 件まで登録できます。

設定	説明
[名称]	通信相手先の名前を入力します (" を除く半角 1 文字以上、10 文字以内)。
[IP アドレス指定]	通信相手先の IP アドレスを指定します。
[Pre-Shared Key 文字列]	通信の相手と共有する Pre-Shared Key 文字列を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [ASCII] : Pre-Shared Key 文字列を、ASCII コードで入力します (128 文字以内)。 [HEX] : Pre-Shared Key 文字列を、HEX コードで入力します (256 文字以内)。 通信相手と同じ文字列を設定します。
[Key-ID 文字列]	Pre-Shared Key に指定する、Key-ID を入力します (128 文字以内)。

- 5 [IPsec 設定] の [プロトコル指定] で [登録] をクリックし、IPsec 通信を行うプロトコルを指定します。

→ プロトコル指定は 10 項目まで登録できます。

設定	説明
[名称]	プロトコルの設定の名前を入力します (" を除く半角 1 文字以上、10 文字以内)。
[プロトコル識別]	IPsec 通信を行うプロトコルを選びます。
[ポート番号]	[プロトコル識別] で [TCP] または [UDP] を選んだ場合は、IPsec 通信を行うポート番号を指定します。
[ICMP メッセージタイプ]	[プロトコル識別] で [ICMP] を選んだ場合に、ICMP メッセージの種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Echo Request/Reply] : エコー要求・応答の ICMP メッセージを指定します。 • [指定なし] : ICMP メッセージの種類を指定しません。
[ICMPv6 メッセージタイプ]	[プロトコル識別] で [ICMPv6] を選んだ場合に、ICMP メッセージの種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Echo Request/Reply] : エコー要求・応答の ICMP メッセージを指定します。 • [指定なし] : ICMP メッセージの種類を指定しません。

- 6 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IPsec] で [IPsec 使用設定] を選び、[OK] をクリックします。

- 7 [IPsec 使用設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[IPsec]	IPsec を使うときは、[使用する] を選びます。
[Dead Peer Detection]	通信相手から一定期間内に応答がない場合に、通信相手との SA を削除します。 応答がない通信相手に対して、生存確認の情報を送信するまでの時間を選びます。
[Cookie]	サービス妨害攻撃に対して、Cookie を使った防御を有効にするかどうかを選びます。
[ICMP 通過]	ICMP (Internet Control Message Protocol) に、IPsec を適用するかどうかを選びます。 ICMP に IPsec を適用せず、ICMP パケットを通過させるには [有効] を選びます。
[ICMPv6 通過]	ICMPv6 (Internet Control Message Protocol for IPv6) に、IPsec を適用するかどうかを選びます。 ICMPv6 に IPsec を適用せず、ICMPv6 パケットを通過させるには、[有効] を選びます。
[Default action]	IPsec 通信が有効なときに、[IPsec ポリシー] に合致する設定がなかった場合の動作を選びます。 [IPsec ポリシー] の設定に合致しない IP パケットを破棄したい場合は、[破棄] を選びます。

設定	説明
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [確認する] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

8 [IPsec 使用設定] の [IPsec ポリシー] で [登録] をクリックし、次の設定をします。

→ IP パケットの条件を指定して、それぞれの条件に合致した IP パケットを通過させたり、許可させたりできます。

設定	説明
[名称]	IPsec ポリシーの名前を入力します (" を除く半角 1 文字以上、10 文字以内)。
[通信相手先]	通信相手の設定を選びます。 [IPsec 設定] の [通信相手先] で登録した設定から選びます。
[プロトコル指定]	プロトコルを選びます。 [IPsec 設定] の [プロトコル指定] で登録した設定から選びます。
[IPsec 設定]	通信相手の設定を選びます。 [IPsec 設定] の [SA] で登録した設定から選びます。
[通信方向]	IPsec の通信方向を選びます。
[action]	[通信相手先]、[プロトコル指定]、[通信方向] に合致した IP パケットに対する動作を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [保護]：条件に合致した IP パケットを保護します。 ・ [通過]：条件に合致した IP パケットを保護しません。 ・ [破棄]：条件に合致した IP パケットを破棄します。 ・ [拒否]：条件に合致した IP パケットを拒否します。

9 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP/IP 設定] - [IPsec] の [通信確認] で、設定した内容で、通信相手先に正しく接続できることを確認します。

→ [IP アドレス] に通信相手先の IP アドレスを入力し、[接続確認] をクリックします。

13.10 IEEE802.1X 認証を行う

お使いの環境で IEEE802.1X 認証を導入している場合に設定します。

IEEE802.1X 認証を利用すると、管理者が許可した機器だけが LAN 環境へ接続できます。認証されない機器は、ネットワークへの参加自体が許可されないため、強固なセキュリティを確保できます。

管理者モードの [ネットワーク] - [IEEE802.1X 認証設定] - [IEEE802.1X 認証設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[IEEE802.1X 認証設定]	IEEE802.1X 認証を使うときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[サブリカント設定]	IEEE802.1X 認証において、本機はサブリカント（認証を受けるクライアント）として動作します。 認証サーバーから認証を受けるために、必要な設定をします。
[ユーザー ID]	ユーザー ID を入力します（半角 128 文字以内）。 ユーザー ID は、すべての EAP-Type で使います。
[パスワード]	パスワードを入力します（半角 128 文字以内）。 パスワードは、[EAP-TLS] 以外の EAP-Type で使います。 パスワードを入力（変更）する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[EAP-Type]	EAP 認証方式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [サーバーに依存]：認証サーバーが提供する EAP-Type で認証します。認証サーバーが提供する EAP-Type に合わせて、本機で必要なサブリカントの設定をしてください。 ・ [しない] は選ばないでください。 初期値は [しない] です。
[EAP-TTLS]	[EAP-Type] で [EAP-TTLS] または [サーバーに依存] を選んだ場合は、EAP-TTLS の設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [anonymous]：EAP-TTLS の認証で使う anonymous 名を入力します（半角 128 文字以内）。 ・ [内部認証プロトコル]：EAP-TTLS の内部認証プロトコルを選びます。
[サーバー ID]	証明書の CN を検証する場合は、サーバー ID を入力します（半角 64 文字以内）。
[クライアント証明書]	必要に応じて、本機の証明書を使って、認証情報を暗号化するかどうかを選びます。 次の条件を満たす場合に設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本機に証明書が登録されている ・ [EAP-Type] で [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[PEAP]、[サーバーに依存] のいずれかを選んでいる
[暗号強度]	[EAP-Type] で [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[PEAP]、[サーバーに依存] のいずれかを選んだ場合は、必要に応じて、TLS で暗号化するときの暗号強度を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [中]：56 bit 超の鍵長で通信 ・ [高]：128 bit 超の鍵長で通信
[証明書検証強度設定]	証明書を検証する場合は、証明書の検証を行う項目を選びます。それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の確認を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [有効期限]：証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。 ・ [CN]：証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。 ・ [チェーン]：証明書のチェーン（証明書のパス）に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。

設定	説明
[ネットワーク停止時間]	<p>必要に応じて、認証を開始してから、ネットワーク通信を停止するまでの、猶予時間を設定します。</p> <p>認証を開始してから、ここで指定した時間内に、認証に成功しない場合は、すべてのネットワークの通信を停止します。</p> <p>猶予時間を設定するには、[ネットワーク停止時間] にチェックをつけ、[停止時間] に猶予時間（秒）を入力します。</p> <p>ネットワーク通信の停止後に再度認証させたい場合は、本機を再起動してください。</p>



参考

- 管理者モードの [ネットワーク] - [IEEE802.1X 認証設定] - [IEEE802.1X 認証試行] で、現在の認証状態を確認できます。また、認証サーバーに対して、認証を実行できます。
- [ネットワーク I/F 構成] が [無線のみ] に設定されている場合、この設定は **Web Connection** に表示されません。無線のみの環境でお使いの場合に、[無線ネットワーク設定] の [認証・暗号化アルゴリズム] で [WPA-EAP(AES)] または [WPA2-EAP(AES)] を選択している場合は、操作パネルの [設定メニュー] でサブリカントの設定を行ってください。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

13.11 認証済みの共有フォルダーへ送信する (Scan to Authorized Folder)

Scan to Authorized Folder について

ネットワーク上の共有フォルダーへのアクセスに、本機にログインしたユーザーの認証情報を使い、本機で読込んだ原稿データを送信できます。この機能を、Scan to Authorized Folder と呼びます。

Scan to Authorized Folder を使うと、ユーザーごとに送信先を制限できます。また、本機へログインしたときの認証情報を使って、共有フォルダーへアクセスするため、ユーザーの利便性を損なうことなく、セキュリティを強化できます。

Scan to Authorized Folder を使うには、本機で次の設定が必要です。

設定	説明
ユーザー認証	ユーザー認証を有効にします。
SMB 送信機能	SMB 送信機能を使えるように設定します。
SMB 宛先登録	SMB 宛先を登録します。 <ul style="list-style-type: none"> SMB 宛先以外の宛先は、Scan to Authorized Folder と同時に使えません。SMB 宛先以外の短縮宛先、グループ宛先、プログラム宛先が登録されている場合は、すべて削除してください。 登録した SMB 宛先の [ユーザー ID] は、空白にしておきます。
ユーザーによる宛先の登録/変更の制限	ユーザーによる宛先の登録/変更を禁止します。
パブリックユーザーの機能制限	パブリックユーザーの使用を許可しているときは、パブリックユーザーがスキャン送信機能を使えないように制限します。
LDAP サーバーの登録削除	LDAP サーバーを利用しない場合は、本機から LDAP サーバーの登録情報を削除します。
[送信宛先制限]	直接入力による宛先の指定を制限します。詳しくは、13-22 ページをごらんください。

Scan to Authorized Folder を使うと、次の制限がかかります。

- スキャン送信をするときに、直接入力で宛先を指定できない
- ボックスへのファイルの保存ができない
- ボックスからのファイルの送信ができない
- ファイリングナンバーボックスを利用できない
- 送信履歴から宛先を選べない
- URL 通知機能を利用できない

直接入力による宛先指定を制限する

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [送信宛先制限] で、[送信宛先制限] を [制限する] に設定します (初期値: [制限しない])。

13.12 ユーザーによる登録/変更の操作を禁止する

本機では、ユーザーによる次の操作を禁止できます。

- 宛先の登録/変更
- 生体/ICカード情報の登録
- E-mail送信時の発信元アドレス(Fromアドレス)の変更
- ユーザーごとのユーザー認証と部門認証の連動
- コピープログラムおよびファクス/スキャンプログラムの使用

管理者モードの[セキュリティ] - [ユーザー操作禁止設定]で、次の設定をします。

設定	説明
[登録宛先変更]	ユーザーによる宛先の登録/変更を禁止する場合は、[禁止]を選びます。 初期値は[許可]です。
[生体/ICカード情報登録]	ユーザーによる生体/ICカード情報の登録を禁止する場合は、[禁止]を選びます。 この機能を使うには、オプションの認証装置が必要です。 初期値は[禁止]です。
[Fromアドレス変更]	E-mail送信時に、ユーザーによる発信元アドレス(Fromアドレス)の変更を禁止する場合は、[管理者アドレス]または[ユーザーアドレス優先]を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • [管理者アドレス]: 管理者のメールアドレスをFromアドレスに設定します。 • [ユーザーアドレス優先]: ユーザー認証を導入している場合は、ユーザーのメールアドレスをFromアドレスに設定します。ユーザーのメールアドレスが登録されていない場合は、管理者のメールアドレスをFromアドレスに設定します。 初期値は[許可]です。
[ユーザー毎のユーザー認証/部門認証の連動]	ユーザーが、自分のユーザー認証と部門認証の連動を設定できないようにする場合は、[禁止]を選びます。 初期値は[許可]です。
[プログラム機能禁止設定]	ユーザーに対して、コピープログラムやファクス/スキャンプログラムの使用を禁止する場合は、[禁止]を選びます。 初期値は[許可]です。

13.13 ユーザーによる Web ブラウザーの設定操作を禁止する

Web ブラウザーの以下の設定操作を、ユーザーに許可するかどうかを設定できます。

- ホームページ
- スタートアップ
- Web データ (Cookie/Web Storage/Indexed Database)
- 認証情報

ユーザーによる設定操作を禁止する場合は、管理者モードの [セキュリティ] - [セキュリティ詳細] - [ブラウザ設定ユーザー開放] で、[開放しない] を選びます (初期値: [開放しない])。

参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が有効の場合に利用できます。

13.14 操作パネルの操作履歴を保存する

スキャンまたはファクス送信するときの操作パネルでの操作履歴を、送信操作ログとして保存できます。

本機の操作パネルで、どのキーをいつ押したかという履歴情報を保存します。セキュリティ上の問題が発生したときの、問題の分析に役立ちます。

管理者モードの [セキュリティ] - [送信操作ログ設定] で、[取得する] を選びます (初期値: [取得しない])。

参考

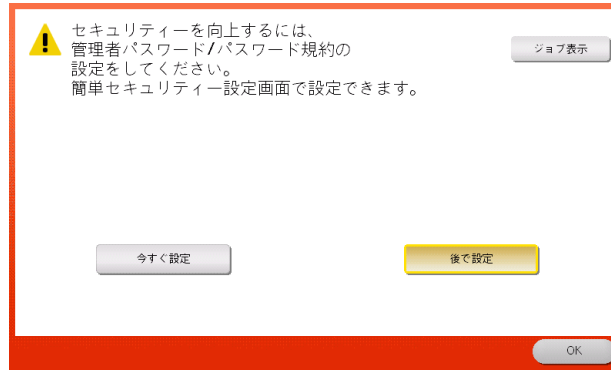
- 保存した送信操作ログは、操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [リスト/カウンター] - [送信操作ログ出力] から、印刷または USB メモリーに保存できます。

13.15 簡単操作で本機のセキュリティを強化する

〔簡単セキュリティー設定〕には、本機のセキュリティ強度を高めるための設定がまとめられています。

管理者パスワードが初期値から変更されていない場合や、パスワード規約の条件を満たしていない場合に、操作パネルにセキュリティ警告画面を表示し、パスワード規約の条件を満たした管理者パスワードへの変更を促すことができます。

機能ごとに USB ポートの使用を制限できるため、USB メモリー経由の情報漏えいなどのリスクを軽減できます。



管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔簡単セキュリティー設定〕で、次の設定をします。

設定	説明
〔セキュリティー警告表示設定〕	管理者パスワードが初期値から変更されていない場合や、パスワード規約の条件を満たしていない場合、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを選びます。 初期値は〔表示しない〕です。
〔USB 使用設定〕	<p>USB ポートを使う機能を許可するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〔文書保存〕：USB メモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを選びます。管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔USB 接続許可設定〕 - 〔外部メモリー（ユーザー）〕が〔個別設定〕に設定されている場合に、設定できます。初期値は〔禁止〕です。 〔文書印刷〕：USB メモリーからのファイルの印刷を許可するかどうかを選びます。管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔USB 接続許可設定〕 - 〔外部メモリー（ユーザー）〕が〔個別設定〕に設定されている場合に、設定できます。初期値は〔許可〕です。 〔外部メモリー文書読み込み〕：USB メモリーから読み込んだファイルのボックスへの保存を許可するかどうかを選びます。管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔USB 接続許可設定〕 - 〔外部メモリー（ユーザー）〕が〔個別設定〕に設定されている場合に、設定できます。初期値は〔禁止〕です。 〔PC 印刷〕：USB 接続によるコンピューターからの印刷を許可するかどうかを選びます。管理者モードの〔セキュリティ〕 - 〔USB 接続許可設定〕 - 〔PC 接続〕が〔個別設定〕に設定されている場合に設定できます。初期値は〔許可〕です。

13.16 USBポートを使う機能を制限する

本機のUSBポートを使う機能を制限して、セキュリティを高めます。

管理者モードの [セキュリティ] - [USB 接続許可設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[一括設定]	USBポートを使う機能を一括で禁止するか、機能ごとに設定するかを選びます。初期値は [個別設定] です。

[一括設定] で [個別設定] を選んだ場合は、機能ごとに使用を許可するかどうかを設定します。

設定	説明
[認証デバイス]	認証装置の接続を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。
[外付けキーボード]	外部キーボードの接続を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。
[外部メモリー (ユーザー)]	ユーザーが使用する機能で、USBメモリーの使用を許可するかどうかを設定します。以下の機能を一括で禁止するか、個別に設定するかを選びます。初期値は [個別設定] です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [文書保存]: USBメモリーへのファイルの保存を許可するかどうかを選びます。初期値は [禁止] です。 ・ [文書印刷]: USBメモリーからのファイルの印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。 ・ [外部メモリー文書読み込み]: USBメモリーから読み込んだファイルのボックスへの保存を許可するかどうかを選びます。初期値は [禁止] です。
[外部メモリー (管理者)]	管理者が使用する機能で、USBメモリーの使用を許可するかどうかを設定します。以下の機能を一括で禁止するか、個別に設定するかを選びます。初期値は [個別設定] です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [USBからの設定書き込み]: USBメモリーに保存された設定ファイルを読み込むことで、本機の設定を変更することを許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。
[外部メモリー (サービス)]	サービスエンジニアが使用する機能で、USBメモリーの使用を許可するかどうかを設定します。以下の機能を一括で禁止するか、個別に設定するかを選びます。初期値は [個別設定] です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ファームウェア更新]: USBメモリーを使ったファームウェアの更新を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。 ・ [HDDデータバックアップ]: 本機のストレージのバックアップやリストアを行うことを許可するかどうかを選びます。初期値は [禁止] です。
[PC接続]	USB接続によるコンピューターからの印刷を許可するかどうかを設定します。以下の機能を一括で禁止するか、個別に設定するかを選びます。初期値は [個別設定] です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [PC印刷]: USB接続によるコンピューターからの印刷を許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。

参考

- [外部メモリー (管理者)] で [禁止] を選ぶと、以下の機能でUSBメモリーを使用できなくなります。[送信操作ログ出力]、[トップメニューテーマ設定]、[ライセンス管理設定]、[認定機能管理設定]、本体での [パケットフィルタリング] のインポート/エクスポート/ログ保存、本体の Web ブラウザーでの Web Connection のインポート/エクスポート
- [外部メモリー (サービス)] で [禁止] を選ぶと、[個別設定] で設定できる機能のほかにも禁止される機能があります。

13.17 USB メモリーを使ったファームウェアの更新をパスワードで制限する

サービスエンジニアが USB メモリーを使って本機のファームウェアを更新するときに、パスワードの入力を要求するための設定をします。

管理者モードの [セキュリティ] - [FW 更新 (USB) 許可設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[USB 更新]	USB メモリーを使って本機のファームウェアを更新するときに、パスワードの入力を要求する場合は、[パスワード優先] を選びます。 [USB 接続許可設定優先] を選ぶと、管理者モードの [セキュリティ] - [USB 接続許可設定] - [外部メモリー (サービス)] - [ファームウェア更新] の設定が適用されます。 初期値は [USB 接続許可設定優先] です。
[パスワード] / [パスワードの再入力]	[USB 更新] で [パスワード優先] を選んだ場合に、USB メモリーを使ったファームウェアの更新を許可するためのパスワードを入力します (20 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

14

本機の状態を管理する

14 本機の状態を管理する

14.1 本機の電源を管理して節電する

14.1.1 電源キー／パワーセーブ機能を設定する

操作パネルの電源キーの使い方や、本機のパワーセーブ機能に関する設定を変更できます。

管理者モードの [メンテナンス] - [タイマー設定] - [電源 / パワーセーブ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[低電力設定]	本機を操作しなくなってから、低電力モードに自動的に移行するまでの時間を変更します。 低電力モードでは、 タッチパネル の表示を消して、消費電力を抑えます。 初期値は [15] 分です (設定値: [2] ~ [60] 分)。
[スリープ設定]	本機を操作しなくなってから、スリープモードに自動的に移行するまでの時間を変更します。 スリープモードは、低電力モードよりも高い節電効果を得られますが、通常モードへ復帰するまでの時間は、低電力モードから復帰するよりも長くなります。 初期値は [15] 分です (設定値: [2] ~ [60] 分)。
[スリープ中の消費電力]	スリープモード中の消費電力を抑制するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [強く抑制する]: スリープモード中の消費電力をさらに抑制します。ただし、前ドアの開閉や原稿のセットでは、スリープモードから復帰できなくなります。 ・ [抑制する]: スリープモード中の消費電力を抑制します。 ・ [抑制しない]: [強く抑制する] または [抑制する] に設定していて、ネットワーク接続時の応答が悪いなどのトラブルがあった場合に選びます。 初期値は [強く抑制する] です。
[パワーセーブモード節電切替]	購入時の状態でお使いの場合に、 操作パネルの電源キー を押したときに切替えるパワーセーブモードの種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [低電力]: 低電力モードに切替えます。タッチパネルの表示を消して、消費電力を抑えます。 ・ [スリープ]: スリープモードに切替えます。低電力モードよりも高い節電効果を得られますが、通常モードへ復帰するまでの時間は、低電力モードから復帰するよりも長くなります。 初期値は [低電力] です。
[電源キー設定]	操作パネルの電源キー を、副電源 OFF キーとして使うか、パワーセーブキーとして使うかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [副電源 OFF]: 電源キーを短く押すと、副電源 OFF 状態に移行します。長く押すと、副電源 OFF 状態よりも節電効果の高い ErP オートパワー OFF 状態 (主電源を OFF にしたときに近い状態) に移行します。 ・ [パワーセーブ]: 電源キーを短く押すと、パワーセーブモード (低電力またはスリープ) に移行します。長く押すと、副電源 OFF 状態に移行します。 初期値は [パワーセーブ] です。
[パワーセーブ移行]	パワーセーブモード中に、本機がファクスやコンピューターからの印刷ジョブを受信したとき、印刷後にパワーセーブモードに切替えるタイミングを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [通常]: [低電力設定] および [スリープ設定] の設定時間で切替えます。 ・ [即時]: 印刷後にすぐにパワーセーブモードに切替えます。 初期値は [即時] です。

設定	説明
[ファクス/スキャン時省電力]	<p>スリープモードまたは副電源 OFF 状態から、コピーモード以外のモードに復帰するときに、省電力を優先するかどうかを選びます。</p> <p>ファクス/スキャンのように印刷を行わないモードに復帰するときは、本体内部の定着ユニットの温度調節を行わないことで、消費電力を抑えます。</p> <p>操作パネルの [管理者設定] - [環境設定] - [リセット設定] - [システムオートリセット] の [優先機能] で [コピー] 以外を選んだ場合に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [省電力優先]: 通常モードに復帰するときに、定着ユニットの温度を調節しません。 ・ [標準]: 通常モードに復帰するときに、定着ユニットの温度を調節します。 <p>初期値は [標準] です。</p>



参照

電源キーやパワーセーブ機能について詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [本機の電源を管理する]」をごらんください。

14.1.2 決まった時間に節電モードに切替える (ウィークリータイマー)

ウィークリータイマーを使って、通常モードと節電モードを自動で切替えることができます。ウィークリータイマーを使うことで、お使いの環境に合わせて効率的な節電管理ができます。

ウィークリータイマーのスケジュールの設定方法には、次の 2 通りがあります。

- 切替えるスケジュールを、手動で設定する
- 学習機能を使って、本機の使用状況に合わせた ON/OFF の時間を、自動的に設定する

管理者モードの [メンテナンス] - [タイマー設定] - [ウィークリータイマー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ウィークリータイマーを使用する]	<p>ウィークリータイマーを使う場合は、チェックをつけます。あわせて、ウィークリータイマーによって切替える節電モードと、ウィークリータイマーのスケジュールを設定します。</p> <p>ウィークリータイマーのスケジュールは、[動作日設定] と [動作時間設定] を併用することもできます。</p> <p>また、[学習機能を使用する] にチェックをつけている場合は、学習機能で自動設定したスケジュールが、[動作日設定] と [動作時間設定] の初期値として設定されます。自動設定されたスケジュールを、必要に応じて変更することで、より柔軟な運用を行えます。</p> <p>初期値は [ON] (チェックあり) です。</p>
[OFF 時の節電モード]	<p>ウィークリータイマーによって移行する節電モードを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [ErP オートパワー OFF]: 節電効果の高いモードです。このモードのときは、すべてのジョブを受信できません。 ・ [スリープ]: [ErP オートパワー OFF] よりも節電効果は低いですが、ファクスやコンピューターからの印刷ジョブを受信できます。受信したジョブは、通常モードに復帰したときに印刷します。 <p>初期値は [スリープ] です。</p>
[動作日設定]	1 日ずつ日付を指定して設定します。
[動作時間設定]	曜日ごと一括して設定します。タイマーを設定する曜日にチェックをつけ、電源を ON にする時間の範囲を入力します。
[昼休み OFF 機能を使用する]	<p>昼休みに電源を OFF にする場合は、チェックをつけます。あわせて、電源を OFF にする時間帯を入力します。</p> <p>初期値は [OFF] (チェックなし) です。</p>
[時間外パスワードを使用する]	<p>ウィークリータイマーによって本機が節電モードのときの本機の使用を、パスワードで制限するときは、チェックをつけます。あわせて、パスワードを入力します (+ " を除く半角 8 文字以内)。</p> <p>パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。</p> <p>初期値は [OFF] (チェックなし) です。</p>

設定	説明
[学習機能を使用する]	<p>ウィークリータイマーのスケジュールをオフィスの使用状況に合わせて自動設定する学習機能を使う場合に、チェックをつけます。</p> <p>学習機能を使う場合は、[自動調整レベル] で、本機が不稼働であると判定するレベルを選びます。レベルが高いほど、本機が不稼働であると判定されやすくなるため、OFF 時間が長めに設定されます。</p> <p>本機で学習した使用状況のデータや、学習した結果として自動設定されたスケジュールを削除するには、[使用状況データのクリア] にチェックをつけます。</p> <p>初期値は [ON] (チェックあり) です。</p>

14.1.3 無線ネットワーク経由で本機を節電状態から復帰させる

本機に Android/iOS 端末を接続して使う場合に、無線ネットワーク経由で本機を ErP オートパワー OFF 状態から復帰させるための設定をします。

参考

- この機能を使うには、オプションの無線 LAN 接続キットが必要です。
- Android/iOS 端末を使うには、端末に Remote Access をインストールする必要があります。
- 本機を IPv6 環境でお使いの場合は、この機能は使えません。
- [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] が [無線のみ] に設定されている場合、この機能は使えません。
- Android/iOS 端末を使って本機を ErP オートパワー OFF 状態から復帰させるには、事前に一度は Android/iOS 端末と本機を接続しておく必要があります。

参照

ErP オートパワー OFF 状態について詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [本機の電源を管理する]」をごらんください。

本機を無線ネットワーク環境で使うための設定について詳しくは、5-5 ページをごらんください。

管理者モードの [ネットワーク] - [無線ネットワーク設定] - [Erp からの復帰] で、次の設定をします。

設定	説明
[Erp からの復帰]	<p>本機を ErP オートパワー OFF 状態から復帰させる方法を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [マジックパケット復帰]：本機がマジックパケットを受信したときに、ErP オートパワー OFF 状態から復帰します。 • [ARP+ ユニキャスト通信復帰]：本機がユニキャスト通信のパケットを受信したときに、ErP オートパワー OFF 状態から復帰します。 <p>初期値は [マジックパケット復帰] です。</p>

14.2 サマータイムを設定する

本機でサマータイムを有効にします。また、指定した日付に、自動的に本機でサマータイムが有効になるように設定できます。

管理者モードの [メンテナンス] - [サマータイム設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[サマータイム設定]	サマータイムを使うときは、[する] を選びます。 あわせて、サマータイムで調整する時間を入力します (分単位)。 初期値は [しない] です。
[指定方法]	サマータイムを開始する日時と、終了する日時を指定する方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none">・ [週 / 曜日] : 開始日または終了日を、週と曜日で指定できます。・ [日] : 開始日または終了日を、日付で指定します。
[開始日時] / [終了日時]	サマータイムを開始する日時と、終了する日時をそれぞれ選びます。

14.3 操作パネルの環境をカスタマイズする

14.3.1 登録キーに割り当てる機能を変更する

お使いの環境に合わせて、操作パネルのハードキー、およびスライドメニューのソフトキーに割り当てる機能を選べます。

管理者モードの [環境設定] - [登録キー設定] で、それぞれの登録キーに割り当てる機能を選びます。

操作パネルのハードキーの初期値は以下のとおりです。

- [登録キー 1]: [拡大表示]
- [登録キー 2]: [ガイド]
- [登録キー 3]: [10 キー呼び出し]
- [登録キー 4]: [プレビュー]

スライドメニューのソフトキーの初期値は以下のとおりです。

- [登録キー 1]: [コピー]
- [登録キー 2]: [ファクス / スキャン]
- [登録キー 3]: [ボックス]
- [登録キー 4]: [割り込み]
- [登録キー 5]: [使用しない]



参考

- 本機に OpenAPI アプリケーションを登録している場合は、登録キーに登録アプリケーションや登録アプリケーションリストを割り当てることができます。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

14.3.2 トップメニューに配置する機能を選ぶ

操作パネルのメニューを押すと、トップメニューを表示します。トップメニューには、任意の機能を割り当てたショートカットキーを配置できます。

トップメニューは 3 画面に拡張でき、最大で 25 個のショートカットキーを、お使いの環境に合わせて自由に選べます。

- 1 管理者モードの [環境設定] - [標準トップメニュー設定] で、ショートカットキーを配置するトップメニューキーの [割付番号] を選び、[編集] をクリックします。

→ [割付番号] の 1 ~ 11 までが、トップメニューの 1 画面目に配置されます。特によく使う機能を配置することをおすすめします。

2 ショートカットキーに割り当てる機能を選びます。

設定	説明
[機能名]	<p>ショートカットキーに割り当てる機能のカテゴリーを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [未設定]：ショートカットキーを作成しません。 ・ [機能]：コピーモードやファクス/スキャンモードなどのトップ画面へのショートカットキーを作成します。 ・ [コピー機能設定]：コピー機能の設定画面へのショートカットキーを作成します。 ・ [ファクス/スキャン機能設定]：ファクス/スキャン機能の設定画面へのショートカットキーを作成します。 ・ [コピープログラム]：コピープログラムへのショートカットキーを作成します。本機にコピープログラムが登録されている場合に設定できます。 ・ [ファクス/スキャンプログラム]：ファクス/スキャンプログラムへのショートカットキーを作成します。本機にファクス/スキャンプログラムが登録されている場合に設定できます。 ・ [システムボックス]：システムボックスへのショートカットを作成します。 ・ [Eco 機能設定]：Eco 関連機能へのショートカットキーを作成します。 ・ [ウィジェット設定]：ウィジェット設定画面へのショートカットキーを作成します。 ・ [簡単セキュリティ設定]：簡単セキュリティ設定画面へのショートカットキーを作成します。 ・ [QR コード表示]：QR コード表示画面へのショートカットキーを作成します。 ・ [アドレス帳]：アドレス帳へのショートカットキーを作成します。
[ショートカットキー]	[機能名] で選んだカテゴリーに応じて、ショートカットキーに割り当てる機能を選びます。
[ファクス/スキャンプログラムショートカットキー]	ファクス/スキャンプログラムへのショートカットキーを作成した場合に、表示するプログラム宛先を一覧から選びます。
[アイコンを指定する]	コピープログラムまたはファクス/スキャンプログラムへのショートカットキーを作成した場合に、必要に応じて、トップメニューに表示するアイコンを選びます。

参考

- 本機に OpenAPI アプリケーションを登録している場合は、トップメニューに登録アプリケーションや登録アプリケーショングループのキーを配置できます。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

14.3.3 トップメニューのテーマを変更する

トップメニューの背景色などを好みに応じて変更できます。

管理者モードの [環境設定] - [トップメニューテーマ設定] で、お好みのテーマを選びます (初期値: [テーマ 1])。

参照

トップメニューのテーマについて詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [タッチパネルの操作と主な画面の紹介]」をごらんください。

14.3.4 トップ画面に表示する機能キーを選ぶ（表示パターンによる指定）

本機には、各モードの機能キーの表示／非表示が登録された 3 種類の表示パターンが用意されています。機能キーの使用状況に応じて、あらかじめ用意された 3 種類の表示パターンのいずれかに変更できます。管理者モードの [環境設定] - [機能パターンカスタマイズ] で、次の設定をします。

設定	説明
[コピー・印刷画面におけるパターン]	コピーモードと、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーの表示パターンを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [Full]：すべての機能キーを表示します。 ・ [Standard]：一般的によく使われる機能キーを表示します。 ・ [Basic]：[Standard] よりもさらに基本的な機能キーだけを表示します。 初期値は [Full] です。
[送信・保存画面におけるパターン]	ファクス/スキャンモードと、ボックスモードの送信設定画面と保存設定画面に表示する機能キーの表示パターンを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [Full]：すべての機能キーを表示します。 ・ [Standard]：一般的によく使われる機能キーを表示します。 ・ [Basic]：[Standard] よりもさらに基本的な機能キーだけを表示します。 初期値は [Full] です。



参考

- [詳細パターン一覧] をクリックすると、それぞれの表示パターンで利用できる機能を確認できます。

14.3.5 トップ画面に表示する機能キーを選ぶ（個別指定）

概要

各モードのトップ画面に表示する機能キーの種類や配置を変更できます。

機能キーの使用状況に応じて、よく使う機能キーはトップ画面に配置したり、使わない機能キーは非表示にしたりできます。

各モードの画面に表示する機能キーを変更するには、次の手順で設定してください。

- 1 各モードの機能キーの変更を許可する
 → 設定のしかたは、14-8 ページをごらんください。
- 2 各モードの画面に表示する機能キーを変更する
 → コピーモードのトップ画面と、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーの変更のしかたは、14-9 ページをごらんください。
 → ファクス/スキャンモードのトップ画面と、ボックスモードの送信設定画面、保存設定画面に表示する機能キーの変更のしかたは、14-9 ページをごらんください。
 → ファクスモードのトップ画面に表示する機能キーの変更のしかたは、14-9 ページをごらんください。

各モードの機能キーの変更を許可する

各モードのトップ画面に表示する機能キーの変更を許可します。

管理者モードの [環境設定] - [機能キー変更許可設定] で、[コピー・印刷] または [送信・保存] を [許可] に設定します。

設定	説明
[コピー・印刷]	コピーモードのトップ画面と、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーの変更を許可するかどうかを選びます。 初期値は [禁止] です。
[送信・保存]	ファクス/スキャンモードのトップ画面と、ボックスモードの送信設定画面、保存設定画面に表示する機能キーの変更を許可するかどうかを選びます。 初期値は [禁止] です。

コピーモードの機能キーを変更する

コピーモードのトップ画面と、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーを選びます。機能キーは、14 個まで登録できます。

- 1 管理者モードの [環境設定] - [機能キー設定] - [コピー・印刷] で、設定を変更したい機能キーの番号を選び、[編集] をクリックします。
 - No.1 ~ No.7 までが基本機能 1 に、No.8 ~ No.14 までが基本機能 2 に配置されます。よく使う機能は、No.1 ~ No.7 に割り当てることをおすすめします。
- 2 機能キーに割り当てる機能を選びます。
 - それぞれの機能は、カテゴリごとにまとめられています。[表示] をクリックすると、カテゴリの中の機能を表示し、選べるようになります。

ファクス/スキャンモードの機能キーを変更する

ファクス/スキャンモードのトップ画面と、ボックスモードの送信設定画面、保存設定画面に表示する機能キーを選びます。機能キーは、7 個まで登録できます。

- 1 管理者モードの [環境設定] - [機能キー設定] - [送信・保存] で、設定を変更したい機能キーの番号を選び、[編集] をクリックします。
- 2 機能キーに割り当てる機能を選びます。
 - それぞれの機能は、カテゴリごとにまとめられています。[表示] をクリックすると、カテゴリの中の機能を表示し、選べるようになります。

ファクスモードの機能キーを変更する

ファクスモードのトップ画面に表示する機能キーを選びます。機能キーは、7 個まで登録できます。

- 1 管理者モードの [環境設定] - [機能キー設定] - [ファクス送信] で、設定を変更したい機能キーの番号を選び、[編集] をクリックします。
- 2 機能キーに割り当てる機能を選びます。
 - それぞれの機能は、カテゴリごとにまとめられています。[表示] をクリックすると、カテゴリの中の機能を表示し、選べるようになります。

14.3.6 タッチパネルの表示言語を変更できるようにする

本機のタッチパネルの表示言語を一時的に変更するための [Language] キーを、タッチパネルに表示します。

管理者モードの [環境設定] - [言語一時変更] で、[言語一時変更] を [使用する] に設定します (初期値: [使用しない])。

14.3.7 部数入力時のテンキー表示を変更する

タッチパネルの部数入力が可能画面にテンキーを常時表示させるか、部数をタップしたときに表示させるかを選びます。

管理者モードの [環境設定] - [部数入力時の 10 キー表示] で、[常時] または [部数押下時] を選びます (初期値: [部数押下時])。

設定	説明
[常時]	部数入力が可能画面にテンキーを常時表示します。
[部数押下時]	[部数] をタップするとテンキーを表示します。

14.3.8 [管理者設定] の設定項目のショートカットキーを登録する

操作パネルの [管理者設定] の設定項目のショートカットキーを登録します。

登録したショートカットキーは、操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定ショートカット] に表示されます。ショートカットキーは 16 個まで登録できます。

- 1 管理者モードの [環境設定] - [管理者 My パネル] で、ショートカットキーを登録する [割付番号] を選び、[編集] をクリックします。
- 2 ショートカットキーに割当ててる設定項目を選びます。

設定	説明
[機能名]	ショートカットキーに割当ててる [管理者設定] の設定項目のカテゴリを選びます。
[ショートカットキー]	[機能名] で選んだカテゴリの中で、ショートカットキーに割当ててる設定項目を選びます。

14.3.9 スライドメニューの表示に関する設定をする

お使いの環境に合わせて、スライドメニューの表示内容を変更できます。

管理者モードの [環境設定] - [スライドメニュー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[スライドメニュー設定]	スライドメニューを使用するかどうかを選びます。初期値は [使用する] です。
[ソフト 10 キー]	スライドメニューにテンキーを表示するかどうかを選びます。初期値は [表示しない] です。
[拡大表示時設定]	拡大表示中にスライドメニューを表示するとき、スライドメニューも拡大して表示するかどうかを選びます。初期値は [拡大表示する] です。
[スライドメニューテーマ]	スライドメニューの背景色を選びます。初期値は [テーマ 1] です。

14.3.10 タッチパネルにウィジェットを配置する

トップメニューやコピーモードの画面の好きな位置に、テキスト、アイコン、GIF アニメなどをウィジェットとして配置することができます。使用頻度の高い画面にウィジェットを配置することで、重要な情報を強調して表示できます。

管理者モードの [環境設定] - [ウィジェット機能設定] で、[ウィジェット機能設定] を [有効] に設定します (初期値: [有効])。

14.4 本機の状態を E-mail で通知する

概要

用紙の補給やトナー交換時期、紙づまりなど、本機で警告が発生したときに、登録したメールアドレスに通知できます。

本機の状態を E-mail で通知する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 E-mail 送信の使用環境を設定する
→ 設定のしかたは、7-2 ページをごらんください。
→ 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、[E-mail 通知機能] を [使用する] に設定します。
- 3 本機の状態の通知設定をする
→ 設定のしかたは、14-11 ページをごらんください。

本機の状態の通知設定をする

通知先のメールアドレスを登録します。通知先のメールアドレスは、10 件まで登録できます。あわせて、どの警告が発生したときに通知するかを選びます。

管理者モードの [メンテナンス] - [状態通知設定] - [E-mail 宛先] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[通知先アドレス]	通知先のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。
[トレイ紙補給]	トレイの用紙がなくなったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[紙づまり発生]	紙づまりが発生したときに通知する場合は、チェックをつけます。
[PM コール]	定期点検が必要になったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[ステープル針交換]	ステープルの針がなくなったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[トナー補給]	トナーがなくなったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[フィニッシャー積載オーバー]	フィニッシャー積載オーバーを通知する場合は、チェックをつけます。
[サービスコール]	サービスコールが発生したときに通知する場合は、チェックをつけます。
[ジョブ終了]	ジョブが終了したときに通知する場合は、チェックをつけます。
[パンチくず除去]	パンチくずの除去が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[廃棄トナーボックスフル]	廃棄トナーボックスの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[IU ライフストップ]	イメージングユニットの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[ドラムユニットライフ]	ドラムユニットの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[現像ユニットライフ]	現像ユニットの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[定着ユニットライフ]	定着ユニットの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[転写ローラーユニットライフ]	転写ローラーユニットの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。
[転写ベルトユニットライフ]	転写ベルトユニットの交換が必要ときに通知する場合は、チェックをつけます。

14.5 本機のカウンターを E-mail で通知する

概要

本機で管理しているカウンター情報を、登録したメールアドレスに、定期的に通知できます。本機の使用状況の把握に役立ちます。

カウンター情報を E-mail で通知する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 E-mail 送信の使用環境を設定する
→ 設定のしかたは、7-2 ページをごらんください。
→ 管理者モードの [ネットワーク] - [E-mail 設定] - [E-mail 送信 (SMTP)] で、[トータルカウンター通知機能] を [使用する] に設定します。
- 3 カウンターの通知設定をする
→ 設定のしかたは、14-12 ページをごらんください。

カウンターの通知設定をする

通知先のメールアドレスを登録します。通知先のメールアドレスは、3 件まで登録できます。あわせて、通知するスケジュールを設定します。

管理者モードの [メンテナンス] - [トータルカウンター通知設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[モデル名]	通知メールに記載するモデル名を入力します (半角 20 文字以内)。装置を識別するために、わかりやすい名前をつけます。
[通知スケジュール設定]	通知するスケジュールを、日、週、月のいずれかで設定します。スケジュールは、2 件まで登録して、使い分けることができます。
[通知先設定]	通知先のメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。それぞれの通知先に対して、通知するスケジュールを選びます。また、Eco 関連情報を通知するかどうかを選びます。

参考

- [設定完了後にテスト通知] を [する] に設定すると、[OK] をクリックしたあと、登録したメールアドレスにテスト通知を行えます。

14.6 SNMPで管理する

概要

SNMP(Simple Network Management Protocol) を使ってネットワーク機器を管理している場合は、ネットワーク経由で、本機の情報の取得や監視ができます。本機は、TCP/IP 環境に対応しています。

SNMP の TRAP 機能を利用すると、本機に警告が発生したときに、指定した IP アドレスに通知することもできます。

SNMP を使って本機を管理する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 TCP/IP 環境で使うための設定をする
 - 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 SNMP の使用設定をする
 - 設定のしかたは、14-13 ページをごらんください。

SNMP の使用設定をする

SNMP を有効にします。あわせて、SNMP の認証設定や TRAP 機能を使うかどうかを設定します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [SNMP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SNMP 設定]	SNMP を有効にするときは、[使用する] を選び、お使いの SNMP のバージョンにチェックをつけます。
[UDP ポート設定]	必要に応じて、UDP ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。
[SNMP v1/v2c 設定]	SNMP v1/v2c を使う場合は、SNMP v1/v2c に関する設定をします。
[Read Community Name]	読取り専用のコミュニティ名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 1 文字以上、15 文字以内)。
[Write Community Name]	読み書きを許可する場合は、チェックをつけます。あわせて、読み書き可能なコミュニティ名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 1 文字以上、15 文字以内)。

設定	説明
[SNMP v3 設定]	SNMP v3 を使う場合は、SNMP v3 に関する設定をします。
[Context Name]	コンテキスト名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 63 文字以内)。
[Discovery User Name]	検出用ユーザーを許可する場合は、チェックをつけます。あわせて、検出用ユーザー名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 1 文字以上、32 文字以内)。
[Read User Name]	読取り専用のユーザー名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 32 文字以内)。
[Security Level]	読取り専用ユーザーの、セキュリティレベルを選びます。
[auth-password]	[Security Level] で [auth-password] または [auth-password/priv-password] を選んだ場合は、読取り専用ユーザーの、認証パスワードを入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 8 文字以上、32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[priv-password]	[Security Level] で [auth-password/priv-password] を選んだ場合は、読取り専用ユーザーの、プライバシ (暗号) に使うパスワードを入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 8 文字以上、32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[Write User Name]	読み書き可能ユーザーの、ユーザー名を入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 32 文字以内)。
[Security Level]	読み書き可能ユーザーの、セキュリティレベルを選びます。
[auth-password]	[Security Level] で [auth-password] または [auth-password/priv-password] を選んだ場合は、読み書き可能ユーザーの、認証パスワードを入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 8 文字以上、32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[priv-password]	[Security Level] で [auth-password/priv-password] を選んだ場合は、読み書き可能ユーザーの、プライバシ (暗号) に使うパスワードを入力します (スペース ¥ ' " # を除く半角 8 文字以上、32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[暗号化アルゴリズム]	暗号化アルゴリズムを選びます。
[認証方式]	認証方式を選びます。
[TRAP 許可設定]	SNMP の TRAP 機能を使って、本機の状態を通知する場合は、TRAP 機能の設定をします。
[許可設定]	SNMP の TRAP 機能を使う場合は、[許可する] を選びます。
[認証失敗時の TRAP 設定]	認証失敗時に TRAP 送信を行うかどうかを選びます。
[管理情報]	必要に応じて、本機の情報を入力します。
[装置名称]	本機の名前 (MIB の sysName) を入力します (半角 255 文字以内)。
[設置場所]	本機の設定場所 (MIB の sysLocation) を入力します (半角 255 文字以内)。
[管理者名]	管理者の名前 (MIB の sysContact) を入力します (半角 255 文字以内)。

- 2 SNMPのTRAP機能を使って、本機の状態を通知する場合は、管理者モードの[メンテナンス] - [状態通知設定] - [IPアドレス] - [編集]で、次の設定をします。

設定	説明
[通知先アドレス]	本機の状態を通知するアドレスを指定します。 IPアドレス(IPv4)、IPアドレス(IPv6)、ホスト名のいずれかを入力します (半角253文字以内)。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。
[コミュニティ名]	コミュニティ名を入力します(半角15文字以内)。
[トレイ紙補給]	トレイの用紙がなくなったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[紙づまり発生]	紙づまりが発生したときに通知する場合は、チェックをつけます。
[PMコール]	定期点検が必要になったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[ステープル針交換]	ステープルの針がなくなったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[トナー補給]	トナーがなくなったときに通知する場合は、チェックをつけます。
[フィニッシャー積載オーバー]	フィニッシャー積載オーバーを通知する場合は、チェックをつけます。
[サービスコール]	サービスコールが発生したときに通知する場合は、チェックをつけます。
[ジョブ終了]	ジョブが終了したときに通知する場合は、チェックをつけます。
[パンチくず除去]	パンチくずの除去が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[廃棄トナーボックスフル]	廃棄トナーボックスの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[IUライフストップ]	イメージングユニットの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[ドラムユニットライフ]	ドラムユニットの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[現像ユニットライフ]	現像ユニットの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[定着ユニットライフ]	定着ユニットの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[転写ローラーユニットライフ]	転写ローラーユニットの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。
[転写ベルトユニットライフ]	転写ベルトユニットの交換が必要になるときに通知する場合は、チェックをつけます。

14.7 本体情報を確認する

14.7.1 本機のカウンターを確認する

トータルカウンターや機能別のカウンターなど、本機の各種カウンター情報を確認できます。
管理者モードの [メンテナンス] - [カウンター] で、本機の各種カウンター情報を確認します。

14.7.2 ROMバージョンを確認する

本機のROMバージョンを確認できます。
管理者モードの [メンテナンス] - [ROMバージョン] で、本機のROMバージョンを確認します。

14.8 設定情報を管理する

14.8.1 本機に設定情報を書込む（インポート）

インポートできる情報の種類

本機からお使いのコンピューターまたは SMB 共有フォルダーに保存（エクスポート）した各種設定情報を、本機に書込み（インポート）できます。また、装置の入替えなどで、同じ機種別の装置からエクスポートした設定情報を移行できます。

本機にインポートできる情報は、次のとおりです。

項目	説明
[デバイス設定]	本機の各種設定値です。 設定情報をインポートするときは、エクスポート時に指定したパスワードを入力します。
[認証情報]	本機で管理する認証情報です。 認証情報をインポートするときは、エクスポート時に指定したパスワードを入力します。
[宛先]	本機に登録されている宛先の情報です。 宛先情報をインポートするときは、エクスポート時に指定したパスワードを入力します。
[コピープロテクト/スタンプ]	コピープロテクトや、スタンプの登録情報です。
[禁止コードリスト]	OpenAPI 連携アプリケーションの禁止コードリストです。

参考

- 本機の Web ブラウザーを使ってネットワーク上の複合機にアクセスすれば、USB メモリーを使ってアクセス先の複合機に設定情報をインポートできます。

お使いのコンピューターからインポートする

- 1 管理者モードの [メンテナンス] - [インポート/エクスポート] で、インポートする情報を選び、[インポート] をクリックします。
- 2 インポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] をインポートするときは、エクスポート時に指定したパスワードを入力します。
 - [認証情報] をインポートするときは、全認証データのバックアップファイルをインポートするか、ユーザーの登録情報のみをインポートするかを選びます。
 - [宛先] をインポートするときは、全宛先データのバックアップファイルをインポートするか、個別にエクスポートした宛先ファイルをインポートするかを選びます。
 - [宛先] をインポートするとき、[登録番号のみの宛先は、本体へ登録しない。] を選ぶと、インポートするファイルに登録番号のみ記載されている宛先情報は、本機に登録されません。[登録番号のみの宛先は、本体から削除する。] を選ぶと、登録番号のみ登録されている宛先情報を、本機から削除します。
- 3 [PC から選択] を選び、[参照] をクリックします。
- 4 インポートするファイルを選び、[OK] をクリックします。
インポート確認画面が表示されます。
- 5 [インポート] をクリックします。
 - [認証情報] と [宛先] をインポートするとき、現在本機に登録されている情報とインポートする情報が異なる場合は、[差分] が表示されます。[差分] をクリックすると、本機に登録されている情報と、インポートする情報のどちらを適用するかを選べます。



参考

- カウンター情報はインポートできません。
- 禁止コードリストについては、サービス実施店にお問い合わせください。

SMB 共有フォルダーからインポートする

- 1 管理者モードの [メンテナンス] - [インポート / エクスポート] で、インポートする情報を選び、[インポート] をクリックします。
- 2 インポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] をインポートするときは、エクスポート時に指定したパスワードを入力します。
 - [認証情報] をインポートするときは、全認証データのバックアップファイルをインポートするか、ユーザーの登録情報のみをインポートするかを選びます。
 - [宛先] をインポートするときは、全宛先データのバックアップファイルをインポートするか、個別にエクスポートした宛先ファイルをインポートするかを選びます。
 - [宛先] をインポートするとき、[登録番号のみの宛先は、本体へ登録しない。] を選ぶと、インポートするファイルに登録番号のみ記載されている宛先情報は、本機に登録されません。[登録番号のみの宛先は、本体から削除する。] を選ぶと、登録番号のみ登録されている宛先情報を、本機から削除します。
- 3 [SMB 一覧から選択] を選び、[SMB 一覧] をクリックします。
- 4 SMB サーバーへ接続するための情報を入力します。

設定	説明
[SMB ホスト名]	SMB サーバーのアドレスを入力します。 入力例：「192.168.1.1」
[ユーザー名]	SMB サーバーにログインするためのユーザー名を入力します（半角 64 文字以内）。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します（半角 64 文字以内）。

- 5 [接続] をクリックします。
フォルダーの選択画面が表示されます。
- 6 インポートするファイルを選び、[OK] をクリックします。
インポート確認画面が表示されます。
- 7 [インポート] をクリックします。
 - [認証情報] と [宛先] をインポートするとき、現在本機に登録されている情報とインポートする情報が異なる場合は、[差分] が表示されます。[差分] をクリックすると、本機に登録されている情報と、インポートする情報のどちらを適用するかを選べます。



参考

- カウンター情報はインポートできません。
- 禁止コードリストについては、サービス実施店にお問い合わせください。

USB メモリーからインポートする

本機の Web ブラウザーを使ってネットワーク上の複合機にアクセスすれば、USB メモリーを使ってアクセス先の複合機に設定情報をインポートできます。

- 1 設定情報をインポートする複合機に、設定情報を保存した USB メモリーを接続します。
- 2 本機の Web ブラウザーを起動して、設定情報をインポートする複合機の IP アドレスを指定します。
 - 操作方法について詳しくは、「ユーザズガイド [拡張機能] / [Web ブラウザー機能を使う]」をごらんください。Web ブラウザーの画面に、アクセス先の複合機の **Web Connection** の画面が表示されます。
- 3 管理者モードの [メンテナンス] - [インポート / エクスポート] で、インポートする情報を選び、[インポート] をクリックします。
- 4 インポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] をインポートするときは、エクスポート時に指定したパスワードを入力します。
 - [認証情報] をインポートするときは、全認証データのバックアップファイルをインポートするか、ユーザーの登録情報のみをインポートするかを選びます。
 - [宛先] をインポートするときは、全宛先データのバックアップファイルをインポートするか、個別にエクスポートした宛先ファイルをインポートするかを選びます。
 - [宛先] をインポートするとき、[登録番号のみの宛先は、本体へ登録しない。] を選ぶと、インポートするファイルに登録番号のみ記載されている宛先情報は、本機に登録されません。[登録番号のみの宛先は、本体から削除する。] を選ぶと、登録番号のみ登録されている宛先情報を、本機から削除します。
- 5 [MFP に接続された USB から選択] を選び、[OK] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。



参考

- カウンター情報はインポートできません。
- 禁止コードリストについて詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

14.8.2 本機の設定情報を保存する（エクスポート）

エクスポートできる情報の種類

本機の各種設定情報を、お使いのコンピューターまたは SMB 共有フォルダーに保存（エクスポート）できます。本機の各種設定情報のバックアップや、設定情報のコピーにお使いください。

本機からエクスポートできる情報は、次のとおりです。

項目	説明
[デバイス設定]	本機の各種設定値です。 必要に応じて、エクスポートする設定情報ファイルを、パスワードで暗号化できます。
[カウンター]	本機の各種カウンター情報です。 ユーザー別カウンターや部門別カウンターなど、エクスポートするカウンター情報を選べます。
[認証情報]	本機で管理する認証情報です。 全認証情報をエクスポートするか、ユーザー登録情報だけをエクスポートするかを選べます。 必要に応じて、エクスポートする認証情報ファイルを、パスワードで暗号化できます。
[宛先]	本機に登録されている宛先の情報です。 全宛先情報、短縮宛先、グループ宛先、プログラム宛先、E-mail の件名／本文から、エクスポートする情報を選べます。 必要に応じて、エクスポートする宛先情報ファイルを、パスワードで暗号化できます。
[コピープロテクト/スタンプ]	コピープロテクトや、スタンプの登録情報です。
[禁止コードリスト]	弊社が推奨しない OpenAPI 連携アプリケーションの、禁止コードリストです。

参考

- 本機の Web ブラウザーを使ってネットワーク上の複合機にアクセスすれば、アクセス先の複合機の設定情報を USB メモリーにエクスポートできます。

お使いのコンピューターにエクスポートする

- 1 管理者モードの [メンテナンス] - [インポート/エクスポート] で、エクスポートする情報を選び、[エクスポート] をクリックします。
- 2 エクスポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定] を選んだ場合は、エクスポートする目的を [設定コピー用]、[バックアップ用] から選びます。[設定コピー用] を選んだ場合は、コピーする設定の種類を選びます。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、必要に応じてパスワードを入力します。
 - [カウンター] を選んだ場合は、エクスポートするカウンターの種類を選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、すべての情報をエクスポートするかどうかを選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、保存するファイルの形式を選びます。表計算ソフトで編集する場合は、[CSV ファイル] を選びます。
- 3 [エクスポート先] で、[PC にエクスポートする] を選びます。
- 4 [OK] をクリックします。
ファイルがコンピューターに保存されます。

参考

- 証明書を登録している E-mail 宛先をエクスポートした場合、証明書はエクスポートされません。本機にインポートしたあとに、証明書を再登録してください。
- 禁止コードリストについて詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

SMB 共有フォルダーにエクスポートする

- 1 管理者モードの [メンテナンス] - [インポート / エクスポート] で、エクスポートする情報を選び、[エクスポート] をクリックします。
- 2 エクスポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定] を選んだ場合は、エクスポートする目的を [設定コピー用]、[バックアップ用] から選びます。[設定コピー用] を選んだ場合は、コピーする設定の種類を選びます。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、必要に応じてパスワードを入力します。
 - [カウンター] を選んだ場合は、エクスポートするカウンターの種類を選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、すべての情報をエクスポートするかどうかを選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、保存するファイルの形式を選びます。表計算ソフトで編集する場合は、[CSV ファイル] を選びます。
- 3 [エクスポート先] で、[SMB にエクスポートする] を選びます。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 SMB サーバーへ接続するための情報を入力します。

設定	説明
[SMB ホスト名]	SMB サーバーのアドレスを入力します。 入力例：「192.168.1.1」
[ユーザー名]	SMB サーバーにログインするためのユーザー名を入力します (半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 64 文字以内)。

- 6 [接続] をクリックします。
フォルダーの選択画面が表示されます。
- 7 ファイルをエクスポートするフォルダーを選択して、[OK] をクリックします。
ファイルが、選択した SMB 共有フォルダーに保存されます。

USB メモリーにエクスポートする

本機の Web ブラウザーを使ってネットワーク上の複合機にアクセスすれば、アクセス先の複合機の設定情報を USB メモリーにエクスポートできます。

- 1 設定情報をエクスポートする複合機に USB メモリーを接続します。
- 2 本機の Web ブラウザーを起動して、設定情報をエクスポートする複合機の IP アドレスを指定します。
 - 操作方法について詳しくは、「ユーザーズガイド [拡張機能] / [Web ブラウザー機能を使う]」を
ごらんください。
 Web ブラウザーの画面に、アクセス先の複合機の **Web Connection** の画面が表示されます。
- 3 管理者モードの [メンテナンス] - [インポート / エクスポート] で、エクスポートする情報を選び、[エクスポート] をクリックします。
- 4 エクスポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定] を選んだ場合は、エクスポートする目的を [設定コピー用]、[バックアップ用] から選びます。[設定コピー用] を選んだ場合は、コピーする設定の種類を選びます。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、必要に応じてパスワードを入力します。
 - [カウンター] を選んだ場合は、エクスポートするカウンターの種類を選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、すべての情報をエクスポートするかどうかを選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、保存するファイルの形式を選びます。表計算ソフトで編集する場合は、[CSV ファイル] を選びます。

- 5 [MFP に接続された USB にエクスポートする] を選び、[OK] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。



参考

- 証明書を登録している E-mail 宛先をエクスポートした場合、証明書はエクスポートされません。本機にインポートしたあとに、証明書を再登録してください。
- 禁止コードリストについて詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

14.8.3 他の装置の設定情報をインポートする

ネットワーク上にある他の装置から設定情報をエクスポートして、現在表示している装置にインポートすることができます。

- 1 装置検索アイコン (🔍) から [周辺 MFP 検索] を選びます。
装置の検索が完了すると、[周辺 MFP 検索] 画面が表示されます。
- 2 設定情報をエクスポートする装置を選び、[オプション] 欄にあるインポート/エクスポートアイコン (📁) をクリックします。
[インポート/エクスポート] 画面が表示されます。
- 3 エクスポートする情報のタブを選びます。
- 4 エクスポートする情報に応じて、必要な設定を行います。
 - [デバイス設定] を選んだ場合は、エクスポートする設定の種類を選びます。
 - [デバイス設定]、[認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、必要に応じてパスワードを入力します。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、すべての情報をエクスポートするかどうかを選びます。
 - [認証情報]、[宛先] を選んだ場合は、保存するファイルの形式を選びます。表計算ソフトで編集する場合は、[CSV ファイル] を選びます。
- 5 [次へ] をクリックすると、エクスポートを開始します。
エクスポートが完了すると、インポート先の確認画面が表示されます。
- 6 インポート先の装置の管理者パスワードを入力します。
 - インポート先の装置が SSL 通信を有効にしている場合は、[SSL/TLS 使用] にチェックをつけます。
- 7 [OK] をクリックします。

14.8.4 ネットワーク設定を初期化する

本機のネットワーク設定を、工場出荷時の状態の状態に戻せます。

管理者モードの [メンテナンス] - [初期化] - [ネットワーク設定クリア] で、[クリア] をクリックします。

14.8.5 ネットワークインターフェースを再起動する

本機のコントローラーをリセットして、ネットワークインターフェースを再起動します。

管理者モードの [メンテナンス] - [初期化] - [リセット] で、[リセット] をクリックします。

14.8.6 宛先情報をすべて消去する

本機に登録されている宛先情報を、すべて削除できます。

管理者モードの [メンテナンス] - [初期化] - [宛先一括消去] で、[フォーマット] をクリックします。

14.9 ジョブログを取得する

お使いになるために必要な作業

本機で実行されたジョブログをダウンロードできます。ジョブログから、ユーザーや部門ごとの利用状況、用紙の使用量、操作やジョブ履歴を確認できます。

取得したログの閲覧方法については、サービス実施店にお問い合わせください。

操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [セキュリティ設定] - [ジョブログ設定] - [ジョブログ使用設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[する] / [しない]	本機の電源を OFF/ON するときに、ジョブログを取得するかどうかを選びます。初期値は [しない] です。
[取得ログ種類]	ジョブログの種類ごとに、取得するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [課金ログ]：ユーザーや部門ごとに、用紙の使用量に関する情報を取得できます。初期値は [する] です。 ・ [集計ログ]：用紙の使用量や、用紙をどれだけ削減して印刷しているかなどの情報を取得できます。初期値は [する] です。 ・ [監査ログ]：ユーザーの操作やジョブ履歴を取得できます。不正行為や情報の漏洩を、後から追跡できます。初期値は [する] です。
[送信方法]	ジョブログをサーバーへ送信する方法を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [手動 (外部指示)]：手動操作または外部からの指示があったときにジョブログを送信します。 ・ [自動]：指定された条件にしたがって、自動的にジョブログを送信します。自動送信の設定は [ジョブログ設定] - [自動送信設定] で行います。初期値は [手動 (外部指示)] です。
[上書き]	本機のストレージの使用領域がいっぱいになり、新しいジョブログが保存できないとき、古いジョブログへの上書きを許可するかどうかを選びます。初期値は [許可] です。
[ジョブログ消去]	本機に保存されているジョブログを消去します。

ジョブログをダウンロードする

- 1 管理者モードの [メンテナンス] - [ジョブログ] - [ジョブログデータの作成] で、[OK] をクリックします。
 - 未取得のジョブログがある場合は、新しく作成する前にダウンロードしてください。新しくジョブログを作成すると、未取得のジョブログは削除されます。
 - ジョブログの作成が開始されます。
- 2 管理者モードの [メンテナンス] - [ジョブログ] - [ジョブログデータのダウンロード] で、ジョブログをダウンロードする場所を選びます。
 - [PC にダウンロードする]：お使いのコンピューターにジョブログをダウンロードします。
 - [SMB にダウンロードする]：SMB 共有フォルダーにジョブログをダウンロードします。
- 3 [OK] をクリックします。
 - [PC にダウンロードする] を選んだ場合は、[ダウンロード] をクリックします。
 - [SMB にダウンロードする] を選んだ場合は、ダウンロードする SMB 共有フォルダーを選びます。
 - ジョブログのダウンロードが開始されます。

14.10 本機の設定情報をバックアップする

サーバーへバックアップする

本機の設定データをサーバーへバックアップするための設定をします。

管理者モードの [メンテナンス] - [設定情報バックアップ] - [サーバーへバックアップ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[バックアップ機能の使用設定]	サーバーへのバックアップ機能を使用する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[送信プロトコル]	サーバーとの通信プロトコルを選び、パラメーターを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [SMB] : SMB サーバーへバックアップする場合に選びます。[SMB 設定] で、サーバーのホスト名と共有フォルダーのパス、およびアクセス権限を持つユーザー名とパスワードを入力します。 ・ [HTTP] : WebDAV サーバーへバックアップする場合に選びます。[HTTP 設定] で、WebDAV フォルダーの URL、およびアクセス権限を持つユーザー名とパスワードを入力します。また、プロキシを使用するかどうかを選びます。
[自動バックアップ設定]	定期的にバックアップを行う場合は、バックアップを行うタイミングを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日数間隔でバックアップを行う場合は、[日周期] を選び、[バックアップ時刻] で時刻を指定します。初期値は [1] 日、[0] 時 [0] 分です。 ・ 曜日と時刻でバックアップを行う場合は、[週周期] を選び、[バックアップ時刻] で時刻を指定します。初期値は [日] 曜日、[0] 時 [0] 分です。 初期値は [使用しない] です。
[バックアップ対象]	バックアップするデータを選びます。
[パスワードを変更する]	バックアップするデータを暗号化するためのパスワードを、[暗号化パスワード] に入力します (64 文字以内)。
[最終バックアップ日]	最後にバックアップを実行した日付が表示されます。

参考

- バックアップしたデータは操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [セキュリティ設定] - [設定情報バックアップ] からリストアップできます。

ハードディスクへバックアップする

本機の設定データをハードディスクへバックアップするための設定をします。

管理者モードの [メンテナンス] - [設定情報バックアップ] - [HDD へバックアップ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[バックアップ機能の使用設定]	ハードディスクへのバックアップ機能を使用する場合は、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[自動バックアップ設定]	定期的にバックアップを行う場合は、バックアップを行うタイミングを設定します。 <ul style="list-style-type: none">・ 日数間隔でバックアップを行う場合は、[日周期] を選び、[バックアップ時刻] で時刻を指定します。初期値は [1] 日、[0] 時 [0] 分です。・ 曜日と時刻でバックアップを行う場合は、[週周期] を選び、[バックアップ時刻] で時刻を指定します。初期値は [日] 曜日、[0] 時 [0] 分です。 初期値は [使用しない] です。
[最終バックアップ日]	最後にバックアップを実行した日付が表示されます。

参考

- バックアップしたデータは操作パネルの [設定メニュー] - [管理者設定] - [セキュリティー設定] - [設定情報バックアップ] からリストアできます。

14.11 本機の動作環境を設定する

14.11.1 通常表示と拡大表示の初期設定をまとめて行う

〔コピー初期設定〕と〔拡大表示初期設定〕、〔ファクス/スキャン初期設定〕と〔拡大表示初期設定〕をそれぞれ1つの設定キーにまとめるかどうかを選びます。

通常と拡大表示の設定値の変更を同時に行いたいときに、管理者モードの〔環境設定〕 - 〔リセット設定〕で、〔通常/拡大表示共通初期設定〕を〔共通にする〕を選びます(初期値:〔共通にしない〕)。

14.11.2 拡大表示に切換えるときの動作を設定する

タッチパネルの初期表示を拡大表示にできます。また、拡大表示に切換えるときの動作を設定できます。管理者モードの〔環境設定〕 - 〔拡大表示設定〕で、次の設定をします。

設定	説明
〔拡大表示初期表示設定〕	タッチパネルの初期表示を、拡大表示にするかどうかを選びます。初期値は〔しない〕です。
〔リセット動作設定〕	〔拡大表示初期表示設定〕で〔する〕を選んだ場合、リセットを押したときに拡大表示するかどうかを選びます。リセットを押したときも拡大表示するときは、〔拡大表示する〕を選びます。初期値は〔拡大表示しない〕です。
〔通常/拡大表示引継ぎ設定〕	通常の画面表示から拡大表示に切換えるときに、通常の画面表示で設定した内容を引継ぐかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・〔モード1〕:設定した内容をすべて引継ぎます。 ・〔モード2〕:コピーモードでは、拡大表示で設定できる内容だけを引継ぎます。ファクス/スキャンモードでは、設定をリセットします。 初期値は〔モード2〕です。

14.11.3 宛先の初期表示方法を設定する

ファクス/スキャンモードまたはファクスモードで、宛先を表示する方法の初期値を設定します。

管理者モードの〔環境設定〕 - 〔宛先表示初期表示設定〕 - 〔ファクス/スキャン設定〕または〔ファクス設定〕で、次の設定をします。

設定	説明
〔宛先並び順の初期設定〕	宛先の並び順を、登録番号順にするか、登録名順にするかを選びます。登録名順にすると、宛先に設定された〔登録名ふりがな〕をもとに並替えます。初期値は〔登録番号順〕です。
〔宛先表示方法の初期設定〕	宛先の表示を、ボタン表示にするか、リスト表示にするかを選びます。初期値は〔ボタン型〕です。

14.11.4 スキャンデータのファイル名の初期値を変更する

読み込んだ原稿データを保存するときのファイル名の初期値を変更します。

ファイル名は、「機能の頭文字」+「追加する文字列」+「日付」+「連番」+「ページ番号」+「拡張子」となります。

管理者モードの [環境設定] - [スキャン文書名設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[機能の頭文字]	ファイル名に機能の頭文字を付けるかどうかを選びます。ファイル名の頭に、以下の文字が付きます。 C：コピー S：ファクス/スキャン、ボックス P：プリンター 初期値は [付ける] です。
[追加する文字列]	ファイル名に装置名を追加するか、任意の文字列を追加するかを選びます。 ・ [装置名]：ファイル名に本機の名前を使います。本機の名前は、管理者モードの [環境設定] - [本体登録] - [装置名称] で変更できます。 ・ [任意文字列]：ファイル名に任意の文字列を使います。[任意文字列] に追加する文字列を入力します (半角 10 文字以内)。 初期値は [装置名] です。

14.11.5 プレビュー機能の表示に関する設定をする

読み込み中の原稿をリアルタイムでプレビュー表示するかどうかを設定します。また、プレビュー表示画面の初期表示について設定します。

管理者モードの [環境設定] - [プレビュー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[リアルタイムプレビュー]	原稿を読み込みながら 1 ページごとにプレビュー画像を表示するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。
[設定キー初期表示]	プレビュー画面を開いたときに、設定キーを表示した状態にするかどうかを選びます。 初期値は [する] です。

14.11.6 白紙ページにスタンプを印字する

カバーシートやインターシート機能によって挿入する白紙ページにも、日時やスタンプなどを印字します。

管理者モードの [環境設定] - [白紙ページ印字設定] で、[印字設定] を [印字する] に設定します (初期値: [印字しない])。



参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効/無効に関わらず利用できます。

14.11.7 プリンタードライバーで設定した用紙サイズと種類で手差しトレイから印刷する

手差しトレイを使ってコンピューターから印刷する場合に、本機で行った手差しトレイの用紙サイズと用紙種類の設定よりも、プリンタードライバーで行った設定を優先して印刷できます。

プリンタードライバーで行った設定を優先する場合は、管理者モードの [環境設定] - [PC 印刷時の手差し用紙設定] で、[PC 印刷時の手差し用紙設定] を [ドライバー優先] に設定します (初期値: [ドライバー優先])。

14.11.8 ジョブ飛越しの条件を設定する

印刷中のジョブの処理が、用紙の不足、排紙トレイの積載量オーバー、用紙不適合などの警告で停止する場合に、次のジョブを実行することを、ジョブ飛越しと呼びます。

次のジョブがファクスの場合と、ファクス以外の場合とで、それぞれ前ジョブを飛越すかどうか設定できます。

管理者モードの [環境設定] - [ジョブ優先動作設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[ファクス受信ジョブ優先]	コピーやプリント中にファクスを受信した場合、ファクスを優先して印刷するかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。
[ジョブ飛越し (ファクス)]	用紙がないなどの理由で印刷が停止した場合、次のジョブが受信したファクスの印刷である場合に限り、先に処理するかどうかを選びます。 初期値は [する] です。
[ジョブ飛越し (ファクス以外)]	用紙がないなどの理由で印刷が停止した場合、次のジョブが受信したファクスの印刷以外である場合に限り、先に処理するかどうかを選びます。 初期値は [する] です。

14.11.9 コンパクト PDF に変換するときの動作を設定する

コンパクト PDF 形式のファイルを作成するときに、画質を優先するか、速度を優先するかを選びます。

管理者モードの [環境設定] - [コンパクト PDF 設定] で、[画質優先] または [速度優先] を選びます (初期値: [画質優先])。

14.11.10 アウトライン PDF の処理精度を設定する

アウトライン PDF 形式で保存する場合、原稿の文字部分を抽出して、ベクター画像に変換します。ここでは、画像 (図形) のアウトライン処理の精度を設定します。

管理者モードの [環境設定] - [アウトライン PDF 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[図形のアウトライン化]	アウトライン PDF 形式で保存するときの、画像 (図形) のアウトライン処理の精度を選びます。 [LOW]、[MIDDLE]、[HIGH] の順にアウトライン処理の精度が上がります。 [OFF] を選ぶとアウトライン処理をしません。 初期値は [OFF] です。

14.11.11 本機の利用頻度や機能設定情報の送信を許可する

本機の利用頻度の情報や、本機の機能設定などの情報を、弊社に送信できるようにします。送信された本機の情報や、弊社のサービス向上や今後の機能改善などの目的で使われます。



参考

- IP アドレスなどセキュリティに関する情報や、短縮宛先などの個人情報は送信されません。

管理者モードの [環境設定] - [リスト/カウンター] で、[利用頻度・構成情報送信設定] を [許可] を選びます (初期値: [禁止])。

14.11.12 本機の利用状況の取得を許可する

弊社が装置の利用状況に関するログを取得することを許可するかどうかを選びます。

ログの取得を許可すると、すぐにログの取得を開始するため、あとで本機に問題が発生したときの原因分析や、製品の品質向上に役立ちます。

以下のいずれかの操作を行うと、ログの取得を許可するかどうかを確認する画面が表示されます。

- 管理者モードの [セキュリティ] - [管理者パスワード設定] で、管理者パスワードの変更を行った場合
- 管理者モードの [環境設定] - [本体登録] で、登録情報を編集した場合
- コピー枚数が 100 枚を超えた状態で、管理者モードにログインした場合

設定	説明
[許可する]	ログの取得を開始します。1 度選ぶと、次回からは画面が表示されなくなります。
[許可しない]	ログを取得しません。1 度選ぶと、次回からは画面が表示されなくなります。
[後で確認]	次回条件を満たしたときに、再度画面を表示します。

14.11.13 SMB 共有フォルダー探索時にサブフォルダーの有無を確認する

本機がネットワーク上の SMB 共有フォルダーを探索するときに、サブフォルダーの有無を確認するかどうかを設定します。

サブフォルダーの有無を確認しないように設定すると、SMB 共有フォルダーの探索が早くなります。

サブフォルダーの有無を確認しない場合は、管理者モードの [ネットワーク] - [SMB 設定] - [SMB ブラウジング設定] で、[SMB ブラウジング設定] を [サブフォルダ検索無効] に設定します (初期値: [サブフォルダ検索無効])。

14.12 ライセンス登録をして拡張機能を使う

14.12.1 リクエストコードを発行する

本機にオプションのライセンスキットを登録して拡張機能を使うためには、ライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) にアクセスして機能コードとライセンスコードを取得する必要があります。ここでは LMS で、機能コードとライセンスコードを要求するときに必要となるリクエストコードの発行のしかたを説明します。

管理者モードの [メンテナンス] - [ライセンス管理設定] - [リクエストコード発行] で、[OK] をクリックします。



- この機能を使うには、オプションの拡張メモリーが必要です。

14.12.2 拡張機能を有効化する

機能コードとライセンスコードで有効化する

ライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) から取得した機能コードとライセンスコードを本機に登録して、拡張機能を有効化します。

管理者モードの [メンテナンス] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化] - [機能コード、ライセンスコードによる機能有効化] で、機能コードとライセンスコードを入力し、[OK] をクリックします。



- この機能を使うには、オプションの拡張メモリーが必要です。

トークン番号で有効化する

インターネット上のライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) でのライセンス登録から、本機での拡張機能有効化までを、自動で行います。

トークン証書に記載されているトークン番号を本機に入力して、LMS から拡張機能の有効化に必要な情報を取得するため、本機がインターネットに接続できる必要があります。

管理者モードの [メンテナンス] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化] - [トークンコードによる機能有効化] で、トークン番号を入力し、[OK] をクリックします。



- この機能を使うには、オプションの拡張メモリーが必要です。

14.13 本機のファームウェアを更新する

概要

本機のファームウェア、設定情報を外部からダウンロードして、更新できます。

ファームウェア、設定情報をダウンロードしている間も、本機を使うことができます。

本機のファームウェア、設定情報を外部からダウンロードして更新する場合は、次の手順で操作してください。

- ✓ ファームウェア、設定情報の更新を行うには、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

1 ファームウェアをダウンロードするための準備をする

- ダウンロード方法には、FTP 経由でダウンロードする方法と、HTTP 経由でダウンロードする方法があります。お使いの環境に合わせて、プロキシサーバーを設定してください。
- FTP 経由でダウンロードする場合の設定のしかたは、14-31 ページをごらんください。
- HTTP 経由でダウンロードする場合の設定のしかたは、14-32 ページをごらんください。

2 本機のファームウェアを更新する

- 時刻を指定して自動で更新する場合は、14-32 ページをごらんください。
- 手動で更新する場合は、14-32 ページをごらんください。

FTP 経由でファームウェアをダウンロードするための準備をする

FTP 経由で、本機にファームウェアをダウンロードするための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [Internet ISW 設定] - [FTP サーバー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[FTP サーバー設定]	プロキシ経由でインターネットに接続する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト名の入力例：[host.example.com] ・ IP アドレス (IPv4) の入力例：[192.168.1.1] ・ IP アドレス (IPv6) の入力例：[fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。初期値は [21] です。

HTTP 経由でファームウェアをダウンロードするための準備をする

HTTP 経由で、本機にファームウェアをダウンロードするための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [HTTP プロキシ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[HTTP プロキシ設定]	プロキシ経由で外部に接続する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。初期値は [80] です。
[プロキシ認証]	プロキシ認証を使用するかどうかを選びます。初期値は [使用しない] です。 <ul style="list-style-type: none"> [ユーザー名]：プロキシ認証に使用するログイン名を入力します (半角 32 文字以内)。 [パスワード]：[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

指定した時刻に自動でファームウェアを更新する

指定した時刻に本機が自動的にファームウェアをダウンロードし、更新を実施します。

管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [Internet ISW 設定] - [時刻指定ファームウェア更新] で、次の設定をします。

設定	説明
[時刻指定ファームウェア更新]	指定した時刻に本機が自動的にファームウェアを更新するようになるときは、[有効] を選びます。初期値は [無効] です。
[ファームウェア更新時刻]	本機が自動的にファームウェアを更新する時刻を入力します。

ファームウェアを手動で更新する

本機に外部からファームウェアをダウンロードして、手動で更新します。

ファームウェアをダウンロードしている間は、通常通り本機を使うことができます。

本機のファームウェアを更新している間は、本機を使えません。ファームウェアの更新が終わると、本機が自動的に再起動します。

管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [Internet ISW 設定] - [ファームウェア更新] で、次の設定をします。

設定	説明
[ファームウェアダウンロードステータス]	ファームウェアのダウンロード状況を表示します。[更新] をクリックすると、ステータスを更新します。
[ファームウェアダウンロード]	外部からファームウェアをダウンロードするときにクリックします。
[ファームウェア削除]	ダウンロードしたファームウェアを削除します。
[ファームウェア更新]	ダウンロードが完了したファームウェアを使って、本機のファームウェアを更新するときにクリックします。

14.14 本機や他の装置のファームウェアを自動的に更新する

14.14.1 本機のファームウェアを更新するための設定をする

本機は自身のファームウェア、設定情報の更新を自動的に行うことができます。

ここでは、本機がネットワーク上のファームウェア更新サーバーを定期的に監視し、最新のファームウェア、設定情報のダウンロードと更新を自動的に行うための設定をします。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [本体自動更新設定] - [この装置の自動更新設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[この装置の自動更新設定]	本機のファームウェアを自動的に更新できるようにするには、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[取得プロトコル]	ファームウェア更新サーバーからファームウェアを取得するときに使うプロトコルを選びます。 初期値は [SMB] です。
[SMB 設定]	SMB プロトコルを使ってファームウェアを取得する場合の設定をします。
[ホスト名]	ファームウェア更新サーバーの IP アドレスを入力するか、またはホスト名を入力します (半角 253 文字以内、記号は -、.、_ のみ使用可能)。 ホスト名を入力する場合は、[ホスト名入力時はチェックを ON にする] にチェックをつけます。
[ファイルパス]	ファームウェアが保存されている共有フォルダーのパスを入力します (全角 / 半角 255 文字以内)。
[ユーザー名]	ファームウェア更新サーバーに接続するためのユーザー名を入力します (全角 / 半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[リトライ回数]	ファームウェア更新サーバーとの接続が失敗した場合に、再試行する回数を指定します。 初期値は [3] 回です。
[HTTP 設定]	HTTP プロトコル (WebDAV) を使ってファームウェアを取得する場合の設定をします。
[URL]	ファームウェア更新サーバーの、ファームウェアが保存されている場所の URL を入力します (スペースを除く半角 253 文字以内)。
[ユーザー名]	ファームウェア更新サーバーに接続するためのユーザー名を入力します (全角 / 半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[プロキシ]	ファームウェア更新サーバーに接続するためにプロキシサーバーを経由する必要がある場合は、[使用する] を選びます。
[接続タイムアウト]	ファームウェア更新サーバーとの接続タイムアウト時間を指定します。 初期値は [60] 秒です。
[更新時刻]	ファームウェア更新サーバーから取得したファームウェアを、本機に適用する開始時刻を指定します。休憩時間や深夜など、本機が使用されていない時刻を指定すると便利です。
[ポーリング設定]	最新のファームウェアがファームウェア更新サーバーにあるかどうか、確認する間隔を指定します。 ・ [時間間隔で指定] : 確認する間隔を、時間で入力します。 ・ [曜日で指定] : 確認を行う曜日と時刻を指定します。 初期値は [60] 分です。
[リトライ間隔]	ファームウェア更新サーバーへの最新ファームウェアの確認が失敗した場合に、再試行する間隔を指定します。 初期値は [5] 分です。

- 2 本機の設定情報を自動更新する場合は、管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [本体自動更新設定] - [復号化パスワード設定] で、暗号化された設定ファイルを復号化するためのパスワードを入力します (半角 32 文字以内)。
- 復号化パスワードを入力 (変更) するときは、[復号化パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しい復号化パスワードを入力します。
- 3 必要に応じて、管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [本体自動更新設定] - [ログ送信設定] で、ファームウェア更新ログを送信する設定をします。

設定	説明
[更新ファイル取得・更新ログ]	本機のファームウェア更新のログを、他の場所に送信する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[送信プロトコル]	ログの送信に使うプロトコルを選びます。初期値は [SMB] です。
[SMB 設定]	SMB プロトコルを使ってログを送信する場合の設定をします。
[ホスト名]	ログ送信先のホスト名を入力します (半角 253 文字以内、記号は -, ., :, _ のみ使用可能)。
[ファイルパス]	ログ送信先の共有フォルダーのパスを入力します (全角/半角 255 文字以内)。
[ユーザー名]	ログ送信先にログインするためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[WebDAV 設定]	HTTP プロトコル (WebDAV) を使ってログを送信する場合の設定をします。
[URL]	ログ送信先の URL を入力します (スペースを除く半角 253 文字以内)。
[ユーザー名]	ログ送信先にログインするためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[プロキシ]	ログ送信先に接続するためにプロキシサーバーを経由する必要がある場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。

- 4 必要に応じて、管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [HTTP プロキシ設定] で、プロキシの設定をします。

設定	説明
[HTTP プロキシ設定]	プロキシ経由で外部に接続する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例: 「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。初期値は [80] です。
[プロキシ認証]	プロキシ認証を使用するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> [ユーザー名]: プロキシ認証に使用するログイン名を入力します (半角 32 文字以内)。 [パスワード]: [ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

14.14.2 他の装置のファームウェアを更新するための設定をする

本機が中継サーバーとして動作するように設定します。

本機が中継サーバーとして動作すると、ネットワーク上の他のファームウェア更新サーバーと、他の装置とを中継し、ファームウェアを配布できます。

本機がネットワーク上の他のファームウェア更新サーバーを定期的に監視し、最新のファームウェアがある場合には、本機のファームウェア保存領域にダウンロードします。

ネットワーク上の他の装置は、中継サーバーとして動作している本機を、定期的に監視します。本機のファームウェア保存領域に最新のファームウェアがある場合、その装置の設定に従って、ファームウェアのダウンロードと更新を行います。

ここでは、本機が他のファームウェア更新サーバーを監視するための設定と、他の装置が本機のファームウェア保存領域にアクセスするための設定を行います。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [本体自動更新設定] - [中継サーバー機能の設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[更新ファイル取得設定]	本機を中継サーバーとして動作させる場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[URL]	ファームウェア更新サーバーの、ファームウェアが保存されている場所の URL を入力します (スペースを除く半角 253 文字以内)。
[ユーザー名]	ファームウェア更新サーバーに、本機が接続するためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[プロキシ]	ファームウェア更新サーバーに、本機が接続するためにプロキシサーバーを経由する必要がある場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[接続タイムアウト]	ファームウェア更新サーバーとの接続タイムアウト時間を指定します。初期値は [60] 秒です。
[ポーリング設定]	ファームウェア更新サーバーに最新のファームウェアが存在するかどうか、確認する間隔を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [時間間隔で指定] : 確認する間隔を、時間で入力します。 ・ [曜日で指定] : 確認を行う曜日と時刻を指定します。 初期値は [60] 分です。
[リトライ間隔]	ファームウェア更新サーバーへの最新ファームウェアの確認が失敗した場合に、再試行する回数を指定します。初期値は [5] 分です。
[HTTP 設定]	[使用する] を選ぶと、ネットワーク上の他の装置が、HTTP プロトコル (WebDAV) を使って本機のファームウェア保存領域にアクセスできるようになります。
[ユーザー名]	ファームウェア更新サーバーに接続するためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

設定	説明
[SMB 設定]	[使用する] を選ぶと、ネットワーク上の他の装置が、SMB プロトコルを使って本機のファームウェア保存領域にアクセスできるようになります。初期値は [使用しない] です。
[ユーザー名]	ファームウェア更新サーバーに接続するためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[更新ログ保存フォルダー]	ファームウェア更新ログを共有フォルダーに保存する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[SMB 通信の暗号化]	本機の共有フォルダーに対する、クライアントとの SMB 通信を暗号化するかどうかを選びます。暗号化した場合、SMB 3.0 以降のクライアントからのみアクセスできます。初期値は [暗号化しない] です。

- 2 必要に応じて、管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [本体自動更新設定] - [ログ送信設定] で、ファームウェア更新ログを送信する設定をします。

設定	説明
[中継用更新ファイル取得ログ]	本機が中継サーバーとして動作した場合のログを、他の場所に送信する場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[送信プロトコル]	ログの送信に使うプロトコルを選びます。初期値は [SMB] です。
[SMB 設定]	SMB プロトコルを使ってログを送信する場合の設定をします。
[ホスト名]	ログ送信先のホスト名を入力します (半角 253 文字以内、記号は -, ., :, _ のみ使用可能)。
[ファイルパス]	ログ送信先の共有フォルダーのパスを入力します (全角/半角 255 文字以内)。
[ユーザー名]	ログ送信先にログインするためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[WebDAV 設定]	HTTP プロトコル (WebDAV) を使ってログを送信する場合の設定をします。
[URL]	ログ送信先の URL を入力します (スペースを除く半角 253 文字以内)。
[ユーザー名]	ログ送信先にログインするためのユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[プロキシ]	ログ送信先に接続するためにプロキシサーバーを経由する必要がある場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。

- 3 必要に応じて、管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [HTTP プロキシ設定] で、プロキシの設定をします。

設定	説明
[HTTP プロキシ設定]	プロキシ経由で外部に接続する場合は、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">ホスト名の入力例：「host.example.com」IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [80] です。
[プロキシ認証]	プロキシ認証を使用するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none">[ユーザー名]：プロキシ認証に使用するログイン名を入力します (半角 32 文字以内)。[パスワード]：[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 32 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

14.15 更新したファームウェアを以前のバージョンに戻す

本機のファームウェアを、以前のバージョンに戻します。

管理者モードの [ネットワーク] - [本体更新設定] - [ファームウェアロールバック] で、[ロールバック] をクリックします。[ロールバック] をクリックすると、[バックアップファイルバージョン] に表示されているファームウェアを本機に適用します。

14.16 未反映の設定の有無を確認する

ジョブの実行中に Web Connection で設定変更を行った場合、設定変更が即時に反映されていないことを管理者に通知します。

管理者モードの [メンテナンス] - [保留中設定変更有無確認] で、未反映の設定の有無を確認できます。

14.17 外部機関による認証が必要な機能を有効化する

外部機関による認証が必要な機能は、製品出荷時に使用できない状態となっている場合があります。認証取得後に、機能コードを入力して、機能を有効化します。

管理者モードの [メンテナンス] - [認定機能管理設定] - [機能有効化] で、機能コードを入力し、[OK] をクリックします。



参考

- 外部機関による認証が必要な機能および機能コードについては、サービス実施店にお問い合わせください。
- [メンテナンス] - [認定機能管理設定] - [認定機能一覧表示] で、本機で有効になっている機能を確認できます。

15

各種情報を登録する

15 各種情報を登録する

15.1 短縮宛先を登録する

15.1.1 E-mail 宛先を登録する

Web Connection から、E-mail 宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

S/MIME 機能を使う場合は、E-mail 宛先にユーザーの証明書を登録できます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [E-mail 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[E-mail 宛先]	宛先とするメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。
[証明書情報の登録]	S/MIME で E-mail を暗号化する場合はチェックをつけ、ユーザーの証明書を登録します。お使いのコンピューターまたは SMB 共有フォルダーから、登録する証明書を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> 証明書を登録するには、登録する宛先のメールアドレスと、証明書のメールアドレスが、一致している必要があります。 証明書情報は、DER(Distinguished Encoding Rules) 形式のファイルだけサポートしています。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.1.2 FTP 宛先を登録する

Web Connection から、FTP 宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [FTP 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[ホストアドレス]	宛先とする FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します (半角 253 文字以内)。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例: 「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力した FTP サーバーの保存先フォルダー名を入力します (127 バイト以内)。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例: 「scan」 FTP フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「/」を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例: 「scan/document」 ファイルパスを指定しない場合は、「/」のみを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例: 「/」
[ユーザー ID]	宛先の FTP サーバーで認証が必要なときは、ログインできるユーザー名を入力します (全角／半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー ID] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[anonymous]	宛先の FTP サーバーで認証が不要なときは、[ON] を選びます。初期値は [OFF] です。
[PASV モード]	お使いの環境で PASV モードを利用しているときは、[ON] を選びます。初期値は [OFF] です。
[プロキシ]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[ON] を選びます。初期値は [OFF] です。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [21] です。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.1.3 SMB 宛先を登録する

Web Connection から、SMB 宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピューターから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [SMB 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェイムズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[ホストアドレス]	宛先とするコンピューター名 (ホスト名) または IP アドレスを入力します (半角 253 文字以内)。 <ul style="list-style-type: none"> コンピューター名 (ホスト名) の入力例: 「HOME-PC」 IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力したコンピューターの共有フォルダー名を入力します (255 バイト以内)。一般的には、共有名と呼ばれています。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例: 「scan」 共有フォルダー内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に「\」を入力します。 入力例: 「scan\document」
[ユーザー ID]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー ID] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.1.4 WebDAV 宛先を登録する

Web Connection から、WebDAV 宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [WebDAV 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[ホストアドレス]	宛先とする WebDAV サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します (半角 253 文字以内)。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例: 「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ファイルパス]	[ホストアドレス] に入力した WebDAV サーバーの保存先フォルダー名を入力します (142 バイト以内)。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例: 「scan」 WebDAV フォルダ内内のフォルダーを指定したいときは、フォルダー名の間に [/] を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 入力例: 「scan/document」
[ユーザー ID]	[ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します (全角/半角 64 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー ID] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。
[SSL 設定]	お使いの環境で SSL を利用しているときは、[ON] を選びます。初期値は [OFF] です。
[プロキシ]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[ON] を選びます。初期値は [OFF] です。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [80] です。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.1.5 ボックス宛先を登録する

Web Connection から、ボックス宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [ボックス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[ボックス番号]	[ボックス一覧より選択] をクリックして、保存先のボックスを一覧から選びます。ボックス番号が分かっている場合には、ボックス番号を直接入力することもできます。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.1.6 ファクス宛先を登録する

Web Connection から、ファクス宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [ファクス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[ファクス番号]	宛先とするファクス番号を入力します (半角数字 38 桁以内、記号は #、*、-、T、P、E を使用可能)。 <ul style="list-style-type: none"> 構内回線 (PBX) 環境でお使いの場合は、先頭に「E-」を入力すると、登録されている外線番号が自動的に挿入されます。 構内回線 (PBX) 環境でお使いの場合は、外線番号のあとに「P」を入力すると、より確実なダイヤルができます。 ダイヤル回線でプッシュ信号を発信したいときは、「T」を入力します。 「-」は、ダイヤルの区切り記号として入力します。ダイヤルには影響ありません。

設定	説明
[ファクス番号の再入力]	確認のために、宛先とするファクス番号を再入力します。 管理者モードの [ファクス設定] - [機能設定] - [機能 ON/OFF 設定] - [宛先 2 度入力機能 (登録)] を [ON] に設定した場合に表示されます。
[通信設定]	必要に応じて、[表示] をクリックし、登録する宛先に対するファクスの送信のしかたを指定します。ここで指定した内容は、ファクスの送信前に変更できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [V34 OFF] : V.34 とは、スーパー G3 のファクス通信時に使われる通信方式です。相手機または本機が内線交換機経由で回線に接続されている場合など、回線の状況によってはスーパー G3 モードで通信できない場合があります。このような場合は V.34 を OFF に設定して送信することをおすすめします。 • [ECM OFF] : ECM モードは、ITU-T (国際電気通信連合) で定められた誤り再送方式の通信です。ECM モードをもつファクス間の通信では、送信したデータに誤りが無いことを確認しながら通信するため、電話回線の雑音などによる画像の乱れを防止できます。ECM を OFF に設定して送信することで、通信時間を短縮できます。ただし、画像の乱れや通信エラーの原因となる場合がありますので、状況に応じて設定を変更してください。 • [海外通信] : 通信状態の悪い地域にファクスを送る場合などにチェックをつけます。伝送速度を落として送信します。 • [宛先確認送信] : 宛先確認送信機能を使うときにチェックをつけます。ファクス送信に指定したファクス番号と、送信先のファクス番号情報 (CSI) とを照合し、一致した場合にファクスを送信します。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。



参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。

15.1.7 インターネットファクス宛先を登録する

Web Connection から、インターネットファクス宛先を登録/編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピューターから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [インターネットファクス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字/全角 12 文字以内)。 登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字/全角ひらがな 12 文字以内)。 宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 • よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[E-mail 宛先]	宛先とするメールアドレスを入力します (スペースを除く半角 320 文字以内)。
[ファクス解像度]	宛先の装置が受信できる、原稿データの解像度を選びます。
[用紙サイズ]	宛先の装置が受信できる、原稿データの用紙サイズを選びます。
[圧縮形式]	宛先の装置が受信できる、原稿データの圧縮形式を選びます。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.1.8 IP アドレスファクス宛先を登録する

Web Connection から、IP アドレスファクス宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピューターから簡単に行えます。

管理者モードの [宛先登録] - [短縮宛先] - [新規登録] をクリックします。[機能から選択] で [IP アドレスファクス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録 No.]	宛先の登録番号です。[空き番号を使う] は、空いている小さい数字から自動的に登録されます。番号を指定したいときは、[直接入力する] を選び、番号を入力します。
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[アドレス形式]	宛先とする装置のアドレスの形式を選びます。初期値は [IP アドレス] です。
[宛先]	[アドレス形式] で [IP アドレス] または [ホスト名] を選んだ場合は、宛先とする装置の IP アドレスまたはホスト名を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> IP アドレス (IPv4) の入力例: 「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例: 「fe80::220:6bff:fe10:2f16」 ホスト名を入力例: 「host.example.com」 (ドメイン名も含めて入力します。) [アドレス形式] で [E-mail アドレス] を選んだ場合は、宛先とする装置のメールアドレスを入力します。メールアドレスで指定する場合は、「ipaddrfax@」のあとに、送信先の IP アドレスまたはホスト名を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 以降を IP アドレスで入力する場合は、IP アドレスを "[]" で挟みます。 <ul style="list-style-type: none"> IP アドレス (IPv4) の入力例: 「ipaddrfax@ [192.168.1.1]」 以降を IP アドレス (IPv6) で入力する場合は、最初の括弧 "[" のあとに、"IPv6:" を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> IP アドレス (IPv6) の入力例: 「ipaddrfax@ [IPv6:fe80::220:6bff:fe10:2f16]」 以降をホスト名で入力する場合は、"[]" は不要です。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名を入力例: 「ipaddrfax@host.example.com」 ホスト名またはメールアドレスを入力するには、本機で DNS サーバーを指定する必要があります。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。初期値は [25] です。
[相手先機種]	宛先とする装置がカラーに対応しているかどうかを選びます。初期値は [モノクロ機] です。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。



参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。

15.2 グループ宛先を登録する

Web Connection から、グループ宛先を登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

グループ宛先は、複数の短縮宛先をまとめて、ひとつのグループ宛先として管理できます。

管理者モードの [宛先登録] - [グループ宛先] - [新規登録] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	宛先の名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。 登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します (半角 24 文字／全角ひらがな 12 文字以内)。 宛先を登録名順に並替えることができます。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] を選びます。 よく送信する宛先は、あわせて [常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけます。[常用 (よく使う宛先)] にチェックをつけると、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[ファクス / スキャン宛先]	[宛先一覧より選択] をクリックして、登録するグループに含めたい宛先を選びます。 1つのグループには、500 件まで宛先を登録できます。また、メールアドレスとファクス番号など、種類の異なる宛先を1つのグループとして登録することもできます。
[登録宛先確認]	必要に応じて、[宛先確認] をクリックして、登録した短縮宛先を確認できます。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3 プログラム宛先を登録する

15.3.1 E-mail 宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、E-mail 宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [E-mail 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とする E-mail 宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。宛先とする E-mail 宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。証明書情報を登録する場合は、[証明書情報の登録] にチェックをつけます。宛先は 1 件まで指定できます。
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.2 FTP 宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、FTP 宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [FTP 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とする FTP 宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。宛先とする FTP 宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ホストアドレス] : [ホスト名入力時はチェックを ON にする] にチェックをつけて、宛先とする FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します (半角 253 文字以内)。 ・ [ファイルパス] : [ホストアドレス] に入力した FTP サーバーの保存先フォルダー名を入力します (127 バイト以内)。 ・ [ユーザー ID] : 宛先の FTP サーバーで認証が必要なときは、ログインできるユーザー名を入力します (全角／半角 64 文字以内)。 ・ [パスワード] : [ユーザー ID] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 ・ [anonymous] : 宛先の FTP サーバーで認証が不要なときは、[ON] を選びます。 ・ [PASV モード] : お使いの環境で PASV モードを利用しているときは、[ON] を選びます。 ・ [プロキシ] : お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[ON] を選びます。 ・ [ポート番号] : 必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。 宛先は 1 件まで指定できます。

設定	説明
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。 詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.3 SMB 宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、SMB 宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [SMB 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字 / 全角 12 文字以内)。 登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とする SMB 宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。 宛先とする SMB 宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ホストアドレス] : [ホスト名入力時はチェックを ON にする] にチェックをつけて、宛先とするコンピューター名 (ホスト名) または IP アドレスを入力します (半角 253 文字以内)。 ・ [ファイルパス] : [ホストアドレス] に入力したコンピューターの共有フォルダー名を入力します (255 バイト以内)。一般的には、共有名と呼ばれています。 ・ [ユーザー ID] : [ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します (全角 / 半角 64 文字以内)。 ・ [パスワード] : [ユーザー ID] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 宛先は 1 件まで指定できます。
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。 詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。 詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.4 WebDAV 宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、WebDAV 宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [WebDAV 宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とする WebDAV 宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。 宛先とする WebDAV 宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ホストアドレス] : [ホスト名入力時はチェックを ON にする] にチェックをつけて、宛先とする WebDAV サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します (半角 253 文字以内)。 ・ [ファイルパス] : [ホストアドレス] に入力した WebDAV サーバーの保存先フォルダー名を入力します (142 バイト以内)。 ・ [ユーザー ID] : [ファイルパス] に入力したフォルダーのアクセス権限を持つユーザー名を入力します (全角／半角 64 文字以内)。 ・ [パスワード] : [ユーザー ID] に入力したユーザーのパスワードを入力します (" を除く半角 64 文字以内)。 ・ [SSL 設定] : お使いの環境で SSL を利用しているときは、[ON] を選びます。 ・ [プロキシ] : お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[ON] を選びます。 ・ [ポート番号] : 必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。 宛先は 1 件まで指定できます。
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.5 ボックス宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、ボックス宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [ボックス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とするボックス宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。 宛先とするボックスを直接指定したいときは、[宛先を直接指定する] を選びます。[ボックス一覧より選択] をクリックして、宛先とするボックスを一覧から選びます。 宛先は 1 件まで指定できます。
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.6 ファクス宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、ファクス宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [ファクス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とするファクス宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。宛先とするファクス宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ファクス番号]：宛先とするファクス番号を入力します。 ・ [通信設定]：必要に応じて、登録する宛先に対するファクスの送信のしかたを指定します。 宛先は 1 件まで指定できます。
[基本設定] / [応用設定]	ファクス送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。



参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。

15.3.7 インターネットファクス宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、インターネットファクス宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [インターネットファクス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とするインターネットファクス宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。宛先とするインターネットファクス宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [E-mail 宛先]：宛先とするメールアドレスを入力します。 ・ [ファクス解像度] / [用紙サイズ] / [圧縮形式]：宛先の装置が受信できる原稿データの仕様をそれぞれ選びます。 宛先は 1 件まで指定できます。
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.8 IP アドレスファクス宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、IP アドレスファクス宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [IP アドレスファクス宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	<p>[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とする IP アドレスファクス宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録した短縮宛先を確認できます。</p> <p>宛先とする IP アドレスファクス宛先を直接入力したいときは、[宛先を直接指定する] を選んで入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [アドレス形式]：宛先とする装置のアドレスの形式を選びます。 ・ [宛先]：宛先とする装置の IP アドレスまたはホスト名を入力します。宛先はメールアドレスで指定することもできます。メールアドレスで指定する場合は、「ipaddrfax@」のあとに、送信先の IP アドレスまたはホスト名を入力します。 @以降を IP アドレスで入力する場合は、IP アドレスを "[]" で挟みます。 IP アドレス (IPv4) の入力例：「ipaddrfax@ [192.168.1.1]」 IP アドレス (IPv6) で入力する場合は、最初の括弧 "[" のあとに、"IPv6:" を入力します。 IP アドレス (IPv6) の入力例：「ipaddrfax@ [IPv6:fe80::220:6bff:fe10:2f16]」@以降をホスト名で入力する場合は、"[]" は不要です。 ホスト名の入力例：「ipaddrfax@host.example.com」 ・ [ポート番号]：必要に応じて、ポート番号を変更します。通常はそのままお使いいただけます。 ・ [相手先機種]：宛先とする装置がカラーに対応しているかどうかを選びます。
[基本設定] / [応用設定]	スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

参考

- この機能を使うには、オプションの FAX キットが必要です。

15.3.9 グループ宛先のプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

プログラムには、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。

ここでは、グループ宛先のプログラムについて説明します。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [グループ宛先] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[宛先情報]	[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とするグループ宛先を一覧から選びます。[宛先確認] をクリックすると、登録したグループ宛先を確認できます。
[基本設定] / [応用設定]	ファクス／スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.10 宛先なしのプログラムを登録する

Web Connection から、プログラムを登録／編集できます。タッチパネルでは面倒な文字入力も、コンピュータから簡単に行えます。

ここでは、宛先を指定しないプログラムについて説明します。プログラムに、ファクス／スキャン送信のオプション設定だけを登録しておくことで、いろいろな宛先に対して、使い回すことができます。

管理者モードの [宛先登録] - [プログラム宛先] - [登録] をクリックします。[機能から選択] で [宛先指定なし] を選び、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字／全角 12 文字以内)。登録するプログラムに、わかりやすい名前をつけます。
[基本設定] / [応用設定]	ファクス／スキャン送信のオプション設定をします。詳しくは、15-16 ページをごらんください。
[参照許可設定]	必要に応じて、この宛先の参照を制限します。詳しくは、12-28 ページをごらんください。

15.3.11 ファクス/スキャン送信のオプション設定をする

プログラムには、宛先の情報と、ファクス/スキャン送信のオプション設定を組合わせて登録できます。ここでは、オプション設定の内容を説明します。

[基本設定] では、ファクス/スキャン送信の基本的なオプション設定をします。

設定	説明
[ファクス解像度] / [スキャン解像度]	原稿を読み込むときの解像度を選びます。初期値は [精細] / [200 × 200] です。
[ファイル形式]	読込んだ原稿データを保存するファイル形式を選びます。ファイル形式は、PDF や TIFF、JPEG のほかに、XPS や PPTX、DOCX、XLSX などの形式も選べます。重要な原稿は、ファイルを暗号化できる PDF 形式をおすすめします。初期値は [PDF] です。
[アウトライン PDF]	[ファイル形式] で [コンパクト PDF] を選んだときに設定できます。[する] を選ぶと、原稿の文字部分を抽出して、ベクター画像に変換します。初期値は [しない] です。
[PDF の Web 最適化]	PDF 処理機能が有効の場合に、[ファイル形式] で [PDF] または [コンパクト PDF] を選んだときに設定できます。[する] を選ぶと、Web ブラウザーで最初のページが早く読み込まれるように、PDF ファイルを最適化します。初期値は [しない] です。
[PDF/A]	PDF 処理機能が有効の場合に、[ファイル形式] で [PDF] または [コンパクト PDF] を選んだときに設定できます。[PDF/A-1a] または [PDF/A-1b] を選ぶと、PDF/A に準拠した PDF を作成できます。初期値は [しない] です。
[サーチャブル PDF]	サーチャブル PDF 機能が有効の場合に、[ファイル形式] で [PDF] または [コンパクト PDF] を選んだときに設定できます。[する] を選ぶと、OCR の文字認識技術を利用して、テキスト検索が可能な PDF (サーチャブル PDF) を作成します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [言語選択] : OCR 処理に使う言語を選びます。正しく文字認識を行うには、原稿で使われている言語を選びます。 ・ [回転補正] : OCR 処理により検出した文字の向きに合わせて、ページごとに自動で回転補正を行うときには、[補正する] を選びます。 ・ [文書名自動抽出] : OCR の文字認識結果から、文書の名前としてふさわしい文字列を自動的に抽出して、文書名として設定するときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[OCR(文字認識)]	サーチャブル PDF 機能が有効の場合に、[ファイル形式] で [PPTX]、[DOCX]、[XLSX] を選んだときに設定できます。[する] を選ぶと、OCR の文字認識技術を利用して、テキスト検索が可能なファイルを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [言語選択] : OCR 処理に使う言語を選びます。正しく文字認識を行うには、原稿で使われている言語を選びます。 ・ [回転補正] : OCR 処理により検出した文字の向きに合わせて、ページごとに自動で回転補正を行うときには、[補正する] を選びます。 ・ [出力形式] : OCR 処理により検出した文字を使用して、どのようにファイルを作成するかを選びます。[ファイル形式] で選んだファイル形式によって、選べる出力形式が異なります。 初期値は [しない] です。
[ファイル名]	必要に応じて、読込んだ原稿データのファイル名を変更します。
[ページ設定]	原稿が複数ページあるときに、ファイルにするページ単位を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ページ括] : すべてのページを 1 つのファイルに変換します。ただし、[ファイル形式] で [JPEG] を選んだときは、[ページ括] を選べません。 ・ [ページ分割] : 指定したページ枚数を 1 ファイルとして変換します。 初期値は [ページ括] です。
[E-mail 件名]	[E-mail 件名一覧] をクリックするか、E-mail の件名に使う定型文を選びます。[指定なし] の場合は、初期値として設定されている件名が挿入されます。必要に応じて、送信前に変更することもできます。初期値は [指定なし] です。

設定	説明
[E-mail 本文]	[E-mail 本文一覧] をクリックするか、E-mail の本文に使う定型文を選びます。[指定なし] の場合は、初期値として設定されている本文が挿入されます。必要に応じて、送信前に変更することもできます。初期値は [指定なし] です。
[ファイル添付設定]	宛先がメールアドレスで、[ページ設定] を [ページ分割] に設定したとき、添付のしかたを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [全ファイル一括添付]：すべてのファイルを 1 通の E-mail に添付します。 ・ [1 メール 1 ファイル]：ファイルごとに 1 通の E-mail を送信します。 初期値は [全ファイル一括添付] です。
[片面 / 両面]	原稿の表と裏を自動で読みかどうかを選びます。原稿の最初のページだけ片面を読み込み、残りのページを両面で読み込んだりすることもできます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [片面]：原稿の片面を読み込みます。 ・ [両面]：原稿の両面を読み込みます。 ・ [表紙 + 両面]：原稿の最初のページだけ片面を読み込み、残りのページは両面を読み込みます。 初期値は [片面] です。
[原稿画質]	原稿の記載内容に適した設定を選んで、最適な画質で読み込みます。初期値は [文字 / 写真 (印刷写真)] です。
[カラー]	原稿を読み込むときのカラーモードを選びます。カラーモードには、原稿の色に合わせて読み込む [自動] のほか、[フルカラー]、[グレースケール]、[白黒 2 値] があります。初期値は [自動] です。
[連続読み設定]	原稿の枚数が多く、1 度のセットで ADF に載せきれないときでも、原稿を数回に分けて読んで 1 つのジョブとして扱う場合は、[する] を選びます。ADF と原稿ガラスとを交互に使い分けて、原稿を読み込むこともできます。初期値は [しない] です。
[濃度]	原稿を読み込む濃度 (こく、うすく) を調整します。初期値は [0 (ふつう)] です。
[下地調整]	新聞紙や再生紙など、下地に色が付いている原稿や、裏面が透けてしまう薄い原稿などを読み込む場合の、下地の濃度を調整します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [裏写り除去]：裏面が透けて見える両面の原稿など、裏写りさせたくないときに選びます。 ・ [黄ばみ除去]：地図など、下地に色が付いている原稿を読み込むときに選びます。 初期値は [裏写り除去] です。
[読み込みサイズ]	読み込む原稿のサイズを選びます。初期値は [自動] です。

[応用設定] では、ファクス/スキャン送信の応用的なオプション設定ができます。

設定	説明
[E-mail 通知]	SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、ボックス保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに通知します。[宛先一覧より選択] をクリックして、宛先とする E-mail 宛先を一覧から選びます。E-mail 宛先を直接入力することもできます。初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[タイマー通信]	ファクス通信を開始する時刻を指定して送信する場合は、[ON] を選びます。あわせて、通信を開始する時刻を指定します。初期値は [OFF] です。
[パスワード送信]	パスワードでファクスの通信相手を制限している (閉域受信機能を設定している) 送信先に対して、パスワードをつけて送信する場合は、[ON] を選びます。あわせて、パスワードを入力します。初期値は [OFF] です。
[F コード]	F コード送信する場合は、[有効] を選びます。あわせて、[SUB アドレス] と [パスワード] を入力します。初期値は [無効] です。
[原稿セット方向]	両面原稿を読み込む場合などに、読み込んだあとの上下が正しくなるように原稿をセットした向きを設定できます。初期値は [上向き] です。

設定	説明
[両面とじ方向]	原稿の両面を読み込むとき、原稿のとじ位置を選びます。 初期値は [自動] です。
[特殊原稿]	特殊な原稿を読み込む場合の、原稿の種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [同幅混載] / [異幅混載]：サイズの異なる複数ページの原稿でも、ADF を使うことで、原稿ごとにサイズを検知して読み込みます。 ・ [Z 折れ原稿]：折ぐせのついた原稿でも、原稿サイズを正確に検知します。 ・ [長尺原稿]：原稿ガラスにセットできない、定形サイズ (A3 または 11 × 17) よりも通紙方向が長い原稿は、ADF にセットします。あらかじめ原稿のサイズを入力しなくても、ADF が自動で検出します。 初期値は [指定なし] です。
[読取り時の白紙原稿除去]	白紙ページが含まれている原稿を読み込むときに、白紙ページを読み込み対象から除くかどうかを選びます。 初期値は [しない] です。
[薄紙原稿]	普通紙よりも薄い原稿を読み込むときに、ADF の原稿を搬送する速度を遅くして、薄い紙を巻きみにくくします。 初期値は [OFF] です。
[汚れ軽減モード]	[する] を選ぶと、ADF で原稿を読み込むときに、スリットガラスのゴミを除去しながら読み込みます。 初期値は [しない] です。
[ブック原稿]	本やカタログなどの見開き原稿を、左右のページそれぞれに分割したり、見開きのままだを 1 ページとして読み込んだりする場合にチェックをつけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [読取り方法]：見開き原稿の読み込み方法を [見開き]、[分割]、[表力バー]、[表 + 裏力バー] から選びます。 ・ [折り目消し]：原稿の厚みによって原稿力バーをきちんと閉じられないときに生じる中央部分の影を消去します。 ・ [とじ方向]：[読取り方法] で [分割]、[表力バー]、[表 + 裏力バー] を選んだときに、読み込む見開き原稿の開き方向を選びます。左側でとじてある原稿は [左開き]、右側でとじてある原稿は [右開き] を選びます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[枠消し]	原稿の周囲 4 辺を、指定した幅だけ消去します。辺ごとに異なる幅を指定して消去できます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[文字・画像合成 (日付 / 時刻)]	指定したページに原稿を読み込んだ日時を印字する場合にチェックをつけます。印字するページや位置、表記のしかたを選ぶことができます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[文字・画像合成 (ページ)]	すべてのページ番号や章番号を印字する場合にチェックをつけます。印字する位置や表記のしかたを選ぶことができます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[文字・画像合成 (ヘッダー / フッター)]	指定したページの上下の余白部分に、文字や日時などを印字する場合にチェックをつけます。あらかじめ登録した内容から選びます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[文字・画像合成 (スタンプ)]	先頭ページまたはすべてのページに、「回覧」や「複製厳禁」などの文字を印字する場合にチェックをつけます。 印字する文字は、登録済みの定型のスタンプや、任意で登録したスタンプから選べます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[スタンプ合成方法]	日付 / 時刻、ページ、ヘッダー / フッター、スタンプを合成する場合に、テキストとして合成するか、画像として合成するかを選びます。 初期値は [画像] です。

15.4 一時プログラムを登録する

一時プログラムは、宛先の情報と、ファクス／スキャン送信のオプション設定を組合わせて、本機に一時的に登録する機能です。

一時プログラムに登録した宛先に送信したり、本機の電源を OFF にしたりすると、一時プログラムは削除されます。

管理者モードの [宛先登録] - [一時プログラム] を選び、各項目を設定します。一時プログラムの登録内容は、プログラム宛先の登録内容と同じです。

参考

- 一時プログラムには、[証明書情報の登録] と [参照許可設定] を設定できません。

15.5 E-mail の件名と本文を登録する

件名を登録する

E-mail やインターネットファクスの送信時に使う E-mail の件名を登録できます。件名は 10 件まで登録して、送信前に選べます。

管理者モードの [宛先登録] - [E-mail 件名] - [編集] で、[E-mail 件名] に登録する件名を入力します (・を除く半角 64 文字/全角 32 文字以内)。

本文を登録する

E-mail やインターネットファクスの送信時に使う E-mail の本文を登録できます。本文は 10 件まで登録して、送信前に選べます。

管理者モードの [宛先登録] - [E-mail 本文] - [編集] で、[E-mail 本文] に登録する本文を入力します (・を除く半角 256 文字/全角 128 文字以内)。

15.6 宛先の Prefix と Suffix を登録する

メールアドレスの接頭辞 (Prefix) と接尾辞 (Suffix) を登録します。

所属が同じメールアドレスが多い場合は、@ マーク以降の文字列 (ドメイン名) を、接尾辞 (Suffix) に登録します。登録することで、メールアドレスを入力する際に、登録したドメイン名を呼出して、入力を補完します。また、ドメイン名の長いメールアドレスなど、ドメイン名を登録して入力ミスを防ぎます。

Prefix/Suffix は、8 件まで登録できます。

管理者モードの [宛先登録] - [Prefix/Suffix] - [編集] で、接頭辞 (Prefix) と接尾辞 (Suffix) を登録します。

設定	説明
[Prefix]	接頭辞 (Prefix) を入力します (スペースを除く半角 20 文字以内)。
[Suffix]	接尾辞 (Suffix) を入力します (スペースを除く半角 64 文字以内)。

参考

- 複数の Prefix/Suffix を登録する場合は、よく使う Prefix/Suffix を初期値に設定すると便利です。初期値に設定したい Prefix/Suffix の [初期値設定] を選択します。

15.7 ヘッダー／フッターに追加する情報を登録する

原稿を印刷するときに、ここで登録したヘッダー／フッターを呼出して、ページの上部または下部に印字できます。ヘッダー／フッターは、20 件まで登録できます。

管理者モードの [環境設定] - [スタンプ設定] - [ヘッダー／フッター登録] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[登録名称]	登録するヘッダー／フッターの名前を入力します (半角 16 文字／全角 8 文字以内)。 ヘッダー／フッターを選ぶときに、わかりやすい名前をつけます。
[カラー]	必要に応じて、印字する文字の色を選びます。
[印字ページ]	ヘッダー／フッターを印字するページの範囲を選びます。
[サイズ]	必要に応じて、印字する文字のサイズを選びます。
[文字種類]	必要に応じて、印字する文字の、フォントの種類を選びます。
[日時 / 時刻設定]	[ヘッダー] または [フッター] の [日時設定] を [印刷する] に設定した場合の、日時の表示形式を選びます。
[配布番号指定]	[ヘッダー] または [フッター] の [配布番号] を [印刷する] に設定した場合の、配布番号の表示内容を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [文字列] : 配布番号に付加して印字する文字を入力します (半角 20 文字／全角 10 文字以内)。 ・ [出力形式] : 桁数を選びます。 ・ [開始番号指定] : 配布番号を開始する番号を指定します。
[ヘッダー] / [フッター]	ヘッダー／フッターに印字する項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ヘッダー文字列] / [フッター文字列] : 印字する文字を入力します (半角 40 文字／全角 20 文字以内)。 ・ [日時設定]、[配布番号]、[ジョブ番号]、[シリアル番号] (本機のエンジンシリアル番号)、[ユーザー名 / 部門名] を印字するかどうかを選びます。

参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

15.8 フォント/マクロデータを追加する

フォントやマクロを本機に追加します。また、登録したフォントやマクロを削除します。

管理者モードの [メンテナンス] - [フォント/マクロ編集] - [新規登録] をクリックし、次の設定をします。

設定	説明
[種類]	登録するフォント/マクロの種類を選びます。
[ID]	フォント/マクロの ID を入力します。 PS フォントや OOXML フォント、PS マクロを選択した場合には、設定できません。 すでに使われている ID を入力した場合は、上書き登録されます。
[保存場所]	フォント/マクロの保存場所を選びます。 OOXML フォントは、ハードディスク (HDD) に保存してください。

参考

- ダイレクトプリント機能で OOXML ファイルを印刷するときに、本機に内蔵されていない任意の OOXML フォントを使用したい場合は、OOXML フォントを本機に追加できます。追加できる OOXML フォントの種類は、TrueType と OpenType です。ダイレクトプリント機能について詳しくは、「ユーザズガイド [プリント機能] / [プリンタードライバーを使わずに印刷する]」をごらんください。

15.9 任意の用紙名と用紙種類を登録する

任意の用紙名と用紙種類をカスタム用紙として登録します。用紙種類の選択肢にカスタム用紙を追加できます。

- 1 管理者モードの [環境設定] - [ユーザー用紙名設定] で、[ユーザー用紙名設定] を [使用する] に設定します。
- 2 管理者モードの [環境設定] - [ユーザー用紙名設定] - [ユーザー用紙名編集] - [編集] で、次の設定をします。

設定	説明
[用紙名称]	用紙の名前を入力します (半角 12 文字 / 全角 6 文字以内)。 登録する用紙に、わかりやすい名前をつけます。
[用紙種類]	用紙の種類を選びます。 初期値は [普通紙] です。

15.10 データ管理ユーティリティを使う

15.10.1 データ管理ユーティリティについて

データ管理ユーティリティは、ネットワーク上のコンピューターから、本機のコピープロテクトデータ、スタンプデータ、フォント/マクロデータを管理できるツールです。

データ管理ユーティリティは、Web Connection のログイン画面から起動します。

参考

- 複数のデータ管理ユーティリティは、同時に起動できません。

データ管理ユーティリティは、以下の手順で使います。

- 1 Web Connection のログイン画面で、起動するデータ管理ユーティリティを選びます。

ログイン

パブリックユーザー

登録ユーザー

ユーザー名

パスワード

管理者

表示速度 ▶

ユーザー補助 ▶

言語 ▼

日本語 (Japanese) ▼

データ管理ユーティリティの起動 ▼

- コピープロテクトデータの管理
- スタンプデータの管理
- フォント/マクロデータの管理

ログイン

- [コピープロテクトデータの管理] について詳しくは、15-26 ページをごらんください。
- [スタンプデータの管理] について詳しくは、15-27 ページをごらんください。
- [フォント/マクロデータの管理] について詳しくは、15-29 ページをごらんください。

- 2 本機の管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

- 管理者権限が付与されている登録ユーザーがログインする場合は、[登録ユーザー] を選び、ユーザー名とパスワードを入力します。

データ管理ユーティリティが起動します。

15.10.2 コピープロテクトデータを管理する

コピープロテクトは、すべてのページに「コピー」や「社外秘」などの文字を、目立たない文字として印字する機能です。

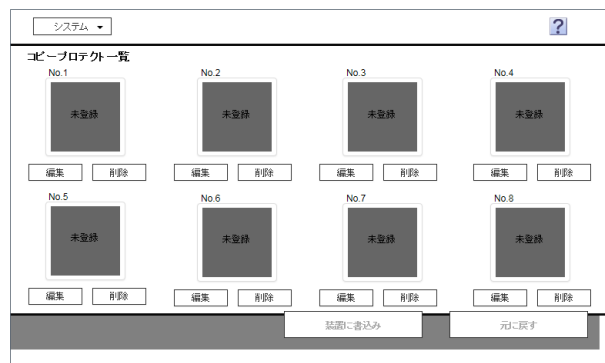
データ管理ユーティリティを使って、コピープロテクトデータを登録／編集できます。コピープロテクトデータは、8個まで管理できます。

- ✓ この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

1 Web Connection のログイン画面で、[コピープロテクトデータの管理] を起動します。
本機に登録されているコピープロテクトデータの一覧が表示されます。

2 コピープロテクトデータを登録／編集する場合は、[編集] をクリックします。

→ [削除] をクリックすると、登録されているコピープロテクトデータを削除します。[装置に書込み] をクリックして本機に書込むまでは、コピープロテクトデータは削除されません。



3 コピープロテクトデータを登録／編集し、[OK] をクリックします。
→ プレビューで結果を確認しながら編集できます。

設定	説明
[コピープロテクト名]	コピープロテクトの名前を入力します (半角 16 文字 / 全角 8 文字以内)。
[コピープロテクト文字列]	印字する文字を入力します (半角 32 文字 / 全角 16 文字以内)。
[フォント名]	印字する文字の、フォントの種類を選びます。
[フォントサイズ]	印字する文字のサイズを選びます。
[ボールド]	印字する文字をボールド (太字) で表示するときは、チェックをつけます。
[イタリック]	印字する文字をイタリック (斜体) で表示するときは、チェックをつけます。
[回転角度]	印字する文字の回転角度を指定します。1 度刻みで調整できます。

- 4 [装置に書込み] をクリックします。
- [元に戻す] をクリックすると、編集前の状態に戻ります。
登録／編集したコピープロテクトデータを本機に書込みます。

参考

[システム] をクリックすると、システムメニューを表示します。システムメニューでは、次のことができます。

- [オートプロテクト設定]：操作しないまま一定時間経過したときに、コンピューターの画面をロックします。画面をロックするまでの時間を変更できます。
- [エクスポート]：本機に登録されているデータを、ファイルとしてコンピューターに保存します。
- [SMB にエクスポート]：本機に登録されているデータを、ファイルとして SMB 共有フォルダーに保存します。
- [インポート]：ファイルに保存されたデータを本機に書込みます。
- [終了]：ユーティリティを終了します。

15.10.3 スタンプデータを管理する

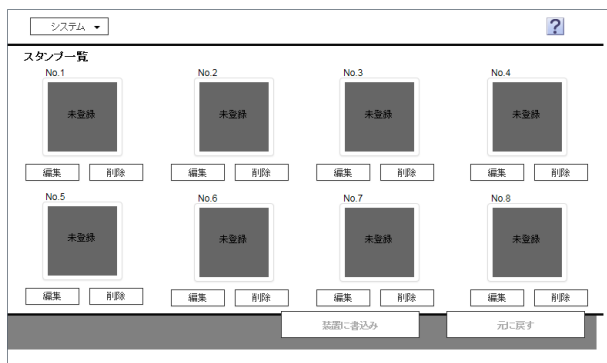
データ管理ユーティリティを使って、スタンプデータを登録／編集できます。スタンプデータは、8 個まで管理できます。出荷時に本機に登録されているスタンプデータは、編集または削除できません。

- ✓ この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

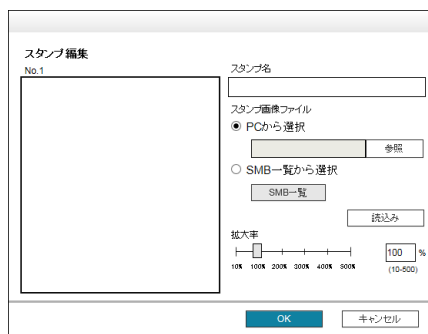
- 1 Web Connection のログイン画面で、[スタンプデータの管理] を起動します。
本機に登録されているスタンプデータの一覧が表示されます。

- 2 スタンプデータを登録／編集する場合は、[編集] をクリックします。

- [削除] をクリックすると、登録されているスタンプデータを削除します。[装置に書込み] をクリックして本機に書込むまでは、スタンプデータは削除されません。



- 3 スタンプデータを登録／編集し、[OK] をクリックします。
 → プレビューで結果を確認しながら編集できます。



設定	説明
[スタンプ名]	スタンプの名前を入力します (半角 16 文字／全角 8 文字以内)。
[スタンプ画像ファイル]	スタンプとして使う画像ファイル (BMP) の場所を指定します。 ・ [PC から選択] : [参照] をクリックし、お使いのコンピューターからインポートする画像ファイルを選びます。 ・ [SMB 一覧から選択] : [SMB 一覧] をクリックし、SMB 共有フォルダーからインポートする画像ファイルを選びます。
[読み込み]	スタンプ画像を拡大して表示します。画像の細かい部分を、確認できます。
[拡大率]	スタンプ画像の倍率を指定します。1%刻みで調整できます。

- 4 [装置に書き込み] をクリックします。
 → [元に戻す] をクリックすると、編集前の状態に戻ります。
 登録／編集したスタンプデータを本機に書き込みます。

参考

[システム] をクリックすると、システムメニューを表示します。システムメニューでは、次のことができます。

- [オートプロテクト設定] : 操作しないまま一定時間経過したときに、コンピューターの画面をロックします。画面をロックするまでの時間を変更できます。
- [エクスポート] : 本機に登録されているデータを、ファイルとしてコンピューターに保存します。
- [SMB にエクスポート] : 本機に登録されているデータを、ファイルとして SMB 共有フォルダーに保存します。
- [インポート] : ファイルに保存されたデータを本機に書き込みます。
- [終了] : ユーティリティを終了します。

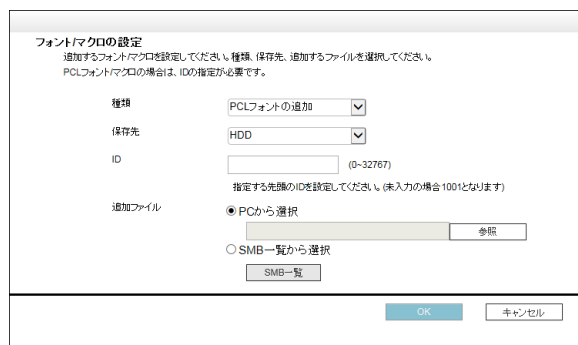
15.10.4 フォント/マクロデータを管理する

データ管理ユーティリティを使って、フォント/マクロデータを追加/削除できます。

- 1 Web Connection のログイン画面で、[フォント/マクロデータの管理] を起動します。
本機に登録されているフォント/マクロデータの一覧が表示されます。
- 2 フォント/マクロデータの追加する場合は、[追加] をクリックします。
→ [フォント/マクロ] でフォント/マクロの一覧表示を切換えます。
→ [削除] をクリックすると、選んだフォント/マクロデータを削除できます。



- 3 追加するフォント/マクロを指定し、[OK] をクリックします。



設定	説明
[種類]	追加するフォント/マクロの種類を選びます。
[保存先]	フォント/マクロを保存する場所を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [HDD]：本機のハードディスクに保存します。 ・ [RAM]：本機のメモリーに保存します。本体の電源を OFF にすると、保存したフォント/マクロは消去されます。 継続して使うフォント/マクロは、ハードディスク (HDD) に保存してください。 OOXML フォントは、ハードディスク (HDD) に保存してください。
[ID]	PCL フォントまたは PCL マクロの場合は、フォント/マクロの ID 番号を入力します。 入力しなかった場合は、登録可能な ID 番号を、本機が自動的に割当てます。
[追加ファイル]	追加するフォントファイルまたはマクロファイルを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [PC から選択]：[参照] をクリックし、お使いのコンピューターから追加するファイルを選びます。 ・ [SMB 一覧から選択]：[SMB 一覧] をクリックし、SMB 共有フォルダーから追加するファイルを選びます。

**参考**

[システム] をクリックすると、システムメニューを表示します。システムメニューでは、次のことができます。

- [オートプロテクト設定]：操作しないまま一定時間経過したときに、コンピューターの画面をロックします。画面をロックするまでの時間を変更できます。
- [終了]：ユーティリティを終了します。

16

外部のアプリケーションと連携
する

16 外部のアプリケーションと連携する

16.1 Web ブラウザー機能を使用する

16.1.1 Web ブラウザーの基本設定をする

Web ブラウザー機能を有効にする

本機で Web ブラウザー機能を有効にすると、本機のタッチパネルで Web ブラウザーを使って、Web 上のコンテンツの表示や印刷、ファイルのアップロードなどができます。

Web ブラウザー機能を有効にするとき、本機が自動的にインターネット上のライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) へ接続し、ライセンスの登録を行います。あらかじめ本機がインターネットに接続できることを確認してください。

管理者モードの [ネットワーク] - [Web ブラウザー設定] - [Web ブラウザー設定] で、[Web ブラウザー] を [有効] に設定します。[有効] に設定すると、本機が自動的に再起動します。



参考

- 本機がライセンス管理サーバーへ接続できない場合、手動でライセンスの登録を行う必要があります。Web ブラウザー機能を有効にする前に、コンピューターからライセンス管理サーバーの Web サイトへアクセスして、Web ブラウザー機能を有効にするために必要なライセンス情報を取得してください。取得方法について詳しくは、「ユーザズガイド [拡張機能] / [Web ブラウザー機能を使う]」をごらんください。

Web ブラウザーでのファイル操作を制限する

Web ブラウザーで表示するサイトで、ファイルのアップロードおよびダウンロードを許可するかどうかを設定します。

管理者モードの [ネットワーク] - [Web ブラウザー設定] - [ファイル操作許可設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[アップロード]	Web ブラウザーで表示しているサイトへ、本機でスキャンしたデータをアップロードすることを許可するかどうかを選びます。指定したサイトに限りアップロードできるようにする場合は、[許可 URL のみ] を選び、ファイルのアップロードを許可するサイトの URL を入力します (半角 256 文字以内)。初期値は [使用する] です。
[ダウンロード]	Web ブラウザーで表示しているサイトから、ファイルを本機へダウンロードすることを許可するかどうかを選びます。指定したサイトに限りダウンロードできるようにする場合は、[許可 URL のみ] を選び、ファイルのダウンロードを許可するサイトの URL を入力します (半角 256 文字以内)。初期値は [使用する] です。

16.1.2 Web ブラウザーの使用環境を設定する

コンテンツ表示の設定をする

Web ブラウザーのコンテンツ表示に関する設定をします。

管理者モードの [環境設定] - [Web ブラウザー設定] - [全般] で、次の設定をします。

設定	説明
[ホームページ]	ホームページとして登録するページの URL を入力します。
[スタートアップ]	Web ブラウザーを起動したときに表示するページを選びます。初期値は [ホームページ] です。
[Web データを全て削除]	本機に保存されている Web データ (Cookie/Web Storage/Indexed Database) を、すべて削除します。
[Web データを削除するタイミング]	Web データ (Cookie/Web Storage/Indexed Database) を本機から削除するタイミングを選びます。初期値は [削除しない] です。
[認証情報を全て削除]	本機に保存されている認証情報を、すべて削除します。
[認証情報を削除するタイミング]	認証情報を本機から削除するタイミングを選びます。初期値は [削除しない] です。
[フォント]	フォント指定のないコンテンツを表示するときに使うフォントを選びます。

ブックマークを管理する

ブックマークの追加や編集を行います。変更した内容を本機に反映するには、[装置に書込み] をクリックする必要があります。

管理者モードの [環境設定] - [Web ブラウザー設定] - [ブックマーク] で、次の設定をします。

設定	説明
[新規登録]	ブックマークをリストに追加します。登録番号を指定して、タイトルと URL を入力します。
[全て削除]	ブックマークをすべてリストから削除します。
[編集]	ブックマークの登録内容を変更します。
[削除]	ブックマークをリストから削除します。
[装置に書込み]	リストで追加、編集、削除した内容を本機に反映します。
[元に戻す]	リストの変更内容を元に戻します。

履歴を管理する

Web ブラウザーの履歴を削除します。変更した内容を本機に反映するには、[装置に書込み] をクリックする必要があります。

管理者モードの [環境設定] - [Web ブラウザー設定] - [履歴] で、次の設定をします。

設定	説明
[全て削除]	履歴をすべてリストから削除します。
[番号から検索]	登録番号の範囲を選んで [Go] をクリックすると、リストに表示される項目が切替ります。
[削除]	履歴をリストから削除します。
[装置に書込み]	リストで削除した内容を本機に反映します。
[元に戻す]	リストの変更内容を元に戻します。

Web ブラウザーの動作を設定する

Web ブラウザーの動作に関する設定をします。

管理者モードの [環境設定] - [Web ブラウザー設定] - [詳細設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[キャッシュ]	<p>必要に応じて、Web ブラウザーのキャッシュ機能の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [キャッシュを利用する]：キャッシュ機能を使うときは、[利用する] を選びます。初期値は [利用する] です。 ・ [キャッシュを削除]：本機に保存されているキャッシュデータを、すべて削除します。 ・ [キャッシュを削除するタイミング]：キャッシュデータを削除するタイミングを選びます。初期値は [削除しない] です。
[Web データ]	[Storage を有効にする]：Web Storage を使うときは、[有効] を選びます。初期値は [有効] です。
[JavaScript]	[JavaScript を有効にする]：ページに埋込まれている JavaScript を有効にするときは、[有効] を選びます。初期値は [有効] です。
[ソフトウェアキーボード]	[ソフトウェアキーボードを優先して使用する]：本機に外付けキーボードが装着されていても、画面に表示されるキーボードを使って文字を入力するときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用する] です。
[プロキシ設定]	<p>プロキシの使用に関する設定をします。</p> <p>プロキシを使う場合は、プロキシサーバーのアドレスやポート番号を入力します。</p> <p>プロキシ認証を使用する場合は、プロキシサーバーにログインするためのアカウント名を入力します。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。</p> <p>[プロキシを使用しないドメイン] で、プロキシ経由で接続を行わないドメインを指定できます。ドメインの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。</p>
[セキュリティ設定]	<p>SSL 通信に関する設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [使用する SSL バージョン]：最高のセキュリティレベルと、最低のセキュリティレベルの、それぞれで使用する SSL/TLS のバージョンを選びます。 ・ [SHA1 証明書の SSL 通信]：SHA-1 アルゴリズムで署名された証明書の使用を許可するかどうかを選びます。[警告を表示して許可する] を選ぶと、SHA-1 証明書で SSL 通信を行うときに、許可するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

16.2 TCP Socket を介して連携する

概要

TCP Socket を介して本機と通信するアプリケーションソフトウェアを利用する場合に、本機の TCP Socket 設定をします。

本機の証明書を登録していれば、本機とアプリケーションソフトウェアとの通信を、SSL で暗号化することもできます。

TCP Socket を介して連携する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 TCP Socket の基本設定をする
→ 設定のしかたは、16-5 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
本機とアプリケーションソフトウェアとの通信を SSL で暗号化したい (外部の認証サーバーを利用したユーザー認証を導入している場合は、設定が必要です)	16-5 ページ

TCP Socket の基本設定をする

TCP Socket を有効にします。

管理者モードの [ネットワーク] - [TCP Socket 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[TCP Socket]	TCP Socket を使うときは、チェックをつけます。 初期値は [ON] (チェックあり) です。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [59158] です。

参考

- Web Connection および操作パネルで、複数のポート番号を同時に変更して [OK] をクリックすると、ポート番号重複エラーが表示されることがあります。ポート番号重複エラーが表示された場合は、一度にまとめて変更せず、1 つずつ変更してください。

SSL で通信する

本機とアプリケーションソフトウェアとの TCP Socket を介した通信を、SSL で暗号化します。

- 1 本機の証明書を登録し、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。
- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [TCP Socket 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS 使用]	SSL で通信するときは、チェックをつけます。 初期値は [OFF] (チェックなし) です。
[ポート番号 (SSL/TLS)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [59159] です。

16.3 OpenAPI を介して連携する

概要

OpenAPI を介して本機と通信するアプリケーションソフトウェアを利用する場合に、本機の OpenAPI 設定をします。

本機の証明書を登録していれば、本機がサーバーとしてクライアントと通信するとき、通信を SSL で暗号化できます。

また、本機の SSDP(Simple Service Discovery Protocol) 機能を利用することで、OpenAPI 連携アプリケーションソフトウェアとのスムーズな連携ができます。

OpenAPI を介して連携する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 OpenAPI の基本設定をする
→ 設定のしかたは、16-6 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
プロキシサーバーを経由してアプリケーションソフトウェアと通信したい	16-7 ページ
本機とアプリケーションソフトウェアとの通信を SSL で暗号化したい	16-8 ページ

OpenAPI の基本設定をする

SSDP 機能を有効にします。必要に応じて、OpenAPI で通信するポート番号を変更します。

- 1 管理者モードの [ネットワーク] - [SSDP 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSDP]	OpenAPI を使うときは、[使用する] を選びます。 次のことができるようになります。 ・ 本機で OpenAPI サービスが起動したことを通知する ・ OpenAPI サービス検索に対して応答を返す 初期値は [使用する] です。
[マルチキャスト TTL 設定]	必要に応じて、SSDP マルチキャストパケットの、TTL(Time To Live) を変更します。 ルーターなどを 1 回経由するたびに値が 1 減少し、値が 0 になるとパケットが破棄されます。 初期値は [1] です。

- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [OpenAPI 設定] で、必要に応じて、ポート番号を変更します (初期値: [50001])。
→ 通常はそのままお使いいただけます。

参考

- **Web Connection** および**操作パネル**で、複数のポート番号を同時に変更して [OK] をクリックすると、ポート番号重複エラーが表示されることがあります。ポート番号重複エラーが表示された場合は、一度にまとめて変更せず、1 つずつ変更してください。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを使っている場合に、プロキシサーバー経由でアプリケーションと通信するように設定できます。

プロキシサーバーを使うには、本機にプロキシサーバーの情報を登録します。あわせて、プロキシサーバーへの接続に関する設定を行います。

管理者モードの [ネットワーク] - [OpenAPI 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none">・ ホスト名の入力例：「host.example.com」・ IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」・ IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [8080] です。
[プロキシサーバーポート番号 (HTTPS)]	必要に応じて、HTTPS プロトコルを使用する場合の、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [8080] です。
[プロキシサーバーポート番号 (FTP)]	必要に応じて、FTP プロトコルを使用する場合の、プロキシサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [21] です。
[ユーザー名]	プロキシサーバーへログインするためのユーザー名を入力します (半角 63 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 63 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

SSL で通信する

本機とアプリケーションソフトウェアとの OpenAPI を介した通信を、SSL で暗号化します。

- 1 本機の証明書を登録し、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。
- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [OpenAPI 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[SSL/TLS 使用]	SSL で通信するときは、[SSL 通信のみ可] または [SSL/ 非 SSL 通信可] を選びます。 初期値は [SSL 通信のみ可] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、SSL 通信用のポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。 初期値は [50003] です。
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。 それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[クライアント証明書]	本機に接続するクライアントに対して、証明書を要求するかどうかを選びます。 初期値は [要求しない] です。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。 初期値は [確認する] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。 初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。 チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。 初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。 証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 ・ OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス ・ CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。

参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

16.4 本機の FTP サーバー機能を使って連携する

概要

本機の FTP サーバー機能を使って通信するアプリケーションソフトウェアを利用する場合に、本機の FTP サーバー機能を設定します。

本機の FTP サーバー機能を使って連携する場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 FTP サーバー設定をする
→ 設定のしかたは、16-9 ページをごらんください。

FTP サーバー設定をする

FTP サーバー機能を有効にします。あわせて、セキュリティに関する設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [FTP 設定] - [FTP サーバー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[FTP サーバー]	FTP サーバー機能を使うときは、[使用する] に設定します。 初期値は [使用しない] です。
[受信拒否するコマンド]	本機の FTP サーバー機能を使うときに、FTP クライアントからの受信を拒否するコマンドを選びます。 FTP クライアントから本機に対して、PORT/EPRT コマンドまたは PASV/EPSV コマンドが送信されたとき、エラーを返すように設定できます。 初期値は [禁止しない] です。
[PORT コマンドセキュリティ強化設定]	FTP バウンスアタックに対する、本機のセキュリティを有効にするかどうかを選びます。[受信拒否するコマンド] で [PORT/EPRT] を選んだ場合は設定できません。 FTP クライアントから PORT/EPRT コマンドが送信されてきたときに、次の条件を両方を満たす場合だけ、データコネクションを確立します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1024 未満のポート番号が指定されていない ・ コマンドで指定された IP アドレスが、制御コネクションを確立したときに指定された IP アドレスと同じ 初期値は [有効] です。

16.5 本機の WebDAV サーバー機能を使って連携する

概要

本機の WebDAV サーバー機能を使って通信するアプリケーションソフトウェアを利用する場合に、本機の WebDAV サーバー機能を設定します。

本機の証明書を登録していれば、本機とアプリケーションソフトウェアとの通信を、SSL で暗号化することもできます。

本機の WebDAV サーバー機能を使って連携させる場合は、次の手順で設定してください。

- 1 本機の IP アドレスの設定など、ネットワークに接続して使うための設定をする
→ 設定のしかたは、2-2 ページをごらんください。
- 2 WebDAV サーバー設定をする
→ 設定のしかたは、16-10 ページをごらんください。
- 3 お使いの環境に応じて、次のオプション設定をする

目的	参照先
本機とアプリケーションソフトウェアとの通信を SSL で暗号化したい	16-10 ページ

WebDAV サーバー設定をする

WebDAV サーバー機能を有効にします。あわせて、WebDAV サーバーへのアクセス権を設定します。管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV サーバー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[WebDAV 設定]	WebDAV サーバー機能を使うときは、[使用する] に設定します。初期値は [使用する] です。
[アクセス権設定]	本機の WebDAV サーバーへのアクセスを制限するパスワードを設定します (" を除く半角 64 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。[パスワードの初期化] をクリックすると、設定したパスワードを初期化します (初期値: sysadm)。初期値は [OFF] (チェックなし) です。

SSL で通信する

本機と WebDAV クライアントアプリケーションとの間の通信を、SSL で暗号化します。

- 1 本機の証明書を登録し、SSL 通信を有効にします。
→ 詳しくは、13-2 ページをごらんください。
- 2 管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [WebDAV サーバー設定] で、[SSL 設定] を [SSL 通信のみ可] または [SSL/非 SSL 通信可] に設定します (初期値: [非 SSL 通信のみ可])。

16.6 分散スキャンサーバーと連携する

概要

本機を、分散スキャン管理 (Distributed Scan Management) を使ったシステムに統合できます。分散スキャン管理は、対応しているスキャナー機器を組織のドキュメントワークフローに簡単に統合する、Windows Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2/Server 2016 の機能です。

本機で読込んだ原稿データを、分散スキャンサーバーへ送信します。ファイルを受取ったスキャンサーバーは、登録済みのスキャンプロセスに従って、SMB フォルダや E-mail アドレス、Microsoft Office SharePoint Server への送信を行います。

✓ あらかじめ、本機を Active Directory のドメインに参加させる必要があります。

1 WS スキャンを有効にし、かつ SSL 通信の設定をする

→ 設定のしかたは、16-11 ページをごらんください。

2 分散スキャン管理を有効にする

→ 設定のしかたは、16-11 ページをごらんください。

分散スキャン管理の使用環境を設定する

WS スキャンを有効にし、かつ SSL 通信の設定をします。

1 管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [スキャナー設定] で、[スキャン機能] を [使用する] に設定します (初期値: [使用しない])。

2 管理者モードの [ネットワーク] - [DPWS 設定] - [DPWS 共通設定] で、[SSL 設定] を [使用する] に設定します (初期値: [使用しない])。

分散スキャン管理を有効にする

Distributed Scan 機能を有効にします。

管理者モードの [ネットワーク] - [Distributed Scan 機能設定] で、[Distributed Scan 機能設定] を [使用する] に設定します (初期値: [使用しない])。

16.7 本機にコンテンツをアップロードできるように設定する

本機で IWS (Internal Web Server) 機能を有効にすると、本機に Web ページコンテンツを転送し、Web サーバーとして利用できます。

Web ページコンテンツは WebDAV を使って本機に転送します。お使いの環境に合わせて、静的なコンテンツのほか、スクリプトを使った動的なコンテンツも利用できます。

管理者モードの [ネットワーク] - [IWS 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[IWS 設定]	IWS 機能を使うときは、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[ポート番号 (Web サーバー)]	必要に応じて、本機にアップロードした Web ページコンテンツにアクセスするときのポート番号を変更します。初期値は [8090] です。
[ポート番号 (ツール接続用)]	必要に応じて、本機の動的コンテンツが使用するポート番号を変更します。初期値は [8091] です。
[アプリのネットワーク接続]	本機にアップロードした Web ページコンテンツがスクリプトなどの動的コンテンツを含む場合に、動的コンテンツの外部へのアクセスを許可するかどうかを選びます。初期値は [許可する] です。
[アプリ間通信]	他の装置にインストールされた IWS アプリケーションや、Android/iOS 端末のアプリケーションなどの外部アプリケーションから、本機にインストールされた IWS アプリケーションを操作するための設定をします。
[アプリ間通信許可設定]	外部アプリケーションが本機の IWS アプリケーションを操作することを許可するかどうかを選びます。初期値は [許可しない] です。
[認証]	外部アプリケーションが本機の IWS アプリを操作するときの、本機にログインするための認証情報を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [ユーザー名]：ユーザー名を入力します (半角 8 文字以内)。 ・ [パスワード]：[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 8 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。
[ログイン情報通知設定]	本機の IWS アプリケーションが、他の装置の IWS アプリケーションを操作するとき、本機を使用しているユーザーのユーザー名とパスワードを通知するかどうかを選びます。初期値は [許可する] です。



参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が有効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効/無効に関わらず利用できます。

16.8 遠隔診断システムと連携する

16.8.1 遠隔診断に使うプロキシサーバーを登録する

本機の状態を遠隔から診断するサービスをご利用の場合に、プロキシサーバーを使うときは、本機にプロキシサーバーの情報を登録します。

遠隔診断に使うプロキシサーバーは、WebDAV 送信に使うプロキシサーバーと兼用できます。また、別のプロキシサーバーを使うこともできます。

管理者モードの [ネットワーク] - [WebDAV 設定] - [遠隔診断用プロキシ設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[遠隔診断用プロキシ設定]	遠隔診断のためにプロキシサーバーを使う場合は、[使用する] を選びます。初期値は [使用しない] です。
[プロキシ設定]	遠隔診断に使うプロキシサーバーの設定をします。
[WebDAV クライアント設定と連動]	遠隔診断用のプロキシサーバーとして、WebDAV 送信に使うプロキシサーバーを兼用するかどうかを選びます。別のプロキシサーバーを遠隔診断用として使う場合は、[しない] を選び、プロキシサーバーの情報を入力します。初期値は [する] です。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を入力します。
[ユーザー名]	プロキシサーバーにログインするための、ユーザー名を入力します (半角 63 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 63 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

16.8.2 本機のカウンターの取得を許可する

本機の状態を遠隔から診断するサービスをご利用の場合は、本機で管理しているカウンター情報を、遠隔診断システムから取得できます。

管理者モードの [ユーザー認証 / 部門管理] - [遠隔カウンター管理] で [遠隔カウンター管理] を [許可する] に設定します (初期値：[許可しない])。



参考

- 遠隔診断システムを利用し、かつ本機でユーザー認証や部門管理を導入している場合に設定できます。

16.8.3 本機の使用状況を送信する

本機の状態を遠隔から診断するサービスをご利用の場合は、本機の使用状況を遠隔診断システムに送信します。

管理者モードの [メンテナンス] - [管理者発信] で、[管理者発信] をクリックします。



参考

- 遠隔診断システムを利用している場合に設定できます。

16.8.4 本機の設定情報の読み書きを許可する

本機の状態を遠隔から診断するサービスをご利用の場合は、本機に登録されている宛先（短縮宛先、グループ宛先、プログラム宛先）や、認証情報（ユーザー認証、部門認証）を、遠隔診断システムからインポートまたはエクスポートできます。

管理者モードの [メンテナンス] - [遠隔診断設定] で、[ユーザーデータの書換え] を [許可する] に設定します。

16.9 ファクスサーバーと連携する

概要

ファクスサーバーをお使いの場合に、アプリケーションの登録と、アプリケーションを使うためのサーバーの設定ができます。

E-mail 形式で通信するファクスサーバーをお使いの場合は、送信先の番号に Prefix と Suffix を自動的に付加するように設定できます。



参考

本機の操作パネルから、登録したアプリケーションの表示や操作が行えます。ただし、次の条件を満たす必要があります。

- オプションの FAX キットが装着されていない
- インターネットファクス機能が無効である

アプリケーションを登録する

アプリケーションの登録と、アプリケーションを使うためのサーバーの設定をします。

✓ オプションの FAX キット を装着している場合は設定できません。

- 1 管理者モードの [宛先登録] - [アプリケーション登録] で、アプリケーションを登録したい場所を選び、[登録 / 編集] をクリックします。
- 2 [テンプレートを使用する] を選び、使うテンプレートを選びます。
 - テンプレートを使わない場合は、[テンプレートを使用しない] を選びます。
 - 本機で使えるテンプレートについて詳しくは、16-16 ページをごらんください。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 アプリケーションの登録とサーバーの設定をして、[次へ] をクリックします。

設定	説明
[アプリケーション設定]	登録するアプリケーションの設定をします。
[アプリケーション名]	アプリケーションの名前を入力します (半角 16 文字 / 全角 8 文字以内)。
[サーバー設定]	アプリケーションを使うためのサーバーの設定をします。
[ホストアドレス]	アプリケーションを使うサーバーの、ホストアドレスを入力します (半角 15 文字以内、記号は . のみ使用可能)。
[ファイルパス]	送信先のファイルパスを入力します (半角 96 文字以内)。
[ユーザー ID]	サーバーにログインするための、ユーザー ID を入力します (半角 47 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー ID] で入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 31 文字以内)。
[anonymous]	宛先のサーバーで認証が不要なときは、[ON] を選びます。
[PASV モード]	お使いの環境で PASV モードを利用しているときは、[ON] を選びます。
[プロキシ]	お使いの環境でプロキシサーバーを利用しているときは、[ON] を選びます。
[ポート番号]	必要に応じて、ポート番号を変更します。 通常はそのままお使いいただけます。

- 5 設定したい拡張項目を選び、[編集] をクリックします。

6 選んだ拡張項目の [機能設定] 画面で、次の設定をします。

設定	説明
[ボタン名]	ボタンの名前を入力します (半角 16 文字 / 全角 8 文字以内)。
[機能名]	機能名を選びます。
[パネル上の表示]	タッチパネルに表示する名前を入力します (半角 32 文字 / 全角 16 文字以内)。
[表示方法]	タッチパネルでの表示方法を選びます。
[初期値]	初期値を入力します。入力できる文字数は、[機能名] で選んだ機能によって異なります。 初期値を隠したい場合は、[**** 表示する] にチェックをつけます。
[キーボードタイプ]	タッチパネルに表示するときのキーボードタイプを選びます。
[オプション設定]	[機能名] で選んだ機能に応じて、オプション設定をします。

7 [OK] をクリックします。

アプリケーション設定テンプレート

Web Connection では、次のようなテンプレートが用意されています。テンプレートには、アプリケーションごとに異なる拡張項目が、あらかじめ設定されています。

[WalkUp Fax]

[No.]	[ボタン名]	[機能名]	[キーボードタイプ]	[初期値]	[オプション設定]
1	[Sender Name (CS)]	[Name]	[ASCII]	[Walkup]	設定なし
2	[Fax Number (CS)]	[Personal Fax Number]	[ASCII]	設定なし	設定なし
3	[TEL Number (CS)]	[Personal Voice Number]	[ASCII]	設定なし	設定なし
4	[Subject]	[Subject]	[ASCII]	設定なし	設定なし
5	[Billing Code 1]	[BillingCode1]	[ASCII]	設定なし	設定なし
6	[Billing Code 2]	[BillingCode2]	[ASCII]	設定なし	設定なし

[Fax with Account]

[No.]	[ボタン名]	[機能名]	[キーボードタイプ]	[初期値]	[オプション設定]
1	[User ID]	[ID]	[ASCII]	[Walkup]	設定なし
2	[Sender Name (CS)]	[Name]	[ASCII]	設定なし	設定なし
3	[Password]	[Password]	[ASCII]	設定なし	設定なし
4	[Password Auth#]	[Authentication]	設定なし	設定なし	[なし]
5	[Subject]	[Subject]	[ASCII]	設定なし	設定なし
6	[Billing Code 1]	[BillingCode1]	[ASCII]	設定なし	設定なし
7	[Billing Code 2]	[BillingCode2]	[ASCII]	設定なし	設定なし
8	[Cover Sheet Type]	[CoverSheet]	設定なし	設定なし	設定なし
9	[Hold For Preview]	[Hold For Preview]	設定なし	設定なし	[いいえ]

[Secure Docs]

[No.]	[ボタン名]	[機能名]	[キーボードタイプ]	[初期値]	[オプション設定]
1	[User ID]	[ID]	[ASCII]	[Walkup]	設定なし
2	[Password]	[Password]	[ASCII]	設定なし	設定なし
3	[Password Auth#]	[Authentication]	設定なし	設定なし	[なし]
4	[Delivery Method]	[Delivery]	設定なし	設定なし	[保護あり]
5	[Subject]	[Subject]	[ASCII]	設定なし	設定なし
6	[Billing Code 1]	[BillingCode1]	[ASCII]	設定なし	設定なし
7	[Billing Code 2]	[BillingCode2]	[ASCII]	設定なし	設定なし
8	[Cover Sheet Type]	[CoverSheet]	設定なし	設定なし	設定なし
9	[Document PW]	[Document Password]	[ASCII]	設定なし	設定なし

[Certified Delivery]

[No.]	[ボタン名]	[機能名]	[キーボードタイプ]	[初期値]	[オプション設定]
1	[User ID]	[ID]	[ASCII]	[Walkup]	設定なし
2	[Password]	[Password]	[ASCII]	設定なし	設定なし
3	[Password Auth#]	[Authentication]	設定なし	設定なし	[なし]
4	[Delivery Method]	[Delivery]	設定なし	設定なし	[認証あり]
5	[Subject]	[Subject]	[ASCII]	設定なし	設定なし
6	[Billing Code 1]	[BillingCode1]	[ASCII]	設定なし	設定なし
7	[Billing Code 2]	[BillingCode2]	[ASCII]	設定なし	設定なし
8	[Cover Sheet Type]	[CoverSheet]	設定なし	設定なし	設定なし
9	[Document PW]	[Document Password]	[ASCII]	設定なし	設定なし

E-mail 形式で通信するファクスサーバーと連携する

E-mail 形式で通信するファクスサーバーを使う場合は、送信先の番号に、接頭辞 (Prefix) と接尾辞 (Suffix) を自動的に付加できます。

管理者モードの [環境設定] - [システム連携設定] - [システム連携設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Prefix/Suffix 自動設定]	送信先の番号に Prefix と Suffix を、自動的に付加するかどうかを選びます。 [する] を選ぶと、管理者モードの [宛先登録] - [Prefix/Suffix] で、登録 No.1 に設定された文字を自動的に付加します。 初期値は [しない] です。

[Prefix/Suffix 自動設定] を [する] に設定すると、次の制限がかかります。

- 管理者モードの [ファクス設定] を設定できません ([宛先確認表示機能]、[宛先 2 度入力機能 (送信)]、[宛先 2 度入力機能 (登録)]、[PC-FAX 送信許可設定]、[PIN コード表示マスク機能] を除く)。
- 管理者モードの [宛先登録] - [アプリケーション登録] を設定できません。
- 掲示板ボックス、ポーリング送信ボックス、強制メモリー受信ボックス、再送信ボックスを使えません。
- 掲示板ボックス、中継ボックスを登録できません。
- 親展受信ができません。
- [オフフック] キーを使えません。
- ファクス/スキャンモードの [ファクス発信元設定]、[回線設定]、[クイックメモリー送信]、[ポーリング送信]、[ポーリング受信]、[タイマー通信]、[パスワード送信]、[F コード送信] は設定できません。
- ネットワークファクス機能を使えません。
- ファクスの送信先を短縮宛先に登録するとき、[外線]、[トーン]、[ポーズ]、[-]、[回線設定] を指定できません。
- **操作パネル**のジョブ表示画面から、通信管理レポート、送信管理レポート、受信管理レポートを印刷できません。
- ジョブの履歴には、Prefix と Suffix を除いた番号を表示します。
- 送信ジョブの種類は、E-mail として扱われます。
- カウンターの、ファクス送信枚数は更新されません。

16.10 本機の操作パネルを遠隔操作する

概要

本機の**操作パネル**を、ネットワーク上のコンピューターから遠隔操作できます。

操作パネルを操作するには、次の3つの方法があります。

操作方法	説明
専用ソフトウェアを使う	本機の 操作パネル の画面情報を定期的に収集する専用ソフトウェアを使って、ネットワーク上のコンピューターから、本機の 操作パネル を操作する方法です。 遠隔操作用の専用ソフトウェアとサーバーを用意する必要がありますが、ルーターを越えた場所にあるコンピューターからでも、遠隔操作を行えます。
本機に直接アクセスする	ネットワーク上の別のコンピューターから本機に直接アクセスして、Webブラウザを使って本機の 操作パネル を操作する方法です。 遠隔操作用の専用ソフトウェアは必要ありませんが、遠隔操作をするコンピューターから、本機にアクセスできる必要があります。
Android/iOS 端末を使う	Android/iOS 端末を使って、本機の 操作パネル を遠隔から操作する方法です。

専用ソフトウェアを使って操作する

専用ソフトウェアを使って、ネットワーク上のコンピューターから、本機の**操作パネル**を操作するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [リモートパネル設定] - [リモートパネルクライアント設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[クライアント設定]	専用ソフトウェアを使って本機の 操作パネル を遠隔操作するときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[サーバーアドレス]	専用ソフトウェアをインストールしたサーバーのアドレスを入力します。 次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例：「host.example.com」 IP アドレス (IPv4) の入力例：「192.168.1.1」 IP アドレス (IPv6) の入力例：「fe80::220:6bff:fe10:2f16」
[ポート番号]	必要に応じて、専用ソフトウェアをインストールしたサーバーのポート番号を変更します。 初期値は [443] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、専用ソフトウェアをインストールしたサーバーとの通信のタイムアウト時間を変更します。 初期値は [60] 秒です。

設定	説明
[証明書検証強度設定]	証明書の検証を行う場合は、検証する項目を選びます。それぞれの項目で [確認する] を選ぶと、その項目について、証明書の検証を行います。
[有効期限]	証明書が有効期限内かどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[CN]	証明書の CN(Common Name) が、サーバーのアドレスと一致しているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[鍵使用法]	証明書の発行者が承認した使用用途に沿って、証明書が使われているかどうかを確認します。初期値は [確認しない] です。
[チェーン]	証明書のチェーン (証明書のパス) に問題がないかどうかを確認します。チェーンの確認は、本機で管理している外部証明書を参照して行います。初期値は [確認しない] です。
[失効確認]	証明書が失効していないかどうかを確認します。証明書の失効確認は、以下の順番で行います。 <ul style="list-style-type: none"> OCSP(Online Certificate Status Protocol) サービス CRL(Certificate Revocation List) 初期値は [確認しない] です。
[WebDAV クライアント設定と連動]	専用ソフトウェアをインストールしたサーバーのプロキシサーバーとして、WebDAV 送信に使うプロキシサーバーを兼用するかどうかを選びます。別のプロキシサーバーを使う場合は、[しない] を選んで、プロキシサーバーの情報を入力します。初期値は [する] です。
[プロキシ設定]	[WebDAV クライアント設定と連動] で [しない] を選んだ場合は、プロキシサーバーを登録します。
[プロキシサーバーアドレス]	プロキシサーバーのアドレスを入力します。次のいずれかのフォーマットで入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト名の入力例: [host.example.com] IP アドレス (IPv4) の入力例: [192.168.1.1] IP アドレス (IPv6) の入力例: [fe80::220:6bff:fe10:2f16]
[プロキシサーバーポート番号]	必要に応じて、プロキシサーバーのポート番号を変更します。初期値は [8080] です。
[ユーザー名]	プロキシサーバーにログインするための、ユーザー名を入力します (半角 63 文字以内)。
[パスワード]	[ユーザー名] に入力したユーザー名のパスワードを入力します (半角 63 文字以内)。パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、新しいパスワードを入力します。

参照

管理者モードの [セキュリティ] - [証明書検証設定] で、証明書の検証を行うかどうかを設定します。初期設定では、証明書の検証を行います。詳しくは、13-8 ページをごらんください。

本機に直接アクセスして操作する

ネットワーク上の別のコンピューターから本機に直接アクセスして、Web ブラウザーを使って本機の操作パネルを操作するための設定をします。

管理者モードの [ネットワーク] - [リモートパネル設定] - [リモートパネルサーバー設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[サーバー設定]	本機に直接アクセスして、本機の操作パネルを遠隔操作するときは、[使用する] を選びます。 初期値は [使用しない] です。
[ポート番号 (SSL)]	必要に応じて、本機の操作パネルを操作するときを使うポート番号を変更します。 初期値は [50443] です。
[パスワード認証]	本機に接続するときに、パスワードの入力を要求するかどうかを選びます。 パスワードの入力を要求する場合は、[する] を選び、パスワードを入力します (半角 64 文字以内)。 パスワードを入力 (変更) する場合は、[パスワードを変更する] にチェックをつけてから、現在のパスワードと新しいパスワードを入力します。
[IP 許可設定]	アクセスを許可する IP アドレスを指定する場合は、[有効] を選びます。あわせて、アクセスを許可する IP アドレスの範囲を入力します。 1 つの IP アドレスからのアクセスを許可する場合は、片方だけの入力でも設定できます。 ・ 入力例: 「192.168.1.1」 初期値は [無効] です。

Android/iOS 端末を使って操作する

Android/iOS 端末から Remote Access を使って本機に接続し、操作パネルの画像データや操作内容をやり取りするときの通信に関する設定をします。



参考

- Android/iOS 端末から Remote Access を使って本機の操作パネルを遠隔操作するには、管理者モードの [ネットワーク] - [TCP Socket 設定] で、[TCP Socket] が [ON] (チェックあり) に設定されている必要があります (初期値: [ON] (チェックあり))。
- NFC を使って Remote Access で本機に接続する場合は、あらかじめ本機で NFC を使用できるように設定してください。詳しくは、16-24 ページをごらんください。
- Bluetooth LE を使って Remote Access で本機に接続する場合は、あらかじめ本機で Bluetooth LE を使用できるように設定してください。詳しくは、16-26 ページをごらんください。

管理者モードの [ネットワーク] - [Remote Access 設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[Remote Access 設定]	Android/iOS 端末からの Remote Access を使った接続を許可するかどうかを選びます。 初期値は [使用しない] です。
[接続方式]	本機の操作パネルの画像データは、圧縮してから Android/iOS 端末に送信されます。 画像を圧縮するときに、Android/iOS 端末での操作速度を優先するか、Android/iOS 端末画面の画質を優先するかを選びます。 初期値は [標準] です。
[接続タイムアウト]	必要に応じて、本機と Android/iOS 端末との通信のタイムアウト時間を設定します。 初期値は [20] 分です。
[操作切換え画面]	Android/iOS 端末で遠隔操作中に本機の操作パネルがタッチされたとき、Android/iOS 端末の画面に遠隔操作を継続するかどうかを確認する画面を表示するかどうかを選びます。 初期値は [表示する] です。
[接続許可画面]	本機の操作パネルを操作中に Android/iOS 端末から遠隔操作の接続要求があったときに、本機の操作パネルに接続を許可するかどうかを確認する画面を表示するかどうかを選びます。 初期値は [表示する] です。

設定	説明
[Keyboard Link]	<p>Android/iOS 端末の文字入力アプリケーションからの文字入力を許可するかしないかを選びます。</p> <p>文字入力は、キーボード入力、手書き文字入力、音声入力に対応しています。[許可する] を選ぶと、パネル操作中に文字入力を行うとき、Android/iOS 端末の文字入力アプリケーションを使用して入力できます。</p> <p>Keyboard Link で本機へ接続するときの接続方法を制限する場合は、[近接無線のみ許可] を選び、許可する接続方法を選びます。NFC による接続を許可した場合は、Android 端末をモバイルタッチエリアにかざすことにより接続できます。Bluetooth LE による接続を許可した場合は、Remote Access で Bluetooth LE 装置を検索して本機を選択することにより接続できます。</p> <p>初期値は [許可しない] です。</p>
[Address Link]	<p>Android/iOS 端末のアドレス帳からメールアドレスを取得することを許可するかどうかを選びます。</p> <p>[許可する] を選ぶと、Android/iOS 端末のアドレス帳からアドレスを選択して、ファクスやスキャンの直接入力の宛先にセットすることができます。</p> <p>Address Link で本機へ接続するときの接続方法を制限する場合は、[近接無線のみ許可] を選び、許可する接続方法を選びます。NFC による接続を許可した場合は、Android 端末をモバイルタッチエリアにかざすことにより接続できます。Bluetooth LE による接続を許可した場合は、Remote Access で Bluetooth LE 装置を検索して本機を選択することにより接続できます。</p> <p>初期値は [許可しない] です。</p>
[Panel Link スキャン]	<p>本機でスキャンした画像を Android 端末のストレージまたは Google ドライブへ送信する機能を許可するかどうかを選びます。</p> <p>iOS 端末をお使いの場合、送信先として iOS 端末のストレージを指定することはできません。送信先には Google ドライブを指定してください。</p> <p>初期値は [許可しない] です。</p>
[優先起動モード]	<p>Android 端末を操作パネルのモバイルタッチエリアにかざして Remote Access を起動するときに、どのモードで起動するかを選びます。</p> <p>初期値は [Panel Link] です。</p>

16.11 QRコードを使って Android/iOS 端末と本機を連携させる

本機のネットワーク情報を QR コードで表示する

本機のネットワーク情報を、QR コードとして本機の画面に表示できるように設定します。あわせて、QR コードに含める本機のネットワーク情報を設定します。

QR コードを使用することで、Android/iOS 端末で QR コードを読み取るだけで、簡単に本機と Android/iOS 端末をペアリングできます。

管理者モードの [環境設定] - [システム連携設定] - [モバイル連携設定] - [簡単接続設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[QR コード表示設定]	QR コードを本機の画面に表示するかどうかを選びます。初期値は [表示しない] です。
[無線接続使用設定]	Android/iOS 端末と本機の無線接続の方法を設定するかどうかを選びます。ここで設定した情報は、QR コードに反映されます。初期値は [設定しない] です。
[無線接続方法]	Android/iOS 端末と本機の無線接続の方法を設定します。[個別設定] を選ぶと、詳細な設定ができます。初期値は [本体無線設定に従う] です。
[個別設定]	[無線接続方法] で [個別設定] を選んだ場合に、Android/iOS 端末と本機の無線接続の方法を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [SSID]: アクセスポイントの SSID を入力します (32 バイト以内)。 • [認証・暗号化アルゴリズム]: 認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。初期値は [認証・暗号化なし] です。 • [WEP キー]: [認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP] を選んだ場合に設定します。[WEP キー入力方式] で入力方式を選んでから、[WEP キーを変更する] にチェックをつけ、WEP キーを入力します。 • [パスフレーズ]: [認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP]、[802.1X]、[認証・暗号化なし] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に設定します。[パスフレーズ入力方式] で入力方式を選んでから、[パスフレーズを変更する] にチェックをつけ、パスフレーズを入力します。

参照

QR コードへのショートカットをトップメニューに配置できます。設定方法について詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [タッチパネルの操作と主な画面の紹介]」をごらんください。

参考

- 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] が [無線のみ] に設定されている場合は、本機の無線設定の設定値を適用してペアリングを行うため、[無線接続使用設定] は表示されません。

QRコードを読み取って Android/iOS 端末とペアリングする

本機の画面に表示される QR コードを Android/iOS 端末で読み取って、ペアリングする方法を説明します。

- ✓ Android/iOS 端末に PageScope Mobile をインストールしてください。
- ✓ 本機で QR コードを表示できるように設定してください。詳しくは、16-23 ページをごらんください。

- 1 本機の操作パネルで [設定メニュー] - [装置情報表示] - [QR コード表示] をタップします。
 - トップメニューに QR コードへのショートカットを配置している場合は、トップメニューから表示することもできます。
- 2 PageScope Mobile を起動し、QR コードを読み取ります。
 - 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile のヘルプをごらんください。本機とのペアリングが開始され、PageScope Mobile に本機が登録されます。

16.12 NFC を使って Android 端末と本機を連携させる

本機のネットワーク情報を NFC 経由で設定する

NFC は、携帯情報端末などで数十センチ程度の機器間の接続に使う、近距離無線通信の規格です。

本機で NFC を使用できるように設定します。あわせて、Android 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。

NFC を使用することで、Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすだけで、簡単に本機と Android 端末をペアリングできます。

管理者モードの [環境設定] - [システム連携設定] - [モバイル連携設定] - [簡単接続設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[NFC 使用設定]	NFC を使用するかどうかを選びます。 初期値は [使用しない] です。
[無線接続使用設定]	Android 端末と本機の無線接続の方法を設定するかどうかを選びます。 ここで設定した情報は、NFC タグに反映されます。 初期値は [設定しない] です。
[無線接続方法]	Android 端末と本機の無線接続の方法を設定します。 [個別設定] を選ぶと、詳細な設定ができます。 初期値は [本体無線設定に従う] です。
[個別設定]	[無線接続方法] で [個別設定] を選んだ場合に、Android 端末と本機の無線接続の方法を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [SSID]: アクセスポイントの SSID を入力します (32 バイト以内)。 ・ [認証・暗号化アルゴリズム]: 認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。初期値は [認証・暗号化なし] です。 ・ [WEP キー]: [認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP] を選んだ場合に設定します。[WEP キー入力方式] で入力方式を選んでから、[WEP キーを変更する] にチェックをつけ、WEP キーを入力します。 ・ [パスフレーズ]: [認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP]、[802.1X]、[認証・暗号化なし] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に設定します。[パスフレーズ入力方式] で入力方式を選んでから、[パスフレーズを変更する] にチェックをつけ、パスフレーズを入力します。

参考

- 管理者モードの [環境設定] - [システム連携設定] - [モバイル連携設定] - [簡単接続設定] - [NFC 使用設定] を [使用しない] に変更すると、連動して [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] の [NFC 使用設定] も [使用しない] に変更されます。
- 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] が [無線のみ] に設定されている場合は、本機の無線設定の設定値を適用してペアリングを行うため、[無線接続使用設定] は表示されません。

NFC を使って PageScope Mobile for Android で本機に接続する

Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざして、ペアリングする方法を説明します。

- ✓ Android 端末に PageScope Mobile for Android をインストールし、NFC 端末設定を有効にしてください。
- ✓ Android 端末の無線接続および NFC を有効にしてください。
- ✓ 本機で NFC を使用できるように設定してください。詳しくは、16-24 ページをごらんください。
- ✓ 本機と Android 端末が同じ無線 LAN 環境に接続している必要があります。

1 Android 端末を起動します。

2 Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざします。

→ Android 端末がスリープモード（スクリーンオフ）または画面ロック状態の場合は、Android 端末のスリープモードを解除し、画面ロックを解除してから、モバイルタッチエリアにかざしてください。

本機とのペアリングが開始され、PageScope Mobile for Android に本機が登録されます。



参考

- 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for Android のヘルプをごらんください。
- PageScope Mobile for Android で、あらかじめ印刷が可能な画面（Web ブラウザーやメールの画面など）を表示しておけば、Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすだけで、本機で直接印刷することができます。
- PageScope Mobile for Android で、あらかじめスキャンが可能な画面を表示しておけば、Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすだけで、本機にセットした原稿を Android 端末に取込むことができます。

NFC を使って Remote Access で本機に接続する

Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざして、Remote Access で本機に接続する方法を説明します。

- ✓ 本機で、Android 端末からの Remote Access を使った接続を許可してください。詳しくは、16-21 ページをごらんください。
- ✓ Android 端末の無線接続および NFC を有効にしてください。
- ✓ 本機で NFC を使用できるように設定してください。詳しくは、16-24 ページをごらんください。
- ✓ Remote Access を使って本機に接続するときに NFC を使用する場合は、あらかじめ本機または本機へ接続可能なアクセスポイントに Android 端末を接続しておいてください。

1 Android 端末を起動します。

2 Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざします。

→ Android 端末がスリープモード（スクリーンオフ）または画面ロック状態の場合は、Android 端末のスリープモードを解除し、画面ロックを解除してから、モバイルタッチエリアにかざしてください。

本機とのペアリングが開始され、自動的に本機に接続されます。



参考

- 操作方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。
- NFC 経由で Remote Access を起動するときの優先起動モードを [Address Link] に設定している場合は、自動的に本機に接続されません。Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすと、Remote Access に本機のネットワーク情報が自動的に入力されるため、手動で本機に接続してください。

16.13 Bluetooth LE を使って iOS 端末と本機を連携させる

本機で Bluetooth LE 機能を有効にする

Bluetooth LE は、携帯情報端末などで数メートル程度の機器間の接続に使う、省電力な近距離無線通信の規格です。

本機で Bluetooth LE を使用できるように設定します。あわせて、iOS 端末を本機に接続するときに必要となる本機のネットワーク情報を設定します。

iOS 端末を本機に近づければ、アプリケーションからの操作で、本機の登録ができます。

管理者モードの [環境設定] - [システム連携設定] - [モバイル連携設定] - [簡単接続設定] で、次の設定をします。

設定	説明
[QR コード表示設定]	QR コードを本機の画面に表示するかどうかを選びます。初期値は [表示しない] です。
[Bluetooth LE 使用設定]	Bluetooth LE を使用するかどうかを選びます。初期値は [使用しない] です。
[無線接続使用設定]	iOS 端末と本機の無線接続の方法を設定するかどうかを選びます。初期値は [設定しない] です。
[無線接続方法]	iOS 端末と本機の無線接続の方法を設定します。 [個別設定] を選ぶと、詳細な設定ができます。初期値は [本体無線設定に従う] です。
[個別設定]	[無線接続方法] で [個別設定] を選んだ場合に、iOS 端末と本機の無線接続の方法を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [SSID] : アクセスポイントの SSID を入力します (32 バイト以内)。 ・ [認証・暗号化アルゴリズム] : 認証または暗号化に使用するアルゴリズムを選びます。初期値は [認証・暗号化なし] です。 ・ [WEP キー] : [認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP] を選んだ場合に設定します。[WEP キー入力方式] で入力方式を選んでから、[WEP キーを変更する] にチェックをつけ、WEP キーを入力します。 ・ [パスフレーズ] : [認証・暗号化アルゴリズム] で [WEP]、[802.1X]、[認証・暗号化なし] 以外のアルゴリズムを選んだ場合に設定します。[パスフレーズ入力方式] で入力方式を選んでから、[パスフレーズを変更する] にチェックをつけ、パスフレーズを入力します。

参考

- この機能を使うには、オプションのローカル接続キット (音声ガイド / Bluetooth LE 用) が必要です。また、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- 管理者モードの [環境設定] - [システム連携設定] - [モバイル連携設定] - [簡単接続設定] - [Bluetooth LE 使用設定] を [使用しない] に変更すると、連動して [ユーザー認証 / 部門管理] - [認証方式] の [Bluetooth LE 使用設定] も [使用しない] に変更されます。
- 管理者モードの [ネットワーク] - [ネットワーク I/F 構成] が [無線のみ] に設定されている場合は、本機の無線設定の設定値を適用してペアリングを行うため、[無線接続使用設定] は表示されません。

Bluetooth LE を使って PageScope Mobile for iPhone/iPad で本機に接続する

iOS 端末の PageScope Mobile for iPhone/iPad で、Bluetooth LE を使って本機に接続する方法を説明します。

- ✓ iOS 端末に PageScope Mobile for iPhone/iPad をインストールし、Bluetooth LE 端末設定を有効にしてください。
- ✓ iOS 端末の無線接続および Bluetooth LE を有効にしてください。
- ✓ 本機で Bluetooth LE を使用できるように設定してください。また、QR コードで本機のネットワーク情報を読み取るため、本機で QR コードを表示できるように設定してください。詳しくは、16-26 ページをごらんください。
- ✓ 本機と iOS 端末が同じ無線 LAN 環境に接続している必要があります。
- ✓ 以下の操作は、本機の近くで行ってください。

- 1 iOS 端末で PageScope Mobile for iPhone/iPad を起動し、装置の登録が可能な画面を表示します。
- 2 Bluetooth LE 通信が可能な装置の一覧を表示して、本機を選択します。
- 3 本機の画面に QR コードを表示し、PageScope Mobile for iPhone/iPad で QR コードを読み取ります。
→ QR コードの表示方法について詳しくは、16-23 ページをごらんください。
本機とのペアリングが開始され、PageScope Mobile for iPhone/iPad に本機が登録されます。



参考

- 操作方法について詳しくは、PageScope Mobile for iPhone/iPad のヘルプをごらんください。

Bluetooth LE を使って Remote Access で本機に接続する

iOS 端末の Remote Access で、Bluetooth LE を使って本機に接続する方法を説明します。

- ✓ 本機で、iOS 端末からの Remote Access を使った接続を許可してください。詳しくは、16-21 ページをごらんください。
- ✓ iOS 端末の無線接続および Bluetooth LE を有効にしてください。
- ✓ 本機で Bluetooth LE を使用できるように設定してください。詳しくは、16-26 ページをごらんください。
- ✓ 本機で Bonjour を使用できるように設定してください（初期値：[使用しない]）。詳しくは、8-11 ページをごらんください。
- ✓ 本機で SNMP を使用できるように設定してください（初期値：[使用する]）。詳しくは、14-13 ページをごらんください。

- 1 iOS 端末で Remote Access を起動します。
- 2 iOS 端末の画面で装置を検索し、検索結果に表示される Bluetooth LE 装置から本機を選択します。
Remote Access からの操作で、本機に接続できます。



参考

- 操作方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。

お問い合わせ窓口

■ 製品の仕様・取扱方法やアフターサービスに関するご相談

インフォメーションセンター

0120-610-917

※電話番号をお確かめのうえ、お間違えにならないようお願いいたします。

●受付時間 月～土曜日（日・祝日はお休みさせていただきます。）

平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00

■ 消耗品のご注文・お問い合わせ

消耗品受付窓口

0120-176-109

※電話番号をお確かめのうえ、お間違えにならないようお願いいたします。

●受付時間 月～土曜日（日・祝日はお休みさせていただきます。）

平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00

ホームページ <http://www.muratec.jp/ce/>

●この取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。